

# 西新町遺跡 VIII

- 福岡県福岡市早良区西新所在西新町遺跡第20次調査報告書 -

福岡県文化財調査報告書 第 218 集

2008

福岡県教育委員会







# 西新町遺跡 VIII

－福岡県福岡市早良区西新所在西新町遺跡第20次調査報告書－

福岡県文化財調査報告書 第 218 集



巻頭図版 1



西新町遺跡から海側を望む



巻頭図版2



古墳時代の竪穴住居跡群



28号竪穴住居跡カマド煙道



## 序

本書は福岡県立修猷館高等学校校舎改築事業に伴い、福岡県教育委員会が平成18年度に発掘調査を実施した西新町遺跡の調査記録です。

玄界灘に面した福岡市は、古来から中国大陸や朝鮮半島との対外交流の窓口であり、現在でも国内外に向けて文化や情報を発信する国際都市として発展し続けています。その福岡市の古砂丘上に位置する西新町遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての東アジアとの交流を示す遺跡として全国的にも注目を浴びている遺跡です。

福岡県教育委員会では、修猷館高校の改築事業に係る事前の発掘調査を平成10年度から進めています。その結果、全国的にも珍しい形態の竈をもった竪穴式住居跡や朝鮮半島系の土器が多数出土するなど、特に朝鮮半島の人々との深い繋がりを示す往事の姿が次第に明らかになってきています。

今回報告する第20次調査でも、朝鮮半島や近畿・山陰地域など当時の活発な交流を物語る遺構や遺跡が数多く発見され、また、古墳時代の西新町遺跡の範囲を示す状況も確認されました。

本書が、福岡県と東アジアや国内他地域との交流史の研究資料、あるいは学校教育及び生涯学習の資料として広く活用され、文化財愛護思想の普及の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業、報告書作成に当たって御協力いただきました多くの方々に対し深謝いたします。

平成20年3月31日

福岡県教育委員会  
教育長 森山 良一

## 例　　言

1. 本書は平成18年度に福岡県教育委員会が県立修猷館高校改築事業に先立って発掘調査を実施した、福岡市早良区6丁目1-10に所在する西新町遺跡第20次調査の報告書である。なお、福岡県教育委員会がこれまでに刊行した西新町遺跡の発掘調査報告書は下記のとおりである。

柳田康雄・赤司善彦1985『西新町遺跡』福岡県文化財調査報告書第72集  
重藤輝行・森井啓次・大庭孝夫2000『西新町遺跡』Ⅱ 福岡県文化財調査報告書第154集  
重藤輝行・森井啓次・大庭孝夫・唐木田芳文2001『西新町遺跡』Ⅲ 福岡県文化財調査報告書第157集  
吉田東明・宮地聰一郎・三辻利一2002『西新町遺跡』Ⅳ 福岡県文化財調査報告書第168集  
吉田東明・宮地聰一郎・西中川駿・小山田和央・三辻利一2003『西新町遺跡』Ⅴ 福岡県文化財調査報告書第178集  
岡寺未幾・坂元雄紀・岡寺良・岸本圭2005『西新町遺跡』Ⅵ 福岡県文化財調査報告書第200集  
重藤輝行・坂本真一2006『西新町遺跡』Ⅶ 福岡県文化財調査報告書第208集
2. 本書に掲載した遺構写真是調査担当者が、空中写真是有限会社空中写真企画に委託した。遺物写真是北岡伸一が撮影した。
3. 掲載した遺構図は調査担当者のほかに、中村理・岡本佑也・高橋幸作・澁尾真理子・田北健三・早川和賀子・本田史佳・本村実季子が作成した。遺物は、土器実測図を重藤輝行・下原幸裕・吉村の他、平田春美・田中典子・棚町陽子・久富美智子・坂田順子・橋之口雅子・堀江圭子・若松三枝子・中村洋子・栗林明美・寺岡和子・荒川妙が、その他は吉村が作成した。
4. 製図は豊福弥生・原カヨ子・江上佳子が行い、土山真弓・安永啓子・山田智子・辻清子がこれを補助した。
5. 鉄器の保存処理は九州歴史資料館の加藤和歳が行った。
6. 使用した方位は座標北である。
7. 本書の執筆は第4章を齋藤努が、その他の執筆と編集は吉村が行った。
8. 出土遺物は九州歴史資料館及び福岡県教育庁文化財保護課で管理している。

# 目 次

巻頭図版

例言

目次

図版目次

挿図目次

表目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過.....	2
第3節 調査・整理報告書作成の組織.....	5
第2章 西新町遺跡の位置と環境.....	7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境 .....	7
第3節 既往の調査.....	10
第3章 調査の内容.....	11
第1節 調査の概要.....	11
第2節 古墳時代の遺構と出土遺物.....	13
(1) 堅穴住居跡と出土土器 .....	13
(2) 土坑と出土土器 .....	112
(3) その他の遺構・層位等出土土器 .....	120
(4) 鉄器 .....	122
(5) 石器・石製品 .....	123
(6) 土製品 .....	125
第3節 近世以降の遺構と出土遺物.....	125
(1) 井戸 .....	125
(2) 土坑 .....	125
(3) 陶器・磁器 .....	128
(4) 烹道具 .....	132
(5) 青銅製品・土製品・瓦製品 .....	132
第4章 西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果.....	134
第5章 まとめ.....	136
第6章 おわりに.....	145

## 図版目次

- 巻頭図版 1 西新町遺跡より海側を望む
- 巻頭図版 2 上 古墳時代の竪穴住居跡群 下 28号竪穴住居跡カマド煙道
- 図版 1 1. 西区下層遺構全景（南東から・空中写真） 2. 西区上層遺構南半（北東から）  
3. 西区上層遺構北半（東から）
- 図版 2 1. 西区上層遺構全景（南から） 2. 東区上層遺構全景（南西から）  
3. 東区下層遺構全景（南西から）
- 図版 3 1. 1～3号竪穴住居跡（西から） 2. 1号竪穴住居跡（南西から）  
3. 4・5・7号竪穴住居跡（南西から）
- 図版 4 1. 4号竪穴住居跡カマド全景（南から） 2. 4号竪穴住居跡カマド（南から）  
3. 4号竪穴住居跡カマド煙道（南西から）
- 図版 5 1. 4号竪穴住居跡カマド煙道（東から） 2. 5号竪穴住居跡カマド（東から）  
3. 11・12号竪穴住居跡（南西から）
- 図版 6 1. 13号竪穴住居跡（南から） 2. 13号竪穴住居跡集石（南東から）  
3. 14号竪穴住居跡カマド下層（西から）
- 図版 7 1. 15～18号竪穴住居跡（南西から） 2. 19号竪穴住居跡カマド（南西から）  
3. 19号竪穴住居跡カマド（南西から・断ち割り後）
- 図版 8 1. 21・28・46・48号竪穴住居跡（北西から） 2. 23号竪穴住居跡カマド（南から）  
3. 23号竪穴住居跡カマド煙道断ち割り状況（北東から）
- 図版 9 1. 23～25号竪穴住居跡（南東から） 2. 27号竪穴住居跡（南東から）  
3. 27号竪穴住居跡遺物出土状況（北から）
- 図版 10 1. 28号竪穴住居跡カマド（南から） 2. 28号竪穴住居跡カマド（南から・完掘後）  
3. 28号竪穴住居跡カマド煙道（南から）
- 図版 11 1. 16・29・30号竪穴住居跡（南から） 2. 29号竪穴住居跡遺物出土状況（北西から）  
3. 30号竪穴住居跡カマド（南西から）
- 図版 12 1. 32・33号竪穴住居跡（南から） 2. 32号竪穴住居跡カマド（南から）  
3. 32号竪穴住居跡カマド（南から）
- 図版 13 1. 33号竪穴住居跡カマド（東から） 2. 34号竪穴住居跡（東から）  
3. 35号竪穴住居跡カマド（北東から）
- 図版 14 1. 東区の住居跡群（東から） 2. 36・37号竪穴住居跡（南東から）  
3. 39号竪穴住居跡（南から）
- 図版 15 1. 41・42号竪穴住居跡（南東から） 2. 41号竪穴住居跡カマド（南から）  
3. 42号竪穴住居跡（南から）
- 図版 16 1. 東区の住居跡群 2（南西から） 2. 44・46・48号竪穴住居跡（西から）  
3. 44号竪穴住居跡集石（北から）
- 図版 17 1. 45号竪穴住居跡（南から） 2. 45号竪穴住居跡カマド（南から）

3. 45号竪穴住居跡カマド煙道断面（東から）
- 図版18 1. 47号竪穴住居跡（南から） 2. 47号竪穴住居跡土坑1遺物出土状況（南から）  
3. 53号土坑（東から）
- 図版19 1. 4号井戸（東から） 2. 35号土坑（北西から）  
3. 35号土坑遺物出土状況（西から）
- 図版20 1～3号竪穴住居跡出土土器、4号竪穴住居跡出土土器1
- 図版21 4号竪穴住居跡出土土器2、5～8・11～13号竪穴住居跡出土土器
- 図版22 14～17・21・22・24号竪穴住居跡出土土器、27号竪穴住居跡出土土器1
- 図版23 27号竪穴住居跡出土土器2、28～30号竪穴住居跡出土土器
- 図版24 31～34号竪穴住居跡出土土器、35号竪穴住居跡出土土器1
- 図版25 35号竪穴住居跡出土土器2、39・41・42・44～46号竪穴住居跡出土土器、47号竪穴住居跡出土土器1
- 図版26 47号竪穴住居跡出土土器2、53～56号土坑出土土器
- 図版27 57・113号土坑出土土器、その他の遺構・層位等出土土器
- 図版28 竪穴住居跡出土朝鮮半島系土器
- 図版29 竪穴住居跡・その他の遺構出土朝鮮半島系土器
- 図版30 古墳時代の鉄器・石器・土製品
- 図版31 近世以降の土師器・陶器
- 図版32 近世以降の陶器・陶磁器
- 図版33 近世以降の窯道具・青銅製品・土製品・瓦製品等

## 挿図目次

第1図	西新町遺跡の位置	2
第2図	西新町遺跡と周辺の遺跡（1/50,000）	8
第3図	発掘調査区の位置と周辺調査地（1/4,000）	10
第4図	調査区周辺地形図（1/1,500）	11
第5図	西新町遺跡遺構配置図（1/400）	12
第6図	1～3号竪穴住居跡実測図（1/60）	14
第7図	1号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	15
第8図	1号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	17
第9図	1号竪穴住居跡出土土器実測図3（1/3）	18
第10図	2・3号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	19
第11図	4号竪穴住居跡実測図（1/60）	20
第12図	4号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	20
第13図	4号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	23
第14図	4号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	24

第15図	4号竪穴住居跡出土土器実測図3(1/3) .....	25
第16図	4号竪穴住居跡出土土器実測図4(1/3) .....	26
第17図	5号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	26
第18図	5号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	27
第19図	5号竪穴住居跡出土土器実測図1(1/3) .....	29
第20図	5号竪穴住居跡出土土器実測図2(1/3) .....	30
第21図	6~8・10号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	31
第22図	6号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	32
第23図	7号竪穴住居跡出土土器実測図1(1/3) .....	33
第24図	7号竪穴住居跡出土土器実測図2(1/3) .....	34
第25図	8号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	35
第26図	9号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	36
第27図	9号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	36
第28図	9号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	36
第29図	11号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	37
第30図	11号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	37
第31図	11号竪穴住居跡出土土器実測図1(1/3) .....	38
第32図	11号竪穴住居跡出土土器実測図2(1/3) .....	39
第33図	12~14号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	40
第34図	12号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	41
第35図	13号竪穴住居跡出土土器実測図1(1/3) .....	43
第36図	13号竪穴住居跡出土土器実測図2(1/3) .....	44
第37図	14号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	44
第38図	15号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	45
第39図	15号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	45
第40図	15号竪穴住居跡出土土器実測図1(1/3) .....	46
第41図	15号竪穴住居跡出土土器実測図2(1/3) .....	47
第42図	16~18号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	49
第43図	16号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	51
第44図	17・18号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	52
第45図	19号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	53
第46図	19号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	53
第47図	19号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	54
第48図	21号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	55
第49図	21号竪穴住居跡カマド実測図(1/30) .....	55
第50図	22・23号竪穴住居跡実測図(1/60) .....	56
第51図	21・22号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3) .....	57

第52図	23号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	58
第53図	23号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	59
第54図	24～27号竪穴住居跡実測図（1/60）	61
第55図	24・25号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	63
第56図	26号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	64
第57図	27号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	66
第58図	27号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	67
第59図	27号竪穴住居跡出土土器実測図3（1/3）	69
第60図	27号竪穴住居跡出土土器実測図4（1/3）	71
第61図	27号竪穴住居跡出土土器実測図5（1/3）	72
第62図	27号竪穴住居跡出土土器実測図6（1/3）	73
第63図	28号竪穴住居跡実測図（1/60）	73
第64図	28号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	74
第65図	28号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	74
第66図	29・30号竪穴住居跡実測図（1/60）	75
第67図	30号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	76
第68図	29・30号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	77
第69図	31・32号竪穴住居跡実測図（1/60）	78
第70図	31号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	79
第71図	32号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	80
第72図	32号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	81
第73図	33号竪穴住居跡実測図（1/60）	82
第74図	33号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	82
第75図	33号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	84
第76図	33号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	85
第77図	34・35号竪穴住居跡実測図（1/60）	85
第78図	34号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	86
第79図	35号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	87
第80図	35号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	88
第81図	36・37号竪穴住居跡実測図（1/60）	89
第82図	36・37号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	90
第83図	39号竪穴住居跡実測図（1/60）	91
第84図	39号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	92
第85図	39号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	93
第86図	41号竪穴住居跡実測図（1/60）	94
第87図	41号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	94
第88図	41号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	96

第89図	42号竪穴住居跡実測図（1/60）	97
第90図	42号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	97
第91図	42号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	98
第92図	43・44号竪穴住居跡実測図（1/60）	99
第93図	44号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	100
第94図	43・44号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	101
第95図	45号竪穴住居跡実測図（1/60）	103
第96図	45号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	103
第97図	45号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	104
第98図	45号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	105
第99図	46号竪穴住居跡実測図（1/60）	106
第100図	47号竪穴住居跡実測図（1/60）	106
第101図	46号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	107
第102図	47号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）	109
第103図	47号竪穴住居跡出土土器実測図2（1/3）	110
第104図	48号竪穴住居跡実測図（1/60）	110
第105図	48号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）	112
第106図	48号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）	112
第107図	51～53・55～58号土坑実測図（1/40）	113
第108図	51・53号土坑出土土器実測図（1/3）	114
第109図	52・55・56号土坑出土土器実測図（1/3）	115
第110図	57・113号土坑出土土器実測図（1/3）	116
第111図	その他の遺構出土土器実測図1（1/3）	118
第112図	その他の遺構出土土器実測図2（1/3）	119
第113図	黄褐色土層・灰色砂層出土土器実測図（1/3）	122
第114図	鉄器実測図（1/2）	123
第115図	石器・土製品実測図（1/2）	124
第116図	近世以降の井戸・土坑実測図（1/40・1/20）	126
第117図	近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図1（1/3）	127
第118図	近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図2（1/3）	128
第119図	近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図3（1/3）	129
第120図	近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図4（1/3）	130
第121図	窯道具実測図（1/3）	132
第122図	青銅製品・銅錢・土製品・瓦製品実測図（1/2・2/3・1/3）	133
第123図	西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果（A式図）	135
第124図	西新町遺跡における竪穴住居跡変遷図（1/2,000）	136
第125図	カマドの構築過程（1/30）	139

第126図 カマド地業の類別分布図（1/2,000）	140
第127図 煙道断面図（1/30）	140
第128図 外面調整の比率	141
第129図 第20次調査出土半島系土器（1/6）	142
第130図 西新町遺跡出土半島系土器（1/6）	143
付図1 西新町遺跡第20次調査遺構配置図（近世～現代）（1/200）	
付図2 西新町遺跡第20次調査遺構配置図（古墳時代）（1/200）	

## 表目次

第1表 西新町遺跡調査一覧	9
第2表 1号堅穴住居跡出土土器観察表1	15
第3表 1号堅穴住居跡出土土器観察表2	16
第4表 2・3号堅穴住居跡出土土器観察表	18
第5表 4号堅穴住居跡出土土器観察表1	19
第6表 4号堅穴住居跡出土土器観察表2	21
第7表 4号堅穴住居跡出土土器観察表3	22
第8表 5号堅穴住居跡出土土器観察表	28
第9表 6号堅穴住居跡出土土器観察表	32
第10表 7号堅穴住居跡出土土器観察表	34
第11表 8・9号堅穴住居跡出土土器観察表	35
第12表 11号堅穴住居跡出土土器観察表	39
第13表 12・13号堅穴住居跡出土土器観察表	42
第14表 14・15号堅穴住居跡出土土器観察表	48
第15表 16～18号堅穴住居跡出土土器観察表	50
第16表 19～22号堅穴住居跡出土土器観察表	54
第17表 23号堅穴住居跡出土土器観察表	59
第18表 24～26号堅穴住居跡出土土器観察表	62
第19表 27号堅穴住居跡出土土器観察表1	65
第20表 27号堅穴住居跡出土土器観察表2	68
第21表 27号堅穴住居跡出土土器観察表3	70
第22表 28・29号堅穴住居跡出土土器観察表	75
第23表 30号堅穴住居跡出土土器観察表	76
第24表 31・32号堅穴住居跡出土土器観察表	80
第25表 33号堅穴住居跡出土土器観察表	83
第26表 34・35号堅穴住居跡出土土器観察表	87
第27表 36・37号堅穴住居跡出土土器観察表	91

第28表	39・41号竪穴住居跡出土土器観察表	95
第29表	42・43号竪穴住居跡出土土器観察表	100
第30表	44・45号竪穴住居跡出土土器観察表	102
第31表	46号竪穴住居跡出土土器観察表	108
第32表	47・48号竪穴住居跡出土土器観察表	111
第33表	51～57・113号土坑出土土器観察表	117
第34表	その他の遺構出土土器観察表	121
第35表	黄褐色土層・灰色砂層出土土器観察表	122
第36表	黄褐色土層・灰色砂層近世以降の遺構出土土器類観察表1	130
第37表	黄褐色土層・灰色砂層近世以降の遺構出土土器類観察表2	131
第38表	西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果	134
第39表	第20次調査の竪穴住居跡一覧表	137

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

県立修猷館高校は周知の埋蔵文化財包蔵地「西新町遺跡」（遺跡番号020240）の中に位置している。西新町遺跡は弥生時代の集落と墓地、それと古墳時代前期の集落からなり、殊に弥生時代終末の土器様式である「西新式」の標識資料が多数出土したことで著名な遺跡である。また、朝鮮半島系土器をはじめとして、畿内・吉備・山陰地域との交流を示す土器が纏まって出土することや、我が国における初期段階のカマドを付設した竪穴住居跡が数多く確認されていることなど学史上重要な位置を占めている。

この西新町遺跡の範囲は東西800m、南北300mほどに及び、修猷館高校の敷地のほぼ全域を含んでいる。そのため、平成10年度から8か年計画で実施されている修猷館高校校舎の全面的な改築事業に伴い、事業者である福岡県教育庁教育企画部施設課との協議を踏まえつつ、福岡県教育庁文化財保護課が、隨時事前の発掘調査を実施してきた。こうした中、平成17年9月に施設課と文化財保護課の間で、第5期大規模改築講堂工事（プール解体・講堂建築・旧第二体育館解体）に係る埋蔵文化財の取扱いについての協議を行った。平成18・19年度で高校敷地北東隅部の既設プール（昭和42年建設）を解体した後、講堂の建築工事を行い、旧第二体育館を解体するという事業の概要であった。このうち、平成18年度事業である既設プール解体と講堂建築工事については、予定地の西側隣地（第17年調査）の状況からプールの基礎レベルが遺構面に近いことが想定されたため、基礎解体時における遺構の損壊を回避する目的で、基礎を残し上部構造のみ解体した段階で発掘調査を実施することで合意した。しかしながらその後の建築都市部営繕課との具体的な工事工程の確認段階に至り、発掘調査に先立って基礎部まで完全に撤去するという工程が変更できない事態であることが判明した。平成17年度に施設課と行った協議に先立つ、文化財保護課・営繕課による調整を基にした工事日程がすでに組まれていたためである。そのような理由から文化財保護課としては、基礎解体時の立会に際し遺構に影響を及ぼすことのないように解体業者に対して直接指示をするという条件を付し、やむを得ず営繕課の示す工程について承諾した。基礎解体工事に伴う立会は平成18年7月14日から7月26日まで行った。その結果、既設プール中央部付近はそれ以前に同じ場所に存在した旧プール（昭和3年建設）の基礎によって完全に遺構が削平されているものの、少なくともそれ以外の部分については既設プール建設に起因する損壊がないことを確認した。そして、基礎撤去後、引き続いて西新町遺跡第20次発掘調査に着手することとなった。発掘調査期間は12月初旬の講堂建築工事着手までの約4か月である。調査対象面積は平面積で1,850m<sup>2</sup>を測る。



既設プールの解体状況

## 第2節 調査の経過

平成18年度の発掘調査については、既設プール解体工事に係る機材等の撤収が完了した8月2日から重機を搬入し、南西隅部から表土剥ぎを開始した。廃土置き場のスペースが限られていたため、まず第17次調査区に隣接する西側半分を調査した後に一端埋め戻し、残り東側半分の調査に着手することとした。これまでに実施された西新町遺跡の発掘調査の成果と今回のプール基礎解体時の立会状況から、昭和3年に建設されたプールで損壊を受けている部分を除いて、ほぼ全面に遺構が遺存していることが予想されたため、既設プールおよび講堂建築箇所を包括する部分を調査対象として発掘区の設定を行った。なお、講堂建設により影響を受ける部分は、その一部を平成15年度に第17次調査として調査を実施している。重機による表土剥ぎ開始後、作業の安全上に問題のないスペースを確保した段階の8月7日に文化財保護課甘木事務所から発掘機材を搬入、同日午後から作業員を投入した。

8月8日発掘開始。1名の作業員を除いて発掘調査の経験を有していなかかったため、発掘に関わる道具の説明、作業の工程、遺構の掘削方法、安全講習等の事前研修を行い、発掘区周辺整備の後、南側から発掘調査に着手した。近世遺構や近現代の擾乱と同一面で、擾乱埋土とは異なる灰色砂（古墳時代の遺構埋土）の切り合いで視認できたが、古墳時代遺構の検出に先立って少なくとも灰色砂下部の地山面が断面で確認できる深さまでは掘削する必要があったため、まずは近世遺構と擾乱（以下、上層とする）の全面掘削を先行させ、その後に古墳時代の遺構検出を行う手順をとった。

同日は、高校敷地南東隅に接する脇山口交差点に設置された福岡市4級基準点No.438からのレベル移動を行った。翌8月9日、No.438及び早良口に設置された福岡市2級基準点No.255から国土座標を移設した。

9月14日までには西半部の上層遺構を完掘し、遺構掘削と併行して行っていた団化作業も南西部の別区（埋設された水道管を避けて表土剥ぎを行ったことにより、一部独立した区となっている）を残して終了した。なお、9月7日には修猷館高校OBからなる「西新町遺跡研究会」の8名が体験発掘作業を行った。

翌9月15日に南側の管理棟屋



第1図 西新町遺跡の位置

上から、 $4 \times 5$ リバーサル、同モノクロ、35mmリバーサル、同モノクロで西半部全景の写真撮影を行う。その後南西部別区の遺構実測を終え、引き続き下層遺構の検出作業に入った。これと併行し、発掘区の南壁際で下層遺構面を覆っている黄褐色砂質土（厚さ15cmほど）を重機を用いて除去した。西新町遺跡は砂丘上に立地しており、ひとつの遺構を完掘した後即座に写真撮影・図化を行わなければ風雨によって原形を失ってしまうため、遺構単位で一連の過程を完結させる繰り返しとなった。なお、撮影に際しては、崩壊しやすい締まりのない砂でかつ遺構の密集度も高いという状況であったため、安全面を考慮し、基本的には脚立を用いて行った。10月11日までには下層遺構の掘削を終え、翌10月12日に有限会社空中写真企画に委託して、気球による空中写真撮影を実施した。写真撮影終了後、土層観察用のベルト部分の掘り下げとカマドの精査を開始し、10月18日に漸く西半部の調査を終了した。

西半部では特に擾乱が著しかったため、必要最低限の掘削にもかかわらず時間を費やしてしまい、調査遅延の要因となった。ともかくも10月19日からは重機による埋め戻しと東半部の表土剥ぎを行い、10月25日から作業員による遺構検出を再開した。東半部の遺構面については、発掘区の北東部が既設プールと重複する旧プール基礎により大きく削平されている状況であった。また、表土を剥ぐ段階で、この擾乱の北側及び東側には古墳時代の遺構の広がりが認められず、近世～現代の遺構に限られることが確認されたため、北東隅部の一部については調査対象から除外している。東半部についても西半部と同じ手順に従って調査を進めた。途中、10月31日と11月7日の両日、「総合的な学習の時間」として2年生を対象に講義と発掘調査体験を行った。11月6日、上層遺構掘削完了後、全体写真清掃と南側管理棟屋上からの写真撮影。翌11月7日から下層遺構の調査を開始した。11月21日までに下層遺構掘削を終え、土層観察用のベルト部分の掘り下げとカマドの精査に移る。11月24日で掘削作業がほぼ終了したため、調査員により引き続きカマドの精査・図化を行う。11月28日には修猷館高校の生徒・教員向けに現地説明会を実施し、70名ほどの参加を得た。その後12月7日までに精査を終え、翌12月8日から重機による埋め戻しを開始する。12月12日に文化財保護課太宰府事務所と甘木事務所に発掘機材を搬出、翌12月13日に現地に残しておいたユニットハウス・トイレ・バリケード等の建機類を撤収した後、修猷館高校・教育庁施設課・福岡市教育委員会埋蔵文化財課に口頭で完了報告を行い、第20次調査を完了した。

なお、発掘調査の記録としては、国土座標に合わせて割り付けた1/20縮尺での図化を基本と



発掘風景



気球写真撮影風景



現地説明会



教育普及関係レジメなど

し、個別遺構は1/10・1/5縮尺で詳細図面を作成している。また、調査日誌に所見を記録した。遺物の取り上げについては、住居を「J」、土坑を「D」、溝を「M」、ピットを「P」とし、各々遺構番号を付して出土遺構を1/100の配置略図に記している。写真記録は、4×5リバーサル、同モノクロ、35mmリバーサル、同モノクロ、デジタルカメラ、空中写真では6×6リバーサル、同モノクロを用いて行った。

以下、西新町遺跡第20次調査に係る事務文書を列挙しておく。

- ・周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（文化財保護法第94条関連）平成18年4月10日 18教施第893号 県教育長あて県教育施設課長名通知
- ・周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（文化財保護法第94条関連）平成18年10月11日 18教文第1号-372 県施設課長あて県教育長名勧告
- ・埋蔵文化財発掘調査の報告について（文化財保護法第99条関連）平成18年8月7日 県教育長名報告
- ・埋蔵文化財発見の通知書（文化財保護法第100条2項関連）平成18年12月13日 18教文第262号-15 西警察署長あて県教育長名通知

### 第3節 調査・整理報告書作成の組織

発掘調査及び整理・報告書作成は福岡県教育庁総務部文化財保護課が同庁教育企画部施設課から執行委任を受けて実施した。

#### 発掘調査

県立修猷館高校講堂新築事業に係る埋蔵文化財発掘調査（西新町遺跡）に要する経費の執行委任手続きについて 平成18年4月1日 18教文第47号-5 県施設課長あて県文化財保護課長名依頼

#### 報告書作成

県立修猷館高校講堂新築事業に係る埋蔵文化財報告書作成（西新町遺跡）に要する経費の執行委任手続きについて 平成19年4月2日 19教文第193号-4 県施設課長あて県文化財保護課長名依頼

発掘調査及び整理・報告書作成の関係者は次のとおりである。

総括		平成18年度	平成19年度
福岡県教育委員会	教育長	森山 良一	森山 良一
	教育次長	清水 圭輔	樋崎 洋二郎
総務部	部長	大島 和寛	大島 和寛
文化財保護課	副理事兼課長	磯村 幸男	磯村 幸男
	副課長	佐々木 隆彦	佐々木 隆彦
	参事	新原 正典	新原 正典
	参事兼課長補佐	安川 正郷	中園 宏
	参事兼課長技術補佐	池造 元明	池造 元明
庶務		小池 史哲	小池 史哲
	管理係長	井手 優二	井手 優二
	主任主事	潤上 大輔	潤上 大輔
教育企画部	部長	樋崎 洋二郎	杉光 誠
施設課	課長	清田 嘉治	今田 義雄
	課長補佐	濱武 文雄	濱武 文雄
	課長技術補佐	奥園 正美	栗山 公典
	施設係長	高山 裕明	高山 裕明
調査・報告書作成			
文化財保護課	参事補佐兼調査第一係長	小田 和利	小田 和利
	技術主査	吉村 靖徳（調査）	吉村 靖徳 (報告書作成、4月)
	主任技師	岸本 圭	
	主任技師	下原 幸裕	
	臨時職員	中村 理（調査）	
	参事補佐兼調査第二係長	飛野 博文	飛野 博文

参事補佐 濱田 信也 (整理)  
主任技師 大庭 孝夫 (整理)  
新九州歴史資料館対策班  
技術主査 吉村 靖徳  
(報告書作成 5月~)

#### 発掘作業員

石井清子 伊藤信行 浦徳子 岡本侑也 小野尚美 川島信代 川端秀子 川端綱 古賀昌美 重本昌徳 高橋幸作 滝尾真理子 田北健三 竹川秀次 田代典子 時吉ひとみ 時吉泰治 中村彩 行方礼子 西美由喜 早川和賀子 平江裕子 深溝友春 深溝嘉江 本田史佳 本村実季子 前田陽子 三島佐奈江 三角章夫 三角チエ子 吉澤恵

#### 整理作業員

江上佳子 栗林明美 坂田順子 田中典子 棚町陽子 辻清子 土山真弓美 寺岡和子 豊福弥生 中川真理子 中川陽子 中村洋子 橋の口雅子 原カヨ子 久富美智子 平田春美 堀江圭子 安永啓子 山田智子 若松三枝子

発掘調査に当たり、修猷館高校の中嶋利昭校長・松枝隆生教頭・西村政俊事務長・濱田和雄事務次長に御配慮いただいた。また、発掘作業員の手配等では福岡市教育委員会埋蔵文化財課の山崎龍雄・池崎謙二・井澤洋一・吉留秀敏の各氏のお手を煩わせた。さらに調査期間中には宮本一夫・武末純一・桃崎祐輔・辻田純一郎・亀田修一・植野浩三・藤丸詔一郎・中島達也・秦文生・金武重・小泉惠英・Dr.Fanzal.D.Kakar・山口譲治・宮井善朗・榎本義嗣・久住猛雄・今井隆博(順不同・敬称略)の諸先生方が来訪され、御助言・御指導を賜った。なお、発掘作業員を確保することが困難な状況下、福岡大学・九州大学・西南大学の学生諸氏には本当に助けられた。

そのほか、西新町遺跡第20次調査に関与されたすべての方々に対し、この場を借りて深謝いたします。



僅かな時間で風で侵食を受ける擾乱坑の壁

## 第2章 西新町遺跡の位置と環境

西新町遺跡の環境についてはこれまでに刊行された報告書で詳述されているので、ここでは早良平野に所在する主な遺跡のうち、古墳時代の西新町遺跡の前史的な意味合いで弥生時代以降の遺跡を羅列的に挙げるにとどめる。詳しくは以下を参照していただきたい。

『西新町遺跡』II 福岡県文化財調査報告書第154集 2000 福岡県教育委員会（地理的環境、歴史的環境、古墳時代以前）

『西新町遺跡』V 福岡県文化財調査報告書第157集 2003 福岡県教育委員会（歴史時代以降）

『西新町遺跡』VI 福岡県文化財調査報告書第200集 2005 福岡県教育委員会（韓半島の関連遺跡）

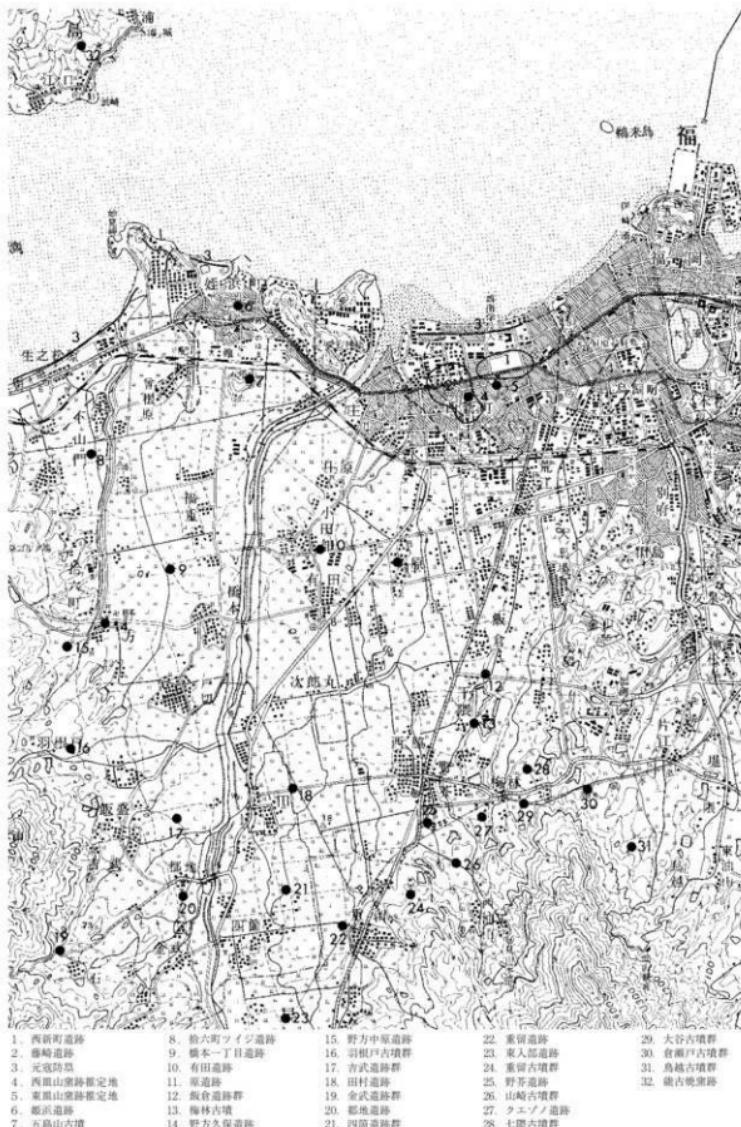
### 第1節 地理的環境

西新町遺跡が所在する福岡市は福岡県の北西部に位置する。福岡市を擁する福岡平野は玄界灘を挟んでアジア大陸と対峙するという地理的環境に起因して、古来からいち早く大陸文化の影響を受け、同時に地の利を生かして対外交渉の門戸としても繁栄を続けてきた。

西新町遺跡は福岡市西部の早良平野北東端に所在する。早良平野は東を飯倉丘陵、南を背振山系、西は背振山地から北に派生した山塊に囲まれており、北の博多湾に向かって開けている。平野の中央部には室見川が貫流し、東の樋井川、西の十郎川とともに沖積平野を形成している。遺跡は樋井川と室見川に挟まれた昭和末期の旧海岸汀線から400mほど内陸の古砂丘上に立地する。箱崎砂層に属する古砂丘は博多湾に平行して3列存在し、遺跡はこのうち中央の砂丘とその北側の砂丘の間に形成された砂丘間低地に当たる部分に乗っている。この砂丘が形成された時期は約3,000～2,000年前の海退期であると考えられ、弥生時代に入ると砂丘上には墓地や集落が営まれるようになる。遺跡のすぐ北側には博多湾に沿って元寇防塁跡が存在することから、少なくとも中世期には西新町遺跡から海岸線まではさほど隔たっていなかった事が知れる。なお、今回発掘調査を行った第20次調査区は東西800m、南北300mの広がりを持つ遺跡の北側縁辺部に位置し、標高は3.5m前後を測る。

### 第2節 歴史的環境

早良平野では弥生時代開始前後の時期におけるいくつかの重要な遺跡を挙げができる。まず有田遺跡では刻目突帯文期～板付Ⅱ式期にわたる環濠を巡らせる集落の存在が明らかとなっている。また、拾六町平田遺跡では板付Ⅰ式期まで巡る可能性のある水田跡が発見されている。この時期の墓地としては刻目突帯文期の壺棺墓・土坑墓からなる東入部遺跡や、前期の壺棺墓からなる田村遺跡等をあげることができる。一方、西新町遺跡の近隣では西側に位置する藤崎遺跡で弥生時代早期に属する遺物が採集されていることから、早くもこの時期には箱崎砂丘上に集落・墓地が存在した事を窺わせる。その後、前中期～中期段階に至ると吉武遺跡群のように大規模集落の形成が始まるとともに遺跡数も増大し、西新町遺跡でも壺棺墓が営まれるようになる。この時期、吉武遺跡群高木地区の壺棺墓・木棺墓にみられるように、埴丘を有する特定集団墓も出現する。ここでは多紐細文鏡や細形銅劍等の豊富な青銅器が副葬されていた。また、西新町遺跡や藤崎遺跡と同じ箱崎砂丘上に立地する姪浜遺跡では、中期以降、集落・墓地が形成されはじめる。なお、姪浜遺跡では漢式三角錐が出土している。西新町遺跡に



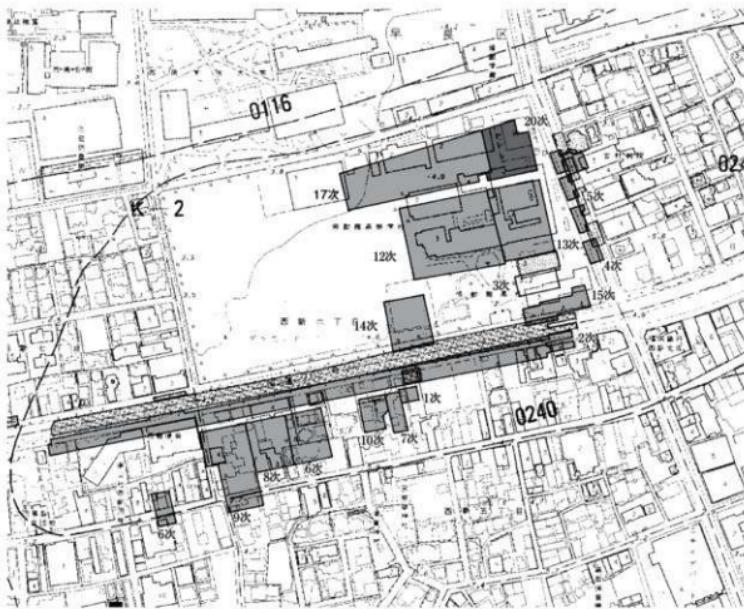
第2図 西新町遺跡と周辺の遺跡 (1 / 50,000)

おいてもやはりこの時期から集落・堀塁墓地が造営される。後期では環濠を巡らせる野方中原遺跡が大規模集落として挙げられる。

古墳時代には前期の西新町遺跡をはじめ、中期～後期では有田遺跡や野方久保遺跡など大規模な集落がいくつか存在する。弥生時代中期に砂丘上に出現した姪浜遺跡でも前代に引き続き集落が営まれる。墳墓では集落としての西新町遺跡の墓域と考えられている藤崎遺跡がある。方形周溝墓群からなるこの遺跡では、第6号方形周溝墓の主体部である組合式木棺から三角縁二神二車馬鏡・素環頭大刀が出土し、他の墳墓からも珠文鏡や変形文鏡が出土している。藤崎遺跡に続く時期の墳墓としては三角縁二神二獸鏡2面・銅鏡等が副葬された五島山古墳（円墳／径28m）がある。5世紀初頭前になると押塚古墳（全長75m）が突出する規模を誇って出現する。押塚古墳に後続して吉武樋渡古墳（全長38m）や梅林古墳（全長27m）等の前方後円墳の存在が知られるものの、他地域を凌駕するほどの古墳は見あたらず、また、明確な首長墓系列も認められない。後期に至ると早良平野の南側や東側の平野に面した丘陵上を中心として相当数の群集墳が密集して築造されるが、やはり突出した首長墳は明らかになっていない状況である。なお、古墳時代の早良平野では、吉武遺跡群金武古墳群において陶質土器・鋳造鉄斧・初期馬具等の渡来系遺物の出土が知られている。墓域に対応する集落域からもやはり豊富な渡来系遺物が出土しており、西新町遺跡に続く時期の渡来系遺物が多数存在する遺跡として特記されよう。

調査 次数	所在地（福岡市早良区）	調査原因	調査上体	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査年月	報告書	特記事項
1	西新町内	民間開発	福岡市		1974.7		
2	西新6丁目	地下鉄建設	福岡市	6,230	1956.8-1978.4	山第79集	弥生終末～古墳初住居跡57棟
3	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	700	1984.8	山第72集	古墳前住居跡7棟
4	西新3丁目	道路整備	福岡市	800	1966.6-1986.0	山第203集	古墳前住居跡8棟
5	西新3丁目606-4	病院増築	福岡市	300	1992.11	山第357集	弥生終末～古墳初住居跡9棟
6	西新5丁目643-4他	民間開発	福岡市	1,041	1994.3-1994.6	山第483集	弥生終末～古墳初住居跡2棟
7	西新5丁目638-9	民間開発	福岡市	369	1994.4-1994.5	山第483集	弥生終末～古墳初住居跡9棟
8	西新5丁目644-1・2	民間開発	福岡市	610	1994.9-1994.11	山第683集	弥生終末～古墳初住居跡3棟。弥生時代中期住居跡1棟
9	西新5丁目594地4筆	民間開発	福岡市	920	1995.3-1995.4	山第505集	弥生終末～古墳初住居跡10棟。弥生時代中期住居跡12棟
10	西新5丁目641-3他	共同住宅建設	福岡市	462	1995.10-1996.2	山第685集	弥生終末～古墳初住居跡7棟
11	西新5丁目632-6	店舗建設	福岡市	32	1997.10.13～15		遺構検出されず
12	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	5,214	1998.4-1998.12	山第154-157集	弥生終末～古墳初住居跡158棟
13	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	2,800	2000.7-2001.2	山第168-178集	弥生終末～古墳初住居跡86棟、井戸1基
14	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	1,110	2001.10-2002.3	山第200集	弥生終末～古墳初住居跡29棟、井戸1基
15	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	1,800	2002.9-2003.10	山第200集	近世遺構
16	高塚1丁目105	共同住宅建設	福岡市	395	2003.5-2003.8	山第846集	弥生中期住居22棟、弥生中期ガラストンボ玉
17	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	1,900	2003.8-2004.3	山第398集	弥生終末～古墳前期住居39棟
18	西新5丁目572地	共同住宅建設	福岡市	345	2005.9-2006.12	山第909集	縄文前期包含層、古墳初住居跡3棟
19	高塚1丁目111、112、25	民間開発	福岡市	164	2006.7.12-8.11	山年報21	弥生中期住居跡8棟
20	西新6丁目1-10	高校改築	福岡市	1,850	2006.8.24-2007.1.27	本書	古墳初住居跡45棟
21	西新5丁目572-2	共同住宅建設	福岡市	369	2006.9.11-12.5	山年報21	縄文包含層、弥生～古墳初住居跡3棟、井戸2基、古砂丘上にA戸5-4種認

第1表 西新町遺跡調査一覧



第3図 発掘区の位置と周辺調査地（1／4,000）

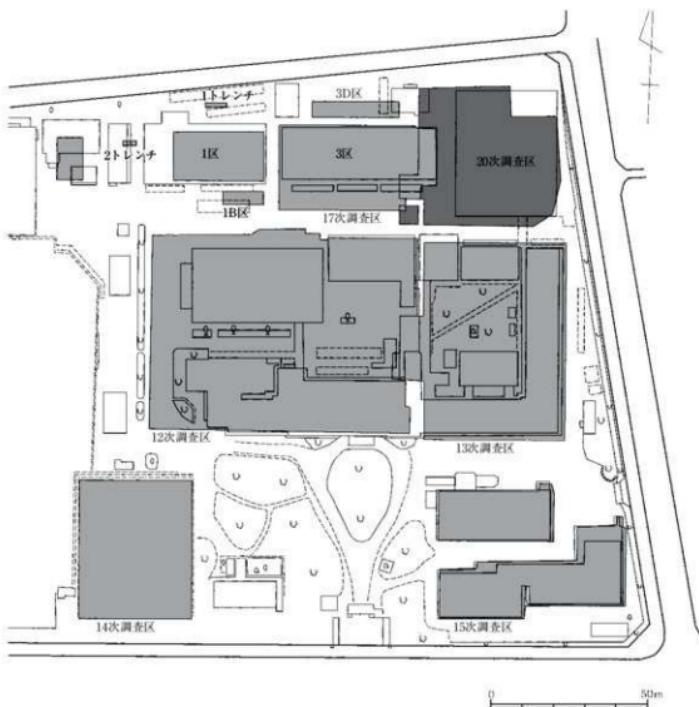
### 第3節 既往の調査

西新町遺跡ではこれまで都合21次にわたる発掘調査が行われており、その範囲・内容の詳細が明らかになりつつある。遺跡の継続時期は弥生時代中期～後期、弥生時代終末～古墳時代前期、中世、近世、現代と大きく5期に分かれる。このうち、弥生時代の遺構については、中期後半～中期末の集落が遺跡の南半に広がり、中央部付近には中期～後期にかけての壇棺墓群が確認されている。また、弥生時代終末～古墳時代前期の集落の変遷に関しては、弥生時代終末期には遺跡南側に住居跡群が展開し、古墳時代初頭には中央部へ、さらに前期に至ると北東部へ集落の中心が移動するという大まかな様相が明らかになってきており、その背景として海退・陸化という要因があったとも考えられている。ただ一方で、集落北縁付近にも古墳時代初頭頃の住居跡の一群が分村的に存在するような状況も認められる。なお、この時期の墓地については、西新町遺跡西側の砂丘上に立地し、古墳時代の方形周溝墓群からなる藤崎遺跡が西新町集落に対応する墓域とされる。

## 第3章 調査の内容

### 第1節 調査の概要

今回の発掘調査区は高校敷地北東隅部に位置する。これまでに実施された西側隣地の第17次調査や、南側に近接する第13次調査の結果から当発掘区への集落域の広がりが明らかではあったが、表土除去前は既存プール建設時に大部分が削平されている状況が予想された。しかしながら実際には、遺存状況が極めて悪かったにもかかわらず、古墳時代の竪穴住居跡・土坑、江戸後期の土坑、そして明治～昭和期にかけての修猷館高校の前身に関連するものに分けることが



第4図 調査区周辺地形図（1/1,500）



第5図 西新町遺跡遺構配置図 (1/400)

できる。遺構検出面としては上部が削平されているため基本的には1面であったが、近世以降の遺構の調査後に再度古墳時代の遺構の調査を行ったため、実際の発掘面積は対象面積の約2倍となる。なお、発掘区南壁際などでは両遺構面の間に無遺物層が存在し部分的に2面となる。

検出した主な遺構は、古墳時代の竪穴住居跡45棟（うちカマドを付設する住居跡は20棟）、土坑7基、それに近世～昭和期の井戸2基・廃棄土坑・溝等である。古墳時代の遺構の平面的な分布については、発掘区のやや北寄りで検出した13号竪穴住居跡・14号竪穴住居跡を除いて発掘区の南半部に集中する（第5図、付図2）。一方、北半部については古墳時代の遺構としては上述した2棟の竪穴住居跡を除いて皆無である。検出面からは遺物が少量出土するものの、いずれも細片であり、しかも磨滅が著しい状態である。古墳時代の遺構検出面の標高は北西隅部で3.6m、南西隅部3.5m、北東隅部3.4m、南東隅部3.5mほどであり、南西部から北東部に向かって緩く傾斜している。現地表面からは概ね60cmほど下がって遺構面に至る。

発掘区の基本層序は茶灰色土（表土）→暗灰色土（盛土）→黄白色細砂（地山）となり、地山面が古墳時代の遺構面となる。ただし、発掘区南壁際の東半、及び北東隅部について地山上に厚さ数cm～15cmほどの暗黃茶色砂が存在し、その上面から近世の遺構が切り込まれてい

る。この遺物を含まない暗黄褐色砂層を除去すると古墳時代の遺構面に至る。なお、遺構埋土に関しては、近世以降が茶褐色土ないしは灰～暗灰色粘質土、古墳時代は灰色をベースとした砂となる。

西新町遺跡の古墳時代集落は南西から北東方向に延びる砂丘上に立地し、今回の発掘区が集落の縁辺部に位置することがこれまでの調査成果から想定されていた。特に東側隣地の第17次調査では集落の北側外郭線がほぼ確定されており、今回の調査結果でもそのラインを追認する結果となったことは成果のひとつである。

本書では紙面の都合、あるいは時間的な制約の関係から、古墳時代の遺構と遺物を中心に記載し、近世以降の遺構と遺物についてはサンプル的な記載にとどめる。

## 第2節 古墳時代の遺構と出土遺物

### (1) 壴穴住居跡と出土土器

#### 1号竪穴住居跡（図版3、第6図）

発掘区の南西部、第17次調査区と接する部分に位置する。住居跡の周囲は攪乱や近世の遺構によって大きく損壊を受けている。そのため、平面的に住居壁のラインを確認することはできなかったが、攪乱部分の断面観察で土器が多く含む黒灰色土層が水平に堆積していたため住居跡として掘り下げた。住居壁を検出していないため規模等については詳らかにはし得なかったが、遺存する床面の最大長は3.70mを測る。床面の標高は3.7m。確認した床面の北西部には南西～北東方向に主軸をとる炉跡が存在する。その規模は長軸長87cm×短軸長47cm×深さ10cmを測る。埋土は炭化物粒含む黒色土である。

埋土上層から勾玉用砥石・石錐が出土。

#### 出土遺物（図版20、第7～9図、第2・3表）

1は在地系の壺。2の外面にはヘラ状工具先端による線刻がみられる。3～7は山陰系二重口縁壺。口縁部が外反するものと、直立するものがある。6は口縁端部を外方につまみだす。7は有軸羽状文を入れる。8・9は小形丸底壺。9は精製。10は畿内系二重口縁壺の頸部。放射状にミガキを施し、頸部突堤下に柳葉波状文を入れる。

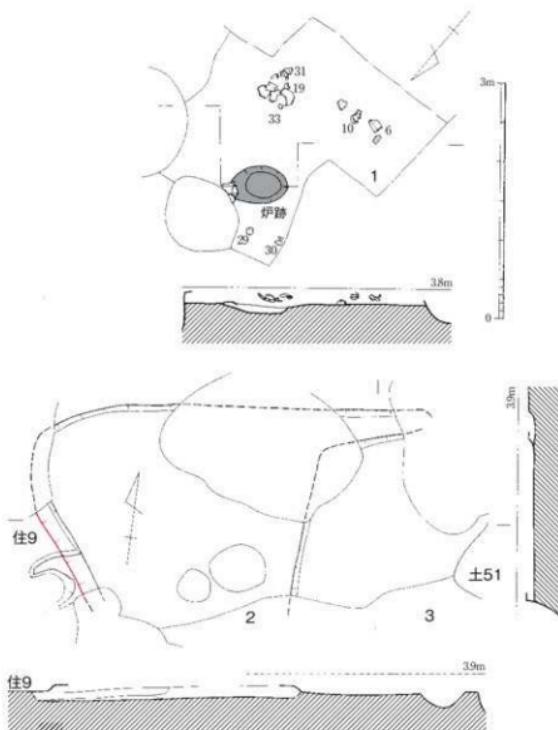
11～19は壺。11は庄内系壺で、口縁端部を上方につまみ上げる。12～19は布留系壺。口縁部内面に段を有する14・17～19とそうでないものがある。口縁部の形状には直線的に延びて端部を外方につまみ出す14や肥厚・内湾させる15～17・19などがある。

21～23は外反口縁鉢。いずれも精製で20は口縁部外面に暗文風のミガキを施す。24は畿内系二重口縁鉢。内面に放射状の暗文を施す。いずれも胎土は精良。25は口縁端部付近が外反気味となる鉢。26の内面にはヘラ状工具先端による木の葉文風の浅い線刻が施される。27のミガキは粗い。28は山陰系二重口縁鉢。器壁が厚い。

29・30は器台。31は山陰系鼓形器台。

32・33は半島系土器。32は肩部に5本の沈線を巡らせる。軟質で土師器に近い。33は斜格子のタタキ。ともに軟質で土師器に近い。

34はタコ壺。口縁端部は面をなす。孔は1方。



第6図 1～3号竪穴住居跡実測図 (1/60)

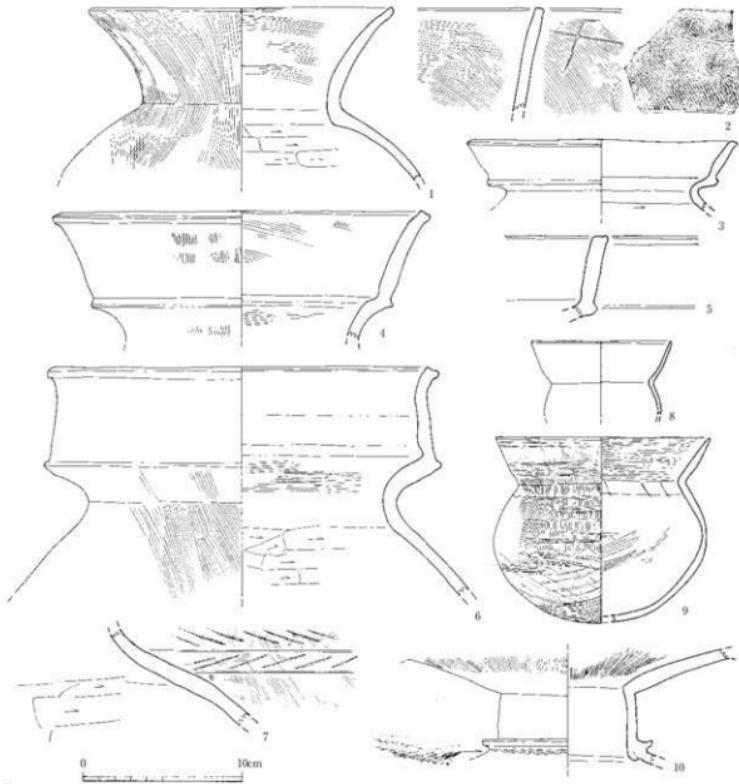
#### 2号竪穴住居跡 (図版3、第6図)

発掘区の南西部。1号竪穴住居跡の東側に位置する。西側を9号竪穴住居跡、東側を3号竪穴住居跡に切られ、南側は擾乱によって損壊している。住居壁は北側と西側の一部を確認した。規模は詳らかではないが、遺存する床面の最大長は4.65mを測る。主軸をN-99°-Wにとるものと考えられる。埋土は暗灰色砂質土である。床面の標高は3.7m。床面では深さ27cmのピットを一つ検出した。

#### 出土遺物 (図版20、第10図、第4表)

1は山陰系二重口縁壺。2の二重口縁壺は東漸戸内系と思われる。口縁部は斜め上方に伸び、その端部は内側につまみ出されて袋状になり、端部は丸く收める。

3・4は布留系壺。4の櫛描沈線文は5条一対。ともに器壁が薄い。



第7図 1号堅穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)

博物 館番号	国版 番号	出土 遺構等	形種	法線 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	保存率	備考	登録 番号
7-13	20	住1 壁上 口沿	壁内直系 口沿	口径390	粘土質。 石英多	良好	黄褐色	口縁部や外方に外反。口縁部斜ハケ。 内縁ハケ。斜外縁ハケ箇一部縫合部 か、内ケズリ。	2/3		8
2		住1 壁上	直地系直 口沿		粘土質。 石英多	良好	黄灰褐色	内縁斜ハケ。	小判	口縁外に縫合部	33
3		住1 壁上	山腹系二 重口縁沿	口径368	粘土や砂。 3mm石英少	良好	黄褐色～褐黄褐色	脚内ケズリ。	1/6		14
4		住1 壁上	山腹系二 重口縁沿	口径236	粘土や砂。 3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ、内縁ハケ。	1/6		16
5		住1 壁上	山腹系二 重口縁沿		粘土や砂。 3mm石英多	良好、黒斑	黄褐色～褐黄褐色	内外根子ア	小判		15
6	20	住1 No.1	山腹系二 重口縁沿	口径284	粘土質。 石英多	良好	褐褐色	口縁端部が外方に突出。脚外縁ハ ケ、脚内縁ハケ。脚内ケズリ。	1/2		1

第2表 1号堅穴住居跡出土土器観察表

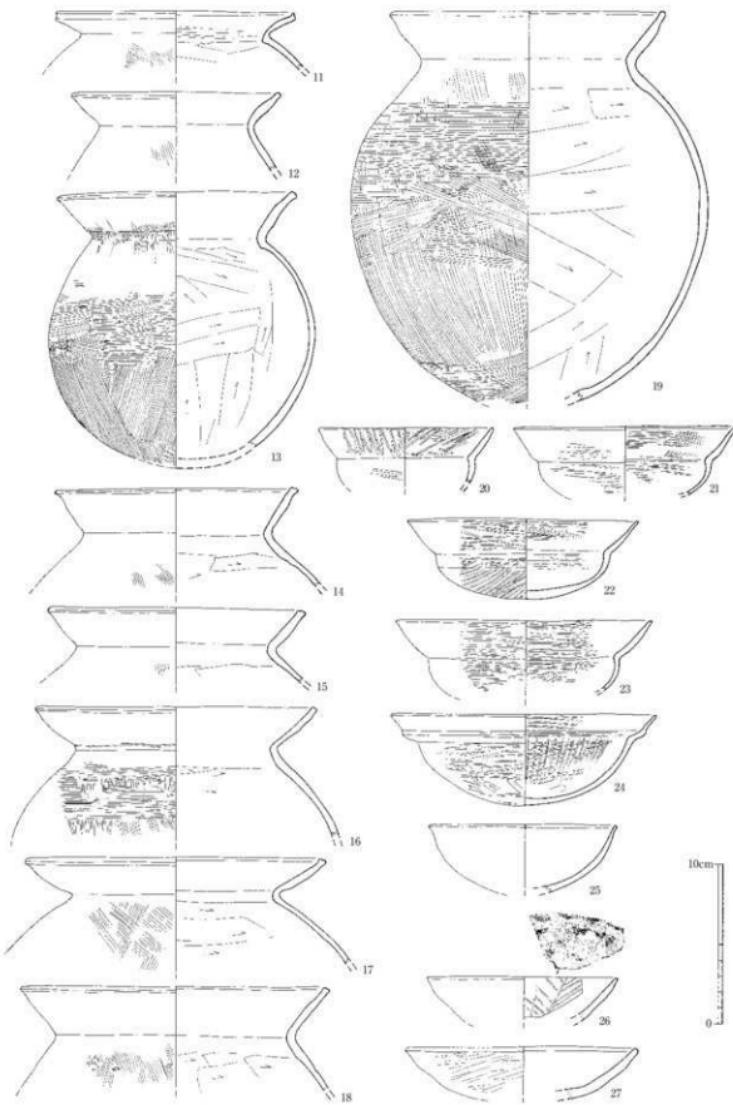
井戸番号	国版番号	出土場所等	形種	法線 (mm)	胎土	焼成	色調	形容や技法の特徴	残存率	備考	登録番号
7	往1 頂上	山陰浜二重口縁鉢			粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄褐色	ハケ状工具の痕跡による有輪状既成孔。内ケズリ、外縁ハケ後ナヂ。	小河		12
8	往1 頂上	小形丸底鉢	口径66		粘土質。胎粉粒少	やや甘い	褐褐色	ナヂか?	1/6		31
9	20	往1 頂上	小形丸底鉢	口径134、器高 116	粘土質。胎粉粒少 ほとんど含まず	良好、黒斑	褐褐色	口縁一個に外縁ハケ後輪状既成孔。内ケズリ、内縁ハケ後ナヂ。	1/2		4
10	往1 No.2	鏡内系二重口縁鉢	口径68		粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	黄褐色	口縁外ハケ。内縁丸輪状ニギカ。肩 既成状況。			13
8-11	往1 頂上	内系系裏	口径149		粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	黄褐色~条状物	口縁部を上方に盛み上げて、輪 外口縁ハケ一部ナヂ。脚内ケズリ。	1/4		20
12	往1 頂上	布留系裏	口径130		粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄褐色~灰褐色	口縁部既成。輪外輪ハケ。内ケズリ。	1/10	傾きや不安	23
13	20	往1 頂上	布留系裏	口径149、器高 164、脚径172	粘土質。	1~3mm 石高少	良好	洪褐色	脚外縁ハケ後輪ハケ。内ケズリ。	底部剥離 生存	7
14	往1 頂上	布留系裏	口径132		粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐黃褐色	口縁部外方に盛み出す。輪外輪ハ ケ。内ケズリ。	1/4		24
15	往1 頂上	布留系裏	口径160		粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	暗褐色	脚外ハケ。内ケズリ	1/4		21
16	往1 頂上	布留系裏	口径126		粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄褐色	脚外ハケ。内ケズリ	1/4		18
17	往1 頂上	布留系裏	口径184		粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐黃褐色	脚外ハケ。内ケズリ	1/4		19
18	往1 頂上	布留系裏	口径182		粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	褐黃褐色	前に工具による刺交文。刷毛ハ ケ。内ケズリ	1/8		22
19	20	往1 No.4	布留系裏	口径173、器高 234、脚径224	粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	白色	脚外ハケ。内ケズリ脚内ケズリ。	脚部下半 1/2残。他 は足元		3
20	往1 頂上	小形丸底鉢	口径109		粘土質や粗。1mm 石高少	良好	洪褐色	口縁外ハケ後既成孔内。内ハケ後 ナヂ。脚外輪ハケ。内ケズリ	1/6		27
21	往1 頂上	内既外既輪鉢	口径140		粘土質。胎粉粒少	良好	褐褐色	内ハケ。口縁内輪ハケ。脚内ニギ カ。	1/4		30
22	20	往1 頂上	内既外既輪鉢	口径145、器高 51	粘土質。胎粉粒少	良好	褐褐色	内ハケ。口縁内輪ハケ。脚内ニギ カ。	2/3		11
23	往1 頂上	内既外既輪鉢	口径160		粘土質。胎粉粒少 ほとんど含まず	良好	褐褐色	外縁かいニギカ。口縁内輪ハケ。脚 内縁かいニギカ。	1/10		28
24	20	往1 頂上	鏡内系外 反口縁鉢	口径166、器高 57	粘土質。胎粉粒少	やや甘い	褐褐色	脚部下ナギハケ後ミギカ。内ニギ カ既成状況。	1/3		24
25	往1 頂上	鉢	口径138		粘土質。胎粉粒少	やや甘い	黄褐色	ナヂか? 壓滅感有り。	1/8		26
26	往1 頂上	鉢	口径120		粘土質。胎粉粒少	やや甘い	褐黃褐色	内ハナダ。	1/6	内面にヘラ先による 擦痕。	25
27	往1 頂上	鉢	口径146		粘土質。胎粉粒少	良好	褐黃褐色	内ケズリ後楕円ミギカ。内ナヂ。	1/4		29
9-28	往1 頂上	山陰浜二重口縁鉢	口径301		粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄褐色	脚内ハケ後輪ハケ。脚内ケズリ後 ナヂ。	1/6		17
29	20	往1 No.6	器台	口径106	粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	外縁ハケ後楕円ミギカ。内ニギカ。		受部存	5
30	20	往1 No.7	器台	口径106	粘土質や粗。石高 少	良好	黄褐色	脚部に穿孔。受け部内ニギカ。内ニ ギカ後既成孔内。脚内ナヂ。	1/2		6
31	往1 No.3	山陰浜器	口径162		やや粗	良好	白褐色	内ハコナヂ。内上半ニギカ。下半ケ ズリ。	1/4		32
32	往1 頂上	牛高浜土 器台	口径128		粘土質や粗。1~ 3mm石高少	良質	黄褐色	前に6条の沈線。内側ナヂ。内凹部 有り。	1/2		2
33	26	往1 No.8	牛高浜土 器台	口径52、器高 108	粘土質や粗。	やや甘い	黄褐色	内既子タキ後楕円工具による傷 既成。			1117
34	20	往1 頂上	ココ鉢		粘土質。器高 少	良好	褐褐色	内内ナヂ。穿孔1ヶ所。			9

第3表 1号堅穴住居跡出土土器観察表2

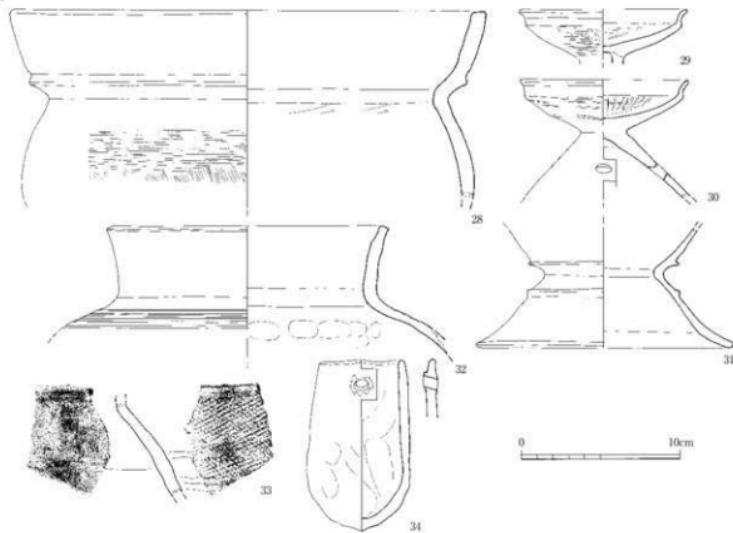
5は精製の脚付鉢になるものと思われ、脚上面に接合のためにヘラ状工具端部で押圧して放射状の刻みをいれる。

6~8はタコ壺。内外に指頭圧痕が顕著に残る。器壁が比較的薄い。

3号堅穴住居跡（国版3、第6図）



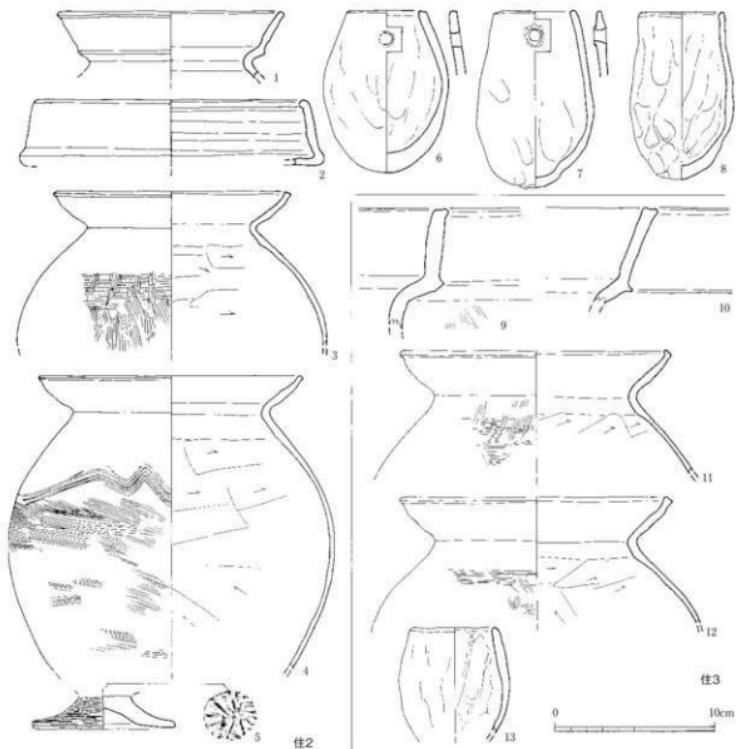
第8図 1号竖穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)



第9図 1号堅穴住居跡出土土器実測図3 (1/3)

排列番号	国施 番号	出土 場所等	器種	法長 (mm)	胎土	地成	色調	器形や目次の特徴	残存率	備考	登録 番号
10.1	住2層土	山側浜二重防波堤	口径143	粘土や砂。1~3mm有少	良好	淡黃褐色	側内ケズリ。	1/8		38	
2	住2層土	東側浜内系二重防波堤	口径374	粘土質。1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色。内黄白色	口縁ヨコナデ	1/9		37	
3	住2層土	希望系裏	口径148、胴径 192	粘土や砂。1~3 mm有少	良好	黃褐色	側外ハケ、内ケズリ。	1/2	器壁が薄い	40	
4	住2層土	希望系裏	口径365、胴径 203	粘土や粘土質。 1~3mm有少	良好	黃褐色	外輪揚波状文、側外横ハケ、内ケズリ。	1/2		39	
5	住2層土	脚付鉢	脚付89	粘土質。1~3mm 石英少	良好	褐褐色	脚上面にヘラ抜工具による削度の 弱み。外輪ハケ後ミガキ。内ナデ	1/2		41	
6	20	住2層土	ココ盛	口径90、基高 100	粘土質。 石英少	良好	淡褐褐色	外ナデ、内ナデ上げ。	1/4		34
7	20	住2層土	ココ盛	口径51、基高 110	粘土質。1~3mm 石英少	良好	褐褐色	外ナデ、内ナデ上げ。	1/2	少し	35
8	住2層土	ココ盛	口径52、基高 100	粘土質。1~3mm 石英少	良好	褐褐色	複合外ナデ。内ナデ上げ。	1/4		36	
9	住2層土	山側浜二重防波堤		粘土質。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	外ナメハケ。	少		4	
10	住2層土	山側浜二重防波堤		粘土質。1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色	内外ヨコナデ。	少		45	
11	住3層土	希望系裏	口径366	粘土質。1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色~黃褐色	側外横ハケ、ナデケズリ。	1/2		42	
12	住3層土	希望系裏	口径69	粘土質。 石英少	良好	黃褐色	側外横ハケ、内ケズリ。	1/6		43	
13	住3層土	ココ盛	口径32	粘土質。 石英少	良好	褐赤褐色	外ナデ、内ナデ上げ。内ナデ上げ。	1/6		46	

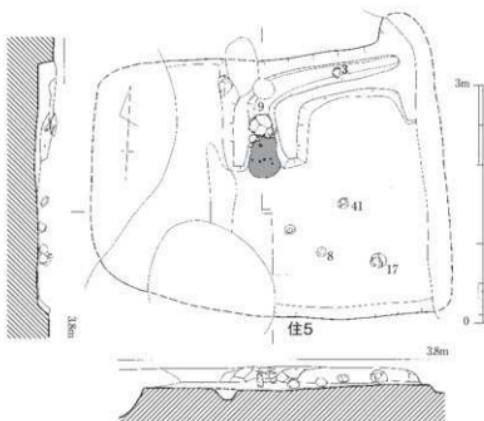
第4表 2・3号堅穴住居跡出土土器観察表



第10図 2・3号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

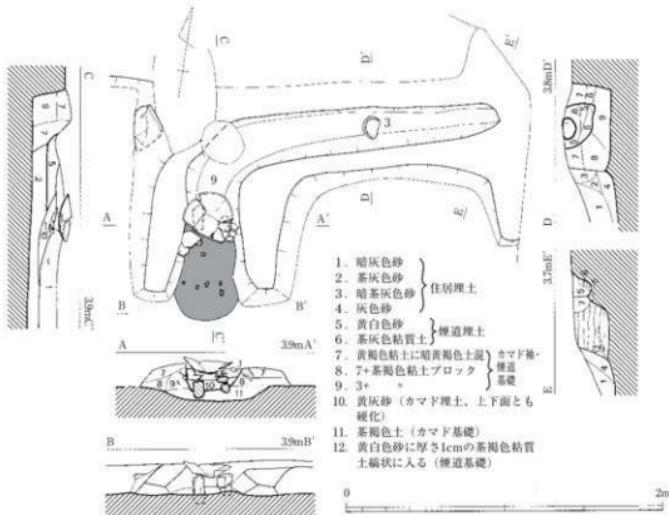
博物 番号	国版 番号	出土 遺物等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や経法の特徴	残存率	備考	登録 番号
134	住4 離上	直口瓶	口径100	粘土や砂、1-3mm石少	良好	黄褐色	ヨコナデ	1/8	口徑不安	81	
2	住4 離上	山形系二 重口瓶	口径170	粘土や砂、1-3mm石少	良好	黄褐色	内唇ヨコナデ	1/10	口徑不安	66	
3	20	住4 カツ ド型造	口径122、胴径 148、高さ138	粘土、1-3mm石多	良好	黄褐色	外側縦ハラ→横ハラ。内ケズリ	口は完存	縦縫にハラ→横工具 による削み	47	
4	住4 離上	山形系二 重口瓶	口径100、胴径 130、高さ137	粘土や砂、1-3mm石少	良好	黄褐色	内唇ヨコナデ	少少		71	
5	20	住4 離上	山形系二 重口瓶	口径105、胴径 138、高さ137	粘土、1-3mm 石多	良好	直口瓶、口縁外縦ハラ、側外縦・肩 ハラ→横ハラ、内ケズリ、内側子手 に削込み痕跡	1/2	側付帯	50	
6	住4 離上	直口瓶	口径106	粘土、1-3mm 石多	良好	黄褐色	内唇エギ	1/7		87	
7	住4 離上	直口瓶	胴径90	粘土瓶、砂粒を含 ほとんど含まず	良好	内壁褐色、内裏茶 色	外上部ハラ後ヒダギ、下モケズリ 後エギタ、内モテ、側縫合痕跡。	1/4		88	

第5表 4号竪穴住居跡出土土器観察表1



第11図 4号竪穴住居跡実測図 (1/60)

の小片。11・12は布留系甕で、ともに内湾する。11は口縁端部を内方に長くつまみ出し、内側に明瞭な段をなす。13はタコ壺。内面は指でナデ上げる。



第12図 4号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

発掘区の南西部、2号竪穴住居跡の東側に位置する。2号竪穴住居跡と51号土坑を切り、南側は搅乱によって損壊している。住居壁は北側と西側の一部を確認した。規模は詳らかではなく、遺存する床面の最大長は2.50mを測る。主軸に関しては、確認した二つの壁が直交関係にはないものの、概ね南北ないしは東西方向に軸をとるものと考えられる。床面の標高は3.7m。

**出土遺物** (図版20、第10図、第4表)

9・10は山陰系二重口縁壺

#### 4号竪穴住居跡（図版3、第11図）

発掘区の南西部、3号竪穴住居跡の南東側に位置する。5号住居跡と8号竪穴住居を切り、東側と西側は擾乱によって損壊している。平面プランは西側に向かって狹まる長方形で、北辺の東端部に長さ30cmほどの張り出しを有する。住居跡の規模は残存長軸長4.17m、短軸長3.45mを測る。主軸をN-91°-Wにとる。カマドが付設される。住居跡の埋土は暗灰色砂質土である。床面の標高は3.5m。床面を若干掘り下げ過ぎたため、復元して図化している。床直上から纏まって土器が出土している。

#### カマド（図版4・5、第12図）

住居跡北壁中央部に付設され、煙道が住居壁に沿って東側に伸びる。燃焼部の主軸は壁に直交する。

カマドの構築土は大きく上下2層に分かれる（⑦⑧）。主として黄褐色～茶褐色粘質土に焼土ブロックを混合させて構築し、袖の内側部分についてはこれに土器片を補強材として埋め込んでいる。袖の部分は極めて硬く締まっている。カマド袖の構築に先立って径70cm、深さ10cmの掘込地業を行い（⑪）、茶褐色砂を充填している。住居跡北壁から90cmほどの床面には左右に支脚石を配する。左側は10cm×14cmの直方体、右側は二石を積んで左側の支脚石とレベルを揃える。支脚石の前面は55cm×40cmの範囲で床面が硬化している。なお、この下部でも燃焼部としての硬化面の存在が認められる（⑩下面）。また、支脚石の上部には甕の底部分が据わった状態で遺存していた。

煙道部もカマド袖と一連の作業によって構築され、その土質も基本的には同じである。煙道の底面は燃焼部から緩やかにレベルを上げて傾斜する。立ち上がりについては煙出し部が削平を受けているため確認できていないが、北東部に存在する住居壁の張り出しに対応する可能性も考えられる。煙道の断面形状は径26cmの略円形で、壁際には炉壁様のブロックが詰められ、壁面は凹凸が著しい。煙道の埋土は黄白色砂を主体とする。なお、煙道部の構築土は住居跡北壁から東に延び、住居壁の北東隅部からさらに東壁に沿うように、南に向かって40cmほど張り出している。この部分の土層は黄白色砂と厚さ2～3mmほどの茶褐色粘質土が互層（⑤）になっていて煙道部分とは明らかに異なる構築土である。これは他例のカマド下部地業の土層に似る。

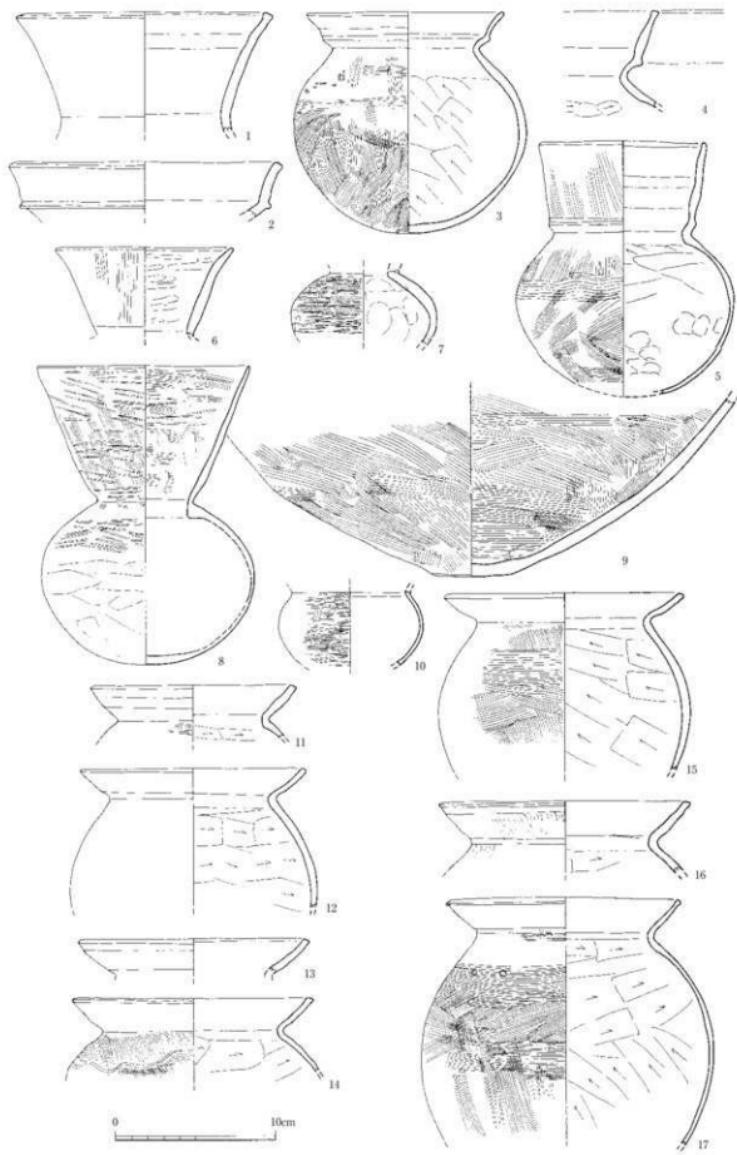
#### 出土遺物（図版20・21図、第13～16図、第6・7表）

辨別番号	国版番号	出土場所等	形種	法面（mm）	施土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録番号
13-8	20	住4N=3	口付333、網目136、基面106	粘土面、砂粒をほとんど含まず	良好	茶褐色	口付部ハケ後ミギキ、内側ハケ。網目とミギキ。ドナケヅリ後ナヂ。	2／3内ケヅリ。		8	
9		住4覆土直接	直接13	粘土面や粗、1～3mm程度	良好、黒塵	茶褐色	手平、内側ハケ。		1／3		95
10		住4覆土直	網目90	粘土面、砂粒をほとんど含まず	良好	茶褐色	口付上部ハケ後ミギキ。内ナヂ。		1／6	重付蓋	84
11		住4覆土直付	口付130	粘土面や粗、1～3mm程度	良好	黄灰化	口付部厚い、斜面ハケ。内ケヅリ。		1／5		61
12		住4覆土直付	口付125	粘土面や粗、1～3mm程度	良好	黄灰化	外面部厚い、内ケヅリ。		1／4	重付蓋	60
13		住4覆土直付	口付140	粘土面や粗、1～3mm程度	良好	茶褐色	内付ココナヂ		1／7		70
14		住4覆土直付	口付142	粘土面や粗、1～3mm程度	良好	茶褐色	への引き波状底、内側ハケ。内ヘラケヅリ。		1／10		64

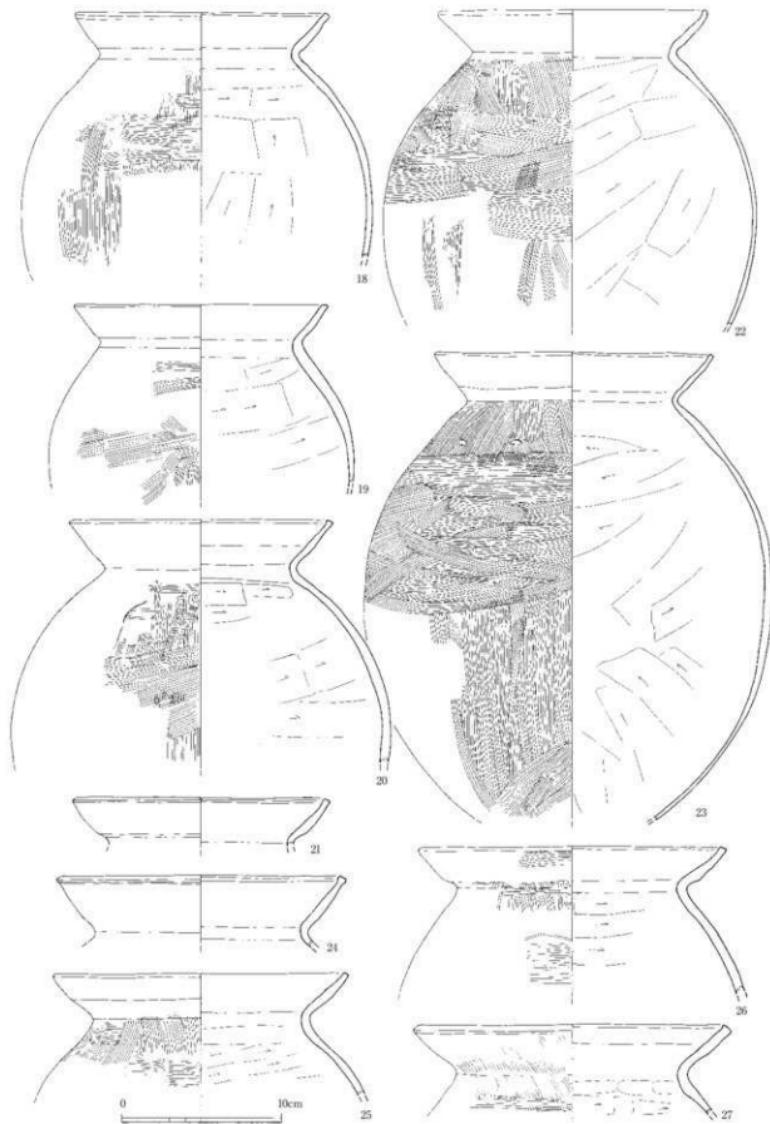
第6表 4号竪穴住居跡出土土器観察表2

博国 番号	IGR 番号	出土 遺物等	器種	法量 (mm)	断土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
13-15		往4 屋上 布留系裏	口付144、胴径 158	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/4	復付番	59	
16		往4 屋上 布留系裏	口付150	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/3	復付番	57	
17	20	往4 N2a 布留系裏	口付147、胴径 166	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	多褐色	肩に竹管文。外上半側ハケ。下半側 ハケ。内ケズリ。	2/3		96	
14-18		往4 屋上 布留系裏	口付152、胴径 172	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ	1/2		56	
19		往4 屋上 布留系裏	口付158	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	口縁部が平な面をなす。外縁ハ ケ。内ケズリ。	1/2	復付番	58	
20		往4 屋上 布留系裏	口付159、胴径 258	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	筋間に浅いV字の引き目。外縁ハ ケの内側に斜め筋がある。外縁ハ ケ→横ハケ。内ケズリ。	1/2		100	
21		往4 屋上 布留系裏	口付160	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	多褐色	内側ヨコナギ。	1/8		69	
22	21	往4 屋上 布留系裏	口付166、胴径 250	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	灰褐色	口縁部内凹。外縁ハケ→横ハケ。 内ケズリ。	1/2	復付番	54	
23	21	往4 屋上 布留系裏	口付174、胴径 250	粘土瓶。1~2mm 石英少	良好	茶褐色	直脚で口縁部高い。肩に竹管文。外 縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/2		55	
24		往4 屋上 布留系裏	口付180	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	暗褐色	内側ヨコナギ。	1/5		68	
25		往4 ハマ Y馬	口付184	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	口縁部端丸い。外縁ハケ→横ハケ。 内ケズリ。	1/4		75	
26		往4 屋上 布留系裏	口付185	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	ハサ模様状況。外縁ハケ→横ハ ケ。内ケズリ。	1/8		77	
27		往4 屋上 布留系裏	口付182	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄茶色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/4		65	
15-28		往4 カマ Y	口付208、胴径 250	粘土瓶。1~2mm 石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。		復付番	76	
29		往4 カマ Y	口付204	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄茶色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/7	復付番	73	
30		往4 屋上 布留系裏	口付194	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	側縁底剥皮。外縁ハケ。内ケズリ。	1/5		79	
31		往4 屋上 布留系裏	口付190	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/5	復付番	74	
32		往4 屋上 布留系裏	胴径202	粘土瓶。1~3mm 石英多	良好	内附黄褐色。青 灰色	外縁ハケ→横ハケ。内ケズリ。	1/5		72	
33		往4 屋上 布留系裏	胴径206	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	ハサ模様(直脚?)。外縁ハ ケ→横ハケ。内ケズリ。	1/4		63	
34		往4 屋上 布留系裏	胴径180	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	灰褐色	ハサ模様直脚。外縁ハケ。内ケズリ。	1/5		67	
35		往4 屋上 裏	胴径120	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色	外工丸ナガ様のミゼキ。内底ナデ。	1/10		62	
36		往4 屋上 高杯	瓣付100	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	外縁ハケ底剥皮ガキ。内ナデ。2孔。	1/6		92	
37		往4 屋上 高杯	瓣付110	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	暗褐色	外縁ハケ底えさキ。内ナデ。底成層 2孔。	1/2		91	
38		往4 カマ Y	瓣付113	粘土や粗。砂利 を1とんこし含ます	良好	暗褐色~茶褐色	外縁ハケ底えさキ。内底成層化。 側面内斜斜。内ナデナデ。底成層	1/2		93	
39		往4 屋上 路	口付166、胴径 130	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色。黒斑	外縁ハケ底えさキ。内ナデガキ。		底付欠	88	
40	21	往4 屋上 路	外付132、胴径 112、高さ50	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	外ナデガキ。底えさキ底えさキ。内 ナデガキ。子母板欠け。	1/2		51	
16-41	21	往4 N2a 路	瓣付162、瓣付 124、高さ60	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	黄褐色	外ナデガキ。口縁内側ハケ。腹内ナ デ。口付穴有			48	
42		往4 屋上 路	瓣付100、 20	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	外ナデガキ。口縁内側ハケ。腹 内ナデ。			89	
43	21	往4 屋上 路	口付100、 30	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	内ナデガキ	1/3		53	
44		往4 屋上 路	口付134	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	外ナデガキ。底えさキ底えさキ。内 ナデガキ。	1/3		90	
45	21	往4 屋上 路	口付138、 30	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	内ナデガキ。	1/3		32	
46		往4 屋上 瓣付1体	瓣付27	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰色~暗褐色	内ナデナデ。外側に複数痕跡。	1/2		78	
47		往4 屋上 器台	口付66	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	暗褐色	内ナデガキ。	1/8		86	
48		往4 屋上 瓶手	口付134	粘土瓶。砂利を1 とんこし含ます	良好	素灰色	手形ね。内底部にも成形時の指痕 底底剥離。			94	
49		往4 カマ Y	口付134	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	暗褐色	内ナデガキ。	1/6	埋きやや不安。半島 基土上か。	82	

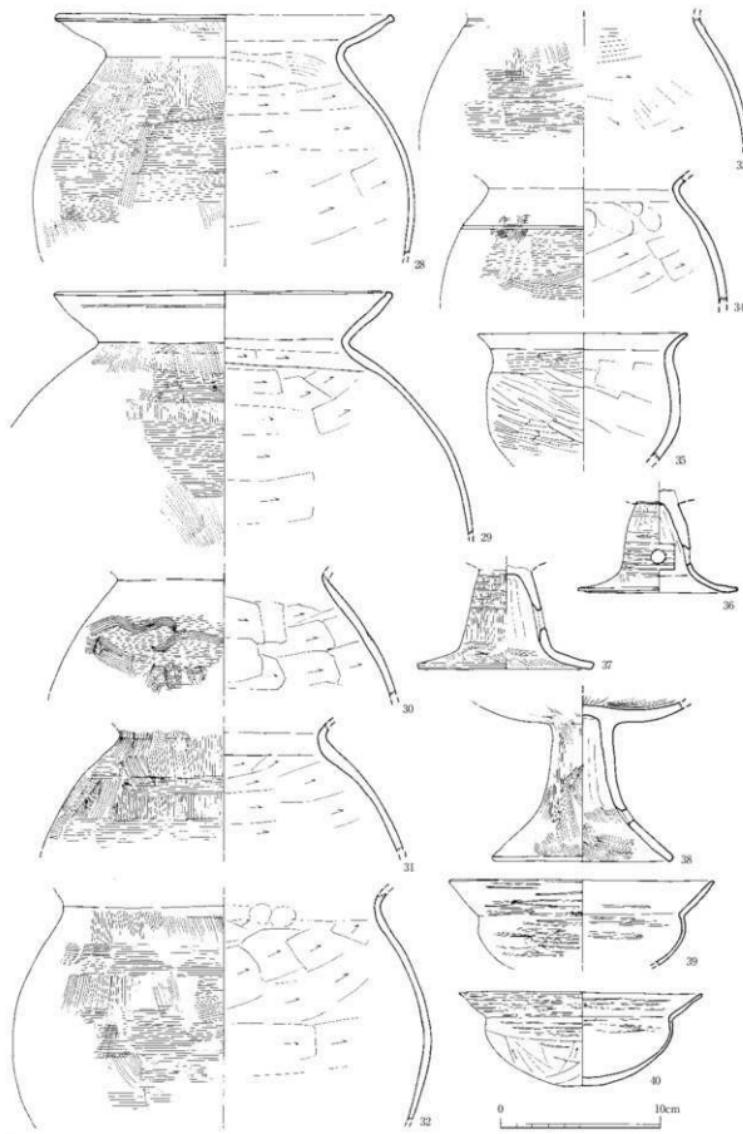
第7表 4号竪穴住居跡出土土器観察表3



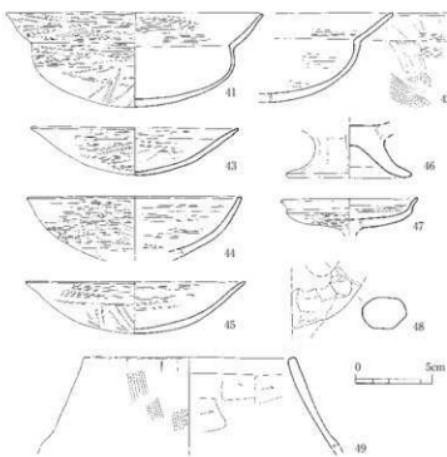
第13図 4号竖穴住居跡出土土器実測図1 (1/3)



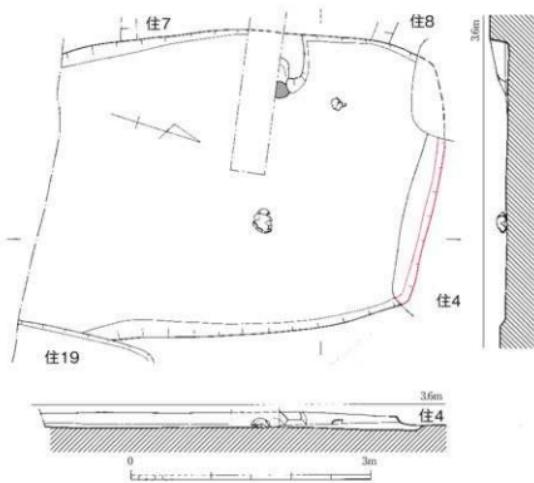
第14図 4号竪穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)



第15図 4号竖穴住居跡出土土器実測図3 (1/3)



第16図 4号竖穴住跡出土土器実測図4 (1/3)



第17図 5号竖穴住跡実測図 (1/60)

1は在地系の直口壺。口縁端部に面をなす。2~4は山陰系二重口縁壺。4は完形。肩部にハケ状工具端部押圧による刻みが入る。5はやはり山陰系と考えられる二重口縁の直口壺。口縁部は直線的に立ち上がり、端部を丸く收める。6~8は畿内系直口壺。7は小形である。9は第五様式系の壺底部。平底。10は小形丸底壺。

11~34は布留系壺。端部内側に段を持つものと持たないものがある。20の肩部外面には縦方向のハケの折り返しの痕跡が顕著に残る。胴部外面の調整は23にみられるように、概して縦ハケの後、胴部中位~上半部のみに横ハケを施すものが多い。23は他の個体に比べて長胴になる。

17・23の肩部には竹管文、14・26の肩部にはヘラ描き波状文、30には櫛描き波状文、34の肩部にはヘラ描き沈線文が施される。35は口縁部が外反する小形の壺で、器形・調整とも特異。外面は工具ナデ様のミガキ、内面は板状工具ナデ。

36~38は高坏。  
39~42は外反口縁鉢。43~45は浅い鉢。調整は41の口縁部内面が横ハケのほかは、いずれも横方向のミガキ。46は脚付き鉢。

47は小形器台の受け

部。口縁は短く外反する。

48は山陰系壺の把手小片と思われる。49も壺の口縁部小片。半島系の軟質土器の可能性も考えられる。傾きにやや不安を残す。

#### 5号竪穴住居跡（図版3・5、第17図）

発掘区の南辺やや西寄り、4号竪穴住居跡の南側に位置する。北側を4号竪穴住居跡に、南東側を19号竪穴住居跡に切られ、西側で7号竪穴住居跡、8号竪穴住居跡を切る。南側は調査区外となる。平面プランは長方形で、規模は長軸方向で、遺存する床面の最大長5.17m、短軸長3.83mを測る。主軸をN-22°-Wとする。カマドが付設される。住居跡の埋土は暗灰色砂質土である。床面の標高は3.3m。

埋土中から砥石が出土した。

#### カマド（図版5、第18図）

住居跡東側中央よりやや北側寄りに付設され、燃焼部の主軸は壁に直交する。カマドの南半は現代構造物のコンクリート基礎の下部にあたるため、東半（右袖）のみの確認にとどまった。

カマドの構築土は黄褐色砂質土と赤褐色粘土ブロック（焼土）を交えた層（②）からなり、その下部にはカマドの袖の範囲に対応した掘り込みがみられる（③）。住居西壁から60cmの位置に、20cm×17cm（+a）の範囲で赤褐色の硬化面が認められる。

#### 出土遺物（図版21、第19・20図、第8表）

1は在地系直口壺。壺になる可能性もある。2～4は山陰系二重口縁壺で器壁が薄い。6・7は小形丸底壺で、7には細かいミガキが施される。

8～18は布留系壺。8・9のように口縁端部を丸く収めるもの、10のように端部を外方にまみ出し平坦面をなすもの、11・14のように端部の内側に段を有するものなどがある。10は水平ないしはやや左上がりのタタキ痕を残す。

19・20は高壺。21～23は鉢。21は体部が直立する。23は低い脚が付く。

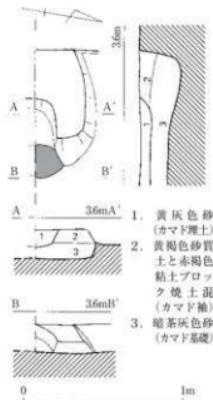
24～26は小形器台。27は山陰系鼓形器台の脚部。

28～30は半島系土器。28は先端が丸い工具先で浅い沈線を施した壺の肩部。頸径は26cmほど。

32～34はタコ壺。31は小形で薄い。穿孔は32以外はいずれも一か所。内外両側から穿孔したものと、外側からのものがある。

#### 6号竪穴住居跡（第21図）

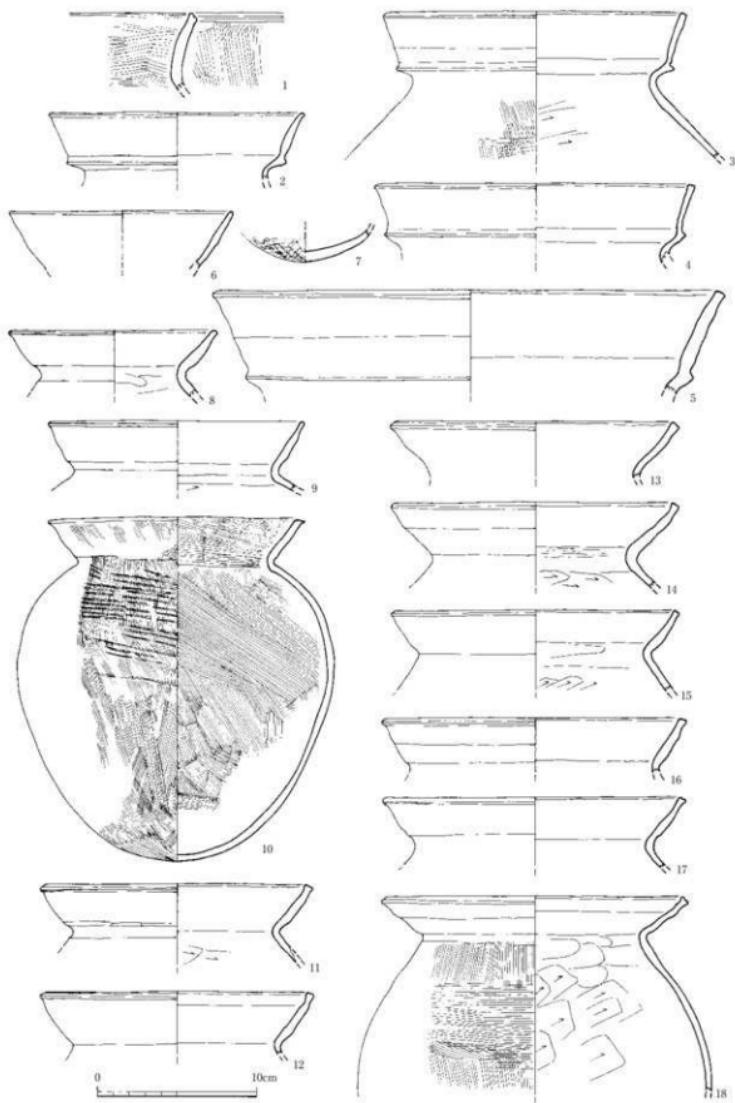
発掘区の南西部、7号竪穴住居跡の西側に位置する。東側と北側は攪乱によって大きく損壊しており、住居壁は南東部のコーナーを確認したのみである。東側は7号竪穴住居跡に切られ、南側で10号竪穴住居跡を切る。規模等については詳らかではないが、遺存する床面の最大長は4.17mを測る。床面の標高は3.6m。確認した床面の北東寄りには略東西方向に主軸をとる炉跡が存在する。現代構造物のコンクリート基礎下部にあたるため北側半分のみしか確認していない。長軸長86cm、深さ14cmを測る。炉跡の埋土は炭化物粒を含む黒色土である。住居跡の南東部コーナー際で柱穴が確認された。



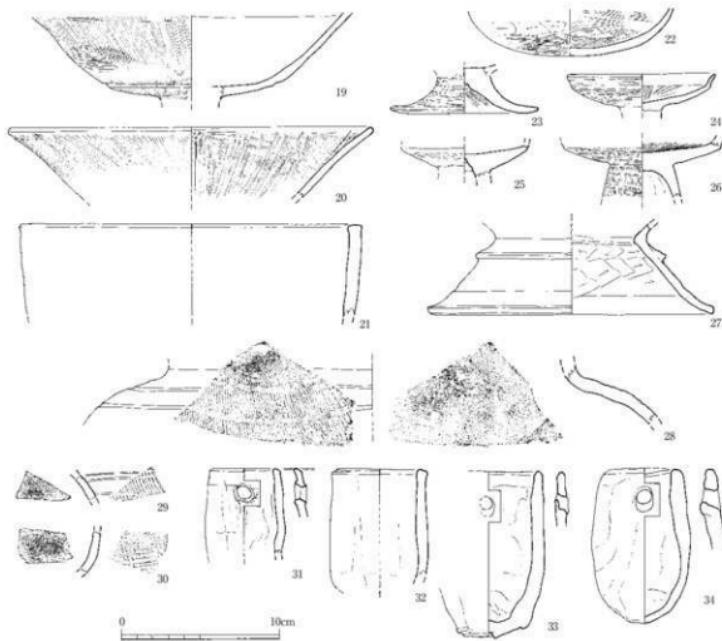
第18図 5号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

辨別 番号	図版 番号	出土 場所	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	参考	登録 番号
19.1	往5覆土 口沿	有地溝直 口沿			粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	外輪ハケ、内擦ハケ。	小所		103
2	往5覆土	山側溝二 重の縁	口径160		粘土質。1~3mm 石高多	良好	黄灰色	内輪ヨコナヂ。	1/10	重付垂	110
3	往5カマ Y	山側溝二 重の縁	口径190		粘土や砂、1~ 3mm石高多	良好	黒灰色	側外輪ハケ後擦ハケ。内ケズリ。	1/6	重付垂。内輪に鼠斑形。	117
4	往5カマ Y	山側溝二 重の縁	口径200		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	内輪ヨコナヂ。	1/8	重付垂	116
5	往5覆土	山側溝二 重の縁	口径220		粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄茶色	内輪ヨコナヂ。	1/12		112
6	往5覆土 底	小形丸底 盤	口径140		粘土質。砂利をほ そんぞ含まず	やや甘い	褐褐色	内輪ヨコナヂ。	1/4		123
7	往5覆土 底	小形丸底 盤			粘土質。砂利をほ そんぞ含まず	良好	褐褐色	内ケズリ後擦かくいガキ。内ナヂ。既往定存			121
8	往5覆土 底	小形丸底 盤	口径130		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	黄系色	側内ナヂ。	1/8		114
9	往5覆土	布留系裏	口径162		粘土質。1~3mm 石高多	良好	米素白色、内擦 色	側内ケズリ。	1/8		111
10	22	往5カマ Y	布留系裏	口径160、銅鋸 208、器高215	粘土質。1~3mm 石高多	良好	褐褐色	口輪外擦ハ ケ、内擦ハケ。側外輪タキ後擦ハケ。 内ハケ、内ナヂ。	1/2		97
11	往5覆土	布留系裏	口径172		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	側内ケズリ。	1/6		118
12	往5覆土	布留系裏	口径172		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	内輪ヨコナヂ。	1/8		109
13	往5覆土	布留系裏	口径180		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	黄褐色	既往工具によるヨコナヂ。	1/8		108
14	往5覆土	布留系裏	口径180		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	黄灰色	側内横ハケ。側内ケズリ。	1/8		106
15	往5覆土	布留系裏	口径180		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	黄系色	側内ケズリ。	1/8	重付垂	102
16	往5覆土	布留系裏	口径190		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好、一部 落化	基灰褐色	内輪ヨコナヂ。	1/12		105
17	往5覆土	布留系裏	口径188		粘土質。1~3mm 石高少	良好	黄褐色	内輪ヨコナヂ。	1/12		104
18	往5覆土	布留系裏	口径192		粘土や砂、1~ 3mm石高少		内擦灰褐色、内擦 色	側内ナヂ。側外輪→擦ハケ。内ケズ リ。	1/5	重付垂	115
20.9	往5覆土	高环	口径210		粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐褐色	外輪ハケ。内ナヂ。	1/4	内面に鼠斑形。	122
29	往5覆土	高环	口径200		粘土質。石高多	良好	褐褐色	外輪ハケ、内輪ハケ→擦文。	1/4		127
21	往5覆土	鉢	口径216		粘土や砂、1~ 3mm石高多	良好	黄灰色	内輪ヨコナヂ。	1/10		107
22	往5覆土	鉢	口径190、器高 13		粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐褐色	内ケズリ後擦かくいガキ。内ハケ。	1/6		124
23	往5覆土	鉢付鉢	口徑94		粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐褐色	内ケズリ。口輪内擦ハケ。側内イガ キ。内ハケ工具など。	1/6		120
24	21	往5覆土	器台	口徑94	粘土質。1~3mm 石高少	良好	褐褐色	内ケズリガキ。内斜削脱字ガキ。		受け取定存	99
25	往5覆土	器台			粘土質。砂利をほ そんぞ含まず	やや甘い	褐褐色	外ハケ、内ナヂ。	1/2	内外面に鼠斑形	125
26	往5覆土	器台			粘土質。砂利をほ そんぞ含まず	良好	褐褐色	外輪ハケ後ミガキ。受け内斜削脱字 ガキ。内ナヂ。	2/3		126
27	往5覆土	山側溝系 柄白	口徑180		粘土や砂、1~ 3mm石高多	良好	褐褐色	内ケズリナヂ。内ノリ。	1/4		119
28	往5覆土	半島系 器底			粘土や砂、1mm 以下石高多	瓦質	黒灰色	2条の浅い凹溝。外平行タキ。内 ナヂ。			1118
29	往5覆土	半島系 器底			精良。砂利をほ そんぞ含まず	陶器、銀器、漆器 のよう	灰色	3条の沈溝。外平行タキ。内ナヂ。小所			1119
30	往5覆土	半島系 器			粘土質。器底 か。	瓦質	灰褐色	内擦字タキ。内ナヂ。			1121
31	往5覆土	ココ壺	口徑45		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	内輪ナヂ。	1/2		130
32	往5覆土	ココ壺	口徑60		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	褐褐色	内ナヂ、内ナヂ上げ。	1/2		128
33	往5覆土	ココ壺	口徑20、器高 104		粘土や砂、1~ 3mm石高少	良好	黄灰色	内ナヂ。	1/2		129
34	21	往5覆土	ココ壺	口徑50、器高98	粘土や砂、 1~3mm石高少	良好	黄灰色	内ナヂ、内ナヂ上げ。		口輪一部欠	98

第8表 5号堅穴住居跡出土土器観察表



第19図 5号竪穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)



第20図 5号竪穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)

#### 出土遺物 (図版21、第22図、第9表)

1は畿内系二重口縁壺。全体に摩滅している。

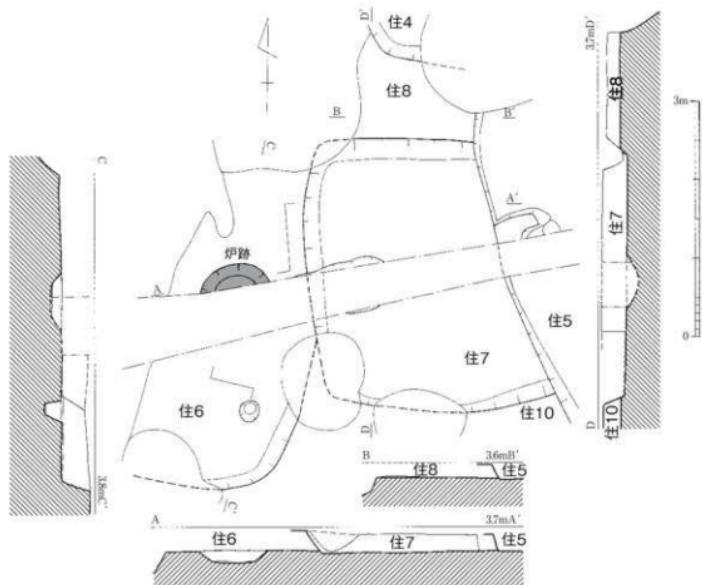
2は壺で口縁端部を外下方に伸ばす。3・4は布留系壺。4はヘラ描波状文を施す。

#### 7号竪穴住居跡 (図版3、第21図)

発掘区の南西部、6号竪穴住居跡の東側に位置する。東側を5号竪穴住居跡に切られ、北側で8号竪穴住居跡、西側で6号竪穴住居跡、南側で10号竪穴住居跡を切る。平面プランは方形と考えられ、規模は南北方向で3.48mを測る。軸はほぼ南北方向にとる。炉跡や柱穴は確認されなかった。

#### 出土遺物 (図版21、第23・24図、第10表)

1は山陰系二重口縁壺。口縁部は直立し、端部は丸く收める。外面調整は継ハケの後、胴部中位から上半部にかけて横ハケ。2は畿内系二重口縁壺の口縁部小破片。内面には丁寧な放射状のミガキを施す。3・4は直口壺。4は部分的に素地の面が見えるが、外面黒塗り。作りが丁寧である。口縁端部は丸く收める。5は在地系の壺。全面にハケを施す。6・7は布留系壺。6は口縁端部をつまみ上げ、内側に段をもつ。内面調整はケズリのままでナデて仕上げる。



第21図 6～8・10号竪穴住居跡実測図 (1/60)

8は高坏の脚柱。9～は外反口縁鉢。12は脚付鉢でミガキは比較的粗い。16は半島系土器。外面には成形時の指頭圧による凹凸がやや顯著である。18のタコ壺は外面調整が棒状工具によるミガキ様の工具ナデ。

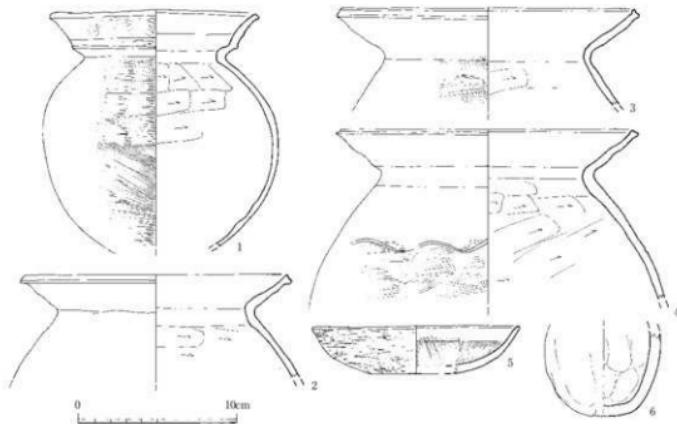
#### 8号竪穴住居跡（第21図）

発掘区の南西部、4号竪穴住居跡と7号竪穴住居跡に挟まれる部分に位置する。8号竪穴住居跡は4号竪穴住居跡・5号竪穴住居跡・7号竪穴住居跡に切られている。床面レベルは5号竪穴住居跡よりも3cmほど高く、また、7号竪穴住居跡よりも10cmほど高い。この竪穴住居跡は住居壁を検出しておらず、また、確認した床面積もきわめて狭小であるため竪穴住居跡とするには疑問も残るが、他の竪穴住居跡の埋土に酷似した灰色砂質土であり、攪乱坑の断面観察において明確に切り合いを有すること、また、底面がフラットであることから、竪穴住居跡として報告しておく。

埋土中から有孔滑石製品が出土している。

#### 出土遺物（図版21、第25図、第11表）

1～3は直口壺。2は口縁端部を外方につまみ出す。肩部にヘラ描き沈線を巡らせる。3は口縁部が短く外反し、口縁部～頸部にかけて器壁が厚い。



第22図 6号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

特徴番号	国際番号	出土遺物等	器種	底面 (m)	断士	焼成	色調	部形や技法の特徴	残存率	備考	目録番号
22-1	21	住6覆上 直C縁直	口径132、脚径 156、残高149	粘土や砂、1~ 3mm石英多	やや甘い	淡黄褐色	口縁外側ハケ、内ナデ、側外斜ハケ →擦ハケ、内ケズリ。	肩部下半1/2欠	復元後	160	
2		住6覆上 直	口径120	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄茶色	外・口縁内板拭工具ヨコナギ。側内 ケズリ。	1/4	復元後	134	
3		住6覆上 布留系裏	口径190	粘土や砂、1~ 3mm石英多	良好	黒灰色	側内板ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/10		133	
4		住6覆上 布留系裏	口径190	粘土や砂、1~ 3mm石英多	良好	黄茶色	ハラ模様波文、外椎ハケ、内ケズリ。	1/8		132	
5		住6覆上 直	口径130、 30 脚	粘土、砂、 脚径、砂粒を12 とんど含まず	良好	明褐色	外ケズリ裏面がいとガキ。内擦削法 の重要な組。	1/2		135	
6		住6覆上 テコ直		粘土、砂粒を12 とんど含まず	良好	黄褐色	外ナデ、内ナデ上げ、 直照光存			130	

第9表 6号竪穴住居跡出土土器観察表

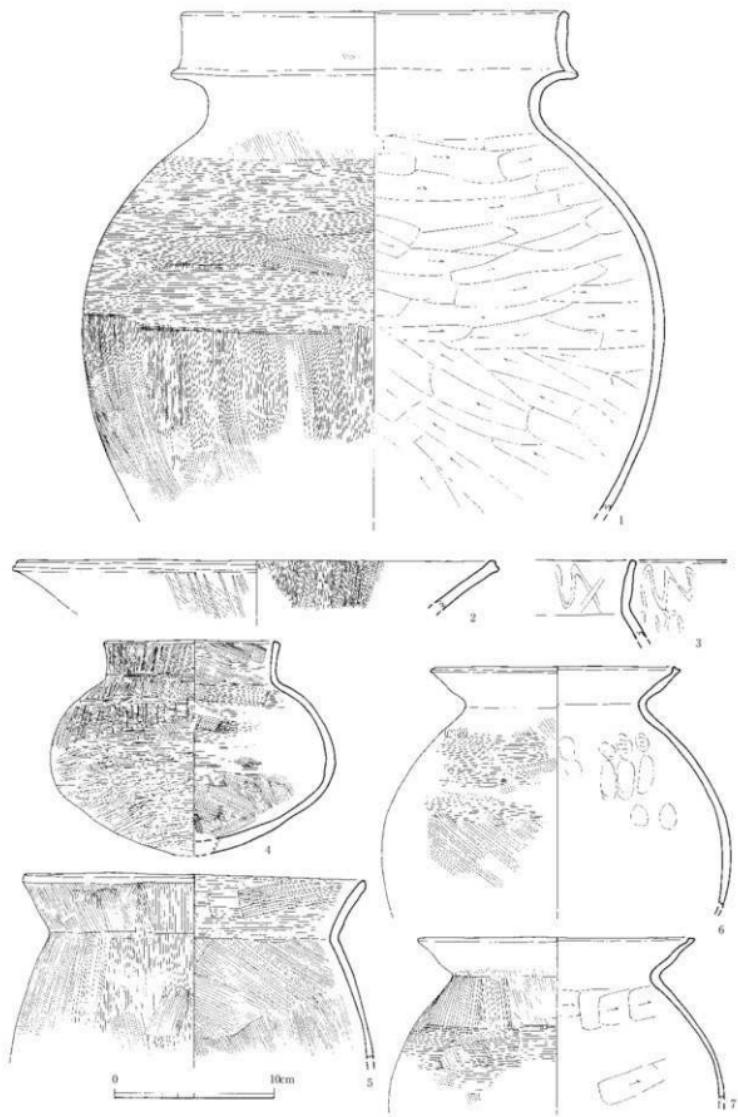
4~6は布留系甕。4は口縁端がややくぼみ、外方につまみ出して丸く收める。6の調整は継ないしは斜め方向のハケの後、肩部のみ横方向のハケを行う。

#### 9号竪穴住居跡（第26図）

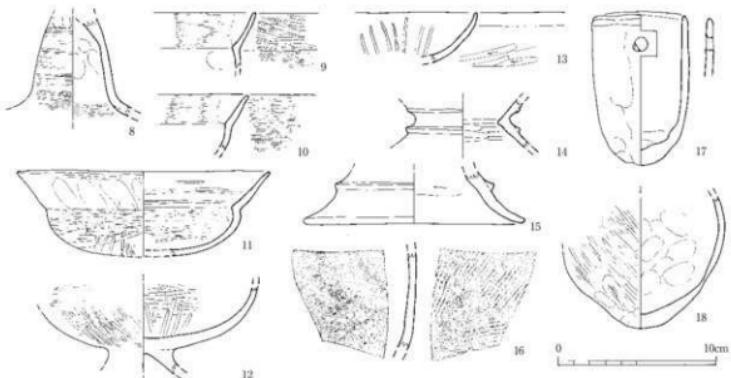
発掘区の南西部、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡に挟まれて位置する。東側で2号竪穴住居跡を切る。大部分が擾乱によって削平され、床面の一部を確認したのみであるが、カマドを付設するものである。住居跡の主軸は定かではないが、遺存している壁から考えるとN-35°-Wとなる。床面の標高は3.7mを測る。

#### カマド（第27図）

住居跡北東に面する壁に付設され、その位置は概ね壁中央部付近に位置する。燃焼部は壁に直交する。右袖部は大きく欠失している。



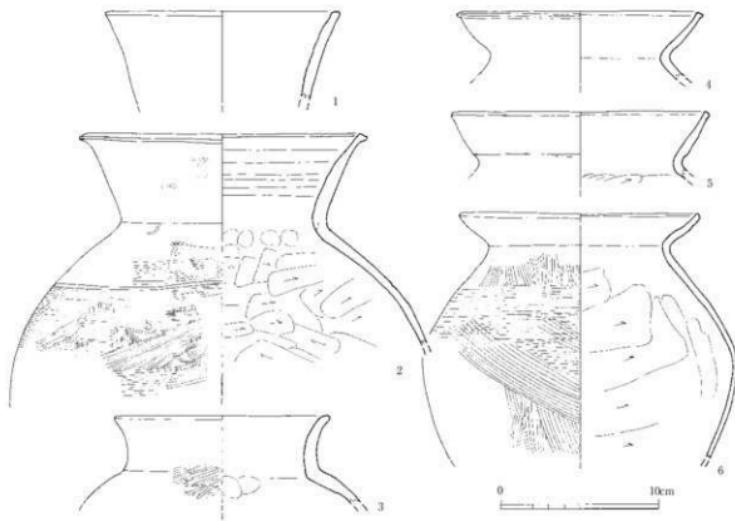
第23図 7号竖穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)



第24図 7号堅穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)

地図 査定 番号	国際 査定 番号	出土 遺物等	形態	法面 (mm)	胎土	焼成	色調	形状や特徴 の剖面	残存率	備考	登録 番号
234		往7層土 東口縫合	口径244、胴径 276、底丸34 3mm石英多	粘土や砂、良好	内黄白色、外淡黄 褐色	内縫ハケ→横ハケ、内ケズリ。				復元欠	復元前
2		往7層土 東口縫合	口径300	粘土や砂、良好	茶褐色	口縫内縫ハケ→横文、内縫ハケ接頭 などガサ。				小所	152
3		往7層土 直口沿	粘土端。1~3mm 石英少	粘土端。1~3mm 石英少	良好	外明褐色、内褐色	内に埋いしそれ			小所	153
4	21	往7層土 直口沿	口径110、胴径 128、底丸132 3mm石英少	粘土端。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	口縫外縫ハケ接ミガキ。側上斜ハケ 内ミガキ→文、胴下ミゼリ。内縫ハ ケ→横ハケ。	1/2	外側黒赤り		139
5	23	往7層土 東系縫	口径214	粘土や砂、1~ 3mm石英多	良好	青褐色~茶褐色	内縫ハケ、口縫内縫ハケ、胴内縫一 割ハケ。			口縫完存	138
6		往7層土 布留系縫	口径156、胴径 158	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	内黄白色、内淡白 褐色~深灰色	内縫ハケ→横ハケ。内ケズリ後ナヂ。外縫欠			小所	142
7		往7層土 布留系縫	口径174	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	内黄白色、内深褐色	内縫ハケ→横ハケ。内ケズリ	1/2	復元前		141
246		往7層土 西岸	肉角63	粘土端。砂利を1 とんと含ます	良好	明黄色	外ハケ後ミガキ、内ナヂ	1/2			143
9		往7層土 東口縫合 鉢	粘土や砂、砂利 を1とんと含ます		良好	暗褐色	内縫ハケ後ミガキ。口縫内縫ハケ。 割ナヂ。			小所	147
10		往7層土 東口縫合 鉢	粘土端。1~3mm 石英少		良好	中褐色	内縫ハケ後ミガキ。口縫内縫ハケ。 割ナヂ。			小所	146
11		往7層土 東口縫合 鉢	口径300、底丸 34 3mm石英少	粘土端。砂利を1 とんと含ます	良好	黄褐色	口縫一側均等ミガキ。追ケズリ後ミ ガキ。	1/4			145
12		往7層土 断面鉢	粘土端。1~5mm 石英少		良好	淡黃褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ミガキ。側 部断面平脊			小所	144
13		往7層土 鉢	粘土や砂、1~ 3mm石英少		良好	淡黃褐色	内ミガキ。下手ケズリ。内縫文。			小所	148
14		山形系糞 形縫合	粘土や砂、1~ 3mm石英少		良好	黃白色	内ミコナヂ。内上半ナヂ。下半ケズ リ。			小所	150
15		往7層土 山形糞 形縫合	口径140	粘土端。砂利を1 とんと含ます	良好	淡褐色	内ミコナヂ。内ケズリ。	1/6			149
16	28	往7層土 器	半島落土 器		粘土端。砂利を1 とんと含ます	陶質、堅硬	内縫文テクチカ。内ナヂ。			小所	132
17		往7層土 コ透	口径62、器内96 3mm石英多	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	橙褐色	内内ナヂ。			变形	137
18		往7層土 コ透	粘土や砂、1~ 3mm石英少		良好	明黃色	外ミガキ後の工具ナヂ。内ナヂ。			既完存	140

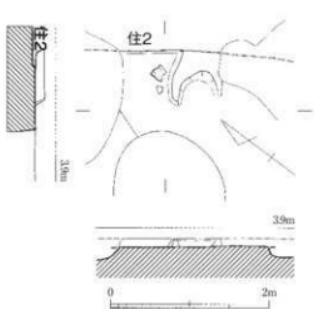
第10表 7号堅穴住居跡出土土器観察表



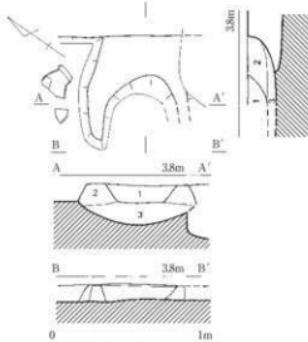
第25図 8号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

博物 番号	国版 番号	出土 場所等	形種	法量 (m)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
25-1	住8層上	直口壺	口径148	粘土地 石英少	1~2mm 良好	明黄褐色	内凹ココナツ。	1/4		156	
2	住8層上	直口壺	口径182	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	良好	浅黃褐色	口縁部外方につまみ出で、外縁ハ ク後椎ハケ。内ケズリ。胎内陶面有 り。	1/3		159
3	住8層上	直口壺	口径136	粘土地 石英少	1~3mm 良好	明黄褐色~非鉛色	侈口ギザ。内ケズリ抜ナツ。	1/4		157	
4	住8層上	布留系甕	口径156	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	良好	黄色	内凹ココナツ。	1/4	重付希	155
5	住8層上	布留系甕	口径162	粘土地 石英少	1~3mm 良好	黄色	内ケズリ。	1/4		156	
6	21	住8層上	布留系甕	口径154	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	やや甘い 黄色	内縁ハケ=横ハケ。内ケズリ。 口縁完存。 厚1/2	重付希	154	
26-1	住9層上	山陰系二 重口縁甕	口径202	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内凹ココナツ。	1/6		163
2	住9層上	布留系甕	口径150	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	やや甘い	黄褐色	内縁ハケ。内口縁撻ハケ。刷ケズリ。 高炊火文。	1/3		168
3	住9層上	布留系甕	口径150	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	やや甘い	明黄褐色	内縁ハケ。内口縁撻ハケ。刷ケズリ。 高炊火文。	1/4	上記と同一側面の可 能性も	161
4	住9層上	布留系甕	口径170	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	やや甘い	浅黄褐色	内ケズリ。液状光。	1/6		162
5	21	住9層上	脚付き甕	口径206	粘土地 石英少	1~3mm 良好	褐色	侈口ギザ。内縁ハケ。2孔窓(本來 は3方向)。	3/4		160
6	住9層上	山陰系甕 形窓付	口徑189	粘土や粗 石英少	1~ 3mm石英少	良好	淡灰褐色	内コナツ。内口縁下ミゼキ。ケズ リ。	1/4		165

第11表 8・9号竪穴住居跡出土土器観察表

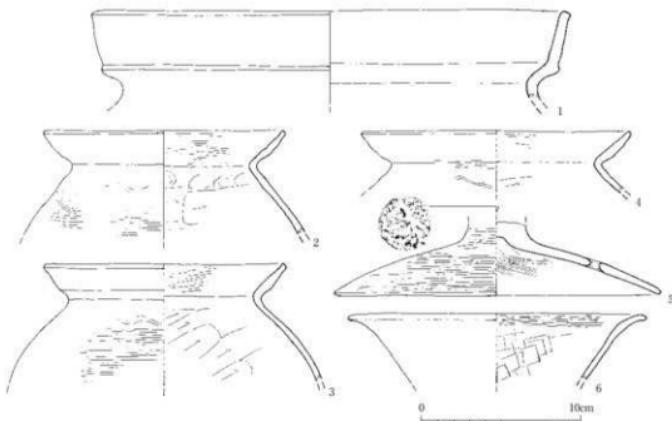


第26図 9号竪穴住居跡実測図 (1/60)



1. 暗黄褐色粘質土に黃白色砂ブロック混 (カマド崩落土)  
2. 暗黄褐色粘土に黃白色砂混、囲い (カマド袖)  
3. 暗灰色砂 (灰混、カマド基礎)

第27図 9号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第28図 9号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

カマドの構築土は暗黄褐色粘質土に黃白色砂（②）を混じえ、硬く締まっている。カマド袖の構築に先立って径70cm、深さ14cmの掘り込みを行い（③）、炭混じりの締まりのあまりない暗灰色砂で充填している。

#### 出土遺物（第28図、第11表）

1は山陰系二重口縁壺。2～4は布留系甕。いずれも肩部の上位にヘラ描き波状文を巡ら

せる。5は脚付き鉢の脚部。3方向にある孔のうち二つが遺存する。鉢との接合部にヘラ状工具先端の押圧により刻みを入れる。6は山陰系鼓形器台。内面の調整は口縁部下がミガキ、その下部はケズリ。

#### 10号竪穴住居跡（第21図）

発掘区の南辺西寄り、7号竪穴住居跡の南側に位置する。北半部を5号竪穴住居跡・6号竪穴住居跡・7号竪穴住居跡に切られ、南側は発掘区外となる。8

号竪穴住居跡と同様、この竪穴住居跡では住居壁を検出していないため竪穴住居跡とするには疑問も残るが、やはりこの遺構と切り合う竪穴住居跡の埋土に酷似した灰色砂質土であり、擾乱坑の断面観察において明確に切り合いを有すること、また、底面がフラットであることから、竪穴住居跡として報告しておく。

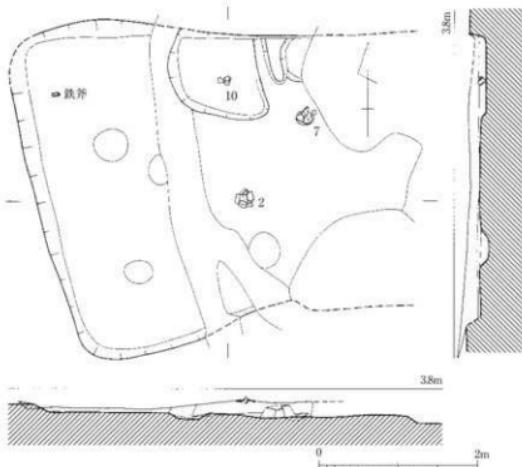
#### 11号竪穴住居跡（図版5、第29図）

発掘区の南西部、3号竪穴住居跡の北東に位置する。北側の12号竪穴住居跡を切る。平面プランは長方形。東側が擾乱によって損壊しているために規模は詳らかではないが、遺存する床面の長軸長4.88m、短軸長4.26mを測る。主軸は概ね東西方向にとる。北壁中央よりやや東側寄りと考えられる位置にカマドが付設され、その西側に接して1.06cm×1.30cm、深さ7cmの浅い土坑状の窪みがある。住居跡の埋土は暗灰色砂質土である。床面の標高は3.5m。ピットを4ヶ所で検出したが、確実に主柱穴であるとは判断できかねる。

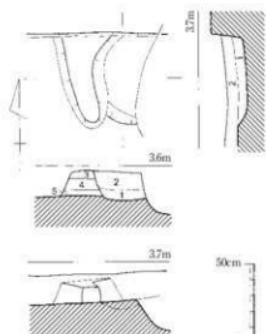
北西隅部の床直上から完形の鍛造鉄斧が出土した。

#### カマド（図版5、第30図）

住居跡北壁に付設される。カマドの右袖は擾乱によって削平されている。袖部は壁に直交する。

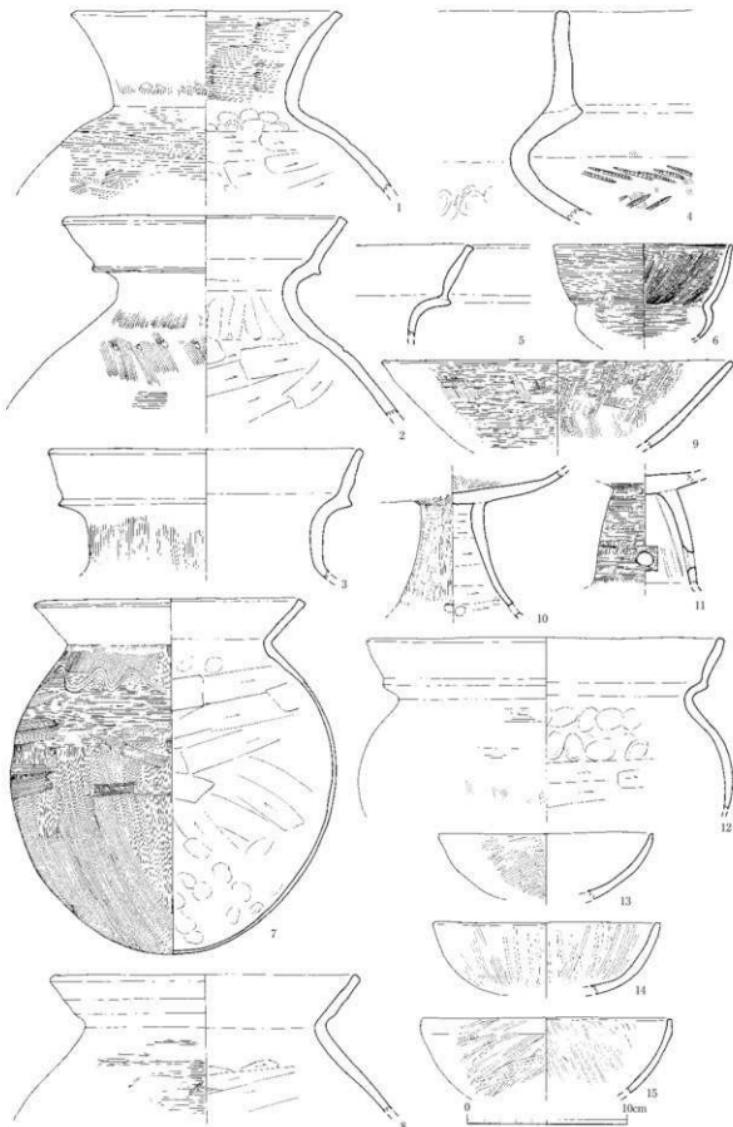


第29図 11号竪穴住居跡実測図 (1/60)



1. 黄灰色粗砂、炭混  
2. 灰色細砂  
3. 黄褐色粘土ブロックに黄灰砂混  
4. 黄灰色砂  
5. 灰色砂  
カマド埋土  
カマド袖

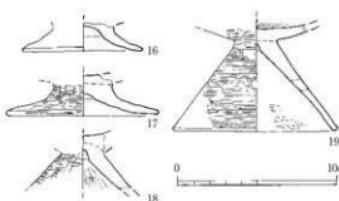
第30図 11号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第31図 11号竪穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)

神奈 番号	国版 番号	出土 遺物等	形種	法量 (mm)	粘土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
313	21	直口壺 直口瓶	口径64	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	淡褐色	外縁ハケ、口縁内側ハケ、網ケズリ、 削面頭(直)。	1/3		176	
2		直口壺 直口瓶	口径179	粘土や砂。 3mm石高少	良好	黄褐色	外縁ハケ、網内ケズリ、頭内ナダ上 げ、削面頭。	1/2		167	
3		山崩系二 重口縁壺	口径192	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好、黒塵	褐黃褐色、内淡灰 色	外縁ハケ、内縁ハケ後ヨコナダ。内 面削面頭著しい。	1/2		177	
4		直口壺 直口縁壺	口径192	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	黄褐色	外縁ハケヨコナダ、内ナダ、頭部 にハケ脱立、其跡による凹凸。	小所		174	
5		山崩系二 重口縁壺	口径192	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	黄褐色	外縁ハケヨコナダ。	小所		178	
6		小形丸壺 直口縁壺	口径111、 96	粘土 3mm石高少	良好	淡黃褐色	内縁丁寧なミガキ。口縁内斜状網 目。	1/3		175	
7	21	直口壺 布留系壺	口径168、 206、高さ228	粘土 3mm石高少	良好、黒塵 やや甘い	明褐灰褐色	外縁ハケ、網ハケ。内ケズリ、頭部 底面に指頭圧痕著しい。	1/2完存	復元品	166	
8		直口壺 布留系壺	口径194	粘土や砂。1~ 3mm石高少	やや甘い	黄褐色	外縁ハケ、内ケズリ。	1/6		172	
9		直口壺 高坏	口径220	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	明褐褐色	外縁ハケ後ミガキ。内縁ハケ→鉛杖 記載後。	1/4		182	
10		直口壺 高坏	口径196	粘土や砂。1~ 3mm石高少	やや甘い	淡褐色	内縁ミガキ、頭部網ハケ後ミガキ。 一部ケズリ。内ヨコナダ。円孔4 孔。	1/2		189	
11		直口壺 高坏	口径196	粘土 3mm石高少	良好	淡褐褐色→明褐 色	内縁ミガキ、頭部網ハケ後ミガキ。 内工ナダ。円孔2.5孔。	1/3		184	
12		直口壺 直口縁壺	口径218	粘土や砂。1~ 3mm石高少	やや甘い	淡褐色	外縁ハケ、内縁ケズリ。頭部オサエ。	1/4	復元品	173	
13		直口壺 鉢	口径132	粘土 3mm石高少	良好、黒塵	明褐褐色	外縁ハケ、内ナダ。	1/4		180	
14		直口壺 鉢	口径140	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	淡褐色	外縁ハケ後ミガキ。内ミガキ。	1/6		181	
15		直口壺 鉢	口径156	粘土 3mm石高少	良好	淡褐色→明褐色	内ミガキ。	1/8	復元品	179	
3236		直口壺 脚付き鉢	口径26	粘土や砂。1~ 3mm石高少	やや甘い	淡褐色	内縁ヨコナダ。	1/4		188	
17		直口壺 脚付き鉢	口径26	粘土 3mm石高少	良好	明褐褐色	頭内ナダ後ミガキ。脚外ミガキ。内 ヨコナダ。	1/2		187	
18		直口壺 小形盆	口径24	粘土や砂。1~ 3mm石高少	良好	明褐褐色	脚ケズリ後ミガキ。内ナダ後ハケ。	1/3		185	
19		直口壺 小形盆	口径24	粘土 3mm石高少	良好	明褐褐色	脚内ナダ後ミガキ。脚外ミガキ。内 ハケ、擦減著しい。	1/3		186	

第12表 11号堅穴住跡出土土器観察表



第32図 11号堅穴住跡出土土器実測図2 (1/3)

7・8は布留系壺。7はほぼ完存している。口縁端部に面をなし、やや肥厚する。外面の調整は綫ハケのち肩部横ハケで、櫛描き沈線文を巡らせる。底部内面には指頭圧痕が著しい。8は肩部にヘラ状工具先端による刺突文が廻る。頭部内面はナダ上げ。4は大形で口縁が直立する。頭部外面にはヘラ状工具端部の押圧による羽状文が施される。6は小形丸底壺。精製。

7・8は布留系壺。7はほぼ完存している。口縁端部に面をなし、やや肥厚する。外面の調整は綫ハケのち肩部横ハケで、櫛描き沈線文を巡らせる。底部内面には指頭圧痕が著しい。8は肩部にヘラ状工具先端による刺突文が廻る。頭部内面はナダ上げ。4は大形で口縁が直立する。頭部外面にはヘラ状工具端部の押圧による羽状文が施される。6は小形丸底壺。精製。

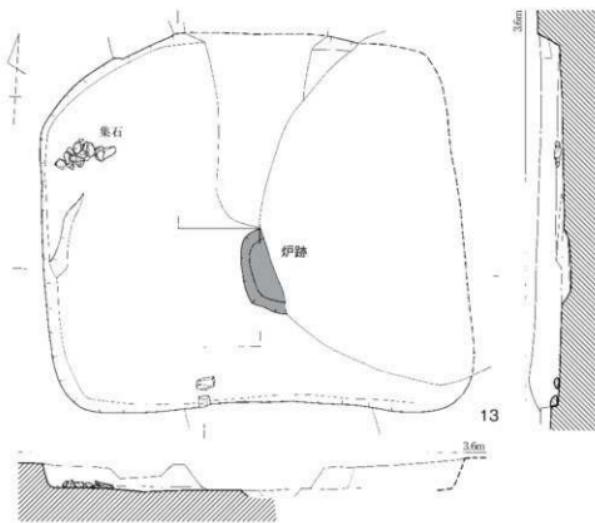
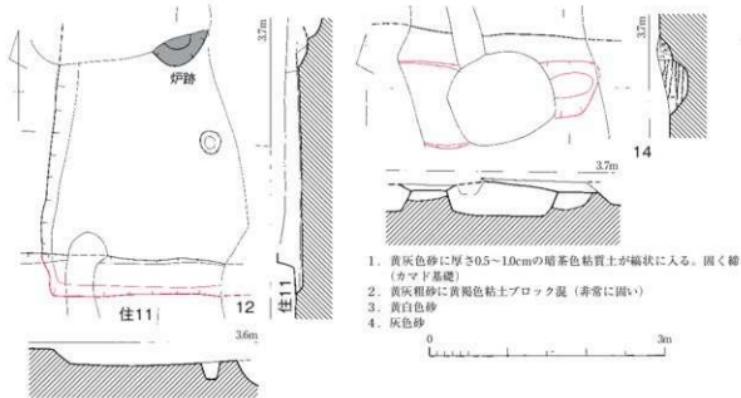
9~11は高坏。10の脚部外面の調整は綫ハケの後、綫方向の粗いミガキを行い、その後に一

カマドの構築土は黄褐色粘土ブロック混じりの黄灰砂(③)、黄灰砂(④)、灰色砂(⑤)の三層からなる。燃焼部は焼き出しのせいか、床面よりも2cmほど低く窪む。

#### 出土遺物 (図版21、第31・32図、第12表)

1は直口壺。肩部にヘラ描きによる沈線を巡らせる。頭部内面には指頭圧痕が顕著に残る。2~5は山陰系二重口縁壺。2は外側の肩部に棒状工具先端の押圧による刺突文が廻る。頭部内面はナダ上げ。4は大形で口縁が直立する。頭部外面にはヘラ状工具端部の押圧による羽状文が施される。6は小形丸底壺。精製。

7・8は布留系壺。7はほぼ完存している。口縁端部に面をなし、やや肥厚する。外面の調整は綫ハケのち肩部横ハケで、櫛描き沈線文を巡らせる。底部内面には指頭圧痕が著しい。8は肩部にヘラ状工具先端による刺突文が廻る。頭部内面はナダ上げ。4は大形で口縁が直立する。頭部外面にはヘラ状工具端部の押圧による羽状文が施される。6は小形丸底壺。精製。

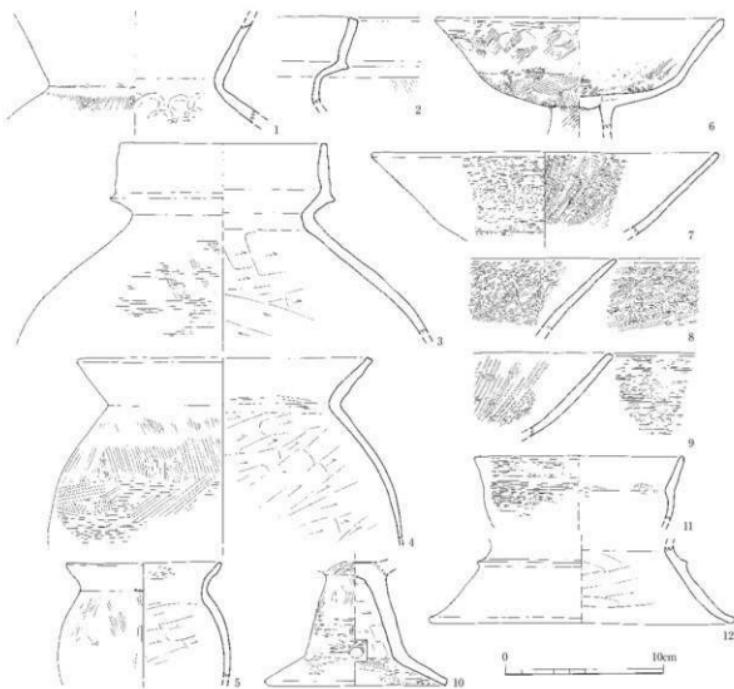


第33図 12~14号竪穴住居跡実測図 (1/60)

部へラケズリをしている。

12は山陰系二重口縁鉢。頸部内面には指頭圧痕が顕著である。13~15は丸底鉢。16・17は脚付き鉢の脚部。

18・19は小形器台。



第34図 12号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

#### 12号竪穴住居跡 (国版3、第33図)

発掘区の南西部、11号竪穴住居跡の北側に位置する。北側と東側を攪乱によって大きく損壊し、住居跡の南西部の一部が遺存している。11号竪穴住居跡に切られる。規模は現状で3.35m × 2.44mを測る。主軸は概ね南北方向にとる。住居跡の北壁寄りと考えられる位置で、主軸を南北方向にとる炉跡の南側半分を検出した。炉跡の埋土は炭混じりの黒色土。住居跡の埋土は暗灰色砂質土である。床面の標高は3.3m。床面では深さ22cmのピットを一つ検出した。

#### 出土遺物 (国版21、第34図、第13表)

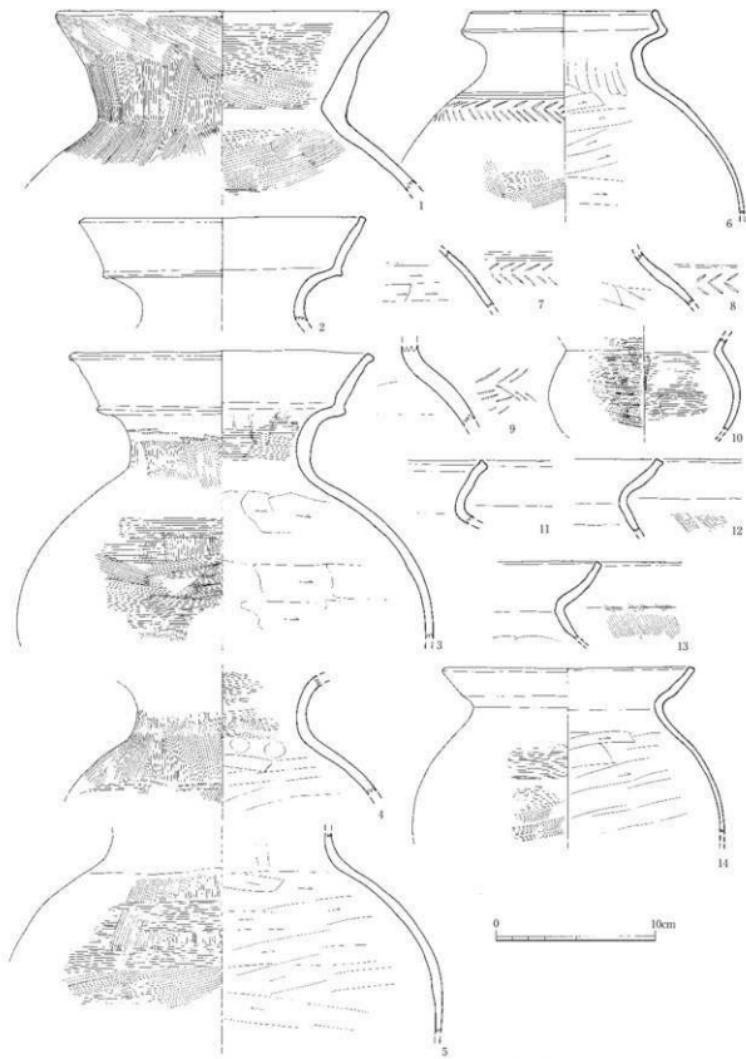
1は直口壺。2・3は山陰系二重口縁壺。3は口縁部が直立し、頸部が締まっている。4は布留系壺。5は小形の甕。口縁部内面は横方向のハケ。

6～10は高壺。6は口縁部が外反し、杯部底から粘土を充填して脚部と接合する。山陰系。7～8の口縁部は直線的に伸びる。

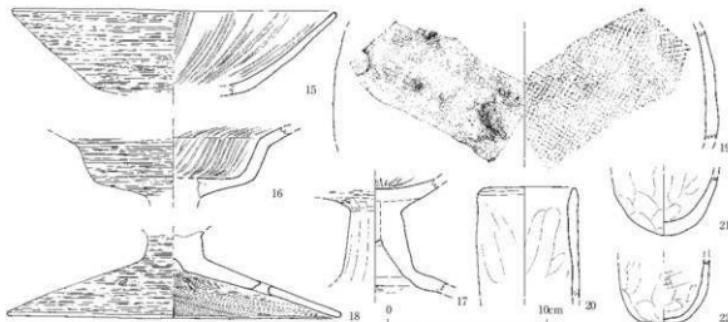
11は外反口縁鉢。12は山陰系鼓形器台の脚部片。

博国 番号	国版 番号	出土 遺物等	器種	法度 (mm)	断土	焼成	色調	形態や技法の特徴	現存率	備考	登録 番号
344	往12層上	直口瓶			粘土や砂、1~3mm石高少	良好	淡黃褐色~淡褐色	口縁羽目・内凹コナド。内凹コナド。深瀬ハケ、削鉗押打。	1/4		199
2	往12層上	山形 等二 直口瓶			粘土や砂、1~3mm石高少	良好	灰褐色	内凹コナド。墨外擦ハケ。	小河	墨付垂	201
3	往12層上	山形 等二 直口瓶	口付129		粘土や砂、1~3mm石高少	良好	淡黃褐色~淡黃褐色	外縁ハケ後摺ハケ。内ケズリ。	1/4		200
4	往12層上	布留系葉	口付106		粘土や砂、1~3mm石高少	良好	淡黃褐色	外縁ハケ→摺ハケ。内ケズリ。	1/4		197
5	往12層上	小形葉	口付98、削 付108		粘土や砂、1~3mm石高少	良好	淡黃褐色~灰褐色	外縁ハケ。口縁内擦ハケ。削ケズリ。	1/4	墨付垂	198
6	21	往12層上 馬	口付182		粘土や砂、1~3mm石高多	良好	淡黃褐色~明黃褐色	内凹羽目ハケ。内ケズリ。背筋底に内凹の凹出。	有れば完 存		190
7	往12層上	高环	口付239		粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	明赤褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ後ミガ キ。	1/8		194
8	往12層上	高环			粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	明赤褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ後ミガ キ。	小河		192
9	往12層上	高环			粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	明赤褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ後ミガ キ。	小河		193
10	往12層上	高环	削付116		粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	淡黃褐色~明褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ。削筋 ハケ。	2/3		191
11	往12層上	灰灰口 瓶	口付132		粘土砂、1~3mm 石高少	良好、黒斑	明褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ。底サ カ。	1/4		195
12	往12層上	山形 等二 削付104			粘土や砂、1~3mm 石高少	やや甘い	淡褐色~淡褐色	背筋減著しく不規。内ケズリ。口縁 底コナド。	1/6		196
354	往13層上	在 塚 直 口瓶	口付200		粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	淡黃褐色、内側基 本色	口縁羽目ハケ。内斜ハケ後摺ハケ。 口縁内擦ハケ。削内斜ハケ。	1/4		208
2	往13層上	山形 等二 直口瓶	口付180		粘土砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	内凹コナド。	1/2		203
3	21	往13層上 直口瓶	口付100、削 付262		粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	褐色~淡褐色	削内擦ハケ。内凹ナダ後摺ハケ。削 内ケズリ。	1/2		202
4	往13層上	山形 等二 直口瓶			粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	削外擦ハケ。口縁内擦ハケ。削内ケズ リ。	1/2		209
5	往13層上	山形 等二 直口瓶			粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	外擦茶色、内基本 色	削内擦ハケ後摺ハケ。削内ナダ。削 内ケズリ。	1/4		210
6	往13層上	山形 等二 直口瓶	口付117、削 付224		粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	工具先端による羽状突の上面に浅 い凹出。削内ナダ。削内ケズリ。	1/4	墨付垂	204
7	往13層上	山形 等二 直口瓶			粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	工具先端による羽状突の上面に浅 い凹出。削内ナダ。削内ケズリ。	小河		206
8	往13層上	山形 等二 直口瓶			粘土砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	工具先端による羽状突。削内コナ ド。削内ケズリ。	小河		205
9	往13層上	山形 等二 直口瓶			粘土砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	工具先端による羽状突。削内コナ ド。削内ケズリ。	小河		215
10	往13層上	小形 丸 削付120			粘土砂、微砂粒少	良好	褐色	外縁ハケ後ミガキ。内側ハケ。	1/4		211
11	往13層上	布留系葉			粘土砂、微砂粒少	良好	内擦茶色、内褐色	口縁摺削つまみ上げ。内外コナド。	小河		218
12	往13層上	布留系葉			粘土砂、微砂粒少	良好	淡褐色	内凹コナド。削内斜ハケ。内ケズ リ。	小河		216
13	往13層上	布留系葉			粘土砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	削内斜ハケ。削内ケズリ	小河		217
14	往13層上	布留系葉	口付156、削 付194		粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色	削内斜ハケ。削内ケズリ。	2/3	墨付垂	219
3615	往13層上	高环	口付210		粘土砂、微砂粒少	良好	褐褐色	外ミガキ。内ミガキ後削突。	1/4		223
16	往13層上	古備 系 直口瓶			粘土砂、1~3mm 石高少	良好	茶褐色	削内段を持つ。外ミガキ。内致斜 削の削突。	1/2		222
17	往13層上	高环			粘土や砂、1mm 石高少	良好	淡褐色~褐色	削内ミガキ。削内ナダ。内ナダ、下擦 ハケ。	1/2		221
18	往13層上	削付22			粘土や砂、1~3mm 石高少	良好	外擦色、内済擦色	成前削丸3+所。1.ガキ、内ハケ。	1/2		220
19	28	半島 系 器器	削付282		粘土砂、砂粒を合 まず	瓦気、須器 等	茶褐色~茶褐色 等	外擦ミガキ。内ナダ。内凹塞し い。	1/6		1125
20	往13層上	ヲコ蓋	口付56		粘土砂、1~3mm 石高少	良好	淡褐色~茶褐色	内ナダ。内なだ上げ。	1/3		214
21	往13層上	ヲコ蓋			粘土砂、1~3mm 石高少	良好	外茶褐色、内褐色	内ナダ。	瓦ナダ。内ハケ後ナダ。	瓦部完存	213
22	往13層上	ヲコ蓋			粘土砂や砂、1~3mm 石高少	良好	外黄褐色、内基本 色	瓦ナダ。内ハケ後ナダ。	瓦部完存	212	

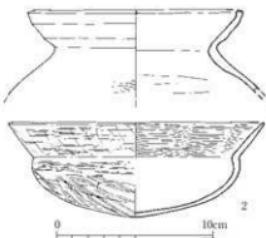
第13表 12・13号堅穴住居跡出土土器観察表



第35図 13号竪穴住居跡出土土器実測図1 (1/3)



第36図 13号竪穴住居跡出土土器実測図 2 (1/3)



第37図 14号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

なる集石が確認された。石は長さ12cm～28cmで、支脚によく使用されるタイプの棒状の石材と角砾からなる。いずれも火を受け赤化している。集石際には被熱によって破碎したと考えられる石材の碎片が散乱していた。住居跡の埋土は灰色砂質土である。床面の標高は3.4m。なお、住居跡の検出面で、13号竪穴住居跡を切って破碎した土器が集中する部分があり、53号土坑として遺構番号を付したが、この土坑は13号竪穴住居跡が埋没する最終段階で一括投棄された可能性も残されている。

埋土上層から玉砾石が出土している。

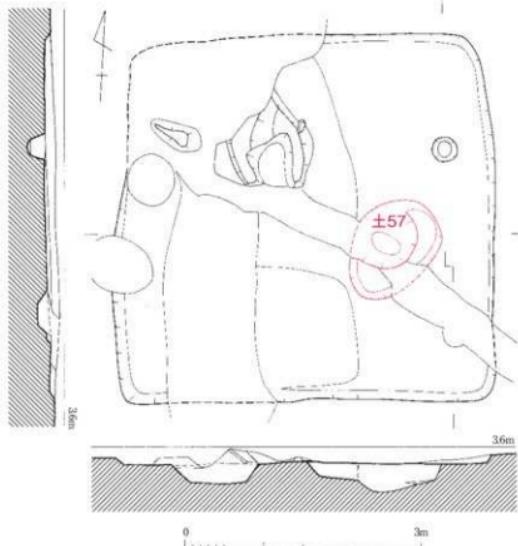
#### 出土遺物 (図版21、第35・36図、第13表)

1は在地系直口壺。器壁が分厚い。2～9は山陰系二重口縁壺。3は口縁端部を外方につまり出し丸く收める。4は肩部に櫛描の沈線をまわす。6は口縁部が内傾し、袋状口縁のようになる。肩部に工具先端の刺突により羽状文と2条の浅い沈線を巡らせる。7～9も同様の羽状文を施す。10は小形丸底壺。

11～14は布留系壺。

#### 13号竪穴住居跡 (図版6、第33図)

発掘区の北西部に位置する。住居跡の東壁は現代の井戸の掘方によって損壊している。規模は4.76m×5.37mを測る。主軸はN-3°-Wにとる。住居跡の中央よりやや南寄りで、主軸を南北方向にとる炉跡を検出した。東側半分は新期の井戸の掘方によって削られている。規模は長軸方向で1.15m、深さ10cmを測る。炉跡の埋土は炭混じりの黒色土。住居跡西壁の中央部の床面の一部に周囲よりも8cmほど高くなった部分があり、出入口に関係するものかもしれない。また、そのすぐ北側、住居跡北東隅部の床直上に、10数個から



第38図 15号竪穴住居跡実測図 (1/60)

15~17は高坏。16は吉備系高坏で杯部に段を有する。胎土は精良。

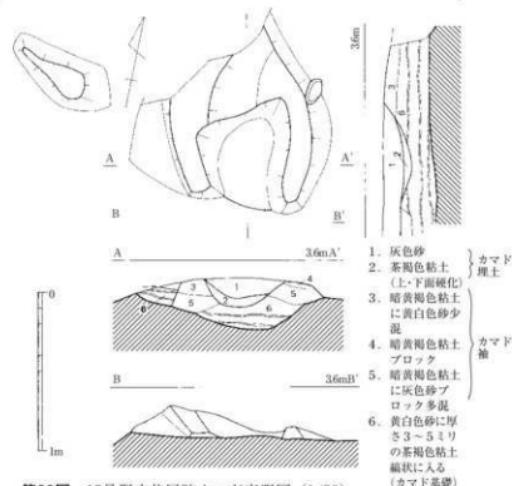
18は脚付鉢の脚部と思われる。

19は半島系土器壺の胴部破片。内面は成形時の指オサエによる凹凸が著しい。

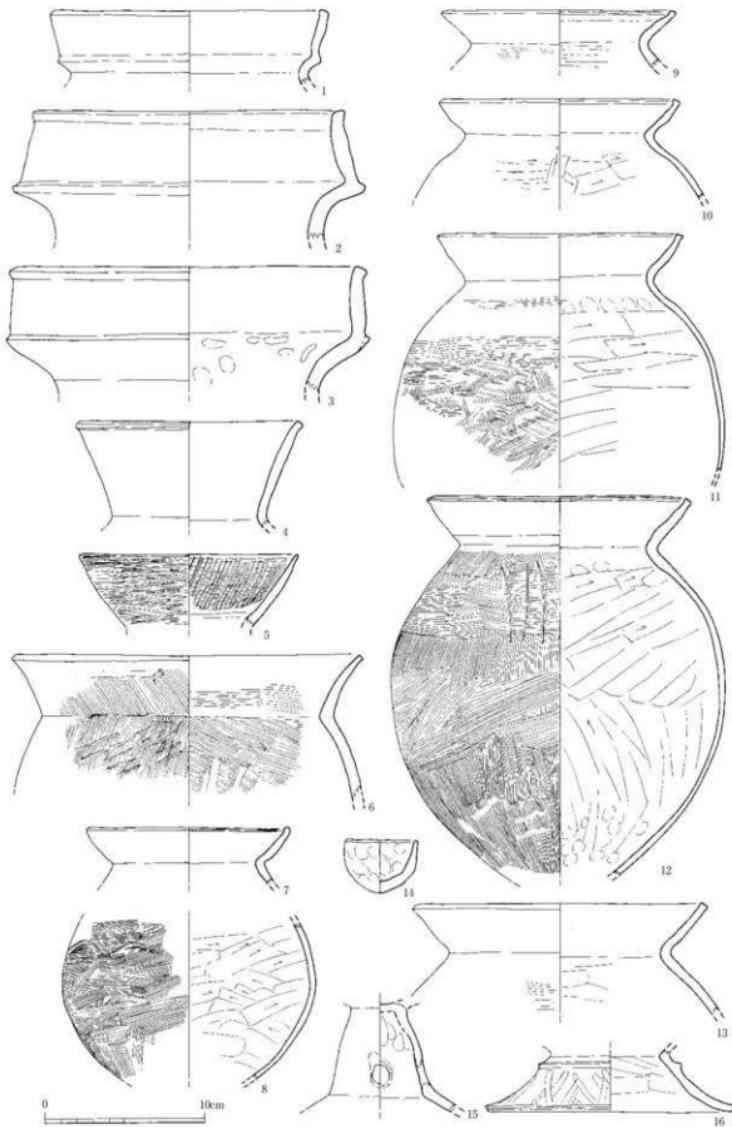
20~22はタコ壺。20の口縁部は丸く收める。22の内面にはハケ状工具による板ナデの痕跡が残る。

#### 14号竪穴住居跡 (図版6、第33図)

発掘区の北西部、13号住居跡の北西側に位置する。削平が著しく、北辺部がかろうじて遺存していた。規模は現状で東西方



第39図 15号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第40図 15号堅穴住居跡出土土器実測図1 (1/3)

向が2.50mを測る。主軸は概ね南北方向にとる。住居の北壁に沿って煙道を持つカマドが付設されていたと考えられる。

#### カマド（図版6、第33図）

この住居跡ではカマド本体を検出していなもの、住居跡の北壁から30~40cmの距離をおいてカマドの基礎地業と考えられる掘り込みが、中央の擾乱坑を挟んで東西2ヶ所で確認された。意図的に埋められた埋土は厚さ3~10cmの黄灰色砂と、厚さ1cmほどのやや粘性を帯びた暗茶色土の互層である（①）。また、この掘り込みと住居北壁に挟まれる帶状の空間も地山ではなく、黄灰色粗砂に明黄褐色粘土ブロック（②）を含むひじょうに縮まった層が存在するため、この上部に煙道が存在したものと考えられる。したがって14号住居跡は、北壁に沿って煙道を持つカマドを付設する住居と考えて差し支えない。この住居跡のカマドの下部構造は後述する19号竪穴住居跡と共通する。

#### 出土遺物（図版22、第37図、第14表）

1は布留系壺。口縁端部に面をなし、端部の内側に段をなす。2は外反口縁鉢。

#### 15号竪穴住居跡（図版7、第38図）

発掘区の南部中央、4号竪穴住居跡の東側に位置する。北西部が擾乱によって損壊している。57号土坑を切る。平面プランはやや東西に長い長方形。規模は4.80m×4.63mを測り、主軸をN-93°-Wにとる。カマドが付設される。住居跡の埋土は黒灰色砂質土である。床面の標高は3.5m。床面では主柱穴とも考えられるピットを二つ検出した。そのうちの一つは径30cm、深さ23cmを測る。

埋土中から勾玉未製品・石錘・軽石加工品が出土している。

#### カマド（第39図）

住居跡北壁の中央よりやや西寄りに付設される。燃焼部の主軸は北壁に直交する。煙道部は北壁に沿って西に延び、住居跡の北西隅部で立ち上がるものと考えられるが、擾乱によって完全に損壊している。

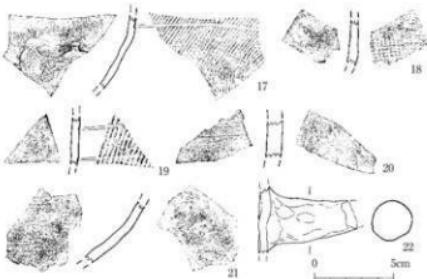
カマドの構築土は暗黄褐色粘土に黄白色砂ないしは灰色砂ブロックを含む層（③～⑤）からなる。その下部にはカマドの袖の範囲に対応した掘り込みがみられ、厚さ4~7cmの黄白色砂と、厚さ0.3~0.5cmの茶褐色粘土層が互層に充填されている（⑥）。燃焼部には、住居北壁から180cmほどの位置に、30cm×20cm (+ a) の範囲で赤褐色の硬化面が認められる。なお、この下部でも燃焼部とみられる硬化面が認められる（②下面）。

#### 出土遺物（図版22、第40・41図、第14表）

1~3は山陰系二重口縁壺。

2は口縁部が内傾する。4は直口壺。5は小形丸底壺の口縁部。

6は在地系壺。外面はタタキの後斜め方向のハケ調整。7~13は布留系壺。7のように口縁端部を丸く取めるもの、10のよう



第41図 15号竪穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)

博物 番号	国別 番号	出土 遺物等	器種	法徳 (mm)	胎土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
374	住14	埴土 器	口径136 底径100 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内淡褐色、内側 黄褐色	内淡褐色、内ケズリ、 外ガタ。	1/2		224
2	22	住14 上	灰瓦、口幅 60 身高	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内淡褐色、内側 黄褐色	内淡褐色、内ケズリ、 外ガタ。底部ケズリとグタ。口 内側ハケ。側内ナデ。	1/2		225
404	住15 Y	山形 系 直筒	口径148 底径106 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内淡褐色	内淡褐色	1/8		232
2	住15	埴土 直筒	口径196 底径158 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色	内淡褐色	内淡褐色、内ケズリ、 底部内表面有剥落。	1/4		238
3	住15	埴土 直筒	口径224 底径160 身高 3mm石少	粘土砂、1~3mm 石少	良好	暗黃褐色	内淡褐色	口端部を外方につまみ出す。内外 ヨコナデ。	1/3		237
4	住15	埴土 直筒	口径142 底径115 身高 3mm石少	粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	黄褐色	内淡黃褐色、内側 黒ず	ヨコナデ？摩滅らしい。	1/8		236
5	住15	埴土 小形 丸	口径136 底径112 身高 3mm石少	粘土砂、砂粒を12 とんこすます	良好	暗赤褐色	内淡褐色	内ガタ。内ミヨキ→縮化。	1/4		243
6	住15	埴土 直筒	口径220 底径170 身高 3mm石少	粘土や砂、1mm 石少	良好	内淡褐色、内側 黒ず	内淡褐色	口端部に面をなす。口端外側ハ タ。脚タキ接趾ハタ。口端内側ハ タ。脚印ハタ。	1/4		230
7	住15	埴土 布留系	口径128 底径100 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内淡褐色	口端部に面をなす。内ヨコナデ。	1/8		233
8	住15	埴土 布留系	口径160 底径130 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色	内淡褐色	内淡褐色→底状の輪様文。内ケズ リ。	1/3		235
9	住15	埴土 布留系	口径148 底径118 身高 3mm石少	粘土砂、1~3mm 石少	良好	内淡褐色、内側 黒ず	内淡褐色	内淡褐色、内ナデ。	1/2		228
10	住15	埴土 布留系	口径150 底径120 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色	内淡褐色	口端部を内側に大きくつまみ出 す。内板ナデ、内ケズリ。	1/6		231
11	22	住15	埴土 布留系	口径153, 196 底径145, 199 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色	口端部に面をなす。外タキ接趾 ハタ。上部は裸ハタ。内ケズリ。脚 印有。	1/3	脚付番	227
12	22	住15Nai	埴土 布留系	口径165, 199 底径155, 199 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色	口端部に面をなす。外脚中腿ハ タ。上脚ハタ。前脚ナシ。内ケズリ。 14は完存 翼に支柱風の条痕。	226		
13	住15	埴土 布留系	口径184 底径140 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	内淡褐色、内側 黒ず	内淡褐色	口端部に面をなす。外淡ハタ。内 ケズリ。	1/3		229
14	22	住15	手捏ね 体	口径46, 基部33 身高 3mm・ 黒ず	粘土砂、 1~3mm 石少	良好、黒ず	深褐色	手捏ね。指頭汗痕跡。	完存		240
15	住15	埴土 高坏		粘土砂、1~3mm 石少	やや甘い	深褐色	章ナナ+モ残存。摩滅らしい。	右部完存			342
16	住15	山形 系 高坏	口径155 底径118 身高 3mm石少	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好、黒ず	暗黃褐色	内淡いヨギ。内ケズリ。	1/3		239	
41-17	28	住15	埴土 器	粘土砂、砂粒を合 せず	陶質、塑性、 底部器の 内側	灰色	1色の沈痕。外端面文タタキ。内ナ デ。	小所			1127
18	28	住15	埴土 器	粘土砂、 脚部粗擦 か	灰質	灰褐色	内淡テタキ。内ヨコナデ。	小所			1128
19	28	住15	埴土 器	粘土砂、砂粒を合 せず	陶質	暗黃褐色	2色の沈痕。外平行タタキ。内ナ デ。小所				1129
20	28	住15	埴土 器	粘土砂、砂粒を合 せず	陶質	灰色	内ナデ、内ヨコナデ。	小所			1125
21	28	住15	埴土 器	粘土砂、砂粒を合 せず	陶質	灰色	内ナデ、内ヨコナデ。	小所			1126
22	28	住15	埴土 器把手	粘土や砂、1~ 2mm石少	陶質、土 色に近い	黄褐色	手捏ね。指頭汗痕跡。	小所			241

第14表 14・15号堅穴住居跡出土土器観察表

に内側につまみ出すもの、9・11~13のように罐部に面をなすものがある。いずれも罐部の内側に段をなす。12は底部を除いてほぼ完存する。肩部に3本の浅い条痕を刻む。14は小形の手捏ね鉢。全面に指頭圧痕が顕著である。

15は高坏の脚柱部。

16は山陰系鼓形器台の脚部。

17~21は半島系土器。外面にタタキを残す17~19とナデを施す20・21がある。22は瓶把手。

16号竪穴住居跡（図版7、第42図）

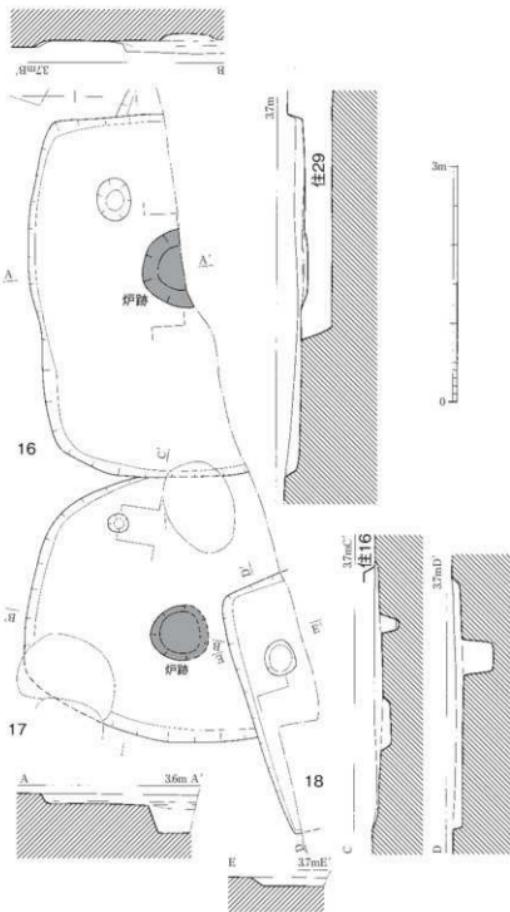
発掘区の南辺中央部、15号竪穴住居跡の南東側に位置する。南半は調査区外となり、また、29号竪穴住居跡に切られる。規模は東西長4.6m、南北方向は現存長2.80mを測る。床面の主軸は概ね南北方向にとる。床面の標高は3.4m。住居跡の埋土は黒灰色砂質土。床面の中央よりも僅かに東寄りに炉跡が存在する。規模は径103cm、深さ5cmを測る。炉跡の埋土は炭化物粒を含む黒色土である。住居跡の北東部コーナー際で、径56cm×44cm、深さ20cmの柱穴が確認された。

出土遺物（図版22、第43図、第15表）

1～6は山陰系二重口縁壺。1は小形で口縁は短く外反する。2・3は口縁端部に面をなす。2は口縁部が大きく外傾している。4は頸部の小片。外面にヘラ状工具で線刻を入れる。5は肩部の小片。ハケ状工具端部押圧による有軸羽状文を施す。6は口縁部が直立するもの。7は口縁部が内傾する。ひじょうに分厚い。混入品か。8は口縁部が大きく外反する在地系の壺。

9～11は布留系壺。10は肩部にヘラ状工具先による刺突文を巡らせる。

12・13は半島系土器。12は口縁が外反する軟質の鉢で、端部をつまみ上げる。13は瓦質。14は製塩土器の脚部片。全面に成形時の指頭圧痕が顕著に残る。



第42図 16～18号竪穴住居跡実測図 (1/60)

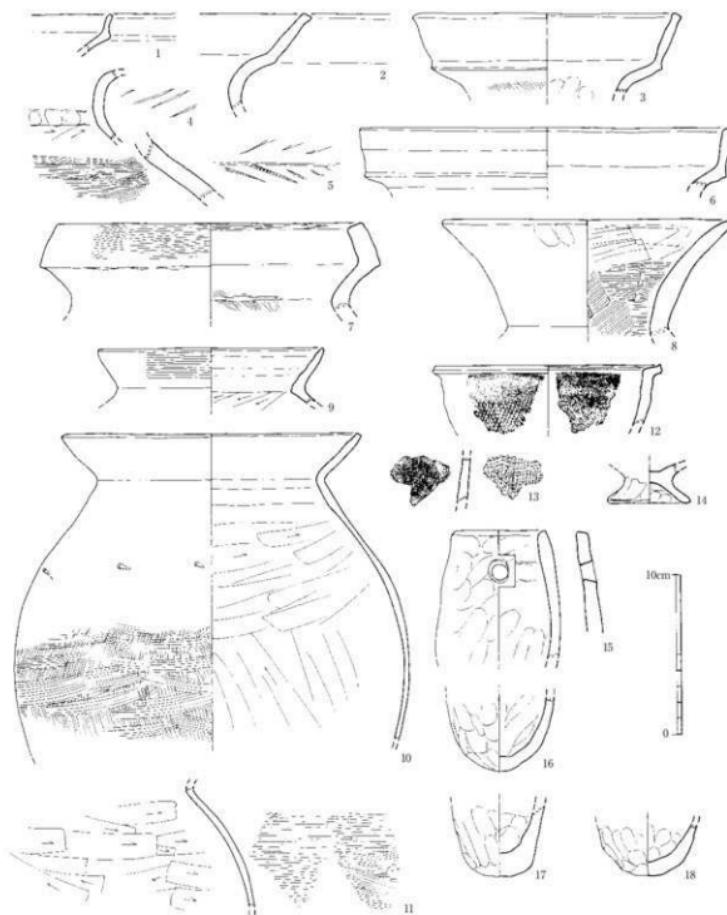
桝国 番号	国版 番号	出土 場所等	形種	法蓋 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
43-1	住16層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土や砂、1~ 3mm石英少	やや甘い	淡黃褐色	内側ヨコナデ。	小所		250
2	住16層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	淡黃褐色	内側ヨコナデ。	小所		248
3	住16層上	山陰系二 重口縁鉢	口径168		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	淡黃褐色	器外擬ハコ。内ナデ。	1/5		251
4	住16層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	淡黃褐色	内ヨコナデ。底工具先端による凹み。 内ケズリ。	小所		245
5	住16層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内ヨコナデ。底工具先端による凹み。 内ヨコナデ。	小所		252
6	住16層上	山陰系二 重口縁鉢	口径232		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	淡黃褐色	口縁部直立。内側ヨコナデ。	1/8		249
7	住16層上	二重口縁 鉢	口径190		粘土砂、1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色	口縫部厚く、内側。内椎ハケ。内ナ デ。	1/8		247
8	住16層上	山陰系二 重口縁鉢	口径180		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	外淡黃褐色、内淡 黃褐色	口縫部大きく外反。縫隔丸い。外ヨコ ナデ、内椎ハケ。	1/8	口徑せんや不安	246
9	住16層上	布留系裏 鉢	口径142		粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黃褐色	口縫部内ヨコナデ。肩内ケズリ。	1/8		253
10_22	住16層上	布留系裏 鉢	口径185、側径 246		粘土や砂、1~ 3mm石英多	やや甘い	淡黃褐色	口縫部に波をなす。肩削尖他。外 ヨコナデ後側ハケ。内ケズリ。	1/3		244
11	住16層上	布留系裏 鉢			粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内椎ハケ、内ケズリ、内ケズリ。	小所		254
12_28	住16層上	半島系土 器	口径143		粘土や砂、1~ 2mm石英少	良好、土顔 部有り	黄褐色	内熱子タキ。内ナデ。	1/8		1130
13_28	住16層上	半島系土 器			粘土砂、1~2mm 石英少	良質、土顔 部有り	淡黃褐色	内熱子タキ。内ナデ。	小所		1131
14	住16層上	黄土系土 器	側径50		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内熱ナデ。内外削鉛柱断面 素。	1/2		255
15	住16層上	テコ座	口径660		粘土砂、1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色	内ナデ、内ナデ上げ。	口縫存		259
16	住16層上	テコ座			粘土砂、1~3mm 石英少	良好	淡黃褐色	内ナデ、内ナデ上げ。	既定存		260
17	住16層上	テコ座			粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナデ、内ナデ上げ。	既定存		257
18	住16層上	テコ座			粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナデ、内ナデ上げ。	既定存		258
44-1	住17層上	山陰系二 重口縁鉢	口径128		粘土砂、1~3mm 石英少	良好、黒斑	黄褐色	内ヨコナデ。	1/4		261
2	住17層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	淡黃褐色	口縫部ミガキ。内ヨコナデ。	小所		270
3	住17層上	山陰系二 重口縁鉢			粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	外青白色、内淡 黃褐色	内ヨコナデ。	小所		262
4_22	住17層上	山陰系土 器	口径128、側径 162		粘土や砂、1~ 4mm石英多	やや甘い	外淡黃褐色、内 淡黃褐色	内椎ハケ、内ケズリ。	2/3	復元品	269
5	住17層上	直口座			粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	淡青褐色~淡褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ナデ。	1/5		271
6	住17層上	直口座	側径150		粘土砂、1~3mm 石英多	良好	淡青褐色	内ナガキ。内ナデ。	1/4	撥きせんや不安	263
7	住17層上	小形丸底 鉢	口径102、側径 96、高さ78		粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	淡褐色	内縫ハケ後ミガキ。下ナカズリ抜え ゼリ。内ナデ、既削鉛柱。	小所		266
8_22	住17層上	小形丸底 鉢	口径102、側径 96、高さ78		粘土砂、1~2mm 石英少	良好	淡黃褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ナデ。	1/5	復元品	336
9	住17層上	布留系裏 鉢			粘土砂、1~3mm 石英少	良好	内淡黃褐色、内 淡褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ナデ。	1/4		269
10	住17層上	布留系裏 鉢	側径200		粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	淡黃褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ナデ。	1/8	撥きせんや不安	264
11	住17層上	高环	口径283		粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	橙褐色	口縫部膨脹、外とギヤ。内椎ハケ 後削鉛柱。	1/6		268
12	住17層上	双口縁土 鉢	口径134、側径 56		粘土砂、砂利を1 とんご含まず	良好	淡黃褐色~黃褐色	内縫ハケ後ミガキ。内ナデ。	1/8		265
13	住17層上	鬱台	側径130		粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黑褐色	内ナガキ。内椎ハケ。	1/8		267
14	住18層上	布留系裏 鉢	口径172		粘土砂、 石英多	良好	黄褐色	内椎ハケ。内ケズリ。	1/8		272

第15表 16~18号堅穴住居跡出土土器觀察表

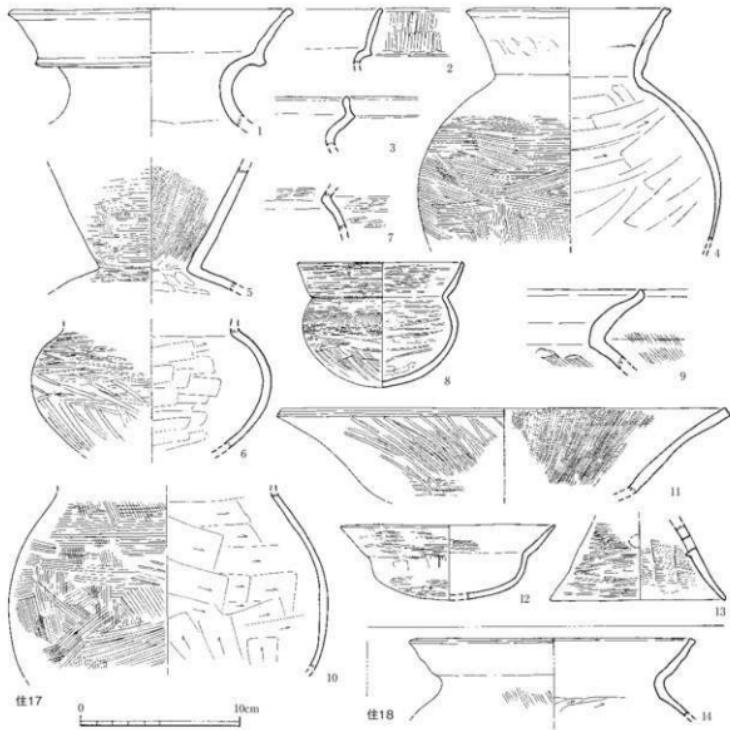
16~18はタコ壺。

17号竪穴住居跡（図版7、第42図）

発掘区の南辺中央部、16号竪穴住居跡の西側に位置する。北西隅は攪乱によって損壊を受けている。住居跡東壁の一部を16号竪穴住居跡に切られ、西壁は19号竪穴住居跡を切っている。



第43図 16号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



第44図 17・18号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

また、南西部は18号竪穴住居跡に切られている。南半は調査区外となるが、検出した部分での平面プランは各壁の中央部がやや膨らんだ隅丸長方形を呈する。規模は東西長3.32m、遺存する南北長3.15mを測る。主軸は概ね南北方向による。床面の標高は3.5m。住居跡の埋土は黒灰色砂質土。床面の中央よりやや西に偏って炉跡が存在する。炉跡の規模は径70cm、深さ5cmを測る。炉跡の埋土は黒色土である。住居跡の北東部コーナー際で、径26cm、深さ23cmの柱穴が確認された。

#### 出土遺物 (図版22、第44図、第15表)

1～3は山陰系二重口縁壺。2は口縁部外面に綫方向のミガキを施す。3は口縁部が短く内傾し、端部は丸く收める。4は直口壺で、口縁端部をわずかに外側につまみ出し、端部下がくぼむ。5は畿内系直口壺。6は口縁部を欠くが直口壺と思われる。7・8は小形丸底壺。8は内面の下方までミガキが及ぶ。ほぼ完存。

9・10は布留系甕。9は口縁端部を上方につまみ上げ内側に段を有する。10は傾きにやや不安あり。

11は高壺の杯部破片。口縁端部に面をなし、やや肥厚する。

12は外反口縁鉢。

13は小形器台の脚部。孔が1ヶ所に残存する。

#### 18号竪穴住居跡（図版7、第42図）

発掘区の南辺中央部、17号竪穴住居跡の南西側に位置し、住居跡の北壁を確認したのみである。17号竪穴住居跡を切る。南北

長など規模は詳らかではないが、北壁の長さ3.15mを測る。主軸をN-17°-Wにとる。床面の標高は3.4m。住居跡の埋土は黒灰色砂質土である。

#### 出土遺物（第44図、第15表）

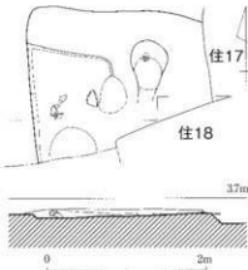
14は布留系甕の口縁部。端部は丸みをもち、やや肥厚する。

#### 19号竪穴住居跡（図版7、第45図）

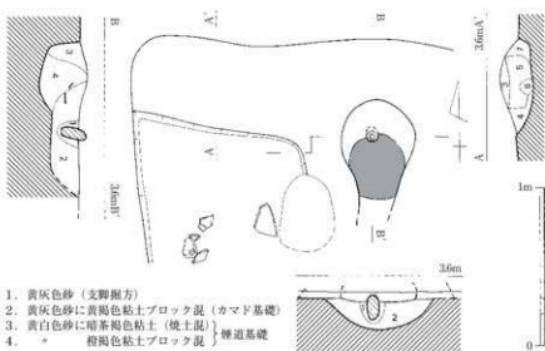
発掘区の南辺中央部、17号竪穴住居跡・18号竪穴住居跡の西側に位置する。東側を17号竪穴住居跡に、南側を18号竪穴住居跡に切られており、北西隅部を確認したのみである。カマドが付設される。床面の標高は3.5m。

#### カマド（図版7、第46図）

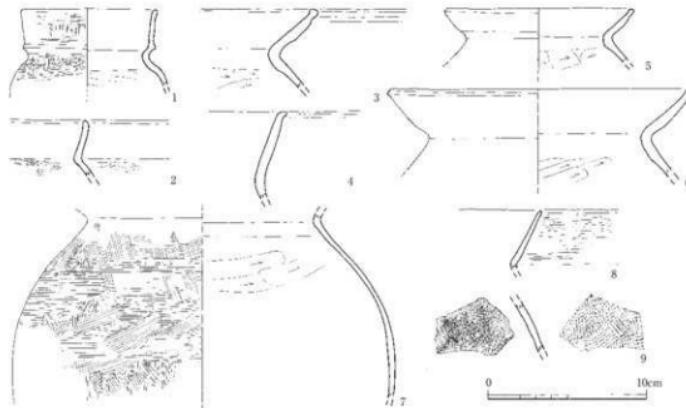
住居跡北壁の概ね中央部に付設され、煙道が住居壁に沿って西側に延びるタイプである。燃焼部の主軸は壁に直交する。



第45図 19号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第46図 19号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第47図 19号竖穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

井岡 番号	国版 番号	出土 遺物等	形態	法量 (m)	胎土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
47.1	往29カマ フ	山脚系二 重口縁鉢	口径86 底径40mm	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄白色	外ミガキ→口縁中継と肩に網目印 文。内ナスリ。	1/5		280	
2	往19層上	直口縫			粘土質、砂粒を含 むんじふくすず	良好	黒灰色	外ミガキ。内擦ハケ。	小片		274
3	往19層上	布留酒甕			粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤	内ナスリ。	小片		276
4	往19層上	布留酒甕			粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤	内凹コチヂ。	小片		279
5	往19層上	布留酒甕	口径118 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄白色	内ナスリ。	1/6		277
6	往19層上	布留酒甕	口径92 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄茶色	内ナスリ。	1/6		275
7	往29カマ フ	内凹口縫 鉢少	口径242 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	淡青褐色	外擦ハケ→擦ハケ。内ナスリ。	1/6		273
8	往19層上	内凹口縫 鉢少			粘土や砂、1~ 3mm石少	やや甘い	淡青褐色	外ミガキ。摩滅。	小片		278
9	28	往19層上 器	牛鼻系土 器		粘土質、砂粒を含 む	陶質	基灰赤	外擦化粧テクニ。内ナド。	小片		1132
30.1	22	往22層上 コ亞	口径47、器高85 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄灰赤	泥付にひび、内ナスリ。	口縁一部欠		281
2	往21カマ フ	山脚系二 重口縫鉢	口径102 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄灰赤	内ナスリ。底減衰しい。	1/8		282
3	22	往22層上 直口縫	口径194、脚径 200		粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤	外擦ハケ→滑擦ハケ。口縁内側ハ ー部欠けはぼ チ。脚付ナチ。	一部欠けはぼ チ		284
4	往22層上 山脚系二 重口縫鉢		口径110		粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤~茶褐色	口縁直立。内擦ハケ。	1/4		288
5	往22層上 山脚系二 重口縫鉢		口径100		粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤	内凹コチヂ。	1/4		286
6	往22層上 山脚系二 重口縫鉢		口径100		粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄灰赤~茶褐色	口縁直立。頭外擦ハケ。内擦ハケ後 ナチ。	1/4		285
7	往22層上 牛鼻系器				粘土質、1~3mm 石底少	良好	黄灰赤	口縫に「X」字形に外化。頭部丸い。 埋滅著しい。	小片		292
8	往22層上 布留酒甕				粘土質、1~3mm 石底少	良好	黑灰赤	内凹コチヂ。	小片	埋付器	293
9	往22層上 布留酒甕				粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰赤~黑灰赤	内凹コチヂ。	1/10	埋付器	291
10	往22層上 器		口径120 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	茶褐色	内凹擦ハケ。	1/8		290
11	往22層上 器		口径100 石底少		粘土質、1~3mm 石底少	良好	茶褐色	内凹コチヂ。摩滅著しい。	1/5		293

第16表 19~22号竖穴住居跡出土土器観察表

カマドの構築土は残存していないが、床部分の土色が変化していたことにより、袖の輪郭がかろうじて把握できた。カマド袖の構築に先立って径69cm、深さ19cmの掘り込みを行い（②）、黄褐色砂に茶褐色粘質土を含む土を充填している。住居跡北壁から55cmほどの床面には、長さ16cm×径8cmの棒状の石材を支脚として埋め立てている。支脚石の前面は40cm×33cmの範囲で床面が硬化している。

煙道部もその地業が確認できたのみで、煙道自体は削平により残存していなかった。煙道部分の縦断面の土層では、径32cmほどの上弦状を呈する層（⑤）が観察され、煙道下部のラインとも考えられたが、その埋土が通常の煙道埋土となる砂とは異なる事、燃焼部床面レベルよりも10cm以上も低くなることから、煙道とは判断しなかった。なお、カマドの縦断面土層（第46図左）では、住居壁際の地業を先に行い、その後にカマドの袖が載る部分を掘りくぼめて本体を構築した状況が観察でき、先述した14号竪穴住居跡と共通する。

#### 出土遺物（図版22、第47図、第16表）

1は小形の山陰系二重口縁壺。器壁が薄く丁寧な作りである。口縁部と肩部に短い縦位の暗文を施す。2は直口壺か。3～7は布留系甕。8は外反口縁鉢。9は半島系の陶質土器で、外面に網代状のタタキが残る。

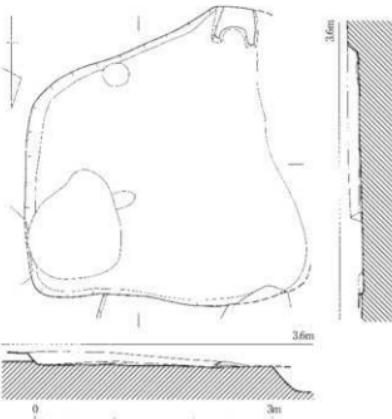
#### 21号竪穴住居跡（図版8、第48図）

発掘区の南東部、15号住居跡の北東側に位置する。北側で28号竪穴住居跡・48号竪穴住居跡を切り、また、南側で46号竪穴住居跡を切る。住居跡の東壁は現代の擾乱によって損壊している。平面プランは西側に向かって広がる不正台形状を呈する。規模は南北長3.76mを測る。主軸は概ね東西方向にとる。カマドが付設される。住居跡の埋土は黒灰色砂である。床面の標高は3.3m。

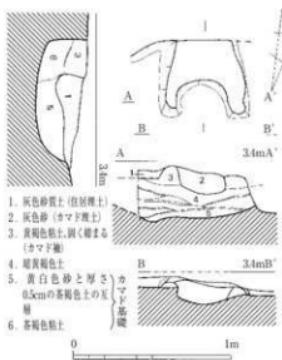
#### カマド（第49図）

他の住居跡の多くが北壁にカマドを付設する中で、当該住居跡のカマドは南壁西寄りに付設されている。燃焼部は住居南壁に概ね直交する。

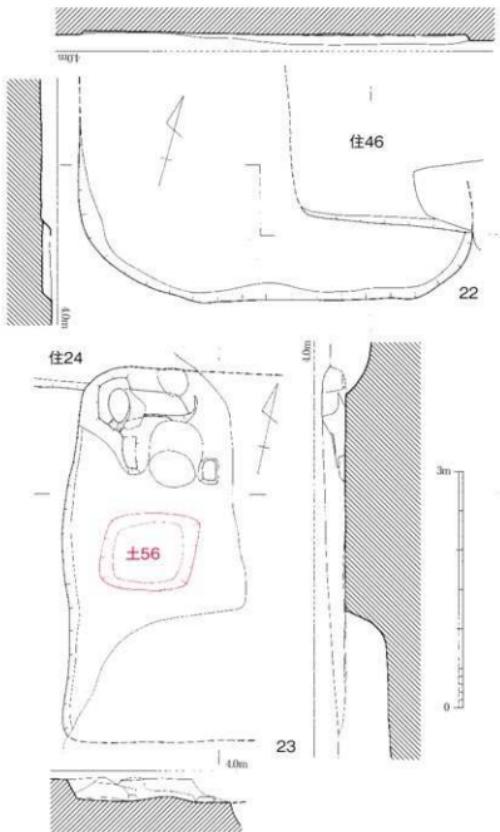
カマドの構築土はひょうに締まりのある黄褐色粘土（③）からなる。カマド本体の構築に



第48図 21号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第49図 21号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第50図 22・23号竪穴住居跡実測図 (1/60)

#### 出土遺物 (図版22、第50図、第16表)

3は直口壺。外面の調整は継ハケで肩部はその後に横ハケを施す。頸部内面にヘラ状工具のアタリのような痕跡が巡る。4~6は山陰系二重口縁壺。4は小形。4・6は口縁部が直立し、5は外反する。

7は壺。口縁がく字形に外反し、端部は丸く收める。8・9は布留系壺の口縁部。

11は小形器台の受け部。口縁部は短く外反する。

#### 23号竪穴住居跡 (図版9、第51図)

発掘区の中央部、21号竪穴住居跡の北側に位置する。竪穴住居跡の北壁の一部と西壁を確認

先立って、深さ16cmの掘り込みを行い、厚さ4~7cmの黄白色砂と、厚さ0.5cmの茶褐色粘質土の互層で充填する。袖の内側は住居床面よりも僅かに低くなっている。また、カマドの床面とともに硬化している。

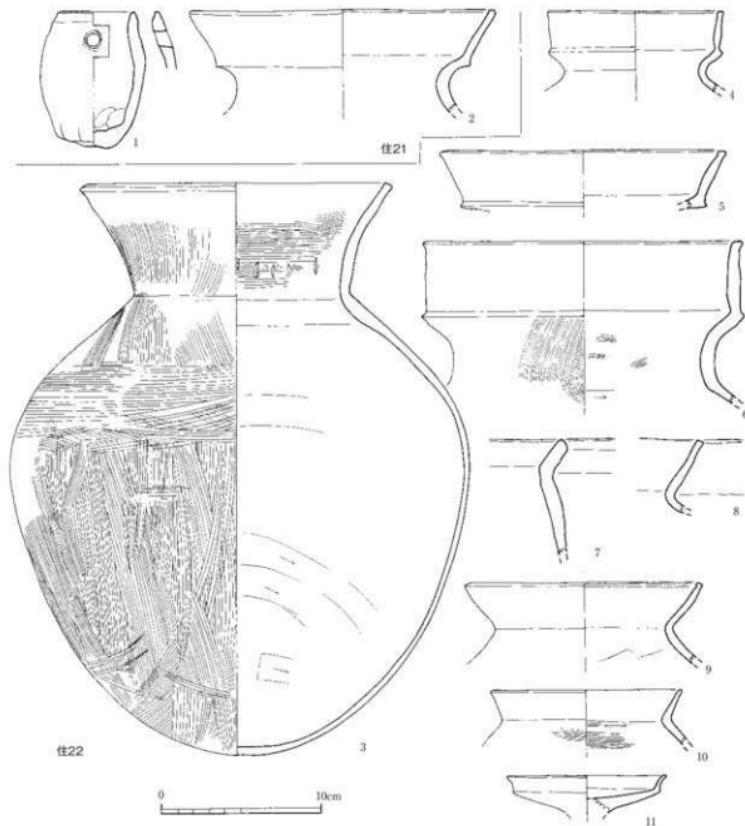
#### 出土遺物 (図版22、第50図、第16表)

1はタコ壺。底部にひびが入る。2は山陰系二重口縁壺。

#### 22号竪穴住居跡 (第51図)

発掘区の南東部、21号竪穴住居跡の南側に位置する。北側と東側を46号竪穴住居跡に切られ、南西隅部で30号竪穴住居跡を切る。削平が著しく、東壁と南壁が僅かに遺存していた状況である。規模は東西方向で4.97mを測る。主軸をN-16°-Wにとる。床面の標高は3.3m。

埋土中から軽石加工品が出土している。



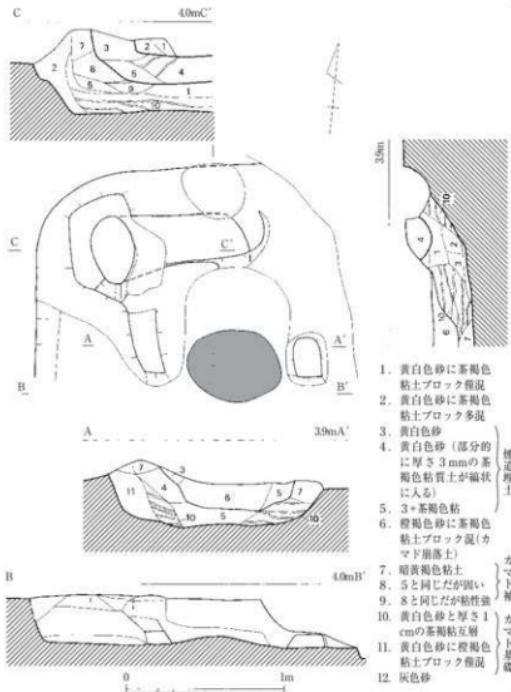
第51図 21・22号堅穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

した。

東側と南側は旧プール建設時の擾乱により損壊している。また、56号土坑を切っている。規模は詳らかではないが、南北長4.75 (+ a) mを測る。主軸をN-10°-Wにとる。床面の標高は3.6m。カマドが付設される。

#### カマド（図版8、第52図）

住居跡北壁の西壁寄りに付設され、煙道が住居壁に沿って西側に短く延びる。燃焼部の主軸は壁に直交する。



第52図 23号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

みられる。断面観察からは⑩層を切っているような状況であり、また、土質も変わらない。煙道部及びその基礎ともカマド袖と一連の作業によって構築されているようで、また、土質も変わらない。煙道の横断面形は円形で、径は壁に沿って水平に走る部分で18cmを測る。立ち上がり部分では32cm×27cmを測る。煙道の埋土は基本的に砂である。また、煙道の底面とカマド燃焼部のレベルは同じである。

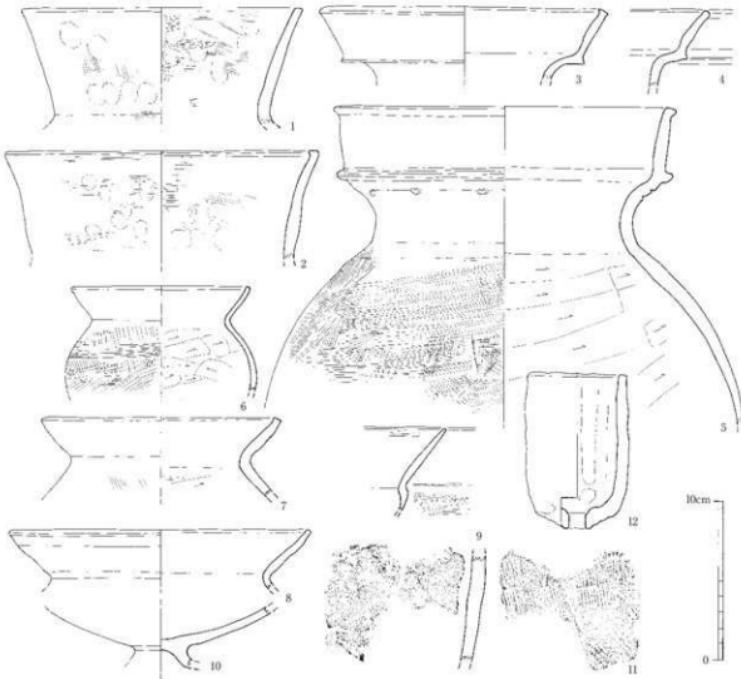
#### 出土遺物（第53図、第17図）

1・2は直口壺。2の口縁端部は内側につまみ出す。3～5は山陰系二重口縁壺。3は口縁端部に面をなし、4は丸く收める。5は口縁が直立するもので、端部は外方につまみ出す。頭部の上位に竹管文を巡らせる。

6～8は布留系壺の口縁部。いずれも内側に浅い段を持つ。

9は外反口縁鉢の小片。10は脚付き鉢。

カマドの構築土は焼土混じりの暗黄褐色粘土で硬く縮まる（⑦）。北壁から1.05m離れて径60cm×45cmの赤変した箇所があり、その部分の茶褐色粘土ブロックを含む粘土はひじょうに硬く焼けている。このカマドの燃焼面は住居跡の床面とはほぼ同じレベルであるが、その下部の橙褐色砂に茶褐色粘土ブロックを含む層（⑥）の下層にも硬化面が認められた。カマドの下部には、東西1.35m、深さ25cmの掘り込みがあり、やはり他の事例と同じ土質の厚さ5cmほどの黄白色砂と、厚さ1cmの茶褐色粘土層を互層にして埋め（⑩）、カマド下部の地業としている。大半の住居跡のカマドの基礎地業はこの互層のみからなることが多いが、このカマドの下層の横断面ではさらに④⑤という埋土が



第53図 23号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

横田 番号	国版 番号	出土 遺物等	形種	法長 (mm)	前土	地成	色調	表面や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
334	住23層上 Y	直口壺	口径128	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	明黄灰地	内ハケ後ヨコナギ。内ハケ、指擦凹 痕ある。	1/6		298	
2	住23層下 Y	直口壺	口径99	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	内黄灰地、内側青 色	内側底部内側につまみ出す。内側 青色。指擦凹痕ある。	1/6		297	
3	住23層上 山形系二 重口縁	直口壺	口径184	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄赤色	内側底部両方につまみ出す。内側 ヨコナギ。	1/10		300	
4	住23層上 山形系二 重口縁	直口壺	口径128	粘土や砂、1~ 3mm石多	良好	黄灰地	内側ヨコナギ。座感著しい。	小判		299	
5	住23層上 山形系二 重口縁	直口壺	口径206	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰地	内側ハケ。内ケズリ。瓶上部に骨管 突起。	1/3		665	
6	住23層上 布留系裏	口付133、網紋 122	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄白色	内側ハケ後ハケ。内ケズリ。	1/5		296		
7	住23層上 布留系裏	口付152	粘土や砂、1~ 3mm石多	良好	黄灰地~黒灰色	内側ハケ。内ケズリ。	1/4	墨付番	295		
8	住23層上 布留系裏	口付180	粘土や砂、1~ 3mm石多	良好	黄白色	内側ヨコナギ。	1/4		294		
9	住23層上 内側口縁 鉢	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰地	内側ハケ後ハケ。口縁内側ハケ。	小判		287			
10	住23層上 脚付き鉢	粘土や砂、1~ 3mm石少	良好	黄灰地	座感著しく不明。		1/5		301		
11	28	住23層上 半高石 器	粘土や砂、1~ 3mm石少	良質、ろ い	黒茶色	内側平行タキリ。下格子タキリ。内 ケズリ。座感著しい。			1133		

第17表 23号竪穴住居跡出土土器観察表

11は半島系土器壺の胴部片。瓦質で非常に脆い。

12はタコ壺。底部に穿孔を施す。内面の調整はナデ上げ。

#### 24号竪穴住居跡（図版9、第54図）

発掘区の中央部、23号竪穴住居跡の北側に位置する。23号竪穴住居跡に切られ、25号竪穴住居跡を切る。東側と北西側は擾乱により損壊している。平面プランは長方形を呈する。規模は南北長4.32m、遺存する東西長4.40mを測る。主軸はN-11°-Wにとる。中央部よりやや北壁寄りに炉跡が存在する。規模は現存長軸85cm、短軸長71cm、深さ6cmを測る。炉跡の埋土は黒色土。住居跡の埋土は灰色砂質土である。床面の標高は3.4m。床面で深さ20cmのピットを一つ検出した。

#### 出土遺物（図版22、第55図、第18表）

1・2は山陰系二重口縁壺。1は口縁端部がやや肥厚し、面をなす。

3は第五様式系。口縁端部が直線的に伸びる。4~8は布留系壺。7・8は口縁端部を内側につまみ出し、明瞭な段をなす。8は肩部に3条一対の波状文を施す。

9は高坏。口縁端部に面をなし、端部の内面に浅い沈線を巡らせる。

10~14は外反口縁鉢。12は口縁部が直線的に伸びる。10は外面の調整がヘラケズリ。14は口縁部内面が横ハケ。15は平底の鉢。口縁部は内湾気味で、端部は丸く收める。16は脚付き鉢。

17は小形器台。口縁部は短く外反する。

18~20はタコ壺。18・20の口縁部は内湾し、19は直線的である。

#### 25号竪穴住居跡（図版9、第54図）

発掘区の中央部、24号竪穴住居跡の北側に位置する。住居跡の西壁を確認したのみで、南側は24号竪穴住居跡に切られ、また、東側と北側は擾乱によって損壊している。床面でピットを二つ検出した。床面の標高は3.6m。

埋土中から砾石が出土している。

#### 出土遺物（第55図、第18表）

21は山陰系二重口縁壺。22は直口壺と考えられるが内面はハケ調整である。

23は脚付き鉢。

24は山陰系菱形器台の下半部。脚部の突帯下に2対の孔を穿つ。

25は半島系陶質土器壺の肩部分の小片。外面は網代状のタタキ。内面はヨコナデ。

#### 26号竪穴住居跡（付図2）

発掘区の南西部、23号住居跡の西側に位置する。周囲の擾乱が著しく、住居跡の床の一部を確認したのみで規模は定かではない。残存長3.4mを測る。床面に65cm×45cmの範囲で変色した部分があり、カマドの袖の痕跡である可能性が高い。この部分の埋め土は茶褐色土に黄白色砂のブロックが混入した土層である。床面の標高は3.5m。

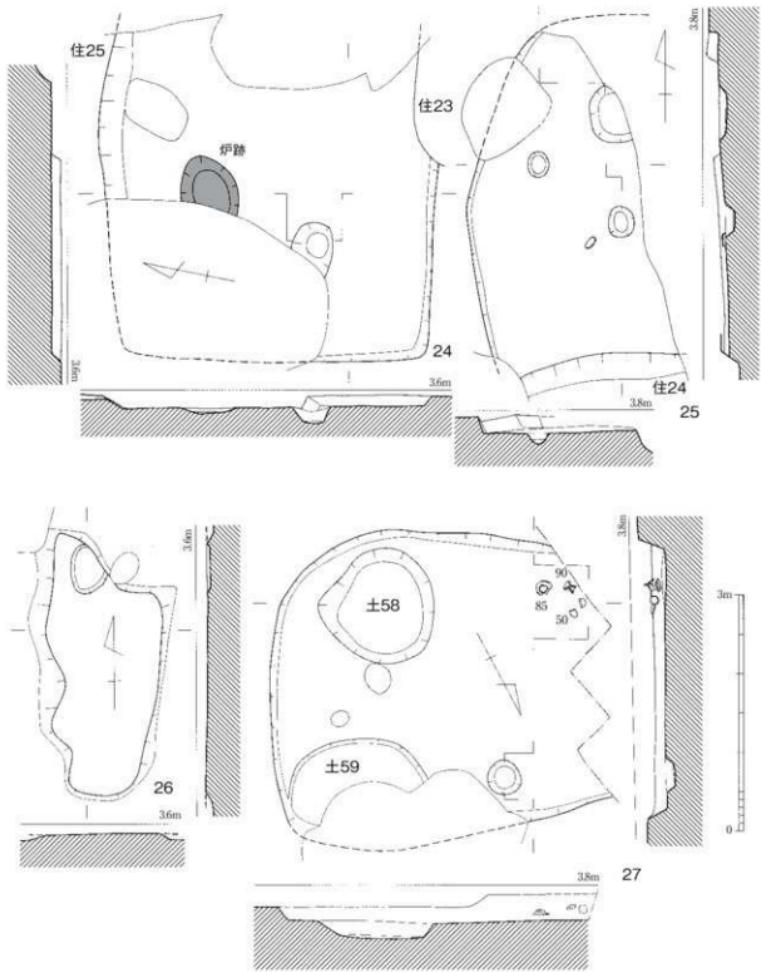
#### 出土遺物（第56図、第18表）

1・2は山陰系二重口縁壺。2は口縁部が直に近い立ち上がり。端部に平坦面をなす。

3~5は布留系壺。4は口縁端部に面をなし、内側につまみ出す。

#### 27号竪穴住居跡（図版9、第54図）

発掘区の南西隅部の別区に位置する。住居跡の西壁は発掘区外となる。58号土坑・59号土坑を切る。平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は3.60m×4.50 (+ a) mを測る。主軸を



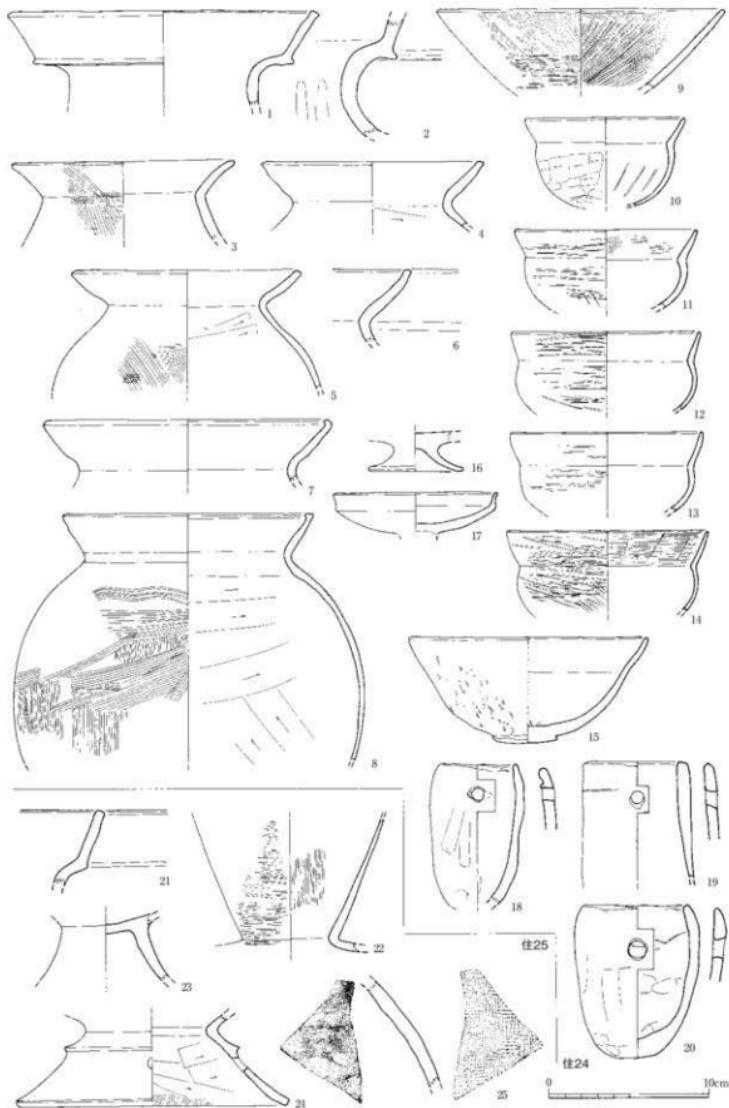
第54図 24~27号竪穴住居跡実測図 (1/60)

N-59° -Wにとる。床面の標高は3.3mを測る。住居跡の埋土は黒色土。床面の3ヶ所でビットを検出したがいずれも浅く、主柱穴になるとは言い難い。

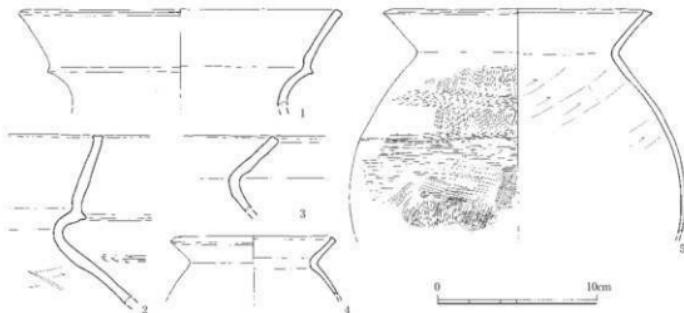
出土遺物 (図版22・23、第57~62図、第20・21表)

博物 番号	国鐵 番号	出土 遺物等	器種	法徳 (mm)	胎土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
554	住24層土	山 鹿 素 二 直口鋸底	口径194	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。	1/5		310	
2	住24層土	山 鹿 素 二 直口鋸底	粘土瓶	1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。内側表面。	小判		309	
3	住24層土	甕	口径140	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色~茶褐色	口縁外側ハケ、側外側ハケ後継ハケ。 内ナギリ。	1/6		305	
4	住24層土	布留系甕	口径140	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	口内内外ヨコナギ。側内ナギリ。	1/3		307	
5	住24層土	布留系甕	口径144	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗黃茶色	内ハケ、内ナギリ。	2/5		304	
6	住24層土	布留系甕		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。	小判		306	
7	住24層土	布留系甕	口径180	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。	1/9		308	
8	22	住24層土	布留系甕	口径196、腹径 220	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	褐灰色	3条一帯の横縞状波状文。腹ハケ→ 側ハケ。内ナギリ。	1/2	留付番	303
9	住24層土	高杯	口径180	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好、黒斑	深褐色~灰褐色	口縁周部に削をなす。肩ハケ→腹 丸。	1/8		320	
10	住24層土	另 反 口 瓶	口径100、腹径 108	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好	暗黃茶色	内ナギリ、内板ナギ。	1/8		315	
11	住24層土	另 反 口 瓶	口径114、腹径 102	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好	黄褐色	外ミガキ。口縁内側ハケ、脚ナギ。	1/9		317	
12	住24層土	另 反 口 瓶	口径118、腹径 114	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好	茶褐色	口縁直線的。外ミガキ。内ナギリ。	1/8		319	
13	住24層土	另 反 口 瓶	口径120、腹径 108	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好、黒斑	内黃茶色、内茶褐色	外ミガキ。内側減量し不明。	1/8		318	
14	住24層土	另 反 口 瓶	口径126、腹径 112	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好	茶褐色	外ミガキ。口縁内側ハケ、脚ナギ。	1/4		316	
15	22	住24層土	瓶	口径149、底径 40、高さ66	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好、黒斑	青黃茶色	内外ナギ。底面に工具痕。	完存		311
16	住24層土	留付小甕	口径60	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄白色	堆積著しく不明。	1/4		323	
17	住24層土	留付	口径102	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	茶褐色	堆積著しく不明。	1/4		321	
18	22	住24層土	コロ	口径47	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄褐色~茶褐色	内ナギ、内ナギ上口。	直腰丸		313
19	22	住24層土	コロ	口径65	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	淡褐色	内外ナギ。	1/2		314
20	22	住24層土	コロ	口径66、器内鉢 石英少	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	褐灰色	内外ナギ。	完存		312
21	住25層土	山 鹿 素 二 直口鋸底		粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。	小判		325	
22	住25層土	直口瓶	直口60	粘土瓶。砂粒を1 ほとんど含まず	良好	茶褐色	外ミガキ	1/5		324	
23	住25層土	斜口小甕		粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内外ナギ。	1/5		326	
24	住25層土	山 鹿 素 茶 直口鋸底	斜口270	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	孔2+側、外ヨコナギ。内ナギリ。	1/4		327	
25	28	住25層土	半 爐 素 土 直口鋸底	粘土や砂、砂粒 を含まず	陶質	褐色	外側代狀タキ。内ヨコナギ。	小判		1134	
56-1	住26層土	山 鹿 素 二 直口鋸底	口径24	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内外ヨコナギ。	1/8		330	
2	住26層土	山 鹿 素 二 直口鋸底		粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	口縁周部削をなし。内側にやや直 み出す。肩外側直腰ハケ。内ナギリ。	小判		329	
3	住26層土	布留系甕	口径164	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	青白色~黄褐色	内ナギリ。	小判		328	
4	住26層土	布留系甕	口径170、腹径 212	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	内茶褐色、内茶褐 色	口縁周部やくばみ、内側につまみ 出る。外側内腰直腰ハケ。内ナギリ。	1/6		332	
5	住26層土	布留系甕	口径170、腹径 212	粘土瓶。1~3mm 石英少	良好	内茶褐色、内茶褐 色	口縁周部やくばみ、内側につまみ 出る。外側内腰直腰ハケ。内ナギリ。	1/4		331	

第18表 24~26号堅穴住居跡出土土器観察表



第55図 24・25号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)



第56図 26号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

1・2は直口壺。2は肩部にヘラ描波状文を巡らせる。3・4は在地系大形壺。ともに断面三角形の突帶に、板状工具端を押圧して刻目を入れる。5~14は山陰系二重口縁壺。5・7・12は口縁部が直立する。6は口縁部から胴部にかけて縦方向のミガキの後、肩部に横方向のミガキを施す。8・14は頸部があまり縮まらないため鉢とした方がよいか。15は畿内系二重口縁壺。口縁部外面に櫛描き波状文を巡らせ、その下部には円形浮文を貼付する。17は畿内系直口壺。18から25は小形丸底壺。口縁部が直線的に伸びるもの、内湾するもの、口縁端部が外反するものなどがある。

26は大形の壺。口縁部は「く」字形に外反し、屈曲部下には不明瞭でいびつな突帶を巡らせる。29~54は布留系壺。口縁端部の内側に段をもつもの、もたないもの、端部に面をなすのも、丸く収めるもの、端部を外方につまみ出すものなどがある。35は体部が扁球形になる。

55~73は高杯。60~61の杯底部には径2~5mmの円形の窪みが残る。66は2方向、68は4方向、73は3方向に円孔を穿つ。70・71・73の調整は外面が縦位のハケ後粗い縦方向のミガキ、脚内面はいずれも横方向のケズリを行う。山陰系か。

74・75は外反口縁鉢。ともに器壁が非常に薄い。76・77はポール状の鉢。79は浅い樽形を呈する極めて稀な器形。80~85は脚付き鉢。80も器形的に例が少ない。86は脚部の4方向に円孔を穿つ。

87~89は小形器台。90・91は在地系の器台。92・93は山陰系鼓形器台。

95~98は半島系土器。97は壺の肩~胴部にかけての小片で胎土・色調など土師器に近い。98は小形の鉢。調整は内外面ともヨコナデ。内面には底部近くから口縁部下まで、縦方向の浅い線刻が2条ある。陶質土器。

99~102はタコ壺。101は底部に板状工具の圧痕が残る。102の傾きはやや不安。

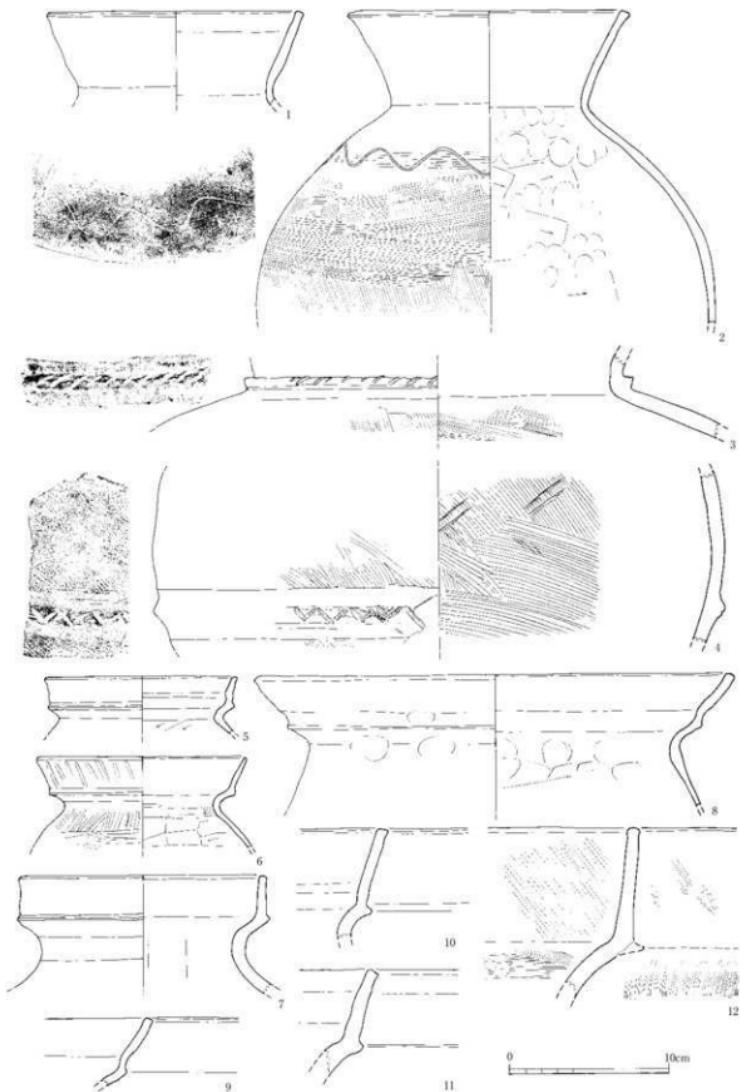
#### 28号竪穴住居跡 (図版10、第63図)

発掘区の南東部、23号竪穴住居跡の南側に位置する。南側を21号竪穴住居跡に切られ、東側で48号竪穴住居跡を切る。平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は東西長3.67mを測る。主軸をN-2°-Eにとる。カマドが付設される。床面の標高は3.4m。

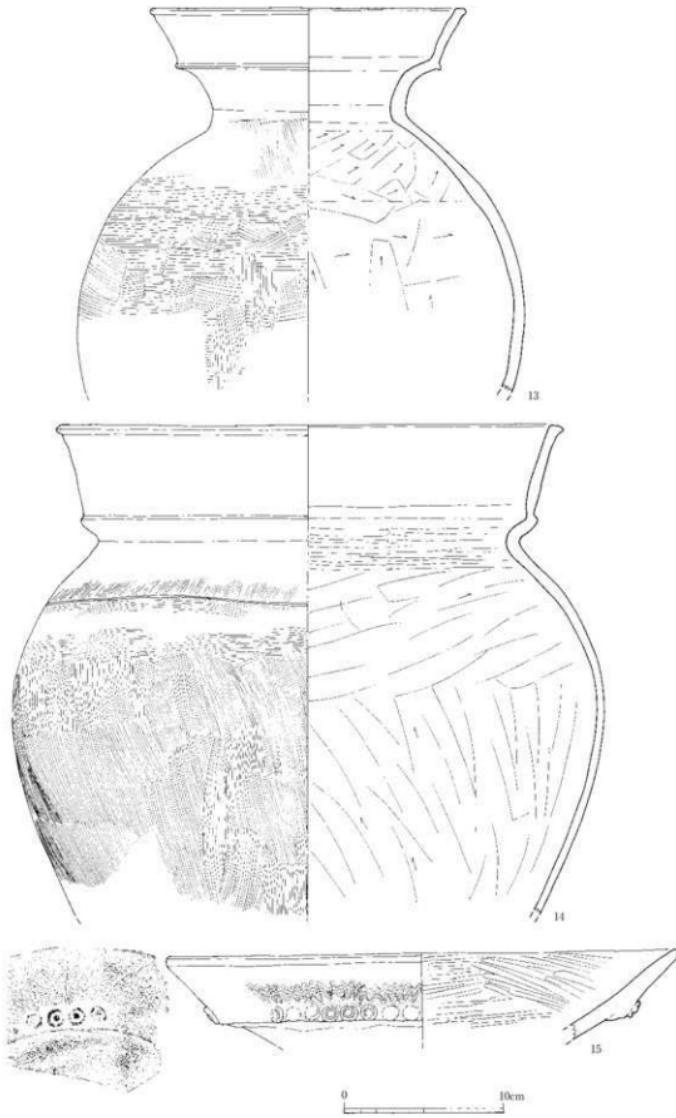
#### カマド (図版10、第64図)

博物 館番号	IGP 番号	出土 遺物等	器種	法面 (mm)	断土	地成	色調	形態や特徴	残存率	備考	登録 番号
574	住27覆土	直口壺	口径354	粘土や砂、1~3mm未満少	良好	黄灰色	内窓ヨコナラ	1/5		435	
2	22	住27覆土	直口壺	口径126、胴径 262	粘土や砂、1~3mm未満多	良好	黄褐色	ハチ掛き底状、外縁ハケ→縦ハ ケ、内ケズリ、底部内斜手。	3/5		337
3		住27覆土	在地系壺	胴径260	粘土や砂、1~3mm未満多	良好	黄褐色	器頭に断面三角形の筋目突起。外縁 ハケ、内窓ハケ。	1/6		430
4		住27覆土	在地系壺	胴径208	粘土や砂、1~3mm未満多	良好	黄褐色	器頭下部に断面三角形の筋目突起。外縁 ハケ、内窓ハケ。	1/6		429
5		住27覆土	山形系二 重口壺	口径118	粘土や砂、1~3mm未満少	良好	黄灰色	口縁直立、内ケズリ。	1/6		401
6		住27覆土	山形系二 重口壺	口径130	粘土や砂、1~3mm未満多	良好	黄褐色	口縁外と内ケズリ、器外底とビザ→縦ハ ケ、内ケズリ。	1/6		403
7		住27覆土	山形系二 重口壺	口径148	粘土や砂、1~3mm未満少	良好	黄褐色	内窓ヨコナラ。	1/6		407
8		住27覆土	二重口壺 直口付?	口径288	粘土砂、1~3mm 石英少	良好	黄灰色	内窓ヨコナラ、器頭内底残存。	1/8		400
9		住27覆土	山形系二 重口壺		粘土や砂、1~3mm未満多	良好	黄灰色	内窓ヨコナラ。	小判		405
10		住27覆土	山形系二 重口壺		粘土や砂、1~3mm未満多	良好	外黄灰色、内側灰 色	内窓ヨコナラ。	小判		399
11		住27覆土	山形系二 重口壺		粘土や砂、1~3mm未満少	良好	黄灰色	内窓ヨコナラ。	小判		406
12		住27覆土	山形系二 重口壺		粘土や砂、1~3mm未 満少	良好	青褐色	内窓ヨコナラ。内縁 ハケ、外縁ハケ、内窓ハケ。	小判	復付番	395
563	22	住27覆土	山形系二 重口壺	口径198、胴径 268	粘土や砂、1~3mm未 満多	良好	黄褐色、粗黄灰色	内窓ハケ→縦ハケ、内ケズリ。	2/3		336
14	23	住27覆土	山形系二 重口壺	口径105、胴径 270	粘土砂、 石英多	良好	黄褐色	器二つ口と底内側、外縁ハケ→縦ハ ケ、内ケズリ、底部内工具ナラ。	2/3		333
15		住27覆土	山形系二 重口壺	口径320	粘土や砂、1~3mm未 満多	良好	黄褐色	内窓ヨコナラ状、内縁 ハケ	1/8		396
5936		住27覆土	直	粘土砂、 石英少	1~3mm 粘土砂、 石英多	良好	黄褐色	内窓ハケ、内ケズリ接ナラ。	1/3		429
17		住27覆土	直口壺	口径119	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	青褐色→茶褐色	内窓ハケ、内縁 ハケ。	1/3		397
18		住27覆土	小形丸壺	口径92、胴径 90	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色	内窓ハケ、側ドケズリ接ナラ。内 ケズリ。	1/6		380
19	23	住27覆土	小形丸壺	口径90、胴径 90、底部85	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	やけい	茶褐色	内窓ハケ、側ドケズリ接ナラ。内 ケズリ。	1/2		378
20		住27覆土	小形丸壺	口径106、胴径 90	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	やけい	茶褐色	内窓ハケ、側ドケズリ接ナラ。内 ケズリ。	1/5		383
21	23	住27覆土	小形丸壺	口径100、胴径 78、残高120、 胴径96	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色~黄灰色	内窓ハケ、内ケズリ。内側ナラ、指圧痕。	1/3		339
22		住27覆土	小形丸壺	口径114、胴径 108	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色	内窓ハケ、内ケズリ。	1/4		384
23		住27覆土	小形丸壺	口径114	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色	内窓ハケ。	1/10	口徑や不安	385
24		住27覆土	小形丸壺	口径125、胴径 122	粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色	内窓ハケ→縦ハケ、口縁内縁ハケ。 側ドケズリ。	1/4		379
25		住27覆土	小形丸壺		粘土砂、砂利を1 とんぐ合ます	良好	茶褐色	内窓ハケ→縦ハケ、口縁内縁ハケ。 側ドケズリ。	小判		386
26		住27覆土	在地系壺	口径566	粘土砂、 石英多	良好	黄灰色	底部間に乱れた突起、外縁ハ ケ、口縁内縁ハケ。	1/8		432
27		住27覆土	直	胴径200	粘土や砂、1~3mm 石英少	良好	暗黄褐色~黒茶色	内窓ハケ→縦ハケ、内ケズリ。	1/9	復付番。 縫合や不 定	438
28		住27覆土	直	口径96	粘土砂、 石英多	良好	茶褐色~黄灰色	口縁→縫合部厚い、外ナラ少く、内ケズ リ、側ドケズリ少くアラリあり。	1/4		434
29	23	住27覆土	布留系壺	口径116、胴径 124	粘土や砂、1~3mm 石英少	良好	黄灰色	外縁ハケ後張り、内ケズリ(後ナ ラ少)。	1/2		346
30	23	住27覆土	布留系壺	口径105	粘土砂、 石英少	やけい	茶褐色	口縁内縁は張り少いので凹む、外 縁ハケ→縦ハケ、内ケズリ。	1/2	縫合不安。	335
31		住27覆土	布留系壺	口径116	粘土砂、 石英少	良好	明黄色	口縁内縁丸い、外縁後張り、内ケ ズリ。	1/5		421
32		住27覆土	布留系壺	口径124	粘土砂、 石英少	良好	暗黄褐色	口縁後張り丸い、内窓ヨコナラ。	1/5	復付番。	425
33		住27覆土	布留系壺	口径126	粘土や砂、 石英少	良好	黑色~淡黃褐色	口縁内縁丸い。外縁内斜手。	2/3		411
34		住27覆土	布留系壺	口径132	粘土や砂、 石英少	良好	暗黄褐色	前に3条の深い縫合、外縁ハケ、内 ケズリ。	1/3		415

第19表 27号堅穴住居跡出土土器觀察表1



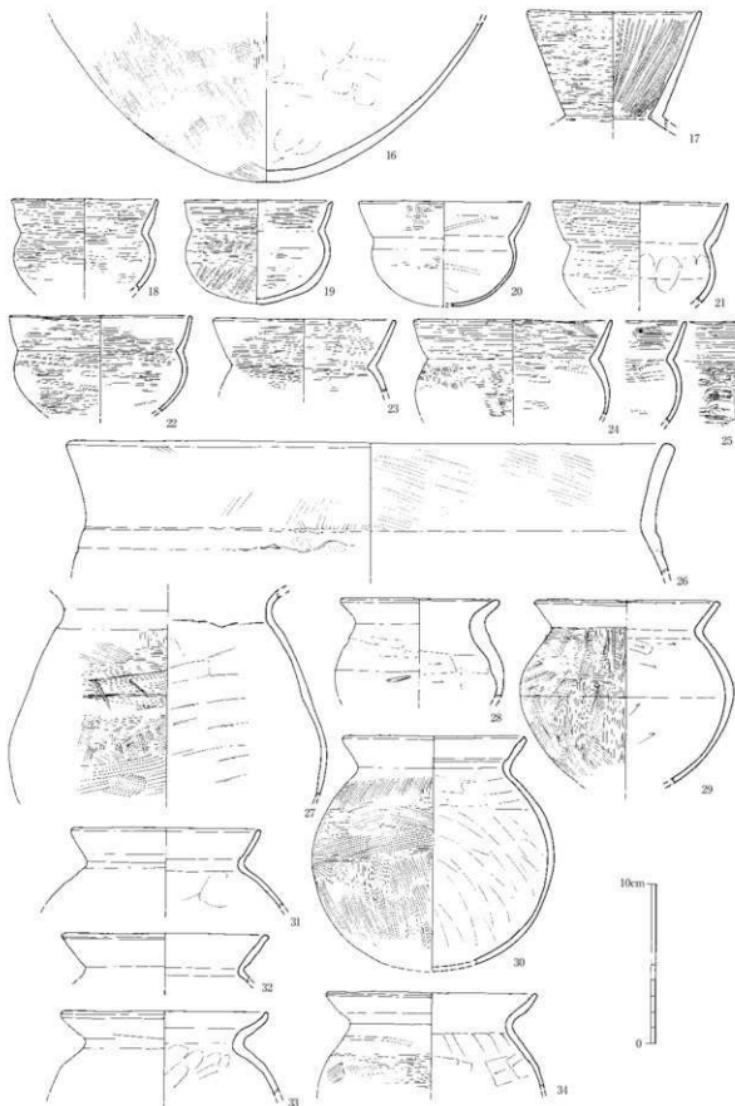
第57図 27号竪穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)



第58図 27号竪穴住居跡出土土器実測図 2 (1/3)

博物 番号	国版 番号	出土 遺物名	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
60-35	佐27覆上	布留系裏	口付124、刷毛	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	輪郭堅硬、外縁ハケ→縫合ハケ。内側ハケ。内面指痕有。	口縁3/4→縫合。他の変形有。	1/6	復付番	334
36	佐27覆上	布留系裏	口付128	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	褐黃褐色~黒茶色	外縁堅硬、内縁ハケ後ケズリ。	1/6			409
37	佐27覆上	布留系裏	口付128	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	灰褐色	外縁ハケ、内縁ハケ後ケズリ。西面粘土に複合指痕有。	1/6			420
38	佐27覆上	布留系裏	口付128	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/6			427
39	佐27覆上	布留系裏	口付146	粘土等、1~3mm石英少	良好	黑褐色	口縁堅硬少、内ケズリ。	1/6			426
40	佐27覆上	布留系裏	口付146	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	灰褐色	口縁堅硬少、内ケズリ。	1/6			414
41	佐27覆上	布留系裏	口付156	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縁堅硬面をなす。外縁ハケ→縫合ハケ。	1/10			413
42	佐27覆上	布留系裏	口付158	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黑褐色~灰褐色	内面ヨコナギ。	1/10	傾きやや不安		416
43	佐27覆上	布留系裏	口付164	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	褐黃褐色~黒茶色	内面ヨコナギ。	1/6			417
44	佐27覆上	布留系裏	口付166	粘土等、1~3mm石英少	良好	黑褐色~灰褐色	口縁内凹、外縁ハケ。内ケズリ。	1/6			412
45	佐27覆上	布留系裏	口付166	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	多褐色	口縁堅硬盡み、内側につまり出す。外縁ハケ、内ケズリ。	1/4			410
46	佐27覆上	布留系裏	口付174	粘土等、1~3mm石英少	良好	灰褐色~濃茶色	外縁ハケ→縫合ハケ。内ケズリ。面下ナガ。	1/4			424
47	佐27覆上	布留系裏	口付178	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐茶褐色	内ケズリ。頭内に粘土の丸型。	1/6			423
48	佐27覆上	布留系裏	口付184	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縁堅硬面をなす。内面ヨコナギ。	1/6			419
49	佐27覆上	布留系裏	口付184	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐褐色	口縁堅硬外方につまり出す。内ケズリ。	1/6			437
50	佐27覆上	布留系裏	口付188、刷毛 246	粘土等、1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縁堅硬くばむ。外縁ハケ。内ケズリ。	1/3			431
51	佐27覆上	布留系裏	口付190	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	褐茶褐色	口縁堅硬内側につまり出す。内ケズリ。	小判			426
52	佐27覆上	布留系裏	口付190	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	褐黃褐色	内面ヨコナギ。	小判	復付番		418
53	佐27覆上	布留系裏	口付190	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	内ケズリ。	小判	復付番		422
54	佐27覆上	布留系裏	口付190	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	多褐色	口縁堅硬面少い。内側に段あり。内面ヨコナギ。	小判	復付番		436
61-53	23	佐27覆上 高坪	口付139	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縁や外見、後後村田の繪文。内モザイク。脚との接合部半壊ナダ。	1/4			343
56	佐27覆上	高坪	口付139	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	褐褐色	内モザイク。	1/4			374
37	佐27覆上	高坪	口付170	粘土等、1~3mm石英少	良好	黑褐色	内モザイク。内縁ハケ無ナダ。	1/8			367
58	佐27覆上	高坪	口付180	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐褐色	外縁ハケ後ケモザイク。内摩滅著しい。脚との接合部半壊ナダ。	1/8			364
59	佐27覆上	高坪	口付190	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐褐色	内モザイク。内縁ハケ後接合状の崩壊。	1/10			363
60	佐27覆上	高坪	粘土等、1~3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ、内ナダ。脚外ハケ後接合状。内モザイク。内縁ハケ後ナダ。外縁ハケ後接合状。	脚全削残 脚全削残			365	
61	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	黄褐色	脚内削りオサ。	脚外ハケ。内ナダ。脚全削残。	脚全削残			366
62	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐色~棕褐色	脚内削りオサ。	脚外ハケ。内ナダ。脚全削残	脚全削残			361
63	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	明褐黃褐色~褐色	脚内削りオサ。	脚内削りオサ。	脚全削残			362
64	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐色	外縁ハケモザイク。内工芸ナダ。脚上端にへき裂状工芸端による縫合状の跡。	脚全削残			350	
65	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐黃褐色~深褐色	脚内削りオサ。	脚外ハケ後接合状。内モザイク。内ナダ。脚全削残	脚全削残			359
66	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐色	外縁ハケ後モザイク。	内ナダ。内モザイク。脚全削残	脚全削残			354
67	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐茶色	脚内モザイク。	脚外ハケ後モザイク。内ナダ。脚内シボリ削。	脚全削残			353
68	佐27覆上	高坪	粘土等、砂粒を11 とんごすます	やや青い	黄褐色~棕褐色	脚内削りモザイク。内ナダ。	脚外ハケ後モザイク。内ナダ。	脚全削残 4万			351
69	23	佐27覆上 高坪	脚付112	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐褐色~灰褐色	外縁ハケ、内ナダ。脚外ハケ後接合状。内モザイク。脚全削残	脚全削残			345
70	佐27覆上	山側系?	粘土等、1~3mm石英少	良好	褐茶色	外縁ハケ後モザイク。内ナダ。	脚全削残				357
71	佐27覆上	山側系?	粘土等、砂粒を11 とんごすます	良好	褐褐色	外縁ハケ後モザイク。内ナダ。	脚全削残				352

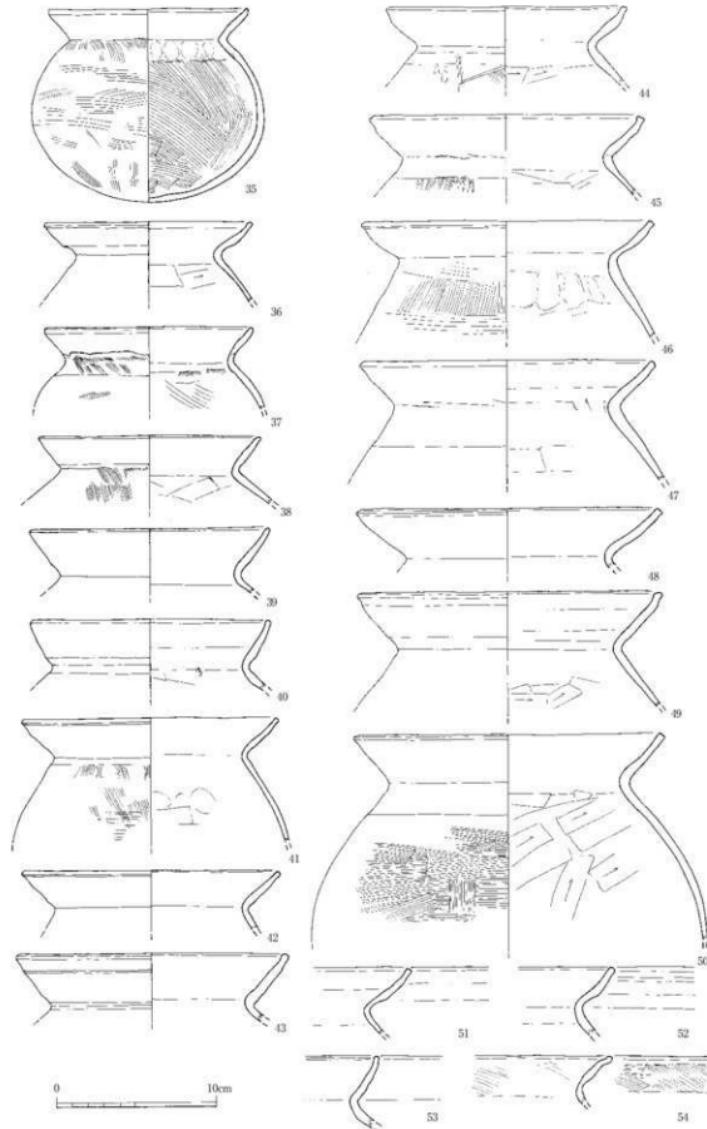
第20表 27号竪穴住居跡出土土器觀察表2



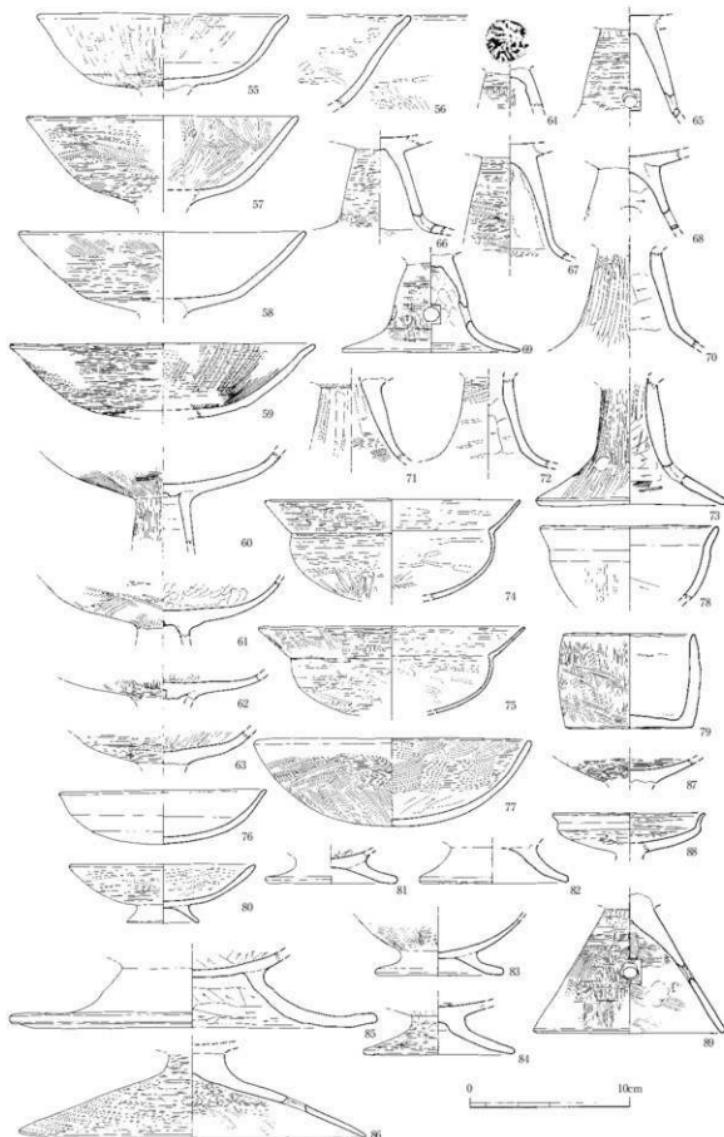
第59図 27号竪穴住居出土土器実測図 3 (1/3)

補圖 番号	出版 番号	出土 遺構等	形態	法線 (mm)	胎土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
72	住27覆土	高坏			粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	暗褐色	外々ガキ。内ケズリ。	1/3		366
73	住27覆土	山牆高?	御絆129		粘土胎。1~3mm石英多	良好	淡黃灰褐色	外縁ハケ後縱方向の横いミガキ。内上工具ナデ。中ケズリ。胎土混入。			355
74	住27覆土	外灰口縫 跡	口径160、脚絆 跡	128	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	黃褐色~暗灰色	薄い。口縫側ハケ後ミガキ。側中ミガキ。外ケズリ後ミガキ。内ミガキ。	1/3		361
75	住27覆土	外灰口縫 跡	口径166、脚絆 跡	157	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	橙色~黃褐色	薄い。口縫側ハケ後ミガキ。側中ミガキ。外ケズリ後ミガキ。内ミガキ。	1/4		382
76	23	住27覆土	跡	口径130、器高 34	粘土胎。1~3mm石英少	良好	暗褐色	摩耗著しく不明。	1/2		342
77	23	住27覆土	跡	口径73、器高 54	粘土胎。1~3mm石英少	良好	淡黃褐色	外縁ハケ~縫ハケ。内縫ハケ。裏ナリ。	1/2		341
78		住27覆土	跡	口径110	粘土胎。1~3mm石英少	良好	黃褐色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/4		433
79	23	住27覆土	跡	口径82、底径 78、厚さ29	粘土胎。1~5mm石英少	良好	暗褐色	両立柱形。内縫ハケ→縫ハケ。内ヨコナデ。底内ハケ後ナデ。裏内ナデ。	1/3		376
80		住27覆土	脚付跡	口径116、脚付 跡24、厚さ37	粘土胎。1~3mm石英少	やや甘い	淡黃褐色	桶型堅厚。縫内外ミガキ。脚ヨコナデ。			340
81	23	住27覆土	脚付跡	脚付82	粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好	黃白色	内ヨコナデ。	1/2		372
82		住27覆土	脚付跡	脚付94	粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好	黃褐色	内ヨコナデ。	1/2		369
83		住27覆土	脚付跡	脚付80	粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好	淡黃褐色。内灰褐色	脚外縫ハケ、内ナデ。脚ヨコナデ。脚全周残			370
84		住27覆土	脚付跡	脚付94	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	橙色~黃褐色	内ヨコナデ。脚内ミガキ。脚内ナデ。			371
85		住27覆土	脚付跡	脚付280	粘土や砂胎。1~3mm石英多	良好	黃褐色~褐色	外ヨコナデ。内ケズリ。	1/9		368
86	23	住27覆土	脚付跡	脚付281	粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好	淡黃褐色	外ミガキ。内縫ハケ。内丸4方。	1/2		344
87		住27覆土	器台		粘土胎。1~3mm石英少	良好	茶褐色~暗褐色	外縫ハケ後ミガキ。内ミガキ。	1/3		360
88		住27覆土	器台	口径94	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	褐色	内ヨコナデ。	1/5		373
89		住27覆土	器台	脚付120	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	黃褐色	外縫ハケ→ミガキ。内縫ハケ。脚頭部破壊。内丸4方。	1/10		349
90		住27Nai	器台	口径135	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	暗黃褐色	内縫ハケ。内中ナデ・シボリ痕。脚縫ハケ。			393
91		住27覆土	器台		粘土胎。1~4mm石英少	良好	外茶褐色。内青茶色	口縫肥厚。外縫ハケ。内中斜ナデ・シボリ痕。脚縫ハケ。	1/3		394
92		住27覆土	山牆赤 形器台	口径200	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	黃褐色	内ヨコナデ。	1/3		375
93		住27覆土	山牆赤 形器台	脚付162	粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好	黃褐色	外ミガキ。口縫内横ハケ。脚ナデ。内受けミガキ。脚ケズリ。	1/2		398
94		住27覆土	山牆赤 形器台		粘土や砂胎。1~3mm石英多	良好	黃褐色	外ミガキ。	小片	焼き不安	408
95	28	住27覆土	牛島赤土 器		粘土や砂胎。1~4mm石英少	瓦質	淡黃褐色	内格子タスキ。内ナデ。	小片		1136
96	28	住27覆土	牛島赤土 器		粘土や砂胎。1~3mm砂質砂少	瓦質、堅厚	茶褐色	内格子状平行タスキ。内ナデ。	小片		1135
97	28	住27覆土	牛島赤土 器		粘土胎。砂粒をほとんど含まず	瓦質、土頭 部分	暗黃褐色	5条の沈窓。外平行タスキ。内ナデ。			1137
98		住27覆土	牛島赤土 器	口径61、底径 46、厚さ39	鍛瓦、砂粒をほとんど含まず	陶質	淡黃褐色	内ヨコナデ。内縫にヘラ縫割2条。	1/3		379
99	23	住27覆土	タコ壺	口径58、器高 84	粘土胎。1~3mm石英少	良好	淡黃褐色	外ナデ。内板ナデ。	完形		348
100		住27覆土	タコ壺	口径61、器高 116	粘土胎。砂粒をほとんど含まず	良好	暗黃褐色	外ナデ。内ナデ上げ。	1/2		388
101	23	住27覆土	タコ壺	口径57、器高 117	粘土胎。1~3mm石英少	良好、黒膜	淡黃褐色	外ナデ。内ナデ上げ。外縫に懸垂。			347
102		住27覆土	タコ壺		粘土や砂胎。1~3mm石英少	良好、黒膜	黃褐色	外ナデ。内ナデ上げ。	1/4		387

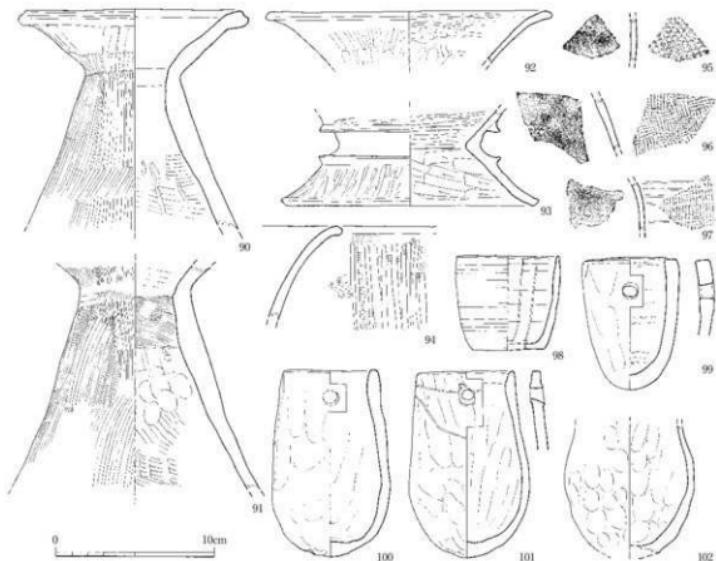
第21表 27号竪穴住居跡出土土器観察表3



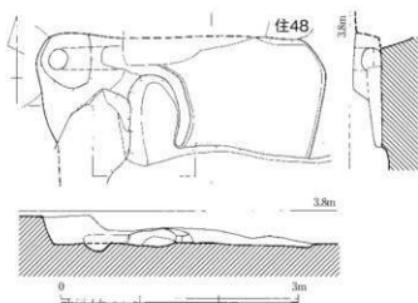
第60図 27号竪穴住居跡出土土器実測図4 (1/3)



第61図 27号竪穴住居跡出土土器実測図 5 (1/3)



第62図 27号堅穴住居跡出土土器実測図6 (1/3)

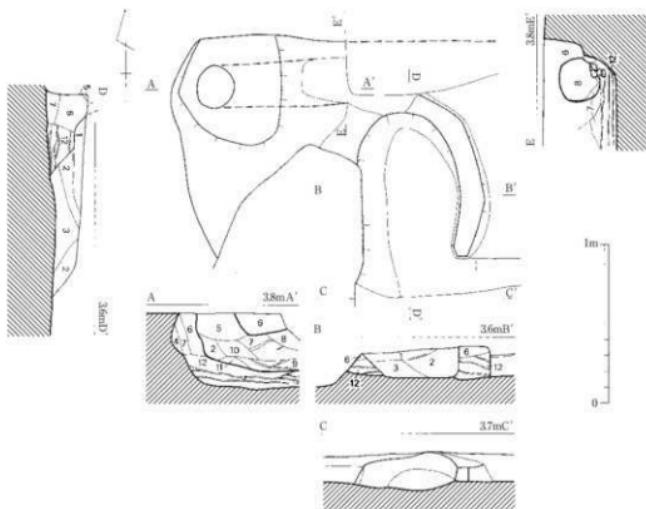


第63図 28号堅穴住居跡実測図 (1/60)

住居跡北壁の西壁寄りに付設され、煙道が住居壁に沿って西側に延びる。燃焼部の主軸は壁に直交する。

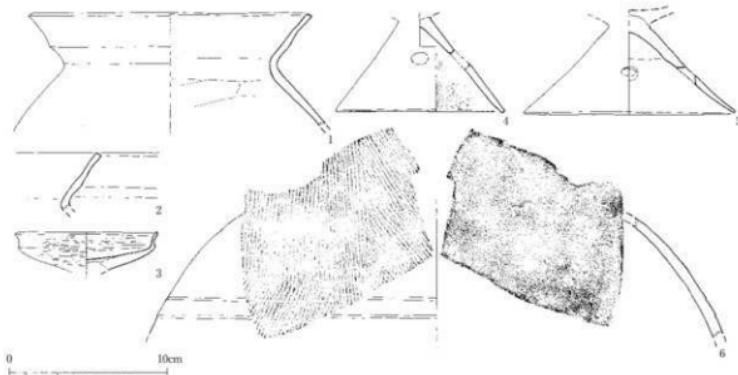
カマドの構築土は焼土混じりの暗黄褐色粘質土で硬く締まる(⑥)。カマドの下部には深さ19cmの掘り込みがあり、やはり他の事例と同じ土質の厚さ5cmほどの黄白色砂と、厚さ1cmの茶褐色粘土層を互層にして埋め(⑫)、カマド下部の地業としている。燃焼部で明確な硬化面は確認できなかったが、燃焼面はカマド下部の掘り込み地業を切る形で、その底面は地山に達している。

煙道については、カマド燃焼部の最奥部から屈曲する部分が擾乱によって損壊していたが、住居北壁に沿って西に延び、住居跡北西隅部(北壁から18cm、西壁から16cm)でほぼ直に立ち上がる。煙道部の構築土もカマドの袖と同じ土質の暗黄褐色粘質土である(縦断面⑥)。煙道



- 1. 茶褐色紗に茶褐色粘合
- 2. 茶褐色紗に黄白色紗がブロック状に多く混 {カマド油}
- 3. "少混" {カマド油}
- 4. 黄灰色紗に焼土混
- 5. 黄灰色紗 (煙道埋土)
- 6. 單黄褐色粘に焼土混 (固い) (カマド油)
- 7. 黄灰色紗+黄褐色粘土, 焼土混
- 8. 黄灰色紗に暗黄褐色粘土ブロック少混 {煙道埋土}
- 9. 黄白色紗に厚0.5~1cmの茶褐色粘土混
- 10. 黄褐色粘土+黄灰色紗
- 11. 茶褐色粘土
- 12. 黄白色紗に厚0.5~1cmの茶褐色粘土繊維状に含む

第64図 28号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第65図 28号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

の横断面形状は径26cmの円形で、立ち上がり付近では径21cmとやや狭くなっている。壁際には炉壁様のブロックが詰め込まれ、壁面は凹凸が著しい。この状況は4号竪穴住居跡の煙道部分と同様である。煙道の埋土は基本的に砂である。また、煙道の底面はカマド燃焼部のレベルよりも4~5cm高い。

#### 出土遺物（図版23、第65図、第22表）

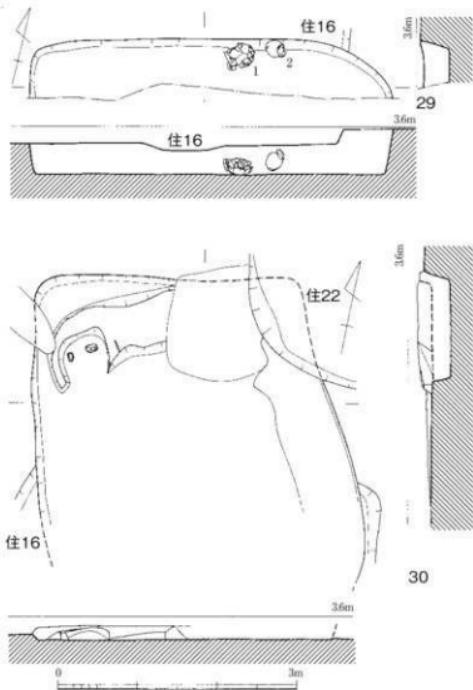
1・2は布留系甕。1は口縁端部に面をなす。

3~5は小形器台。5は脚部に2方向から穿孔を行う。

6は半島系瓦質土器。外面は繩文（平行タタキ）、内面はナデ。

#### 29号竪穴住居跡（図版11、第66図）

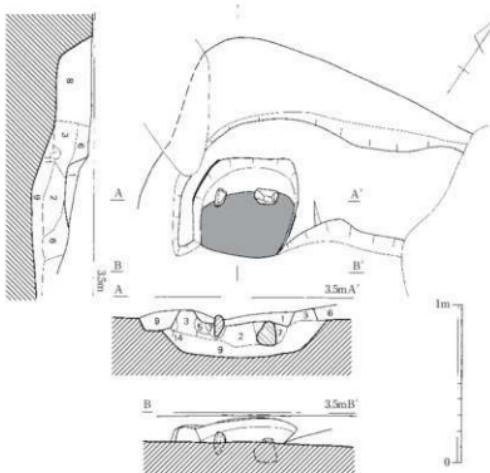
発掘区の南辺中央部、16号竪穴住居跡の南側に位置する。16号竪穴住居跡に切られる。住居跡の北壁のみ確認



第66図 29・30号竪穴住居跡実測図 (1/60)

博物 館番 号	図版 番号	出土 遺物等	器種	法面 (mm)	断土	断成	色調	形容や特徴	残存率	備考	登録 番号	
65-1	住28屋上	布留系甕	口付80	粘土や石、1~3mm石少	良好	黄褐色	外壁減衰し不規則、内ケツリ。	1/6			443	
2	住28屋上	布留系甕		粘土や石、1~3mm石少	良好	黄褐色	外コナテ、内壁減衰し不規則。	小所			442	
3	住28屋上 カマド内	器台	口付90	粘土石、1~3mm 石高~低石少	良好	黄褐色	内壁ヒザキ。	1/4			441	
4	住28屋上 カマド内	器台	脚付106	粘土石、砂粒を12 とんど含まず	良好	茶褐色	外壁減衰し調査不明、内横ハサ、 穿孔。	1/2			322	
5	25	住28屋上	器台	脚付133	粘土や砂、1~ 3mm石少	やけいい	外淡褐色、内褐褐色	半減衰し不明、孔2カ所。	1/3			440
6	28	住28屋上 半島系土器		粘土石、砂粒を含 まず	良、混進 砂石含け	黄褐色	外継織文、内ナゲ。	小所			1138	
68-1	23	住28n1	山形系二 重口碗	口付196、脚付 270、基底239	粘土や石、1~ 3mm石少	良好	淡黄褐色	内壁底部内側につまみ出し丸い。外 上半部ハサ・擦り傷、チリ脱・シラ、 口は完存	歪み大きい、脚付有		444	
2	23	住28n2	布留系甕	口付172、脚付 231、基底264	粘土石、1~3mm 石少	良好	内淡褐色~黄白 色、内黄白色	肩にへり巻き丸窓、外淡褐色ハサ・擦 り傷、内ケツリ、肩~底接頭土崩、孔 2つ穿孔。	3/4			663

第22表 28・29号竪穴住居跡出土土器観察表

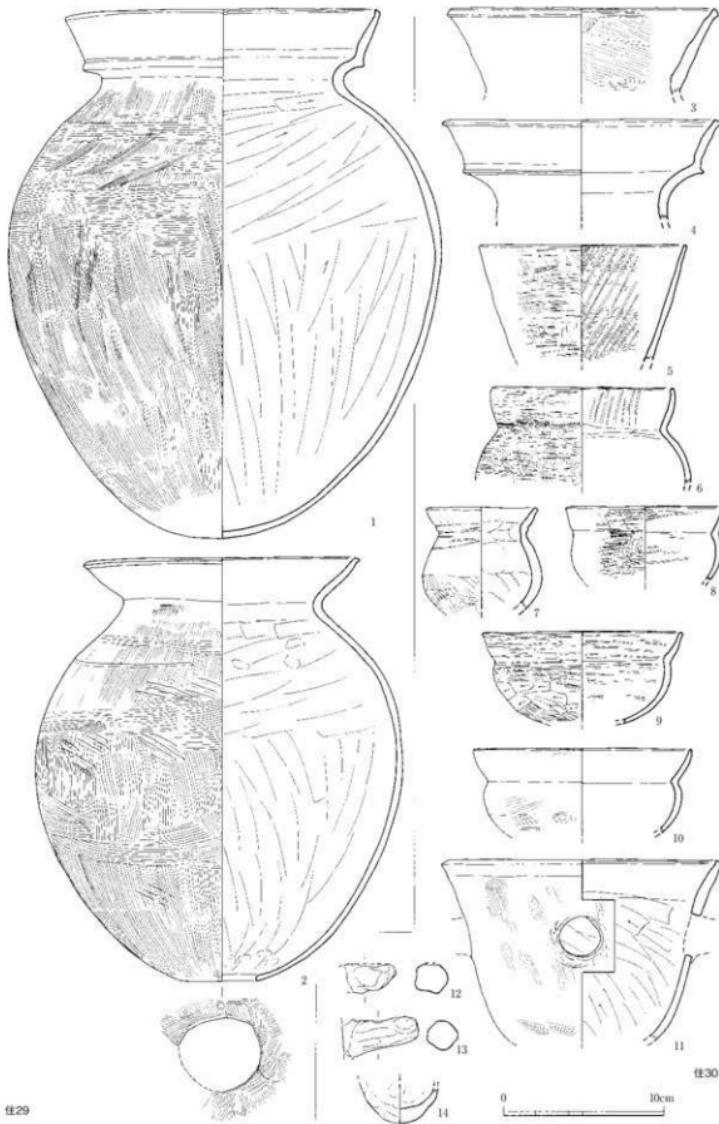


1. 黄灰砂+黄褐色粘土(燒土) ブロック窓(カマド崩落土)
2. 明茶色粘質土
3. 明茶褐色粘質土(団い)(カマド土)
4. 黄褐色粘土(燒土)
5. 黄褐色粘土(燒土) ブロックと茶褐色粘質土混
6. 黄褐色粘質土
7. 黄褐色茶に茶褐色粘土ブロック窓(支脚彌形埋土)
8. 底部砂
9. 7と同じ(繊りなくボクボク)

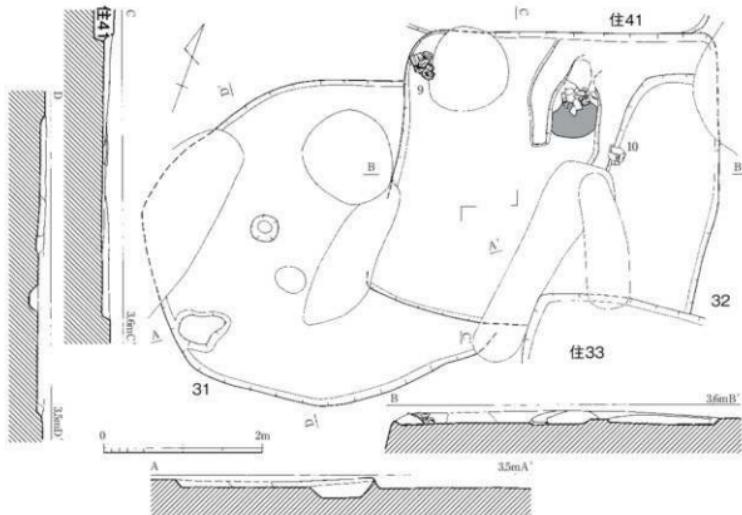
第67図 30号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

井筒番号	井筒番号	出土遺物名	器種	法量 (m)	胎土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	参考	登録番号
3	130覆土	有機系直 口付	口付130	粘土やや粗、1- 3mm石英少	良好	輪相褐色	外ヨコナサ。内斜ナケ。	1/10			453
4	130覆土	山陰系二 重口付直	口付136	粘土やや粗、1- 3mm石英少	良好	黄灰赤	内斜ヨコナサ。	1/2	口縁部に複合施		451
5	130覆土	直口付	口付130	粘土細、砂粒をは とんじ含まず	良好	輪相褐色	外縦ハケ後ミガキ。内横ナケ→磨光。	1/7	内外面に複合施		452
6	130覆土	直口付	口付134、刷付 134	粘土細、砂粒をは とんじ含まず	良好	輪相褐色	外縦ハケ後ミガキ。口縁内ミガキ。 刷ナシ。	1/3			446
7	130覆土	小形砂	口付20、刷付 136	砂粒をは とんじ含まず	良好	黄灰赤	内斜ハケ後工具ナシ。内工ナシ。	1/4	單付器。		454
8	130覆土	再発口付 刷付 94	口付136、刷付 94	粘土細、砂粒をは とんじ含まず	良好	黄褐色	外縦ハケ後ミガキ。内ミゼキ。	1/10			447
9	130覆土	再発口付 刷付 112	口付136、刷付 112	粘土細、砂粒をは とんじ含まず	良好	輪相褐色	内上縦ハケ後ミガキ。下ケズリ強ミ ガキ。内ミゼキ。	1/3			448
10	130覆土	再発口付 刷付 124	口付136、器部 124	粘土やや粗、1- 3mm石英少	良好	黄褐色	内斜ハケ。内ナシ。	1/8			449
11	23	130覆土 瓶	口付125	粘土細、1-3mm 石英多	頗粗	輪相褐色	内縦ハケ、内ケズリ。孔は把手形状 の複合施跡。	1/30(441は全 周)	古み大きい。		445
12	28	130覆土 器部		粘土細、1mm以下 石英多	灰黑	墨灰赤	ナシ。		把手		456
13	28	130覆土 器		粘土やや粗、1mm 以下石英多	灰黑、やや 白	黄灰赤	ナシ。		把手		455
14	130覆土	テコ金		粘土やや粗、1- 3mm石英少	良好	黄灰赤	内斜ナシ。		底部完存		450

第23表 30号竪穴住居跡出土土器観察表



第68図 29・30号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)



第69図 31・32号竪穴住居跡実測図 (1/60)

### 30号竪穴住居跡（図版11、第66図）

発掘区の南辺中央部、16号竪穴住居跡の北側に位置する。16号竪穴住居跡・22号竪穴住居跡に切られる。平面プランは長方形を呈する。規模は東西長4.00m、南北現存長4.40mを測る。主軸は概ねN-12°-Wにとる。カマドが付設される。床面の標高は3.3m。

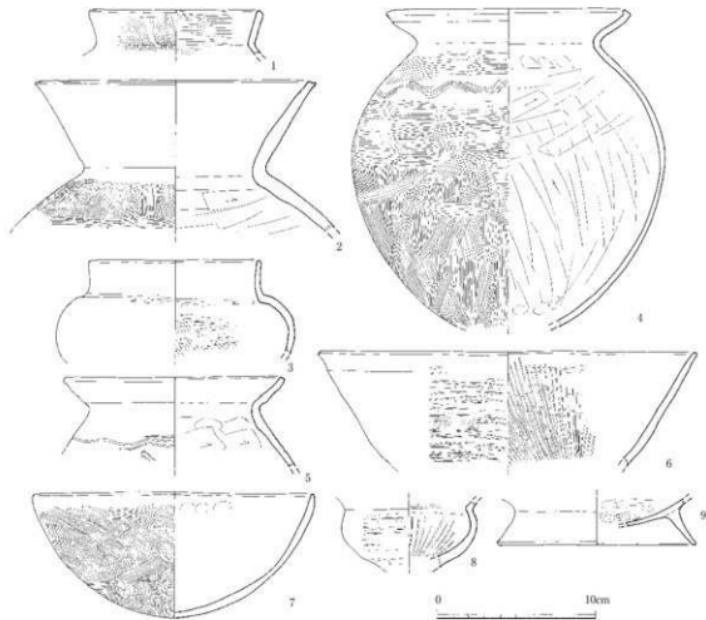
### カマド（図版11、第67図）

住居跡の北西隅部に付設される。煙道が住居北壁に沿って東側に延び、北東部で南に折れて、東壁に沿ってL字形に延びるものと考えられる。燃焼部の主軸は壁に直交する。

カマドの構築土は暗黄褐色粘土に暗茶褐色粘土ブロックを混合させたものである（③）。カマド袖の構築に先立って東西104cm、深さ22cmの掘り込みを行い、暗茶褐色粘土（②）と、黄褐色砂に茶褐色粘質土を含む土（⑨）を充填している。住居跡北壁から90cmほどの床面には支脚石が左右に配される。ともに掘り方を有するが西側の支脚石上面のレベルは、東側のそれよりも4cm高い。支脚石の前面は41cm×58cmの範囲で床面が硬化している。なお、袖の内側には厚さ5mmの炉壁が廻る（東側と西側の一部）。

煙道部は、カマド袖と同じ土を用いて築かれた基底部分のみが遺存しており、カマド燃焼部と同レベルにもかかわらず煙道そのものは確認できなかった。そのため、煙道底面はカマド燃焼面よりも若干高くなるものと考えられる。東壁に沿った煙道基底部分の南側の延長については、壁中央近くまでしか遺存していなかった。

### 出土遺物（図版23、第68図、第23表）



第70図 31号堅穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

3は在地系の壺。端部がやや肥厚する。4は山陰系二重口縁壺。端部に面をなし、外方につまみ出す。5は畿内系直口壺の口縁部片。6も直口壺で口縁部は短く、内湾する。7は小形の壺。胴部最大径がやや下位にあり、短く外反する口縁が付く。調整は工具ナデ。器壁が分厚い。

8~10は外反口縁鉢。8は口縁端部に面をなす。

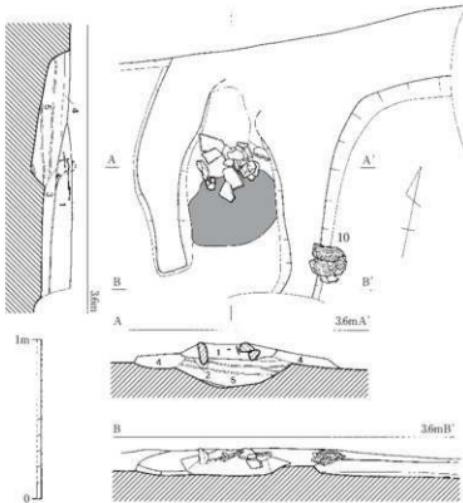
11は瓶。口縁端部に面をなす。胴部に穿った円孔に把手を差し込む。

12・13は半島系土器瓶の把手。いずれも手捏ね。

14はタコ壺の底部。

### 31号堅穴住居跡 (第69図)

発掘区の南東部に位置する。東側を32号堅穴住居跡に切られる。平面プランは小判形を呈する。規模は東西長4.04mを測る。床面の標高は3.4m。住居跡の南西部の壁際には、70cm×60cmほどの範囲で、高さ10cmほどの高まりが存在する。この部分は上面のみが硬化しており、その下層の床面までは淡茶灰色粘質土に黄灰色砂がブロック状に混じる人為的な埋め土からなっている。周辺の状況からはカマドとは考えがたく、あるいは出入口に関するものであろうか。住居跡の床面では1か所で柱穴を検出した。



1. 茶褐色土に明黄白色粘土ブロック混（カマド埋土）
2. 茶褐色粘（支脚部分）
3. 黄灰色砂に茶褐色粘土（焼土）ブロック含
4. 茶灰色砂に暗黃褐色粘土少混（カマド灰）
5. 黄白色砂に厚さ0.2~0.5cmの茶褐色粘土層が入る（カマド基礎）

第71図 32号竪穴住居跡カマド実測図（1/30）

測量 番号	国版 番号	出土 箇所等	形種	法量 (m)	断土	発成	色調	器形や特徴の特徴	残存率	備考	目録 番号
70-1	031覆土	住地系直 口付	口付10	粘土質、1~3mm 石英少	粘土質、良好	黄褐色	外縁ハケ、内縁ハケ。	1/8		462	
2	24	031覆土	直口付直 口付	1.0	粘土質、1~5mm 石英多	良好	内淡褐色、外淡黄 褐色	口縁部に面をなし。外縁ハケ→磨 ハケ。内ケズリ。	1/2		473
3		031覆土	直口付	口付10	粘土質、1~3mm 石英少	良好	黄褐色	口縁部粗く直立。内凹ミゼリ。器形 直角。	1/4	千島系の影響？	460
4	24	031覆土	布留系直 口付	口付15A, 19B	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	内淡褐色、外淡黄 褐色	口縁部面をなし。内側に「J」字型 す。外縁ハケ→磨ハケ。稍に輪絞き 直状。	1/2		466
5		031覆土	布留系直	口付10	粘土質、砂粒多 1~3mm石英少	良好	暗灰褐色	外縁輪絞り直状。内ケズリ。	1/4	復付6	467
6		031覆土	布留系直	口付20	粘土質、砂粒多 1~3mm石英少	良好	暗灰褐色	外縁ハケ後ミガキ。内縁ハケ→斜削 直状。	1/6	様式不安	459
7	24	031覆土	鉢	口付177, 80	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	外淡灰褐色、内淡 白色	外縁ハケ。内ナガ。	1/3		457
8		031覆土	脚付鉢	脚付66	粘土質、砂粒多 1~3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ後ミガキ。内面文か。	1/6		461
9		031覆土	脚付鉢	脚付126	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内ミガキ。外ルナダ。	1/2		458
72-1	032覆土	直口付	口付100	粘土質、砂粒多 1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縁部外反。外縁ハケ後ミガキ。	1/8		465	
2	032覆土	直口付直 口付直	脚付48	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗灰褐色	外ミガキ。内ナダ。	1/3		464	
3		032覆土	布留系直	口付100	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ。内ケズリ。埋藏蓋し。	1/10		470
4		032覆土	布留系直	口付100	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内凹ココナ。埋藏蓋し。	1/8		471

第24表 31・32号竪穴住居跡出土土器観察表

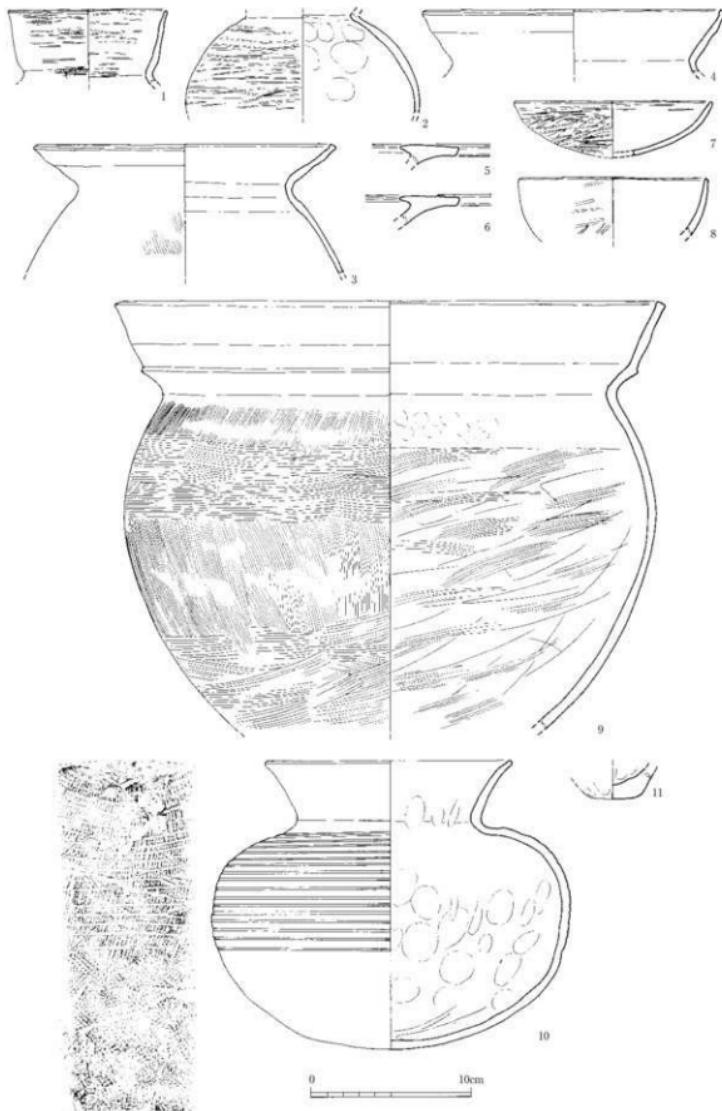
出土遺物（図版24、第70図、第24表）

1~3は直口壺。1は在地系、2は畿内系。3は短く直口する口縁を持つ短頸壺で内外面を磨いた精製土器。半島系土器の影響を受けたものか。

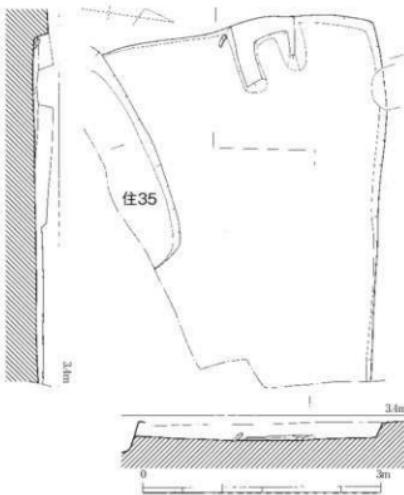
4・5は布留系壺。4は口縁端部に面をなし、内側につまみ出す。4・5の肩部には櫛描き波状文を施す。6は高坏。1/6ほどの破片である。本来もう少し杯部が浅くなるような傾きになるか。

7は丸底の鉢。8は脚付き鉢。小形丸底鉢になるかも知れない。胎土は精良。

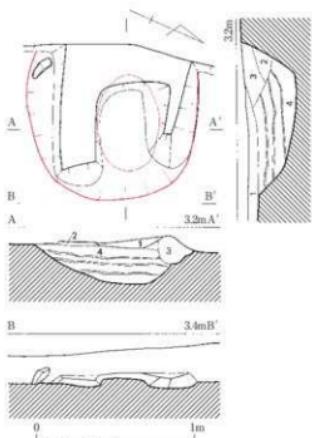
32号竪穴住居跡（図版12、第69図）



第72図 32号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)



第73図 33号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第74図 33号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

発掘区の南東部、31号竪穴住居跡の東側に位置する。西側で31号竪穴住居跡を、北側で41号竪穴住居跡を切り、南東側で33号竪穴住居跡に切られる。平面プランは長方形を呈する。規模は東西長4.08m、南北長3.70mを測る。主軸をN-70°-Eとする。カマドを付設する。床面の標高は3.4m。

半島系土器が出土した。

#### カマド (図版12、第71図)

住居跡北壁の中央に付設され、煙道が住居壁に沿って東側に延びる。燃焼部の主軸は壁に直交する。

カマドの構築土は茶灰色砂に暗黃褐色粘土を混ぜた土である (④)。カマド袖の構築に先立って東西73cm、深さ19cmの掘り込みを行い、厚さ3~7cmの黄白色砂と厚さ2~5mmの茶褐色粘土を交互に充填している (⑤)。住居跡北壁から75cmほどの床面には支脚

石が左右に配される。左側は径8cm×長さ14cmの棒状、右側は角礫2石を積んで左側の支脚石とレベルを揃える。その上部には甕の底部が遺存していた。支脚石の前面には厚さ0.5~1.0cmの粘土を貼っており、燃焼部は42cm×55cmの範囲で床面が硬化している。また、燃焼部から煙道に至る部分の底面は焼土混じりの粘質土が焼けて硬化していた。東側のカマド袖の上面から1個体分の半島系土器が出土した。

煙道部は、カマド袖と同じ土を用いて塗かけた基底部分のみが遺存しており、カマド燃焼部と同レベルにもかかわらず煙道そのものは確認できなかった。そのため、煙道底面はカマド燃焼面よりも若干高くなるものと考えられる。

#### 出土遺物 (図版24、第72図、第24表)

1は直口壺。口縁部が外反する。2は畿内系二重口縁壺の胴部。

3・4は布留系壺。ともに口縁部を肥厚させ、内側につまみ出す。

博物 番号	国版 番号	出土 遺物等	器種	法面 (mm)	胎土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
754	住30層上	直口壺	口径150	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	淡黃褐色	内側ココナデ。	小所	口徑や不安	485	
2	住30層上	山陰系二重口縁付		粘土壺。1~3mm石英少	良好	明黃褐色	口縁ココナデ。圓内工具ナデ。	小所		483	
3	住30層上	山陰系二重口縁付	口径180	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	黃褐色	口縁ココナデ。圓内工具ナデ。	1/8		482	
4	住30層上	山陰系二重口縁付	口径200	粘土壺。1~3mm石英少	良好	黃褐色	口縁ココナデ。圓外縁ハケ。内ナデ。頭部サザニ。	1/4		481	
5	住30層上	山陰系二重口縁付	口径206	粘土壺。1~3mm石英多	良好	明黃褐色。内側朱色	口縁擦れ多く黒斑。口縁ココナデ。頭部ナデ。	1/4		479	
6	住30層上	山陰系二重口縁付	口径240	粘土壺。1~3mm石英多	良好	内黒褐色。内側朱色	内側ココナデ。	1/8		484	
7	住30層上	小形灰陶 99、丸窓付	口径112、脚往 石英多	粘土壺。1~3mm石英少	良好	黃褐色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/4		480	
8	住30層上	布留系裏	口径140	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	明黃褐色	外縁ハケ。内ケズリ。圓内江ナデ。	1/6		486	
9	住30層上	布留系裏	口径162	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	黃褐色	外縁ハケ。内ケズリ。圓内横頭压	小所		488	
10	住30層上	布留系裏	口径164	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	明黃褐色。内側白色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/4		489	
11	住30層上	布留系裏	口径170	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	明黃褐色	内側ココナデ	1/8		487	
12	住30層上	布留系裏	口径190	粘土や粗。1~3mm石英少	良好	黃褐色	外縁ハケ。内ケズリ。上半部はケズリナダ。肩にハラ抹き洗継。全縁 2/3	1/3		474	
13	住30層上	布留系裏 脚往20	口径190、器高 27	粘土壺。砂粒を含 とんこち含	良好	明黃褐色。内側 褐色	外縁ハラ抹き洗継。内ケズリ。肩に 擦き洗出文。	1/6	脚・難きや不安	493	
14	住30層上	脚	口径130、器高 47	粘土壺。砂粒を含 とんこち含	良好	褐色	外ハケ。深道洗継。内ナデ。底ケズ リ。	1/4		478	
15	24	住30層上	脚	口径145、器高 45	粘土壺。砂粒を含 とんこち含	良好	褐褐色	外縁ハケ。口縁下へ底ケズリ。内縁 ハラ抹きサザニ。	1/2		475
16		住30層上	脚	口径147、器高 45	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	褐褐色	内ケズリ後ハケ。内ナデ。	1/5	弧曲形	47
7647	29	住30層上	半島系土器	粘土壺。砂粒を含 とんこち含	健素。粗糲。器高 27	褐色。粗糲。器高 27	外平行タタキ(薄面文)。内ヨコナデ。小所			1140	
18	29	住30層上	半島系土器	粘土壺。砂粒を含 とんこち含	健素。粗糲。器高 27	褐色。粗糲。器高 27	外ヨコナデ後ナデ。内板ナデ。	小所		1141	
19		住30層上	テコ壺	口径40、器高85	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黃褐色	内ヨコナデ。	1/2		470
20		住30層上	テコ壺	口径65、器高 105	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黃褐色~茶褐色	内ヨコナデ。	1/10		491
21		住30層上	テコ壺	口径64	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好、黒斑	褐褐色~褐色	内ヨコナデ。	1/4		490
22		住30層上	テコ壺	口径64	粘土や粗。1~ 3mm石英少	良好	黃褐色	内ヨコナデ。	1/4		492

第25表 33号竪穴住居跡出土土器觀察表

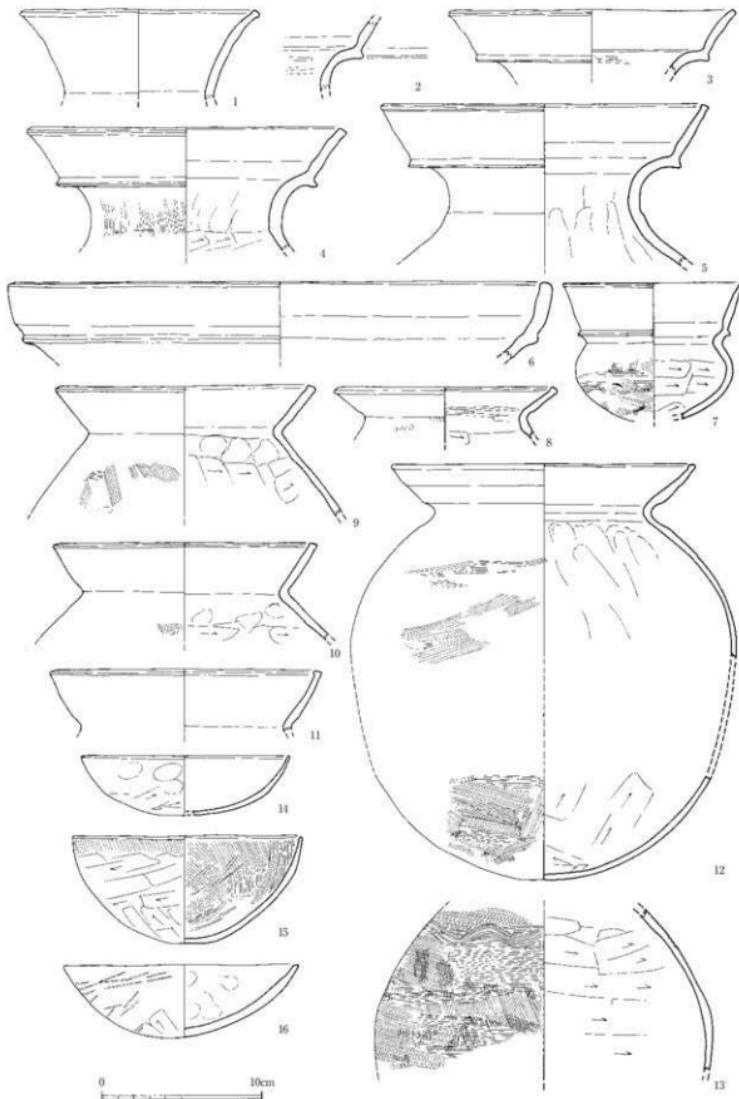
7・8は鉢。9は山陰系二重口縁鉢。外面調整は縱方向ハケの後、肩部と胴部下半に横方向のハケを施す。口縁端部は面をなす。内面の調整はケズリの後斜め方向のハケ。頸部内面に指頭圧痕が顕著に残る。

10は半島系瓦質土器壺で、口縁部を1/2ほど欠くもの他はほぼ完存。カマド右袖の上部に据えられていた。外面は胴上半部が平行タタキ後17条の沈線を巡らせ、胴下半部は格子タタキ。内面は胴部中央を中心として成形時の指頭による凹凸が著しく残る。底部付近はヘラ状工具によるナデ。胎土は精良で砂粒をほとんど含んでいない。

11はタコ壺の底部小片。平底。

### 33号竪穴住居跡（図版13、第73図）

発掘区の南東隅部、32号竪穴住居跡の南側に位置する。32号竪穴住居跡を切り、南側で35号竪穴住居跡に、東側を34号竪穴住居跡に切られる。平面プランは長方形と考えられる。規模は現存東西長4.65mを測る。主軸をN-8° -Wにとる。カマドを付設する。床面の標高は3.1m。



第75図 33号竪穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)

### カマド（図版13、第74図）

住居跡西壁の北寄りに付設される。燃焼部の主軸は壁に直交する。

カマドの構築土は灰白色砂と黄褐色粘土ブロックを混合させたものである（②③）。カマド袖の構築に先立って東西98cm、南北86cm、深さ23cmの掘り込みを行い、厚さ4～7cmの灰白色砂と厚さ1～2cmの茶褐色粘土を交互に充填している（④）。燃焼部には明確な硬化面はみられなかった。なお、左袖の壁際から出土した石は支脚石である可能性もあるが、燃焼部では握方は確認できなかった。

### 出土遺物（図版24、第75・76図、第25図）

1は外反しながら開く壺。2～6は山陰系二重口縁壺。2・3の頸部内面はミガキ。6は口縁部が直に近く立ち上がり器壁が厚い。7は小形丸底壺。

8～13は布留系壺。いずれも口縁端部を内側につまみ出し、段をなす。12の肩部にはヘラ描き沈線、13は櫛描き波状文を巡らせる。

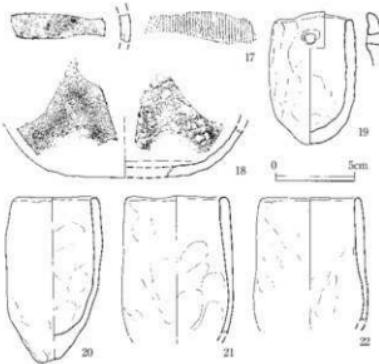
14～16は丸底の鉢。15の外面調整は縦ハケの後、口縁部の直下付近までヘラケズリを行う。

17・18は半島系土器。17は壺の肩部で外面に繩文タタキ、内面はヨコナデ。18は平底気味の壺か鉢の底部。調整は外面がヨコナデ後ナデ、内面は板ナデ。

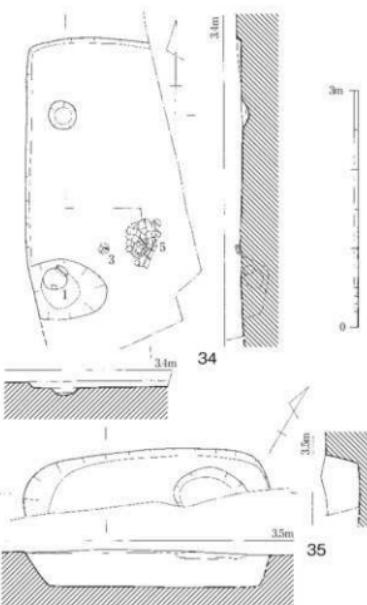
19～22はタコ壺。口縁端部はいずれも丸みを帯びる。

### 34号竪穴住居跡（図版13、第77図）

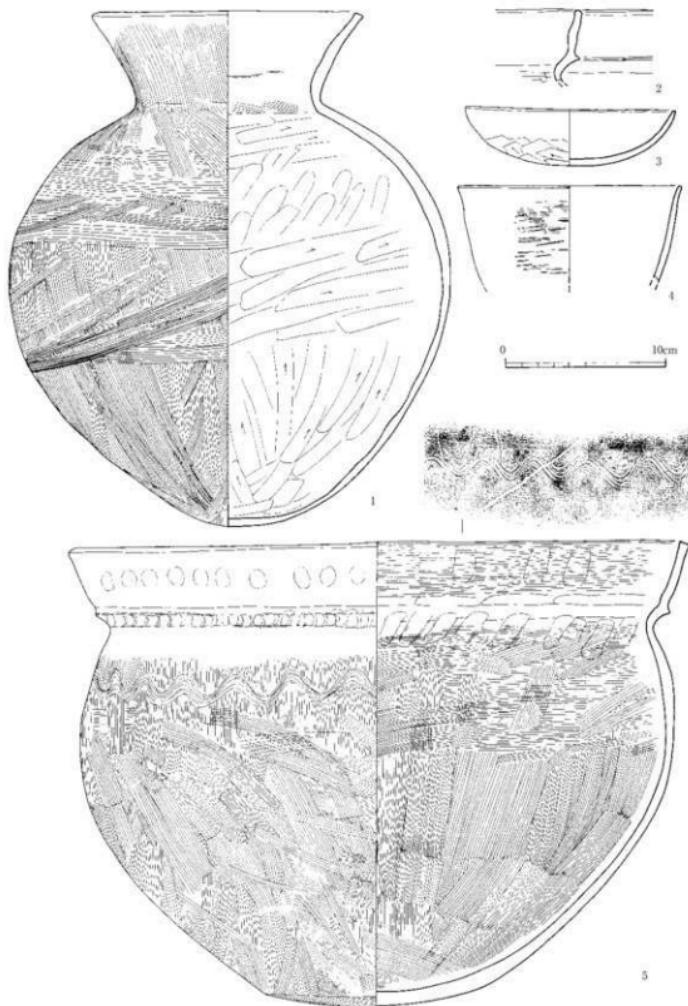
発掘区の南東隅部、33号竪穴住居跡の東側に位置する。33号竪穴住居跡を切り、35号竪穴住居跡に切られる。規模は現存南北長3.9mを測る。主軸をほぼ南北にとる。東側は発掘区外に延びる。カマドや炉跡は発掘区では確認していない。西壁部際には90cm×78cm、深さ35cm



第76図 33号竪穴住居跡出土器実測図2 (1/3)



第77図 34・35号竪穴住居跡実測図 (1/60)

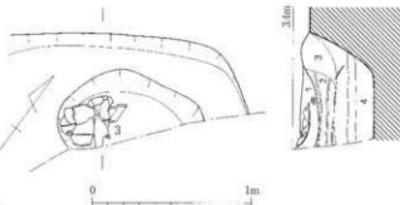


第78図 34号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

の屋内土坑が付設され、完形の甕が出土した。床面ではほかに径35cm、ピットを検出したが深さは9cmと浅く、主柱穴にはなり得ない。なお、床面で1個体分の甕と鉢が押しつぶされた状態で出土した。

#### 出土遺物（図版24、第78図、第26表）

1は畿内系直口壺。口縁は外反し、口縁端部に面をなす。外面の調整は全面縱方向のハケの後、肩部をヨコナダする。内面はケズリで、胴部上半には

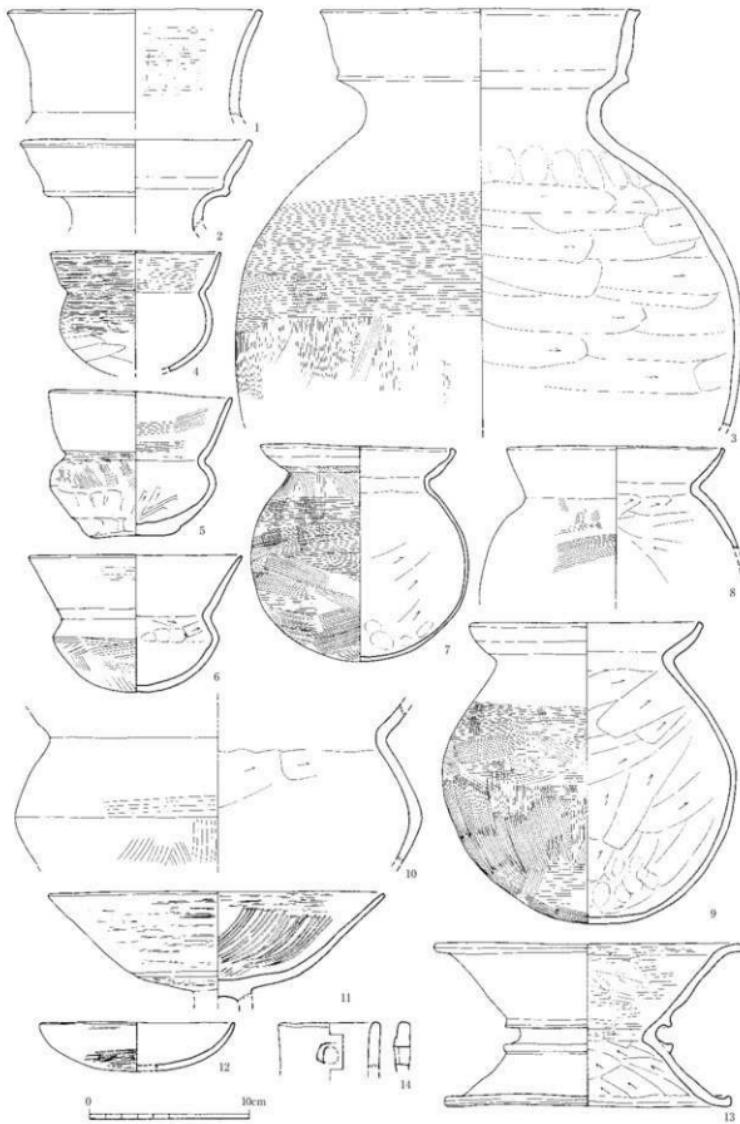


1. 黄灰砂（カマド埋土）  
2. 黄灰砂に厚0.5~1.0cmの茶褐色粘土被りに入る  
3. 黄褐色粘土に灰色砂混入  
4. 黄灰色砂に厚0.5cmの黒茶色粘土が被りに入る

第79図 35号堅穴住居跡カマド実測図 (1/30)

構造番号	国版番号	山古 通地	器種	法量 (mm)	胎土	地成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録番号
78.1	24	住34P	畿内系直 口縁	口径170、腹径 278、高さ320	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好、黒塵	黄褐色	口縁外側ハケ、腰外側ハケ後斜削 ハケ、内ケズリ、肩部ナダ上げ。	ほぼ完存		496
2		住34壁上 直口縁			粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好	黄褐色	口縁内側ヨコナダ。腰内ナダ。	少存		498
3		住34N.1	鉢	口径130、底径 36	粘土層。 1~3mm 石少	良好	褐色	内ケズリ、内ナダ。	ほぼ完存		495
4		住34覆上 鉢		口径140	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	内壁ハケ後くもり、内ナダか。模様 有り。	1/6		497
5	24	住34N.2	山形系二 直口縁	口径157、腹径 270、高さ290	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好、黒塵	黄褐色	外壁ハケ後くもり、内ナダか。模様有 り。	ほぼ完存		496
80.1		住35壁上 直口縁		口径100	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	内壁ハケ後ヨコナダ。	1/8		527
2		住35壁上 直口縁		口径145	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	内壁ヨコナダ。	1/8		528
3	24	住35壁上 直口縁		口径200	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好、黒塵	黄褐色	口縁裏部外方につまみ出た、外壁ハ ケ後ヨコナダ。内ケズリ、腰に指印有 る。	1/2		499
4	24	住35カマ ドY	小形丸底 壺	口径106	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	内壁ハケ後くもり。内ケズリ。口縁 内壁ハケ、肩部ナダ。	1/2		536
5	24	住35壁上 直口縁	小形丸底 壺	口径135、腹径 194、高さ80	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	他。手洗。外壁ハケ、下ナダ。口縁内壁 ハケ。指印有。	1/2	手洗、内面に炭化物 有り。	505
6	住35カマ ドY	小形丸底 壺		口径134、腹径 194、高さ80	粘土層。 1~3mm 石少	良好	細青褐色	他。外ハケ、内ケズリ。	1/3		525
7	24	住35壁上 布留系甕		口径122、腹径 136、高さ133	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内ケズリ。外壁ヨコナダ。	1/3		502
8	24	住35壁上 布留系甕		口径127	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	内壁ハケ後ハケ。内ケズリ。	1/2		501
9	24	住35壁上 布留系甕		口径144、腹径 184、高さ189	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好	黄褐色～黒茶色	内壁ハケ後ハケ。内ケズリ。底面 有り。		底面有り、 他は完存	500
10	住35カマ ドY	布留系甕		口径255	粘土層。 1~3mm 石少	良好	黄褐色	腰部扁平。外壁ハケ後ハケ。内 ケズリ。模様有り。	1/4		529
11	25	住35壁上 直口縁		口径230	粘土層。胎粒を12 点ほど含む。	良好	黄褐色	内ヒガキ。内ヒガキ後光。	3/4		503
12	住35壁上 直口縁			口径122、高さ 30	粘土層。胎粒を12 点ほど含む。	良好	明黄褐色	内ヒガキ。内壁減じて不明。	1/4		532
13	24	住35壁上 直口縁		口径194、腹径 260、高さ105	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好	黄褐色	内ヒガキ。内ヒガキ後光。	1/4		504
14	住35壁上 直口縁			口径64	粘土やや粗。 1~ 3mm石少	良好	暗黃褐色～黒茶色	内ヒガキ。	1/4		533

第26表 34・35号堅穴住居跡出土土器観察表



第80図 35号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

指頭によるナデ上げの痕跡が明瞭に残る。2は山陰系二重口縁壺の小破片。

3は丸底の鉢。4も鉢と思われるがあるいは壺の口縁になるのかもしれない。5は山陰系二重口縁鉢で、口縁端部に面をなす。肩部に柳描き波状文を巡らせるが全周はしない。頸部と口縁部の屈曲部分には指頭圧痕が顕著に残る。

### 35号竪穴住居跡（図版13、第77図）

發掘区の南東隅部、33号竪穴住居跡の南側に位置し、北壁の一辺を確認した。33号竪穴住居跡・34号竪穴住居跡を切る。規模は東西長3.10mを測る。カマドを付設する。

### カマド（図版13、第79図）

住居跡の北東隅部に付設され、煙道は住居北壁に沿って西側に伸びる。燃焼部の主軸は壁に直交するものと考えられる。

カマドの構築土は暗黄褐色粘土に灰色砂を混合したものである（③）。カマド袖の構築に先立って深さ44cmの掘り込みを行い、厚さ4～11cmの暗灰色砂に、厚さ0.5cmの黒茶色粘質土を交互に充填する（④）。その後壁際に暗黄褐色粘土に灰色砂を混じえた土を貼り、その内側（燃焼部下層）に、厚さ3～6cmの黄褐色砂に、厚さ1cmの茶褐色粘質土を交互に積んで充填する（②）。下層の地盤に起因するのであろうか、カマドの下部に二重の基礎地業を施している。なお、燃焼部床面より5cmほど浮いて壺が遺存していた。

煙道部は、カマド袖と同じ土を用いて塗かれた基底部分のみが遺存しており、カマド燃焼部と同レベルにもかかわらず煙道そのものは確認できなかった。そのため、煙道底面はカマド燃焼面よりも若干高くなるものと考えられる。

### 出土遺物（図版24・25、第80図、第26表）

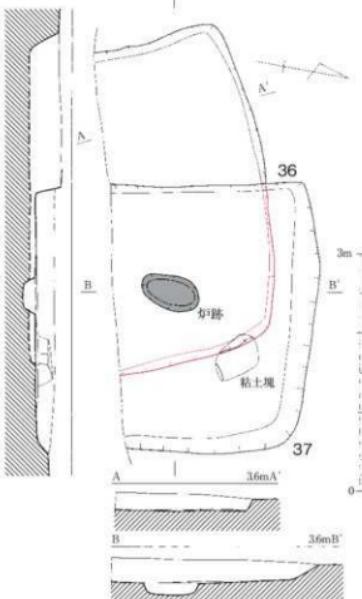
1は直口壺。2・3は山陰系二重口縁壺。1は口縁部が直に近く立ち上がり、口縁端部を外方にややつまみ出す。4～6は小形丸底壺。5は粗製で外面の胴部下半には指頭圧痕が顕著に残る。平底。6も粗製。

7～9は布留系壺。9は口縁部が分厚く、口縁端部内側に段をもたない。10も布留系と思われる。体部中位で屈曲し、扁平気味である。鉢とすべきか。ハケは粗い。

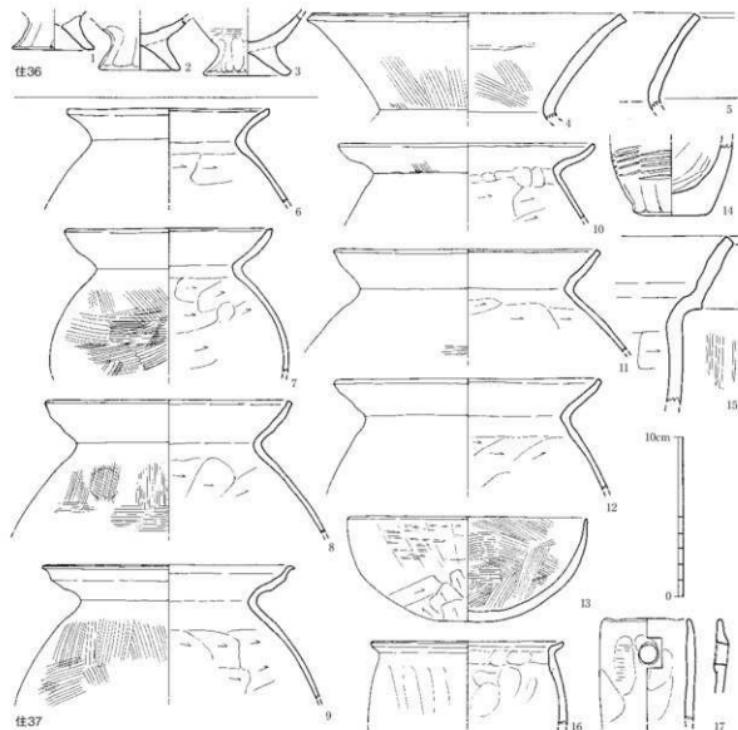
11は高坏。坏部内面に放射状の暗文を施す。

12は丸底の鉢。

13は山陰系菱形器台。脚の端部を上方に跳ね上げる。



第81図 36・37号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第2図 36・37号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

14はタコ壺。口縁部の破片。

#### 36号竪穴住居跡 (図版14、第81図)

発掘区の南東隅部。31号竪穴住居跡の南側に位置する。東側を37号住居跡に切られる。平面プランは方形ないしは長方形と考えられる。規模は、東西方向が4.05mを測る。主軸をN-14°-Wにとる。床面の標高は3.3m。

#### 出土遺物 (第82図、第27表)

1～3は製塙土器。外面の調整は指頭によるナデ上げ。3の胴部下半にはタタキ痕が残る。

#### 37号竪穴住居跡 (図版14、第81図)

発掘区の南東隅部、36号竪穴住居跡の東側に位置する。36号竪穴住居跡を切り、南側は発掘区外に延びる。平面プランは長方形と考えられる。規模は東西長3.40m、遺存する南北長は2.65mを測る。主軸をN-8°-Wにとる。床面の標高は3.2m。住居跡の中央よりやや西寄りで

桝田 番号	国版 番号	出土 遺物等	器種	法量 (mm)	地土	焼成	色調	形態や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
834	住36覆土	質陶器	底径53	粘土質。1~3mm 石英多	良好	赤褐色	内凹ナデ。	1/4		508	
2	住36覆土	質陶器	底径50	粘土質。1~3mm 石英少	良好	赤褐色	内凹ナデ。被地部分平ら。	底部定在		507	
3	住36覆土	質陶器	底径54	粘土質。1~3mm 石英少	良好	赤褐色	内凹ナデ。被地部分平ら。	底部定在		506	
4	住37覆土	壺	口径200	粘土や砂。1~ 3mm石英少	良好	明黄褐色	内凹斜ハケ。	1/8	焼き・口付や不安	521	
5	住37覆土	直口瓶		粘土質。1~3mm 石英多	良好	黄褐色	内凹ヨコナデ。	少片		522	
6	住37覆土	布留系壺	口径127	粘土や砂。1~ 3mm石英少	良好	明黄褐色	壁端着しく、内ケズリ。	1/3		513	
7	住37覆土	布留系壺	口径130	粘土や砂。1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	外縁ハケ→腹ハケ。内ケズリ。	1/4	墨付垂	517	
8	住37覆土	布留系壺	口径154	粘土質。1~3mm 石英多	良好、黒斑	黄褐色~黃白色	外縁ハケ→腹ハケ。内ケズリ。	1/4		512	
9	住37覆土	布留系壺	口径156	粘土質。1~3mm 石英多	良好	黄褐色	外縁部大きく外方につまみ出す。 外縁ハケ。内ケズリ。	1/8	墨付垂	518	
10	住37覆土	布留系壺	口径160	粘土質。1~3mm 石英多	やや甘い	明黄褐色	外縁着しく、西ケズリ。内指跡有 無。	1/4		516	
11	住37覆土	布留系壺	口径166	粘土質。1~3mm 石英多	良好	黄褐色	外縁ハケ。内ケズリ。	1/3	墨付垂	514	
12	住37覆土	布留系壺	口径168	粘土質。1~3mm 石英多	良好	明黄褐色	内ケズリ。	1/3	墨付垂	515	
13	住37覆土	鉢	口径150	粘土や砂。砂粒 をあまり含まない	良好	黄褐色	外とミガキ。内ケズリ。内縁ハケ。	1/2		520	
14	住37覆土	鉢	底径47	粘土質。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	外タキ痕。内子ナデ上げ。底凹ナデ。	底部定在		524	
15	住37覆土	山陰系二重口縁鉢		粘土質。1~3mm 石英少	やや甘い	明黄褐色	外とミガキ。内ケズリ。	少片		511	
16	住37覆土	半島系軟質土器		粘土質	黒葉	暗茶褐色	口縁外反。柄は張らない、外板ナデ 底ナデ。内ナデ。	1/6		519	
17	住37覆土	チコ盛	口径54	粘土や砂。1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内凹ナデ。	1/2		523	

第27表 36・37号堅穴住居跡出土土器観察表

主軸を南北方向にとる炉跡を検出した。規模は長軸75cm、短軸長44cm、深さ15cmを測る。住居跡の北東部の床面には60cm×45cm、高さ20cmほどの高まりが存在する。この高まりは住居の埋土である暗灰色砂質土とは異なる硬く焼き結った明茶褐色粘質土からなる。

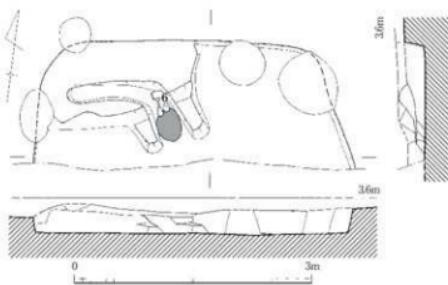
#### 出土遺物（第82図、第27表）

4・5は壺の口縁部。4は小片のため口径に不安がある。

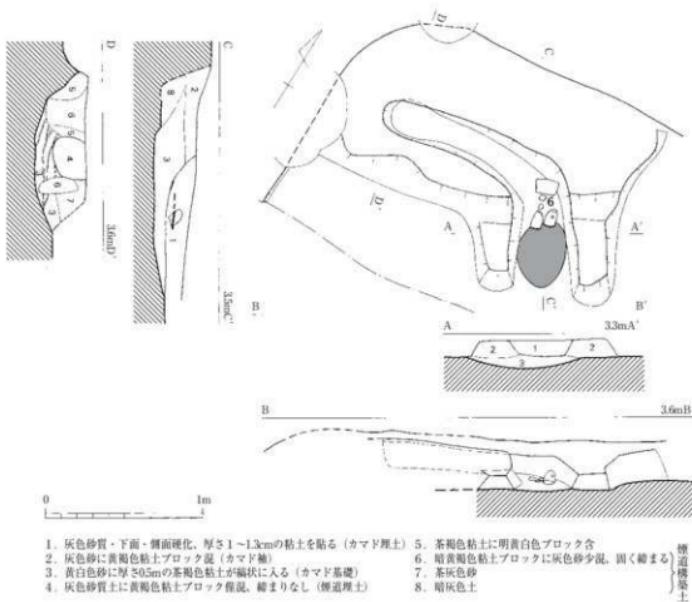
6~12は布留系壺。9は口縁端部を大きく外方につまみ出す。7・9を除いて口縁部の内側に段を持つ。

13は鉢。わずかに平底気味になる。14は全形が知れない。外面にタタキ痕と強いナデの痕跡が明瞭に残り、内面はナデ上げる。15は山陰系二重口縁鉢の少破片。

16は半島系軟質土器の鉢。口縁部が外反し、上面が窪む。調整は外面が板ナデ後ナデ。内面



第83図 39号堅穴住居跡実測図 (1/60)



第84図 39号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

はナデで、口縁部下には指頭圧痕が残る。

17はタコ壺。内面の凹凸が著しい。

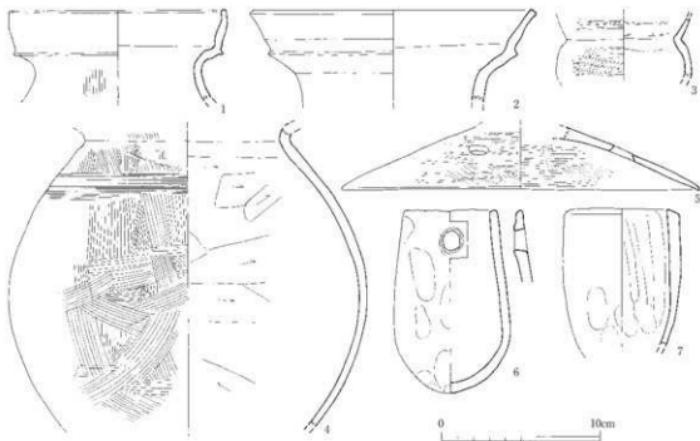
### 39号竪穴住居跡 (図版14、第83図)

発掘区の南辺部東寄り、36号竪穴住居跡の西側に位置する。住居跡北側の一部を検出し、南側は発掘区外に延びる。平面プランは略隅丸長方形と考えられるが東側の壁が南に向かって広がっている。規模は現存東西長4.08mを測る。主軸をN-7°-Wにとる。床面の標高は3.1m。カマドを付設する。

#### カマド (図版14、第84図)

住居跡北辺のはば中央に付設され、煙道は住居北壁に沿って西側に伸びる。燃焼部の主軸は北壁とは直交せず、それに対して25°ほど西に振れている。

カマドの構築土は灰色砂に黄褐色粘土ブロックを混合したものである (②)。カマド袖の構築に先立って幅73cm、深さ9cmの掘り込みを行い、暗灰色砂にやや粘性を帯びた黒茶色砂質土を混合した土を充填する (③)。住居跡北壁から85cmほどの床面には支脚としての完形のタコ壺が据えられる。この支脚には掘方は伴わず、また、僅かではあるが燃焼部の床面から浮いていることから、構築当初から据えられたものではないようである。支脚の前面は41cm×31cmの範囲の床面の硬化が著しく、断面観察では厚さ1.0~1.3cmの赤褐色粘土を火床として貼ってい



第85図 39号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

ることが確認できた。

煙道は北壁に平行して西に延び、西壁から40cm控えたところで直に立ち上がる。煙道の断面形状は径25cmの円形。煙道部はカマド袖と同じ工程で築かれる。特に住居跡壁寄りの部分は、通常カマド本体部分の下層で行われるような、砂質土と粘質土の互層による下層地業（縦断面③）がしっかりと行われ、その上部に粘土を主体とした硬く締まった土が貼られている。煙道の埋土は灰色砂質土に黄褐色粘土ブロックを含む締まりのない土質である（④）。また、煙道の底面はカマド燃焼部のレベルより15cm前後高くなっている。ただ、燃焼部の最奥部のレベルとはそれほど変わらない。

#### 出土遺物（図版25、第85図、第28表）

1・2は山陰系二重口縁壺。1は口縁が直に近く立ち上がる。

3は小形丸底壺。

4は布留系甕。肩部に櫛描き沈線文を巡らせる。

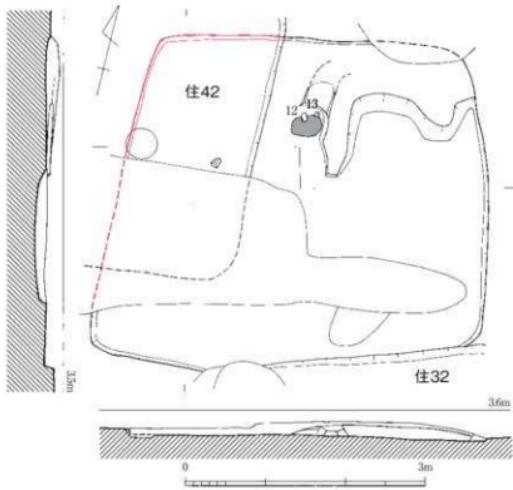
5は脚付き鉢の脚部分。脚の中位に円孔を施す。

6・7はタコ壺。カマドの中央部に支脚として伏せられた状態で据えられており、一面が熱を受けて赤化している。7は口縁端部に面をなす。

#### 41号竪穴住居跡（図版15、第86図）

発掘区の南東部、32号竪穴住居跡の北側に位置する。南側を32号竪穴住居跡に、西側で42号竪穴住居跡に切られる。平面プランは南側に向かってやや幅が広がる略方形である。規模は南北長4.24m、東西長4.40mを測る。主軸をN-76°-Eにとる。床面の標高は3.3m。カマドを付設する。

埋土中から砥石が出土している。

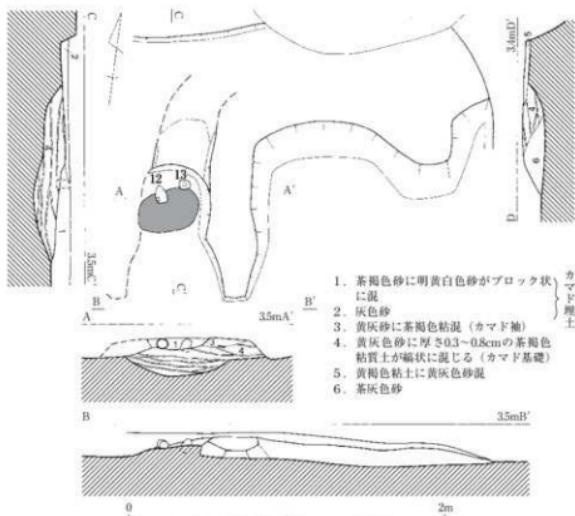


第86図 41号竪穴住居跡実測図 (1/60)

カマド (国版15、第87図)

住居跡北辺のほぼ中央に付設され、煙道は住居北壁に沿って東側に伸びる。燃焼部の主軸は北壁と直交する。

カマドの構築土は灰色砂に黄褐色粘土ブロックを混合させたもので、土器片も材として用いている(③)。カマド袖の構築に先立って幅88cm、深さ19cmの掘り込みを行い、厚さ2~4cmの黄灰色砂に、厚さ0.3~0.8cmほどの茶褐色粘質土を交互に充填する(④)。他の住居跡のカマド下部地盤に比べて丁寧な感を受



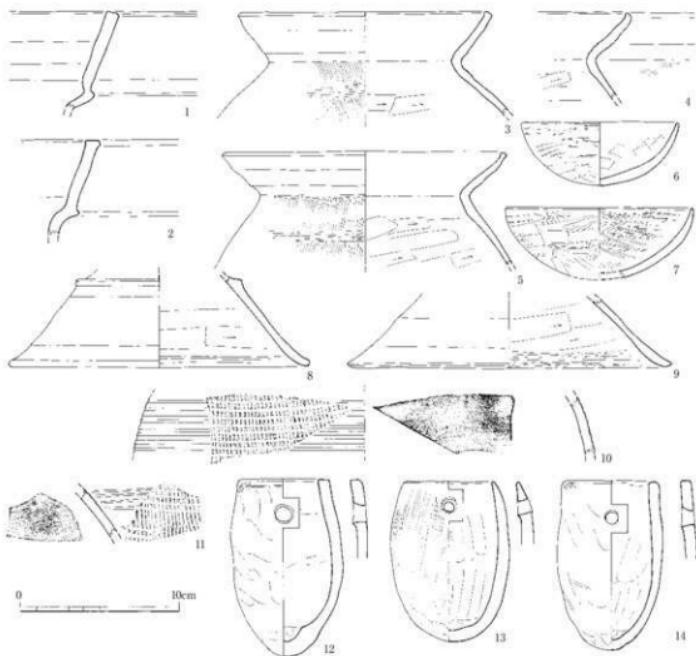
第87図 41号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)

辨別番号	国版番号	出土遺物等	器種	法量 (mm)	粘土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録番号
85-1	住30層上 山陰系二 直口罐	口径138	粘土壺。1mm石英 少	良好	明黄褐色	外壁ハケ。内ナマか。	1/6			537	
2	住30層上 山陰系二 直口罐	口径180	粘土壺。1mm石英 多	良好	明黄褐色～黃褐色	外不明。内ナマ。	1/8			538	
3	住30層上 山陰系二 直口罐	柄付96	粘土壺。砂粒を1 とんで含まず	良好	暗茶褐色	外ミガキ。内ケズリ抜ナマ。	1/5			540	
4	住30層上 布留系壺	柄付236	粘土壺。1～3mm 石英多	良好	另著褐色。内赤色	荷輪引き足底。外壁ハケ→下斜ハ ケ。内ケズリ。	1/8			536	
5	住30層上 脚付き壺	柄付236	粘土壺。1～3mm 石英少	良好	黃褐色	外壁ハケ面ミガキ。内壁ハケ。	1/4			535	
6	25 住30カマ F	タコ壺 (支 口徑115)	粘土壺。1～3mm 石英少	良好	青赤色～褐褐色	外ナマ。内ナマ上げ。熱を受け変化。 抜け定位	変形として転用			542	
7	住30層上 テコ壺	口径72	粘土壺。1～3mm 石英少	良好	黃褐色	外ナマ。内ナマ上げ。	1/4			541	
88-1	住41層上 山陰系二 直口罐	粘土や砂。1～ 3mm石英多	良好	黃褐色	内凹ココナマ		小河			594	
2	住41層上 山陰系二 直口罐	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	黃褐色	内凹ココナマ		小河			595	
3	住41層上 布留系壺	口径160	粘土や砂。1～ 2mm石英少	良好	黃褐色	外壁ハケ面横ハケ。内ケズリ。	1/5			552	
4	住41層上 布留系壺	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	黃褐色	外壁ハケ。内ケズリ。		小河			553	
5	住41層上 布留系壺	口径180	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	黃褐色～褐色	外壁ハケ面横ハケ。内ケズリ。	1/5			551	
6	住41層上 鉢	口径100。器高 40	粘土壺。1～3mm 石英少	良好	橙色～黄褐色	外ミガキ。内凹ナマ。	1/4			554	
7	住41層上 鉢	口径120。器高 45	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	黄褐色	内ケズリ。内ミガキ	1/4			555	
8	住41層上 直口罐	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	褐色	外凹ナマ。内ケズリ	1/4			557		
9	住41層上 直口罐	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	褐色	外凹ナマ。内ケズリ。縮内ミガ キ。				556		
10	29 住41層上 半島系土 器盤	粘土壺。砂粒 を含ます	粘土壺。砂粒 を含ます	良好	褐色、深褐色 焼けの跡 あり	外平行タケ→沈澱。内強力凹のナ マ。	1/6			1143	
11	29 住41カマ F	半島系土 器盤	粘土壺。砂粒 を含ます	良好	褐色、深褐色 焼けの跡 あり	内平行タケ→沈澱。内ナマ。	小河			1144	
12	25 住41カマ Fと2	タコ壺 (支 口徑112)	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	淡黃褐色～淡褐色	外ナマ。内工具ナマか。口縁部に移 化工具のアクリ。	変形	支撑として転用		548	
13	25 住41カマ Fと2	タコ壺 (支 口徑104)	粘土壺。1～3mm 石英少	良好、黒斑	淡黃褐色	外壁ハケ。内ナマ上げ。	変形	支撑として転用		546	
14	25 住41層上 テコ壺	口徑106	粘土や砂。1～ 3mm石英少	良好	淡黃褐色	外ナマ。内ナマ上げ。	変形			547	

第28表 39・41号堅穴住跡出土土器観察表

ける。住居跡北壁から95cmほどの床面には支脚としての完形のタコ壺が左右に据えられる。左側の支脚タコ壺はカマドの主軸に沿って倒した状態にあり、右側のそれは東側に傾いた状態で倒立している。両者の上面のレベルは揃えられている。右側のタコ壺は掘方を持たず、カマドの基礎地業や本体の構築と一連の作業過程において立てられ、タコ壺の周囲はカマドの床となる粘土でパッキングされた状態にある。支脚前面の燃焼部は27cm×38cmの範囲で床面が硬化している。

煙道部は、カマド袖と同じ土を用いて築かれた基底部分のみが遺存しており、カマド燃焼部と同レベルにもかかわらず煙道そのものは確認できなかった。そのため、煙道底面はカマド燃焼面よりも若干高くなるものと考えられる。なお、煙道部の構築土は住居跡北壁に沿って東に延び、住居北東隅部からさらに東壁に沿うように南に向かって30cmほど張り出している。この部分の土層もカマドの基礎地業にみられるものと同様の互層になつてゐるが、その下層は締まりのない茶灰色砂である(⑥)。



第88図 41号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

#### 出土遺物 (図版25、第88図、28表)

- 1・2は山陰系二重口縁壺。2は口縁部が肥厚する。
- 3～5は布留系壺。いずれも口縁端部を内側につまみ出す。
- 6・7は丸底の鉢。7の外表面調整は口縁部直下までヘラケズリを行う。
- 8・9は山陰系鼓形器台。9は裾部内面にヘラケズリを行った後、端部付近にミガキを施す。あるいはこちらが受け部か。
- 10・11は半島系土器壺肩部。調整などからみて同一個体の可能性がある。
- 12～14はタコ壺。12は外表面にハケ調整を行っている。12・13はカマドの支脚として転用されていたもので、熱を受けて赤化している。

#### 42号竪穴住居跡 (図版15、第89図)

発掘区の南東部、41号竪穴住居跡の西に位置する。41号竪穴住居跡と43号竪穴住居跡を切る。南側半分は現代の擾乱によって損壊している。また、住居跡の北側もブルの基礎によって削平されており、壁は残存していなかった。しかしながら、床下層の土色の変化した部分により、そのラインを確定することができた。平面プランは長方形を呈する。規模は東西長483m、残存

南北長2.90mを測る。主軸をN-5°-Wにとる。床面の標高は3.4m。床面の2ヶ所で径35cmと径40cmのピットを二ヶ所で検出したがいずれも浅い。また、住居跡西壁際の中央部に高さ7~20cmほどの高まりが存在する。高まりは茶灰色砂に明黄褐色粘土のブロックを混ぜ込んだ人為的な埋め土からなり、最も高い部分の上面は硬化していた。出入入口の痕跡とも考えられる。

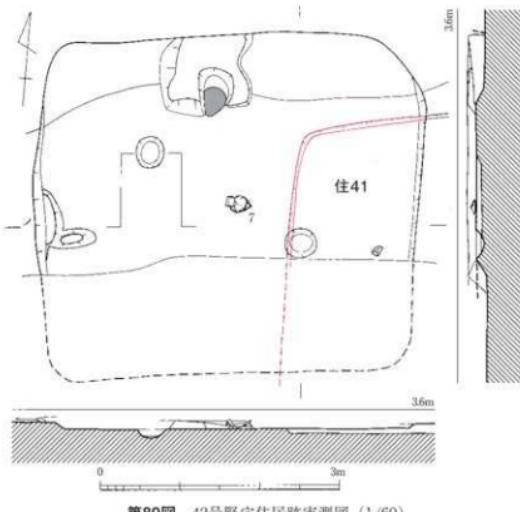
**カマド**（図版15、第90図）

住居跡北辺の中央に付設される。燃焼部の主軸は北壁と直交する。

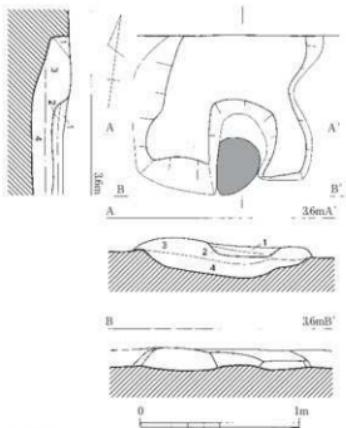
カマドの構築土は黄褐色粘土に黒茶色粘土と焼土ブロックを混合させたものである（③）。カマド袖の構築に先立って幅104cm、深さ11cmの掘り込みを行い、やや粘性を帯びた茶褐色土に、黄白色砂をブロック状に混入させた土で埋めている（④）。通常、燃焼部面は下層の地業上面とはほぼ一致し、カマドの壁体はその後の過程で独立して構築されることが多いが、この住居跡の場合、袖と燃焼部が同一粘土を用いた一連の作業工程で形成されている。カマド袖に挟まれた燃焼部は36cm×27cmの範囲で床面が硬化している。

**出土遺物**（図版25、第91図、第29表）

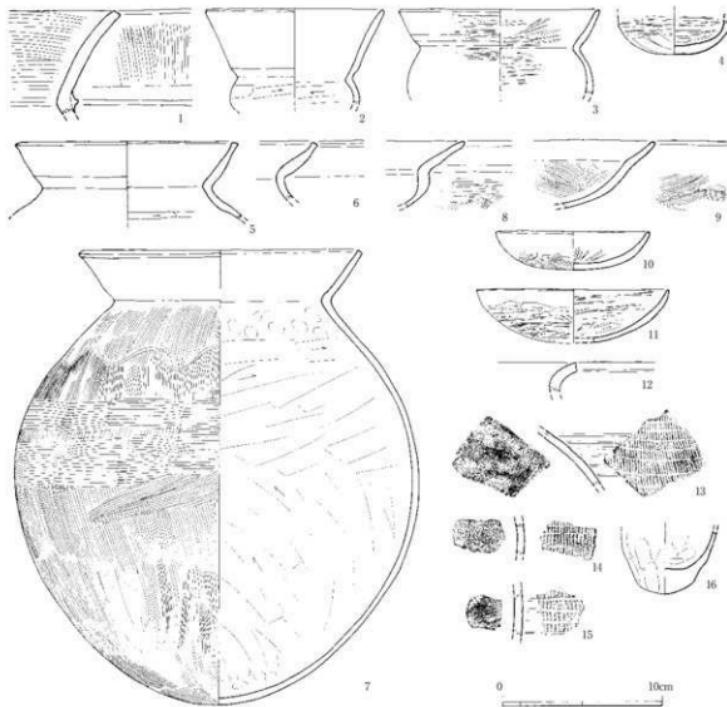
1は直口壺。屈曲部に断面三角形の突帶を巡らせる。口縁端部は面をなす。2~4は小形丸底壺。2は粗製。



第89図 42号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第90図 42号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第91図 42号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

5~7は布留系壺。6・7は口縁端部を内側につまみ出す。7は口縁部と胴部を一部欠くが完形に近い。外面調整は縫ハケの後、胴部やや上位に横ハケを行い、肩部にヘラ描き波状文を巡らせる。頸部内面と底部内面に指頭圧痕が残る。

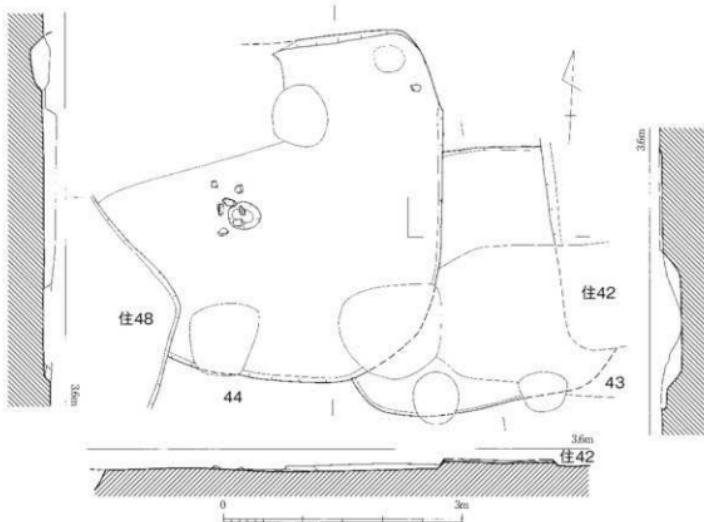
8・9は外反口縁鉢の小片。10・11は丸底の鉢。

12~15は半島系土器。12は鉢ないしは壺の口縁部。口縁端部が凹む。13~15は壺の肩から胴部にかけての小片。外面に繩蓆文タタキを行わない沈線を巡らせる。内面の調整は15がヨコナデ、その他はナデ。

16はタコ壺の底部破片。

#### 43号竪穴住居跡 (第92図)

発掘区の南東部、42号竪穴住居跡の西側に位置する。北壁と南壁の一部を確認した。東側を42号竪穴住居跡に、西側を44号竪穴住居跡に切られる。平面プランは隅丸方形を呈する。規模



第92図 43・44号竖穴住居跡実測図 (1/60)

は南北長3.19mを測る。主軸をN-11°-Wにとる。床面の標高は3.4mを測る。壁の残りが非常に悪く、また、炉跡等の付属施設も確認していないため住居跡と認定するには若干の躊躇も覚えるが、整った平面プランと底面がフラットになることから住居跡とした。住居跡の埋土は淡黄灰色土である。

#### 出土遺物（第94図、第29表）

1・2は小形丸底壺。ともに粗製。3・4は布留系甕口縁部の小片。

5は高坏。坏部内面に放射状の暗文を施す。

#### 44号竖穴住居跡（図版16、第92図）

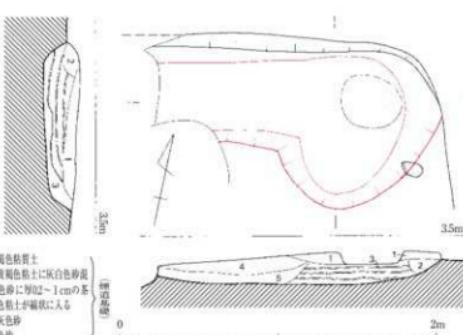
発掘区の南東部、43号竖穴住居跡の西側に位置する。東側で43号竖穴住居跡を切り、西側は48号竖穴住居跡に切られる。北西部はブル基礎によって損壊しているが平面プランは隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は南北長4.43m、現存東西長4.42mを測る。主軸をN-88°-Eにとる。床面の標高は3.3m。カマドを付設する。住居跡は中央の床直上で、8個の角礫が集中する部分が認められた。いずれも熱を受け赤化していた。また、床面では径40cmのピットを検出した。

#### カマド（第93図）

本体は確認していないが、住居跡北辺に沿って煙道の基礎地業の痕跡が認められた。おそらくは北辺中央部ないしはやや西寄りに、燃焼部の主軸を北壁と直交させるカマドを付設するものと考えられる。

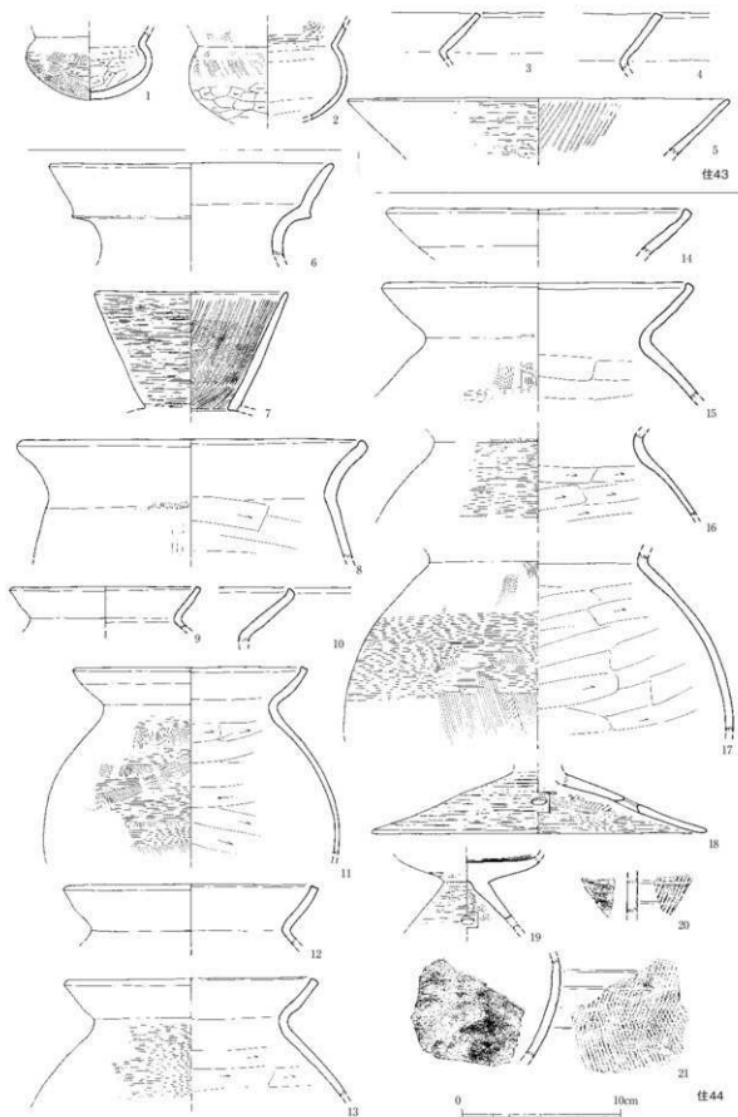
博国 番号	国版 番号	出土 遺構等	形態	法量 (mm)	土質	地成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
914		住42度上	直口壺		粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄茶色	内縫ハケ、内横ハケ。断面三角形突起。	小坪		560
2		住42度上	小形丸底	口径122、脚径 92	粘土や砂、1~3mm石英少	良好	黄褐色	口縫ヨコナギ。脚内凹み。	1/4		565
3		住42度上	小形丸底 壺	口径127	粘土壺。砂粒をほ とんぞ含まず	良好	褐褐色	内縫ヨコナギ。	1/6		564
4		住42度上	小形丸底	口径140	粘土壺。砂粒をほ とんぞ含まず	良好	褐色	内縫ヨコナギ。	底部のみ		561
5		住42度上	布留系壺		粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄灰褐色	口縫ヨコナギ。内ケズリ。	1/4		570
6		住42度上	布留系壺		粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	口縫ヨコナギ。内ケズリ。	小坪		568
7	25	住42度上	布留系壺	口径126、脚径 248、基高284	粘土壺。1~3mm 石英少	良好、黒斑	内縫黄褐色、外縫 黄褐色	器底にハクつき波状文。外縫ハケ→ 内縫ハケ。内ケズリ。断面内に指 跡有り。	ほぼ完存		558
8		住42度上	布留口縫 壺		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	褐褐色	縫のハケ→ミザキ。内ナギ。	小坪		569
9		住42度上	布留口縫 壺		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄茶色	内縫ハケ。	小坪		565
10		住42度上	鉢	口径96、基高26 石英少	粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	外縫ハケ、内ミザキ。	1/4		562
11		住42度上	鉢	口径122	粘土壺。1~3mm 石英少	良好	褐色	内ケズリ後ミザキ。	1/4		563
12		住42度上	手造土 器		粘土壺。1~3mm 石英少	良質、堅硬	黄褐色	ヨコナギ。	小坪		567
13	29	住42度上	手造土 器		粘土壺。砂粒を含 まず	良質、堅硬	断面灰褐色	外平行タキ→波状、内ナギ。	小坪		1145
14	29	住42度上	手造土 器		粘土壺。砂粒を含 まず	良質、堅硬	断面灰褐色	外平行タキ→波状、内ナギ。	小坪		1146
15	29	住42度上	手造土 器		粘土壺。砂粒を含 まず	良質	断面灰褐色	内縫ヨコナギ→波状、内ヨコナ ギ。	小坪		1147
16		住42度上	チロ壺		粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナギ、内ナギ上げ。	底部のみ		566
941		住43度上	小形丸底	脚径28	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄茶色	外縫ハケ。内ケズリ後部分にナギ。 1/3			371
2		住43度上	小形丸底	脚径300	粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	外縫ハケ。脚下はケズリ。口縫内縫 ハケ。内ナギ。	1/4		372
3		住43度上	布留系壺		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内縫ヨコナギ。	小坪		574
4		住43度上	布留系壺		粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	褐黃茶色	内ヨコナギ。	小坪		575
5		住43度上	高坪	口径229	粘土壺。1~3mm 石英、良石少	良好	褐褐色	外ミザキ、内納灰。	1/8		573

第29表 42・43号堅穴住居跡出土土器観察表



第93図 44号堅穴住居跡カマド実測図 (1/30)

煙道部の基礎地業は他例と同様、厚さ2~4cmの灰色砂に、厚さ0.2~1cmの茶褐色粘土を交互に充填している(③)。ただ、横断面で見ると東側半分にこの層が存在するものの、西半部がそれとは全く異なる土質となっている。土層④⑤についてはその上部を煙道下部の積み土と考えられる茶褐色粘土質土(①)が覆っているため、カマドに伴う一連



第94図 42・43号竖穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

博国 番号	国版 番号	出土 遺物等	器種	法量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や段法の帶圖	現存率	参考	登録 番号
6	往44アマ ド下層	山形県二 重口罐	口径380	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄灰色	内凹ヨコナデ。	1/5		585	
7	25	往44層上	直口罐	口径320	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好	淡橙褐色	外1ガキ、内擦ハケ→暗文。	口縁全周	577	
8	往44層上	在地系裏	口径220	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好	橙色	外暗ハケ、内ケズリ。	1/5		579	
9	往44アマ ド下層	布留系裏	口径300	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	橙色～黄灰色	内ケズリ。	1/6		584	
10	往44層上	布留系裏		粘土や砂、1- 3mm石英、黄石少	良好	黄灰色	内凹ヨコナデ	小所		583	
11	往44層上	布留系裏	口径140、側径 184	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄橙色	外暗ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/3		580	
12	往44層上	布留系裏	口径160	粘土砂、1- 3mm石英少	良好	黄灰色	内凹ヨコナデ。	1/2		589	
13	往44層上	布留系裏	口径160	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄灰色	外暗ハケ。内ケズリ。	1/4		580	
14	往44層上	布留系裏	口径190	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄灰色	内凹ヨコナデ。	1/4		582	
15	往44層上	布留系裏	口径195	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄橙色～黄灰色	外暗ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/3		581	
16	往44層上	布留系裏		粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄灰色～灰	外暗ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/4		578	
17	往44層上	布留系裏	側径242	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	弱黃褐色、内薄茶 色	外暗ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/2		588	
18	往44層上	脚付錠	口径210	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好	黄褐色～橙褐色	外カガキ。内擦ハケ。孔あり。	1/4		587	
19	往44層上	器台		粘土砂、1-3mm 石英少	良好	暗系褐色	外暗ハケ→ミサギ。内擦ハケ。孔1 つ。	1/3		586	
20	29	往44アマ ド下層	半島系土 器	口径197	粘土砂、砂粒を合 まず	陶質	灰	内凹曲面サタリ→沈線。内ヨコナ デ。	小所	1149	
21	29	往44層上	半島系土 器	口径197	粘土砂、砂粒を合 まず	陶質	淡褐色 (断面明 黄色)	内凹曲面サタリ→沈線。内ヨコナ デ。	小所	1148	
97-1	往44アマ ド下層下部	直口罐	口径390	粘土砂。1mm石英 少	良好	黄褐色	内凹ヨコナデ。内ハケ頂ヨコナデ。	1/7	傾きや不安。	597	
2	25	往44層上	直口罐	口径197	粘土砂。1mm石英 少	良好	黄褐色	内凹ヨコナデ後ヨコナデ。側1ガキ。 側ケズリ。	3/4		393
3	25	往45カマ ド下層	山形県二 重口罐	口径136、側径 150、脚径116、 高さ124	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄褐色	全般的に内下部から外側 ガタリ→中間擦ハケ。内ケズリ。側 内ヨコナデ。	口縁1/2 外側全面	591	
4	25	往45層上	小形丸 器	口径102、側径 80、高さ63	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好	淡橙褐色	口端外縁ハケ→ガタリ。側ケズリ 前1ガキ。側上1ガキ。口縁内1ガ キ。側ケズリ後1ガキ。	1/2		394
5	往45層上	小形丸 器	口径100、側径 80	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	やや甘い 匂	黄褐色	外暗ハケ→ミサギ。口縁内ハケの ちで、側内チリ。	1/5	鼠痕。	595	
6	往45層上	布留系裏	口径122、側径 126	粘土砂、1-3mm 石英少	良好	明黄褐色	裏との区別困難。側外縁ハケ。内ケ ズリ。泥付指オサニ。	1/2	重付着	605	
7	往45層上	布留系裏	口径130、側径 140	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	明黄褐色～茶褐色	側外縁ハケ→中段は擦ハケ。内ケズ リ。口縁内擦ハケ。	1/2	重付着	604	
8	往45層上	布留系裏	口径184	粘土砂、1mm石英 多	良好	淡黄褐色	側内ケリ。	1/2		607	
9	25	往45アマ ド下層	布留系裏	口径197	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	明黄褐色	側外縁ハケ→中段は擦ハケ。内ケズ リ。底内オサニ。	1/2		592
10	往45アマ ド下層	布留系裏	側径220	粘土砂、1-3mm 石英少	良好	淡黄褐色～黄褐色	外暗ハケ→擦ハケ。内ケズリ。	1/3		603	
11	往45層上	布留系裏		粘土砂。1-3mm 石英少	良好	黄白色	4本→1列の攝鉢底状文。	小所		611	
12	往45カマ ド下層	高环 (支 持具)	高大径20、筒高 95	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好、二 次 燒	黄褐色～灰 色、灰 化	外シボリ感。	脚柱のみ残 カマド支撑に転用。		599	
13	往45アマ ド下層	山形県二 重口罐	口径192	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	良好	黄褐色	側面薄い。外シボリ。内シボリ→ 放射状裂隙。	小所		600	
14	往45アマ ド下層	外双耳 罐	口径192	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	やや甘い 匂	黄褐色	口縁一側削除で不明。前ケズリ。 内1ガキ。	小所		601	
98-15	往45層上	山形県二 重口罐	口径296	粘土や砂、1- 3mm石英少	良好	黄褐色～黄白色	側内ケズリ。	1/3		608	
16	28	往45アマ ド下層	半島系土 器	口径265、残高 208	粘土砂、砂粒をは とんど含まず	灰質、やや 甘い	側上半分より底の沈線。外平行チ キ。内ナダ。底部内凹にハケ→底 丸。	1/3		1152	
17	29	往45層上	半島系土 器		粘土砂、砂粒をは とんど含まず	灰質、稍暗 化	外平行チキ。内ナダ。	小所		1151	
18	29	往45層上	半島系土 器		粘土砂、砂粒をは とんど含まず	灰質、深圓 化	2条以上の沈線。外平行チキ。内 ナダ。	小所		1150	
19	往45層上	テコ壺		粘土や砂、1mm 石英少	やや甘い	淡黃褐色	外ナダ。内なだえ上げ。	底充		602	

第30表 44・45号堅穴住居跡出土土器觀察表

の層位と考えて問題ないだろう。当該住居跡の煙道は住居跡北壁から北東隅部に延び、そこからさらに東壁に沿うように南に向かって45cmほど張り出している。このような形状は4号竪穴住居跡や41号竪穴住居跡にみられ、上述した張り出し部分の層位の在り方は4号竪穴住居跡に通じるところがある。

#### 出土遺物（図版25、第94図、第30表）

6は山陰系二重口縁壺。罐部は丸く收める。

7は直口壺。調整は丁寧で、胎土も精良。

8は在地系の壺。口縁端部を内側にややつまみ出し丸く收める。9～17は布留系壺。9のように口縁端部を丸く收めるものや面をなすものがある。

18は脚付き鉢の脚部分。円孔が1ヶ所に残る。19は小形器台。円孔が1ヶ所に残る。

20・21は半島系土器の小片。ともに陶質で、調整は外面が繩文文タキで、内面調整は20がヨコナデ、21がナデ。

#### 45号竪穴住居跡（図版17、第95図）

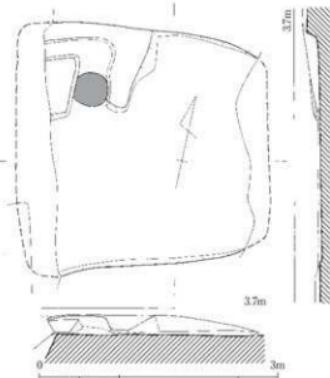
調査区の中央部東壁寄り、41号竪穴住居跡の北側に位置する。西壁はブルー基礎によって損壊し、また、東側は削平を受けて壁は遺存していない。平面プランは西側に向かってやや幅が広がる略方形を呈する。規模は南北長3.20mを測る。主軸をN-12°-Wにとる。カマドを付設する。床面の標高は3.4m。

埋土中から小形の砥石が出土している。

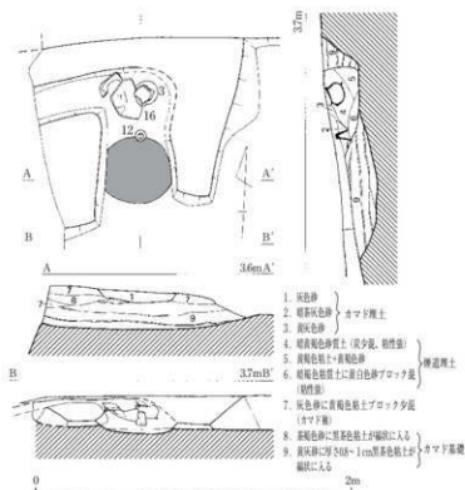
#### カマド（図版17、第96図）

住居跡北辺の西に偏って付設される。燃焼部の主軸は北壁と直交する。

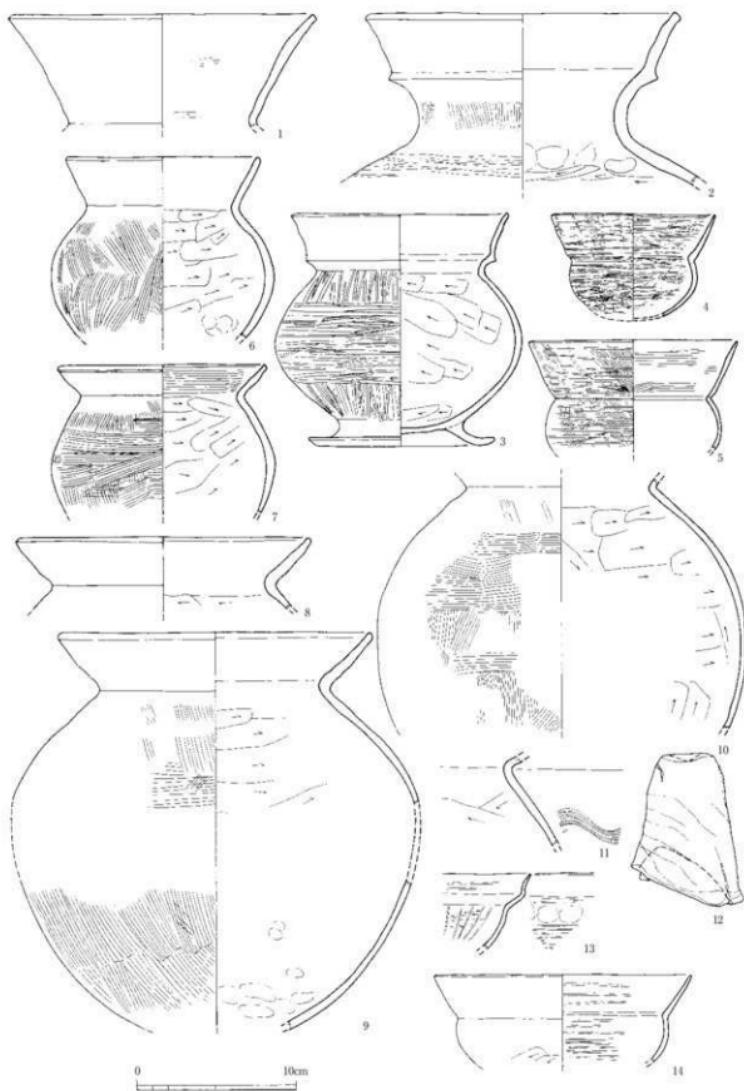
カマドの構築土は灰色砂に黄褐色粘土ブロック土（⑦）と、茶褐色砂に黒茶色粘土が織状に入る土（⑧）からなる。カマド袖の構築に先立って深さ17cmの掘り込みを行い、厚さ3～7cmの黄灰色砂に、厚さ0.8～1.0cmの黒茶焼土を交互に充填している（⑨）。住居跡北壁から60cmほどの床面に支脚として転用された高壠の脚部が配される。支脚の前面は41cm×



第95図 45号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第96図 45号竪穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第97図 45号竪穴住居跡出土土器実測図 1 (1/3)

42cmの範囲で床面が硬化している。

煙道はカマド燃焼部の最奥部で屈曲し、住居北壁に沿って西に延びる。縦断面で観察されるように、煙道部の基礎はカマドの基礎地業と一連の作業によって構築されている(⑨)。煙道は上半部が失われているが、径24cmほどになる。煙道の底面レベルは西に向かって僅かに高くなり、燃焼部とのレベルとも著しい差はないが、カマドの最奥部は燃焼部よりも一段低くなっている。縦断面の土層では、煙道の埋土である⑤⑥層堆積後に支脚を据えた状況が観察されたため、検出された支脚は当初のものではない。なお、煙道埋土中より半島系土器がまとまって出土した。

#### 出土遺物（図版25、第97・98

図、第30表）

1は壺で口縁端部は面をなす。2・3は山陰系二重口縁壺。3は脚付で全体的に薄く丁寧な作りである。外面は縦位のミガキの後、中位のみ横位のミガキを施している。煙道から出土。4・5の小形丸底壺も器壁が薄く丁寧な作り。6は外反する長めの口縁をもつもの。端部は丸く收める。壺として報告するが、甕との種別が困難な個体である。

7～11は布留系甕。7～10は口縁端部を丸く收め、内側にわずかに段をもつ。

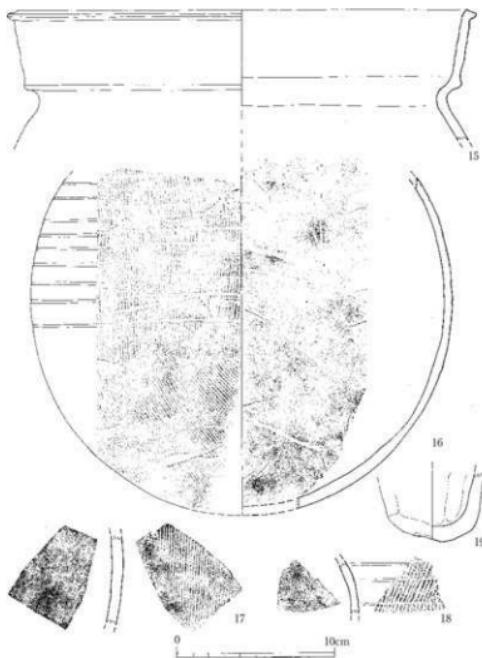
12は高壺の裾部を傾斜をつけて打ち欠き支脚として転用したもの。ほぼ図示した傾きでカマドに据えられていたもので、図面の右側が焚口側（前）になる。支脚の下部が同じ幅で強い熱を受け、灰色に変化・硬化している。

13は畿内系二重口縁鉢で極めて薄く仕上げられる。14は外反口縁鉢。15は山陰系二重口縁鉢で、口縁端部は外方に長くつまみ出される。

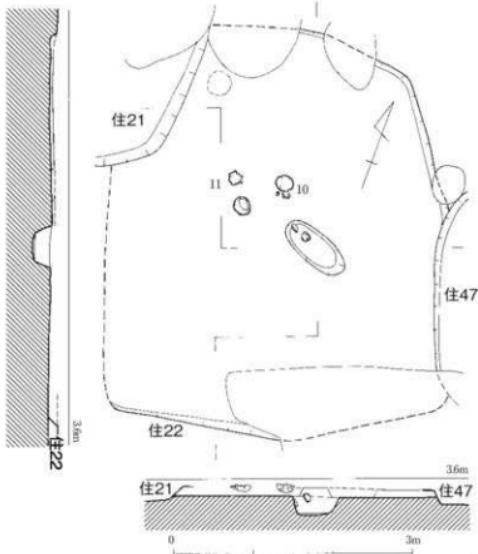
16～18は半島系土器。煙道から出土。底部内面に部分的にハケが残る。18は壺の肩部にあたる小片で、外面は繩文文タタキ。

19はタコ壺の破片。

#### 46号竪穴住居跡（図版16、第99図）



第98図 45号竪穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)



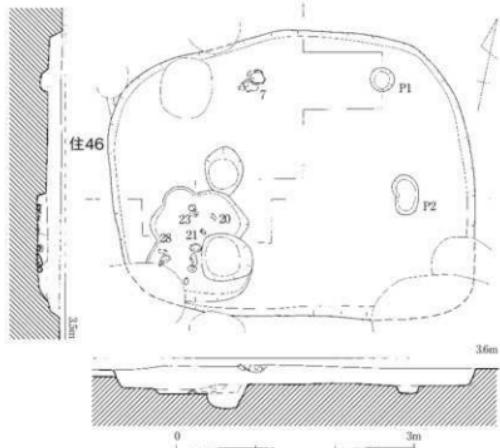
第99図 46号竪穴住居跡実測図 (1/60)

発掘区の南東部、21号竪穴住居跡の東側に位置する。西壁は削平を受け遺存していない。21号竪穴住居跡に切られ、22号竪穴住居跡・48号竪穴住居跡を切っている。検出時には47号竪穴住居跡が46号竪穴住居跡よりも新しいとの判断をしたが、出土遺物からみると明らかに47号竪穴住居跡の方が古相を示す。規模は東西長5.20m、現存南北長4.20mを測る。主軸をN-Wにとる。床面の標高は3.4m。住居跡の中央部よりやや東寄りで長円形の土坑(D1)を検出した。規模は長軸長89cm、短軸長37cm、深さ22cmを測る。埋土中に炭化物を含んでおらず、また、通有の焼跡に比べて深い。床面で他に径29cmの柱穴をひとつ検出したが深さ7cmと浅い。

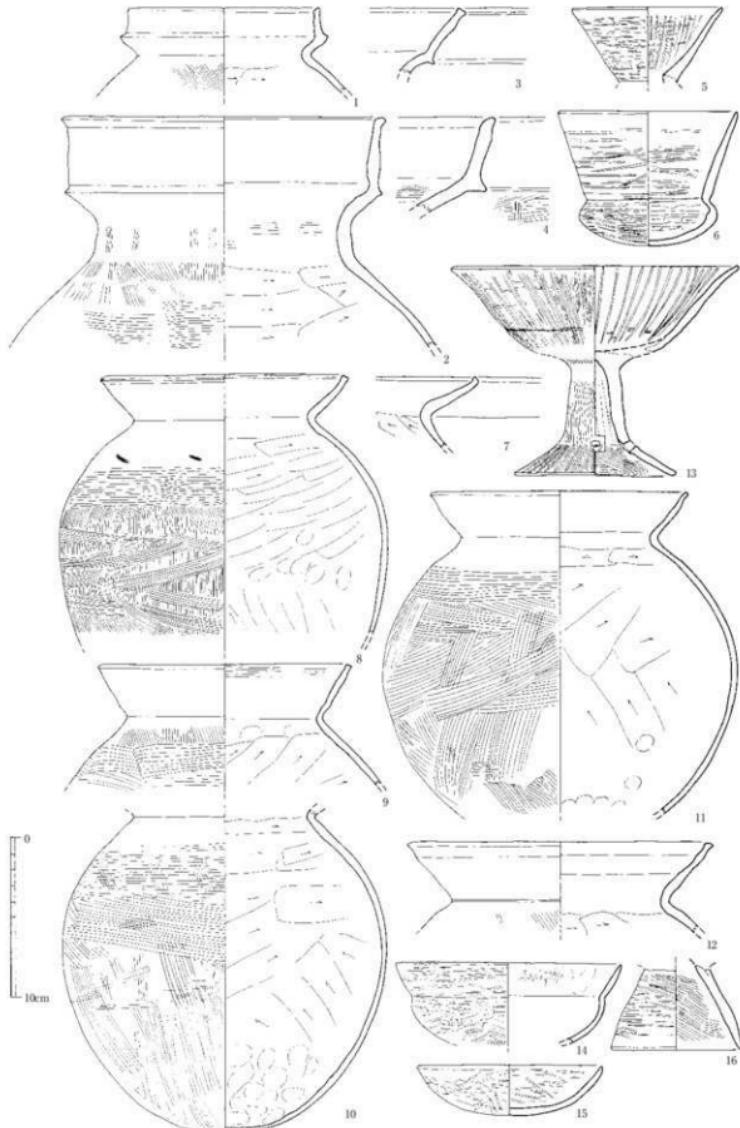
#### 出土遺物 (図版25、第100図、第31表)

1～4は山陰系二重口縁壺。1は口縁部が短く直立する。4は屈曲部が外方に大きく張りだす。5・6は小形丸底壺。5は胴部の径が小さくなることから他の器種を考えた方がよいか。6は口縁部が長く伸び、胴部高が低くなる比較的新しい時期に属するタイプ。

7～12は布留系甕。7は口縁端部がしっかりとした面をなすもので、内側の段も明瞭である。10・11の底部内面には指頭圧痕が顯



第100図 47号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第101図 46号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

辨別番号	国版番号	出土土	器種	法基 (mm)	形状	被成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録番号	
100-1	住46層上	山陰系二重口縁壺	口径120	粘土壺。1~3mm 石英多	良好	淡黃白色	口縁直立。斜外ハケ。内ケズリ。	1/4			620	
2	住46層上	山陰系二重口縁壺	口径204	粘土壺。1~3mm 石英多	良好	黄褐色	内縁ハケと直立。内内ハケ強め コギ、削ケズリ。	1/3			619	
3	住46層上	山陰系二重口縁壺		粘土壺。1~3mm 石英多	良好	黄褐色~黄灰色	内内コナデ		小所		621	
4	住46層上	山陰系二重口縁壺		粘土壺。1~3mm 石英多	やや甘い	明黄褐色	口縁直立が外方に広く突出。外縁 ハケ~暗文、内縁ハケ。		小所		622	
5	住46層上	直口壺	口径94	粘土壺。砂粒をほ んと含む	良好	淡黄褐色、内側黄 褐色	外ミガキ、内ミガキ~斜対角の横文。	1/3			624	
6	25	住46層上	小形丸底 壺、器高83	粘土壺。1~3mm 石英多	やや甘い	内黄褐色~灰褐色。 内内色	口縁が直く、腹部が広い。外・口縁 内内いミガキ。削ケズリ後ナダ。	1/2			613	
7	住46層上	布留系壺		粘土壺。1mm石英 少	やや甘い	淡黃褐色	通常が圓になす。瓶内ケズリ。		小所	復元品	617	
8	住46層上	布留系壺	口径154、脚径 204	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黃白色	前にハケ工具端跡と。外縁ハケ~ 直ハケ。内ケズリ。オモサニ模様。	1/2	復元品		376	
9	住46層上	布留系壺	口径156	粘土壺。1~3mm 石英多	良好	明黄褐色	外縁ハケと直ハケ。口縁内ハケ強め コギ、削内ケズリ。	1/4			615	
10	25	住46S3	布留系壺 脚付202、器高 97	粘土壺。1~3mm 石英多	良好	黄褐色	外縁ハケと直ハケ。内ケズリ。近内 口縁以降完全 直縁状。	1/2	復元品		612	
11	住46層上	布留系壺	口径150、脚径 222	粘土壺。1mm石英 多	良好	黄褐色~黒褐色	外縁ハケと直ハケ。内ケズリ。底内 直縁状。	1/3			618	
12	住46下層	布留系壺	口径199	粘土壺。1mm石英 少	良好	黄白色	口縁直立。腹部外にまみ出す。外 縁ハケ、内ケズリ。	1/5			616	
13	住46P1	高坏	口径180、脚径 54、器高100	粘土壺。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	斜底深溝。斜外ハケ~直ハケ~暗 文、内ヨコナデ~斜射状暗文。脚外 ハケ~直ハケ~内ハケ。外縁ハケ、 内内ケズリ。	1/2			626	
14	住46層上	外縁口縫 器	口径141、器高 50	粘土壺。砂粒をほ んと含む	やや甘い	明黄褐色	外縁ハケ強めミガキ。内縁ハケ後ナダ。 底外ケズリ後ミガキ。	1/4			623	
15	25	住46P1	器	口径115、器高 31	粘土壺。1mm石英 少	良好	黄褐色~黄灰色	内ケズリ後ミガキ。内ミガキ。	完形			614
16	住46層上	器台	脚付83	粘土壺。1~3mm 石英少	良好	明黄褐色	外ミガキ。内縁ハケ。	1/3			625	

第31表 46号竪穴住居跡出土土器観察表

署に残る。12は口縁端部を外方につまみ出するもの。

14は外反口縁鉢。

#### 47号竪穴住居跡（図版18、第101図）

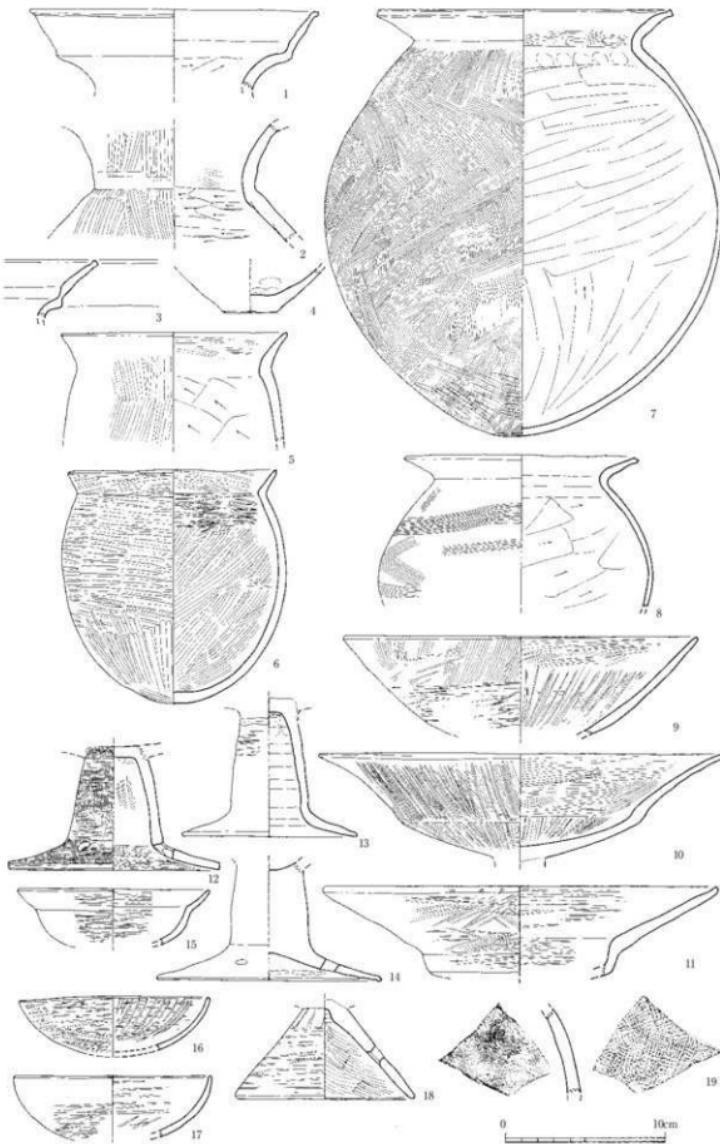
発掘区の南東部、46号竪穴住居跡の東側に位置し、これより古い。平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は東西長4.59m、南北長3.61mを測る。主軸をN-12°-Wにとる。床面の標高は3.3m。4ヶ所で柱穴を検出したが、主柱穴となるかどうかについては判断しがたい。また、住居跡の南西部で不整形の土坑を検出した。床面はフラットで、タコ壺4個体と円碟・角碟6個が出土した。なお、P1・P2からもタコ壺が出土している。

#### 出土遺物（図版25・26、第102・103図、第32表）

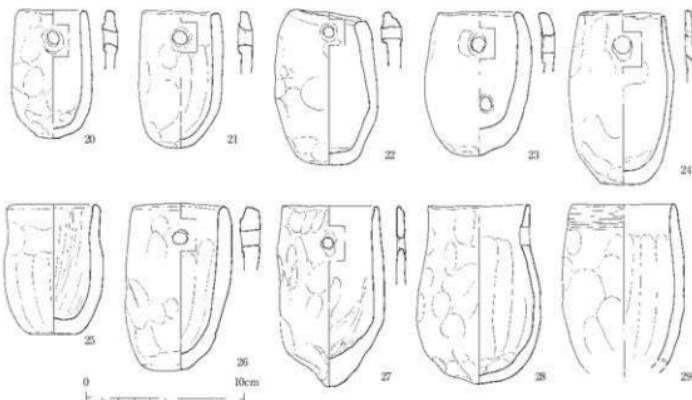
1~3は山陰系二重口縁壺。4は第五様式系の壺の底部で平底となる。

5は在地系壺で口縁部は緩く外反する。6の口縁は短く直線的に伸び、端部は先細っている。外面の調整はやや左上がりの粗い平行タタキの後、底部に極めて粗いミガキ風の工具ナデを行う。7は第五様式系の壺。倒卵形の体部に短く外反する口縁が付く。口縁端部は面をなしている。底部は平底気味である。底部外面にはタタキの痕跡がかすかに残る。8は布留系壺。

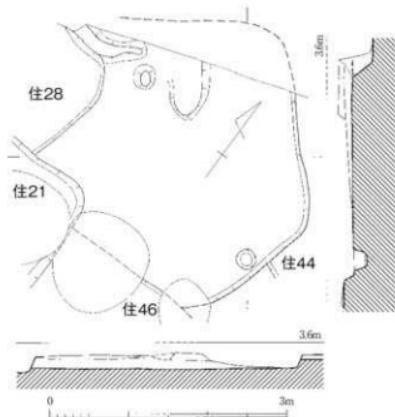
9~14は高坏。やや内済しながら直線気味に延びるもの、口縁部が外反しながら長く延びる



第102図 47号堅穴住居跡出土土器実測図1 (1/3)



第103図 47号竪穴住居跡出土土器実測図2 (1/3)



第104図 48号竪穴住居跡実測図 (1/60)

側に位置する。44号竪穴住居跡を切り、21号竪穴住居跡・28号竪穴住居跡・46号竪穴住居跡に切られる。北側はブルの基礎によって削平されている。平面プランについては壁の一部しか確認しておらず、また、この検出した2壁が鈍角に折れるため、このライン自身についても今ひとつ確信が持てない。ただ、想定される住居跡の北辺部においてカマドを付設することが確認された。

ものなどがある。11は吉備系の高環杯部で、杯部に段を持つ。

15～17は鉢。15は短く外反する口縁を持つ。

19は半島系土器の壺の小片。調整は外側が網代状の平行タタキ、内面はヨコナデで指頭圧による凹凸が著しい。

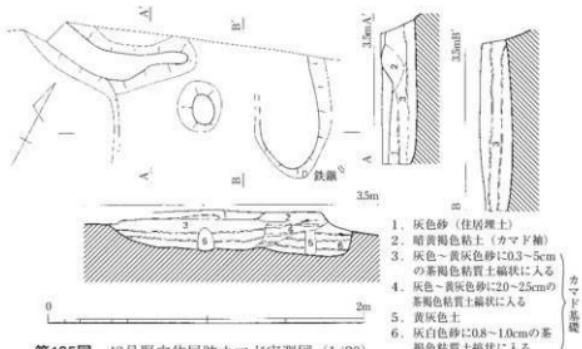
20～29はタコ壺。口径4.8～6.6cm、 $\frac{99}{100}$ 高8.0～11.4cmを測る。底部形状は24～26が平底、27が尖底となる。27を除き、いずれも外側から穿孔する。23は2方に穿孔を行う。27は底部付近が2次加熱を受けて器面が部分的に剥落している。28は口縁部下でややすはまる形狀で、器壁が薄い。29の口縁部外面はハケ状工具によるヨコナデ調整。

#### 48号竪穴住居跡（第104図）

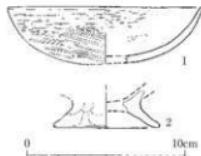
発掘区の南東部、46号竪穴住居跡の北

補圖 番号	国版 番号	出土 遺構等	部種	法量 (mm)	地土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
HG2-1	住47D-1	山陰系二 重口縁型	口径180	粘土層。1mm石英 多。	良好	黄褐色	内ケズリ強コナデ。	1/5		649	
2	住47D-1	山陰系二 重口縁型	口径100	粘土層。1~3mm 石英多。	良好	黄褐色	口縁内ハケ強ナデ。側内ケズリ。	1/2		650	
3	住47覆土	山陰系二 重口縁型		粘土層。1~3mm 石英多。	良好	黄褐色	内外コナデ。	小片		648	
4	住47D-1	追加様式 高足	径34~39 高さ多。	粘土層。1mm石英 多。	良好	暗黃褐色	手燒。内外ナデ。表面干紙銀。	底端完存		658	
5	住47覆土	埴地系裏 窓型	口径42	粘土層。1~3mm 石英多。	良好	明黃褐色	口縫縦く外弧。外輪ハサ。口縫内横 ハケ。側内ケズリ。	1/4		645	
6	26	住47覆土	埴地系裏 窓型	口径120、側厚 140、高さ145 石英多。	粘土層。1~3mm 石英多。	良好	明黃褐色	外端にテカリ。底盤1~1.5mm。口縫 内~側内ハケ。側内弱ハケ。	口縫~側 窓	複数	637
7	25	住47覆土	追加様式 高足	口径185、側厚 280、高さ185 石英多。	粘土層。1mm多	良好	外黃白色。内5mm 褐色	口縫端部をなす。外縫一層ハケ。 内ケズリ。外縫左上がりタカハシハ ケ。	口縫1/2 丸		638
8	26	住47覆土	埴地系裏 窓型	口径140、側厚 164	粘土層。1~3mm 石英多。	良好	暗褐色~黒褐色	丸ハサ。内ケズリ	1/3		642
9	住47覆土	高环	口径222	粘土層。砂粒を含 むなど含まず	良好	明黃褐色	丸ハサ後下モゼキ。内ミガキ→致 密状態。	1/4		655	
10	25	住47覆土	高环	口径154	粘土層。砂粒少 量	良好	暗褐色	口縫端部く外弧。外ハサ→暗玉。内 ミガキ。	4/5		635
11	住47覆土	合備系裏 窓型	口径240	粘土層。微砂粒少 量	やや甘い	黄褐色	外ミガキ。内ミガキ	1/3	弧曲形	656	
12	26	住47覆土	高环	口径132	粘土層や細根。1石 高少	良好	内縫強烈。内側 花3万。外縫ハセキ後ミガキ。柱内縫 ナデ。側内側ハセ。	脚部1/3 丸		634	
13	住47覆土	高环	口径108	粘土層。微砂粒少 量	やや甘い	淡黃褐色	外ミガキ。内ヨコナデ。	1/2		657	
14	26	住47覆土	高环少 鉢	口径140	粘土層。1mm石英 多。	良好	黄褐色~茶褐色	内ナデナダ。致密状態。	1/2		651
15	住47覆土	馬頭口縫 鉢	口径135、残高 35	粘土層。粘土±12 mm	良好	半褐色	内内ミガキ。	1/3		654	
16	26	住47覆土	鉢	口径118、残高 34	粘土層。1mm石英 少	良好	淡黃褐色	外ミガキ。内ミガキ→致密状態。	1/2		652
17	住47覆土	鉢	口径124、残高 38	粘土層。砂粒を含 むなど含まず	良好	黄褐色	外ケズリ強ミガキ。内ミガキ。	1/5		653	
18	26	住47覆土	鉢	口径112、残高 61	粘土層。1~3mm 石英少	良好	明黃褐色	丸2万。外擦ミガキ。内縫ハセ。	脚部完存		636
19	29	住47覆土	平高系土 器	粘土層。砂粒を含 むなど含まず	陶質、堅壁	茶~灰色	外網代状平行タキ。内ヨコナデ。 凸凹著しい。	小片		1153	
103-26	26	住47D-1	ヨコ蓋	口径48、器高60	粘土やや粗	良好	黃白色	ヨコナデ。内ヨコナデ。	完形	628	
21	26	住47D-1 No.3	ヨコ蓋	口径48、器高65	粘土やや粗	良好	黄褐色~黃白色	ヨコナデ。内ナデ上ナフ。	完形	625	
22	26	住47覆土	ヨコ蓋	口径48、器高60	粘土やや粗	良好、黒度 高	黄褐色	内ナデナ。	未み審し	631	
23	26	住47D-1No.3	ヨコ蓋	口径50、器高60	粘土やや粗。1~ 3mm石英多。	やや甘い	明黃褐色~暗褐色	丸上2万。内外ナデ。	ほぼ完形	630	
24	26	住47P2	ヨコ蓋	口径55、器高 109	粘土やや粗	やや甘い	黄褐色	手燒。内内ナデ。	完形	627	
25	住47覆土	ヨコ蓋	口径58、底径 32、器高61	粘土層	良好	淡黃褐色	手燒。丁寧な作り。内ナデ。内ナデ上ナフ。			640	
26	住47覆土	ヨコ蓋	口径65	粘土やや粗	良好、黒度 高	黄褐色	手燒灰端。外ナデ。内ナデ上ナフ。	完形		632	
27	住47P1	ヨコ蓋	口径60、器高 114	粘土やや粗。1~ 2mm石英多。	良好	暗褐色	手燒。外ナデ。内ナデ上ナフ。	口縫一部欠 熱を受け器面潤滑。		633	
28	住47D-1	ヨコ蓋	口径64、底径 28、器高113	粘土層	良好、黒度 高	明黃褐色	手ナデ。内ナデ上ナフ。	完形		629	
29	住47覆土	ヨコ蓋	口径66、残高 102	粘土層。1~3mm 石英多。	良好、黒度 高	明黃褐色	口縫ハセ放工具ヨコナデ。外ナデ。 内ナデ上ナフ。	1/2		641	
106-1	26	住48覆土	鉢	口径25、器高 35	粘土層。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内内ミガキ。	4/4		660
2	住48覆土	陶器上器	口径47	粘土層	良好	黄褐色	内ナデナダ。底形時の指サエ痕明 顯。	1/2		601	

第32表 47・48号竪穴住居跡出土土器観察表



第105図 48号堅穴住居跡カマド実測図 (1/30)



第106図 48号堅穴住居跡出土  
土器実測図 (1/30)

は大きく3層に分かれる(③④⑥)。下層地業の上面(袖積み土の下面)と下層埋め土中(⑥)から鉄錠が出土した。

#### 出土遺物 (第106図、第32表)

1は鉢。2は製塙土器。

#### (2) 土坑と出土土器

##### 51号土坑 (第107図)

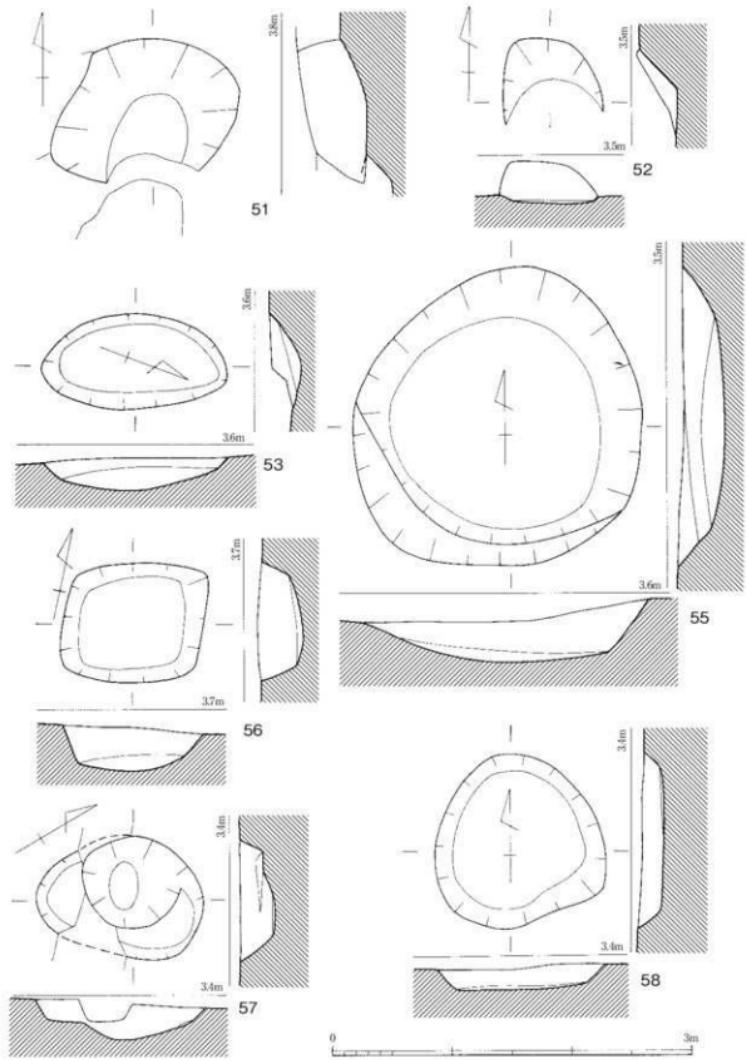
発掘区の南西部、3号堅穴住居跡の東側に位置する。南半は擾乱によって大きく削られ、また、3号堅穴住居跡に切られる。平面プランは円形を呈するものと思われ、規模は現状で径1.65m、深さ0.60mを測る。

##### 出土遺物 (第108図、33表)

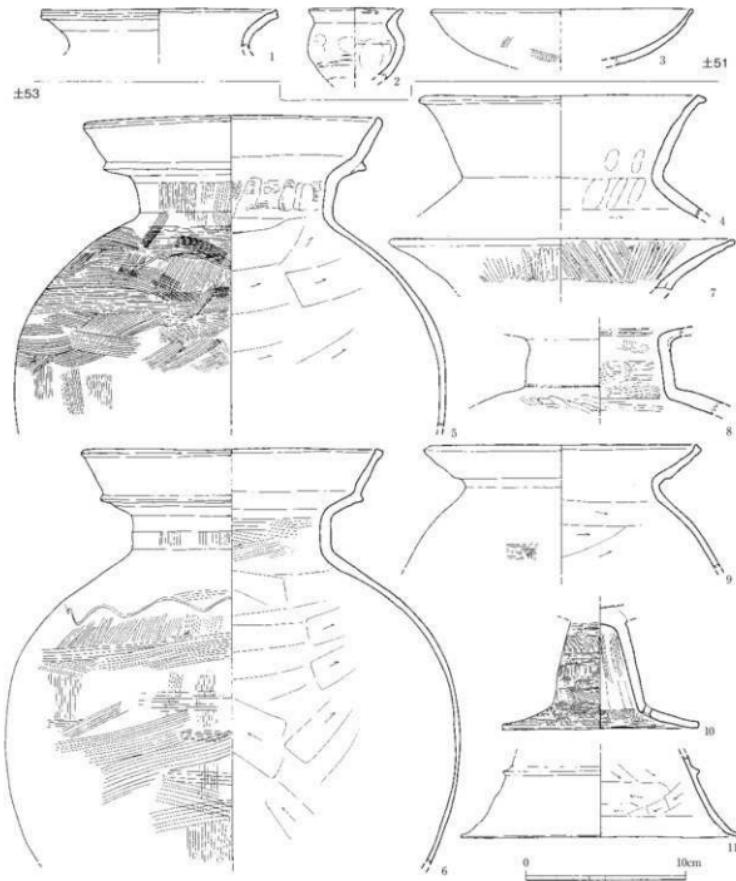
1は布留系壺の口縁部破片。2は小形の壺。外面下半の調整は板状工具オサエ。3は丸底の鉢。

##### 52号土坑 (第107図)

発掘区の中央部西寄り、13号堅穴住居跡の南側に位置する。大半が擾乱によって損壊しているが、北半部がかろうじて遺存していた。現状で長軸長0.70m、深さ0.34mを測る。



第107図 51-53・55-58号土坑実測図 (1/40)



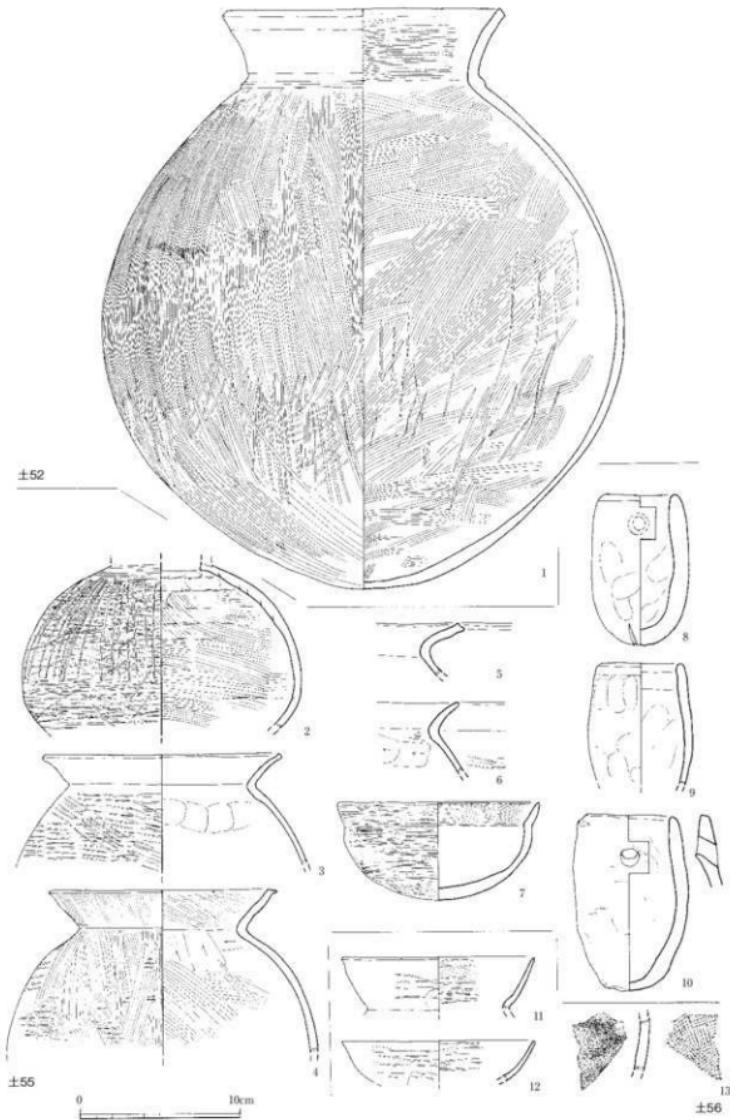
第108図 51・53号土坑出土土器実測図 (1/3)

#### 出土遺物 (第109図、第33表)

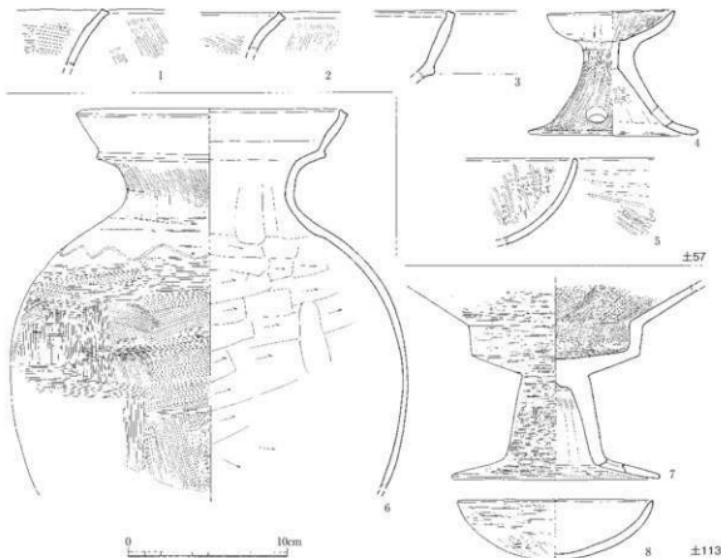
1は畿内系直口壺。口縁部は短く外反し、端部に面をなす。頸部に低い断面三角形の突帯を巡らせる。外面調整は縦方向のハケで、下半部は粗いハケの後部分的にミガキを施す。

#### 53号土坑 (第107図)

発掘区の中央部西寄りに位置する。13号竪穴住居跡の検出面で確認した。埋土は黒茶色土で13号竪穴住居跡のそれと似る。すり鉢状に壅み、床面がフラットにならないことや埋土を考え



第109図 52・55・56号土坑出土土器実測図 (1/3)



第110図 57・113号土坑出土土器実測図 (1/3)

ると、あるいは13号竪穴住居跡の最終埋没段階に土器が一括投棄された、住居と一連の土坑とも考えられる。

#### 出土遺物（図版26、第108図、第33表）

4は直口壺。口縁端部は外方に長くつまみ出す。5・6は山陰系二重口縁壺。ともに肩部にヘラ描き波状文を廻す。7・8は畿内系二重口縁壺。

9は布留系甕。10は高坏。11は山陰系鼓形器台。

#### 55号土坑（第107図）

発掘区の中央部、13号竪穴住居跡の東側で検出した。平面プランは円形を呈する。規模は2.48m×2.43m、深さ3.3mを測る。底面はフラットに近いが中央部がやや窪む。

#### 出土遺物（図版26、第109図、第33表）

2は畿内系二重口縁壺の胴部片。胴部のやや下位に最大径がくる。

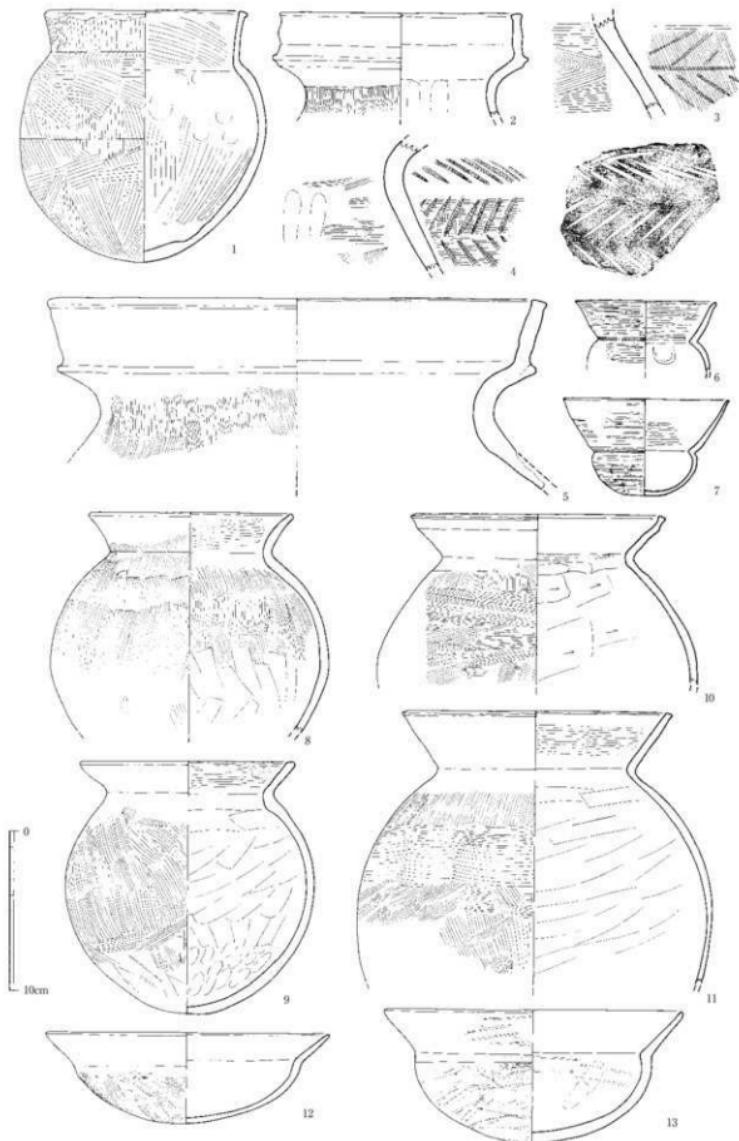
3は庄内系甕。外面に水平な平行タタキ・左上がりのタタキ痕が顕著に残る。口縁端部は丸く取め、内側に浅い段をもつ。4は布留系甕。外面には水平な平行タタキ痕が残る。口縁端部は外方に長くつまみ出す。5は小片であるが器形からみて庄内系甕か。

7は短く外反する口縁を持つ鉢。

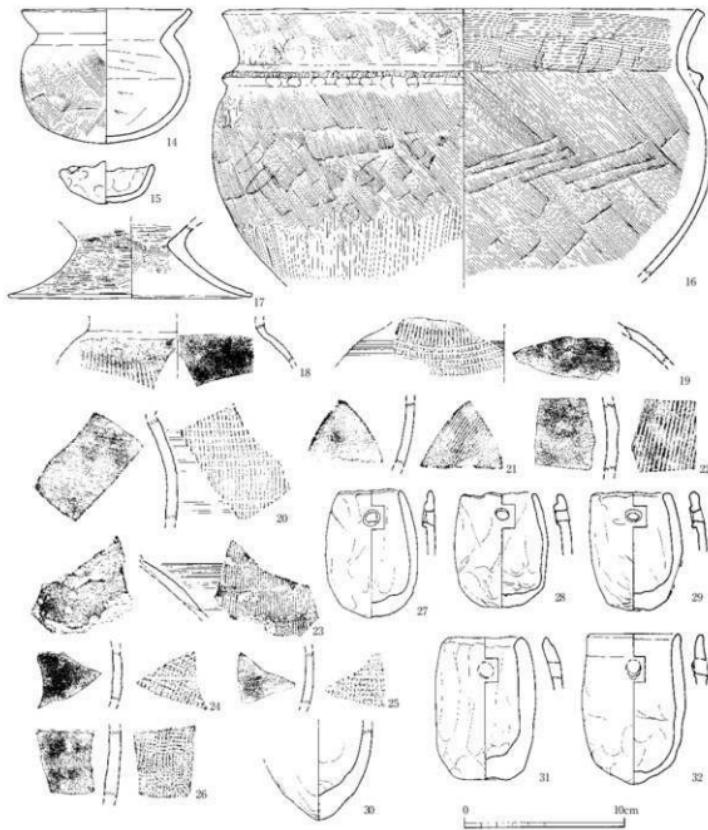
8～10はタコ壺。8の底部にはヘラ状工具端による線刻が残る。

補國 番号	国別 番号	出土 遺物等	器種	法案 (m)	胎土	焼成	色調	形容や特徴	残存率	備考	登録 番号
108-1		上51層上 布留系裏	口径148	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内斜ヨコナギ	1/6		801	
2		上51層上 小形甕	口径168、脚(66)	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青褐色	内斜ナギ	外側下部キズ。	1/4	重付番	803
3		上51層上 鉢	口径164	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	内斜ナギアカ。	内ミガキア。摩滅 著しい。	1/6		802
4		上53層上 直口盆	口径180	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	内斜湖底外方につまみ出す。口縁内 内ヨコナギ。	1/4		806	
5	26	上53層上 山形 第二 直口碗	口径198、脚(66) 266	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	灰褐色	内斜ハケ無。	内斜ヨコナギ。	1/4		812
6	26	上53層上 山形 第二 直口碗	口径190、脚(66) 284	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内斜ハケ無。	内斜ヨコナギ状。	1/3		813
7		上53層上 畿内 第二 直口碗	口径216	粘土胎。砂粒を11 とんと含ます	良好	粗褐色	内斜ミガキ。	内側ハケ無ミガキ。	1/2		808
8		上55層上 直口碗	口径216	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	外ミガキ。	内側ハケ。	1/2		809
9		上55層上 布留系裏	口径174	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	内斜ヨコナギ。	内斜ハケ。内ケズリ。	1/6	重付番	805
10	26	上55層上 瓦坏	口径222	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	淡褐色	内斜ハケ→ミガキ。	孔2万。	脚定存		811
11		上55層上 山形 瓦坏	口径216	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	黄白色	内ヨコナギ。	内ケズリ。	1/6		807
109-1	26	上54層上 畿内 第二 直口碗	口径176、脚(66) 324、器高303	粘土胎。1~3mm 石英少	良好、黒塵	黄褐色	内斜ハケ。下平タキ痕無いハケ後 ヒ。	内斜ヨコナギハケ。脚定存		804	
2	26	上52層上 畿内 第二 直口碗	口径174	粘土胎。砂粒を11 とんと含ます	良好	青褐色	内斜ヨコナギ。	内斜ハケ。内 内側ヨコナギ。粘土結合崩れ。	1/2		821
3		上55層上 直口碗	口径130	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内ヨコナギ。	内ケズリ。	1/3		816
4		上55層上 布留系裏	口径142	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内ヨコナギ。	内ケズリ。	1/2	重付番	815
5		上55層上 直口碗	口径136	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	内ケズリ。		小河		817
6		上55層上 布留系裏	口径136	粘土胎。1~3mm 石英多	良好	青黃褐色	内ヨコナギ。	内ケズリ。	小河		819
7		瓦 及 ブ 鉢	口径126、脚(66) 116、器高65	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	粗褐色	内斜ハケ後ミガキ。	口縁内横ハケ。 脚ケナギ。	1/2		814
8		上55層上 土器	口径32、器内 鉢	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	粗褐色	内斜ヨコナギ。	内側ハケによる縫隙。	1/2		822
9		上55層上 土器	口径34	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内ヨコナギ。	内ナダ上げ。	1/2		823
10	26	上55層上 土器	口径58、器高 111	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内斜ナギ。	口縁内斜ナギ。	1/2	重付定存	824
11		上56層上 小形 大頭 直口碗	口径130	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青褐色	内ヨコナギ。	内斜ハケミガキ。	1/3		826
12		上56層上 鉢	口径120	粘土胎。砂粒を11 とんと含ます	良好	青褐色	内ヨコナギ。	下平ケズリ。	1/5		827
13		上56層上 牛島 系 手 器		瓦張、堅韌	柔軟	青褐色	内斜代狀の平行タキ。	内ナダ。	小河		1156
109-1		上57層上 直口盆		粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青褐色	内斜ハケ。	内側ハケ。	小河		830
2		上57層上 直口盆		粘土胎。1~4mm 石英少	良好	青褐色	内斜ハケ。	内ナダ。	小河		829
3		上57層上 山形 第二 直口碗		粘土胎。1~2mm 石英少	良好	黄白色	内ヨコナギ。	内ヨコナギ。	小河		828
4	27	上57層上 東海 系 手 器	口径78、脚(66) 106、器高78	粘土胎。1~2mm 石英少	良好、黒塵	青褐色	内斜ハケ無。	内斜ヨコナギ。	1/4	未収	833
5		上57層上 鉢		粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青褐色~茶褐色	内斜1サギ。		小河		831
6	27	土 113 層 上 山形 第二 直口碗	口径201、脚(66) 250	粘土胎。1~5mm 石英多	良好	青褐色	内斜ハケ無。	肩にヘラ模様。	口縁定存		922
7	27	土 113 層 上 吉備 系 手 器	口径130	粘土胎。1~2mm 石英少	良好	青黃褐色	内斜ハケ無。	内ヨコナギ。	1/3		923
8	27	土 113 層 上 鉢	口径122	粘土胎。1~3mm 石英少	良好	青黃褐色	内ヨコナギ。	下平ナダ。	1/2	未収	924

第33表 51~57・113号土坑出土土器観察表



第111図 その他の遺構出土土器実測図 1 (1/3)



第112図 その他の遺構出土土器実測図2 (1/3)

#### 56号土坑（第107図）

発掘区の中央部やや南寄りに位置する。23号竪穴住居跡の床面で検出した。平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は長軸長1.17m、短軸長10.0m、深さ0.39mを測る。

#### 出土遺物（図版26、第109図、第33表）

11は小形丸底壺の破片。12は鉢。13は半島系土器の小片で、外面に網代状の平行タタキが残る。内面調整はナデ。

#### 57号土坑（第107図）

発掘区の南部中央に位置する。15号竪穴住居跡の床面で検出した。中央を擾乱溝によって切

られる。平面プランは卵形を呈する。規模は長軸長1.40m、短軸長1.04m、深さ0.34mを測る。東側から南側にかけてテラスを有する。

#### 出土遺物（図版27、第110図、第33表）

1・2は直口壺の小片。調整は内外ともハケ。3は山陰系二重口縁壺。4は東海系の小形器台。受け部は浅い丸底で、調整は外面が板ナデ、内面が縦方向のミガキ。脚部は外面が板ナデ後縦方向のミガキ、内面は中位がナデ、その上下は横方向のハケ。受け部中央から下方に向かって径1.15cmの円孔が貫通する。据部には同径の円孔が3方向にあけられる。5は丸底の鉢。

#### 58号土坑（第107図）

発掘の南西隅部の別区に位置する。27号竪穴住居跡の床面で検出した。平面プランは略円形を呈する。規模は径1.48m、深さ0.20mを測る。底面はフラットである。

#### 59号土坑

発掘の南西隅部の別区に位置する。27号竪穴住居跡の床面で検出した。北側を搅乱によって損壊するが、平面プランは稍円形を呈するものと考えられる。規模は長軸長1.73m、深さ0.07mを測る。底面はフラットである。

#### 113号土坑

発掘区の南東部に位置する。31号竪穴住居跡を切る。径1.15m、深さ50cmを測る。埋土は黒灰色土。

#### 出土遺物（図版27、第110図、第33図）

6は山陰系二重口縁壺。外面調整は縦方向のハケ後上半部横ハケ。肩部にはヘラ描き波状文を巡らせる。頸部内面はナデ上げで、指頭痕が明瞭に残る。7は吉備系の高坏。受け部が明瞭な段をなして二段になる。調整は外面が縦方向のハケ後横位のミガキ。内面は受部が横方向のハケ後密な暗文。坏部は放射状のミガキを施す。据部の孔は3方向。8は丸底の鉢。底部はケズリ後ミガキ。

#### （3） その他の遺構、層位等出土土器

##### その他の遺構出土土器（図版27・29、第111・112図、第34表）

1は直口壺。口縁は短く直立し、端部は肥厚する。2～5は山陰系二重口縁壺。2は口縁部が直立するもの。3・4は壺の肩部の小片で、工具黄圧による羽状文を入れる。6・7は小形丸底壺。

8～11は布留系壺。1は口縁端部に面をなす。8・11は頭が縮まる形態。9は全体的に器壁が分厚い。底部内面に指頭圧痕が顕著である。

12・13は外反口縁鉢。14は小形の壺。全体的に器壁が厚く、特に頸部は分厚い。15は手捏ねの鉢。全体に指頭圧痕が残る。16は大形の鉢。外面調整は斜め方向のハケ後、下半部に縦方向のミガキを施す。

18～26は半島系土器。18～20・23は壺の肩部小片。18～23は平行タタキ、24・25は格子タタキ、26は網代状の平行タタキ。

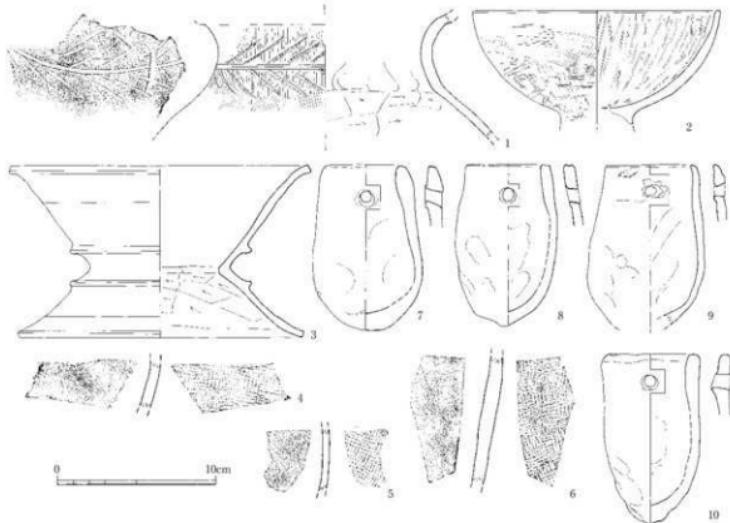
27～32はタコ壺。28は器壁が薄い。31は平底。器壁が厚い。

##### 黄褐色土層、灰色砂層出土土器（図版27、第113図、第35表）

1は山陰系二重口縁壺の頸部から肩部にかけての破片。ハケ状工具押圧による有軸羽状文を

博物 館番号	国版 番号	出土 場所等	形種	法長 (mm)	胎土	焼成	色調	形容や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
111-1	27	A504櫛田 町	口付28cm、刷毛 152、器高156	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好、黒墨	黄褐色	口縁内側トケ、内斜トケ、刷毛斜ハ ケ、内縫ハケ。陶器は灰、成内ナダ、 ドモ深定存	1/2	982		
2		D614櫛田 寺	口付352	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗黃褐色	口縁内側チヂマ。器底内縫ハケ、内 ナダ上。	1/2	1072		
3		D610櫛田 山地系二 重3層台	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗黃褐色	内縫ハケ+工具痕跡に2本有側切 伏足。内縫のハケ。	小河	1084			
4		D514櫛田 寺	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗黃褐色	内縫ハケ+工具痕跡に2本有側切 伏足。内ナダ上げ(内縫ハケ)。	小河	1085			
5		上34覆土 山地系二 重3層台	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	器壁厚い、外縫ハケ、内ナダ。	1/4	752			
6	27	C414櫛田 山地系二 重3層台	口付688	粘土繊、砂利を含 むなど含まず	良好	暗黃褐色、内蓋 褐色	内縫ハケ後+ガキ。口縁内にガキ。 側内ナダ。	1/4	1061		
7	27	満10覆土 山地系二 重3層台	口付104、 66、器高600	粘土繊、砂利を含 むなど含まず	良好、黒墨	暗黃褐色	内ナダ。刷毛チヂマを含むガキ。 口縁1.8残、 側内ナダ、刷毛内ナダ。	1/2	951		
8	27	上303覆 土 布留系 山地系二 重3層台	口付128、 174	粘土繊、 1~3mm 石英少	やや甘い	黄褐色	内縫ハケ、内口縫横ハケ、刷毛縫ハ ケ、瓶底チヂマ。	1/2	905		
9	27	上310覆 土 布留系 山地系二 重3層台	口付154、 156、器高157	粘土や砂、1~ 5mm石英少	良好	黄褐色	器部分厚い、外縫ハケ、内口縫横ハ ケ、瓶底ハケ。刷毛チヂマ。	1/2	922		
10		A614櫛田 布留系 山地系二 重3層台	口付150、 刷毛	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内縫ハケ+横ハケ。内ナダ。	1/4	1003		
11	27	上303 布留系 山地系二 重3層台	口付168、 220	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄褐色	内縫ハケ+横ハケ。口縫横ハケ、 瓶底チヂマ。	1/3	906		
12	27	C414櫛田 山地系二 重3層台	口付177、 56	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	黄白色	内縫のハケ。その他素面しく不 均。	1/3	1060		
13		上310覆土 山地系二 重3層台	口付188、 162	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	暗茶褐色	内縫ハケ後+ガキ。内ナダ。	1/4	880		
112-14	27	麻山山 地系二 重3層台	口付196、 104、器高83	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	基底色	内縫ハケ。内ナダ。	1/2	910		
15	27	AN54櫛田 寺	手捺ね拂	口付56、器高26	粘土や砂、1~ 3mm石英少	良好	素褐色	陶氷柱状痕跡。	1/2	967	
16		上302 山地系二 重3層台	口付302、 312	粘土繊、 1~3mm 石英少	良好	黄褐色	口縫粗く外見、口縫内側ハケ。瓶底 ハケ。	1/2	896		
17	27	A504櫛田 山地系二 重3層台	口付352、 器高152	粘土繊、 1~3mm 石英少	良好	暗黃褐色	内縫ハケ後+ガキ。内縫ハケ後+ガ キ。	1/4	964		
18	29	D514櫛田 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	灰褐色	内縫ハケ。内ナダ。	小河	1164		
19	29	満10 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白	灰白	灰褐色	外手打チキ。沈澱。内ヨコナダ。	小河	1167		
20	29	上38 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	灰褐色	外手打チキ。沈澱。内ヨコナダ。	小河	1157		
21	29	上303 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	灰褐色	内手打チキ。内ナダ。	小河	1156		
22	29	C414櫛田 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	淡黃褐色、断面薄 褐色	内手打チキ。内ナダ。	小河	1160		
23	29	A604櫛田 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	淡黃褐色	内手打チキ。内ナダ。	小河	1166		
24	29	D514櫛田 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白、 褐色、 砂利の2 つ	灰白	淡黃褐色	内手打チキ。内ナダ。	小河	1165		
25	29	上46 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 砂利を含 まず	灰白	灰白	内手打チキ。内ヨコナダ。	小河	1155			
26	29	C414櫛田 牛島系土 器系 山地系二 重3層台	粘土繊、 1~3mm 下斜粒少	灰白	暗灰褐色	内縫代瓦の平行チキ。内ナダ+内 コナダ。	小河	1161			
27	27	上34覆土 テコ蓋	口付52、 器高79	粘土や砂、 1~3mm 石英少	良好、 黒墨	黄褐色	内ナダ。内ナダ上げ。	1/2	690		
28	27	上34覆土 テコ蓋	口付46、 器高71	粘土繊、 1~3mm 石英少	良好	黄褐色	器壁薄い。内ナダ。内ナダ上げ。	1/2	667		
29	27	上34覆土 テコ蓋	口付50、 器高73	粘土や砂、 1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナダ。内ナダ上げ。	1/2	688		
30		AT54櫛田 寺	テコ蓋	粘土や砂、 1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナダ。内ナダ上げ。	底部のみ	1031		
31		上2 テコ蓋	口付46、 器高88	粘土や砂、 1~3mm 石英少	良好、 黒墨	黄褐色	手打。内ナダ。内ナダ上げ。	1/2	663		
32		AT54櫛田 寺	テコ蓋	口付60、 器高85	粘土や砂、 1~3mm 石英少	良好	黄褐色	内ナダ。内ナダ上げ。	1/2	1030	

第34表 その他の遺構出土土器出土土器観察表



第113図 黄褐色土層・灰色砂層出土土器実測図 (1/3)

種類 番号	因版 番号	出土 遺跡等	器種	法量 (mm)	黏土	焼成	色調	器形や技法の特徴	残存率	備考	登録 番号
113-1	AT1(黄褐色 土上層)	山陰系二 重口縁壺		粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰赤	円底ハケ→ハケ状工具溝による骨 縫合状況。内ケズリ。	1/5		1036	
2	AT1(黄褐色 土上層)	脚付き鉢		粘土細。1~2mm 石英少	良好	褐褐色	内底ハケ。下平ケズリ直ハケ接土サ キ。内ミガキ。	1/3		1033	
3	AG1(灰褐色 砂上層)	山陰系良 形足台		粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	褐褐色	外底コナ。内下平ケズリ。ナツカ。 1/3			1015	
4	CG1(灰褐色 土上層)	手島系土 器		粘土細。1~2mm 石英少	陶質。やや 白	灰赤	外側代状の平行タタキ。内ナヂ。小舟	小舟		1162	
5	AG1(灰褐色 砂上層)	手島系土 器		粘土細。1~3mm 石英少	陶質	灰赤	外側代状の平行タタキ。内ナヂ。	小舟		1159	
6	CG1(灰褐色 土上層)	手島系土 器		粘土やや粗。1~ 3mm石英少	陶質	灰赤	外側代状の平行タタキ。内ナヂ。墨 点。	小舟		1163	
7	DG1(灰 色 土上層)	タコ壺	口径50、高さ 104	粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	茶褐色	内外ナヂ。	完形		1041	
8	AT1(黄褐色 土上層)	タコ壺	口徑52、高さ 102	粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰赤	内外ナヂ。	完形		1029	
9	AT1(黄褐色 土上層)	タコ壺	口徑58	粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	茶褐色	外ナヂ。内ナヂ上げ。	3/4		1027	
10	AT1(黄褐色 土上層)	タコ壺	口徑62、高さ 107	粘土やや粗。1~ 3mm石英少	良好	黄灰赤	内外ナヂ。	1/2	復元前	1028	

第35表 黄褐色土層・灰色砂層出土土器観察表

施す。2は脚付き鉢。3は山陰系鼓形器台。4~6は半島系土器。外面に網代状の平行タタキの痕跡を残す。7~10はタコ壺。

#### (4) 鉄器 (図版30、第114図)

1・2は袋状鉄斧。1の形状は基部幅よりも刃部幅がやや広くなる。基部は素材の両端を袋状に折り返して密着させ、その断面形は長方形気味の楕円形を呈する。長さ12.0cm、刃部幅4.1cm、基部幅3.7cm、基部の厚さ0.9cmを測る。重量302g。完存品。11号竪穴住居跡の床面よりやや浮いた状態で出土した。2は刃部・基部・側縁部を欠損している。1に比べて薄く仕上げられる。残存長8.4cm、残存幅4.3cm、厚さ0.2~0.4cm。重量は65g。27号竪穴住居跡出土。

3・4は刀子。3は基部と切先をわずかに欠失する。関は明瞭な段差をもたず、緩いカーブを描いて刃に至る。茎の関寄りの部分には幅0.35cmほどの皮のような有機物が巻き付けである。その部分には木質も残っているが、柄を装着する部分には木質は見られない。残存長10.4cm、残存幅1.2cm、厚さ0.2cm。重量は11g。13号竪穴住居跡出土。

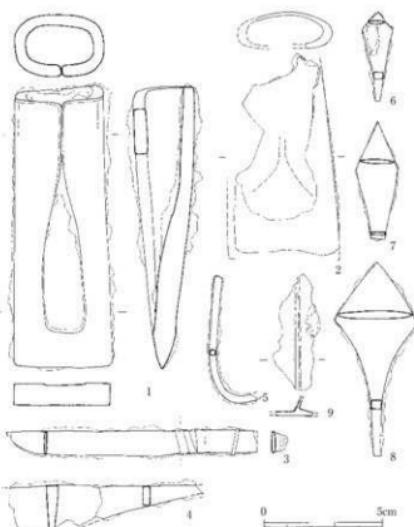
4は刀子の基部から身にかけての部分と思われる。関は茎からなだらかに延びて刃部に至る。残存長8.2cm、残存幅2.0cm、厚さ0.4cmを測る。48号竪穴住居跡カマド袖構築土の下部からやや距離をおいて出土した2個体が接合した。5は釣り針で針先は欠失する。身は断面形状が円形で、径0.3cmを測る。鉤元はやや太くなる。残存長5.3cmを測る。重量は3g。1号竪穴住居跡から出土した。

6~8は鉄鎌。6は有茎の圭頭鎌。長さ3.2cm、最大幅1.3cm、厚さ0.3cmと実用品にしては小形である。41号竪穴住居跡出土。

7は柳葉鎌。長さ5.0cm、幅1.7cm、厚さ0.2cmを測る。重量は6g。5号竪穴住居跡出土。

8も圭頭鎌で、長さ8.1cm、最大幅3.5cm、厚さ0.35cmを測る。5号竪穴住居跡から出土した。

9は用途不明の鉄製品。薄い板を折り返し、片面側に直立するようにさらに折り曲げているようである。本来の面はすべて欠失している。厚さ0.2cmを測る。11号竪穴住居跡から出土した。



第114図 鉄器実測図 (1/2)

#### (5) 石器・石製品 (図版30、第115図)

1~5は砥石。1は平面形が菱形を呈する。表裏と側面の計4面に使用による横断面U字形、縱断面弧状の溝状の凹みがある。凹みの上端は幅0.5cm~1.5cmを測る。形状から考えて勾玉用の仕上げに使用された砥石と考えられる。長さ5.5cm、幅3.9cm、厚さ2.4cmを測る。重量は26g。砂岩製。1号竪穴住居跡埋土上層出土。

2は手持ちの砥石。下半部は断面四角形となり、基部のように見える。全面を使用しているが下半部の右側の面のみはそれほど摩滅して

いない。長さ5.2cm、幅1.0cm、最大厚0.7cmを測る。重量は4g。粘板岩製。45号竪穴住居跡出土。3は裾が広がった直方体を呈する。使用面は上端部・下端部を除く4面である。部分的に幅5mmほどの溝状の使用痕が残る。長さ7.1cm、幅3.8cm、厚さ3.6cmを測る。重量124g。砂岩製。5号竪穴住居跡出土。4は上端部と下端部を欠損する。使用面は4面。表面の中央部には幅9mmほどの溝状の凹みが残る。現存長13.3cm、現存幅7.7cm、厚さ6.2cmを測る。重量は829g。砂岩製。41号竪穴住居跡出土。5は欠損品。長さ11.3cm、幅3.4cm、厚さ2.8cmを測る。重量は77g。25号竪穴住居跡出土。粘板岩製。6は勾玉の未製品。側縁部に面取りの跡が残る。長さ3.4cm、幅2.1cm、厚さ0.6cmを測る。重量は7g。色調は緑味を帯びる。蛇紋岩製。15号竪穴住居跡出土。7・8は石錘。7は十字に紐かけ用の溝が切られている。先端部のみが残る。長さ3.1cm、



第111図 石器・土器製品実測図 (1/2)

幅2.6cm、厚さ1.8cmを測る。重量は22g。1号竪穴住居跡上層出土。8は未製品と考えられる。砲弾形を呈し、縦方向に面取りを行っている。長さ4.5cm、径2.1cmを測る。重量は27g。15号竪穴住居跡出土。7・8ともに滑石製。9・10は板状の滑石に孔を穿ったもの。9は円形に復元できようか。孔は貫通しているものの、孔下端部には穿孔具先端の丸味が残っている。長さ3.7cm、幅1.7cm、厚さ1.4cmを測る。重量は10g。13号竪穴住居跡出土。10は径0.7cmの孔が穿たれている。長さ5.3cm、幅5.8cm、厚さ1.3cmを測る。重量は52g。発掘区南西部の遺構検出面から出土。11・12は軽石に加工を施したもの。11は側縁部の二面に自然石面を残し、その他の部位は擦って平滑になっている。そのうち一側縁には刃物状の鋭利な工具痕が筋状に刻まれている。長さ6.1cm、幅5.6cm、厚さ3.5cmを測る。重量は24g。15号竪穴住居跡出土。12は全面を擦って平滑にしている。長さ3.6cm、幅3.4cm、厚さ3.2cmを測る。重量は6g。22号竪穴住居跡出土。

#### (6) 土製品(図版30、第115図)

13は土錘。上端部・下端部は欠損する。指頭圧痕が残る。中央部に径0.9cmの孔を設ける。長さ5.0cm、径2.7cmを測る。重量は30g。色調は暗黄褐色で径1mmほどの砂粒を含む。28号土坑出土。

### 第3節 近世以降の遺構と出土遺物

#### (1) 井戸

井戸は4基検出した。このうち1号井戸と2号井戸が瓦積みの井戸枠をもつ。他の2基はコンクリート製の井戸枠である。

##### 1号井戸

発掘区の南西部に位置する。1号住居跡・9号住居跡を切る。井戸枠は12枚の焼された平瓦を円形に並べ、縦位に積み上げた構造で径85cmを測る。枠の外側はコンクリートで補強されている。掘方の径は1.52mを測る。

#### (2) 土坑

##### 17号土坑(第116図)

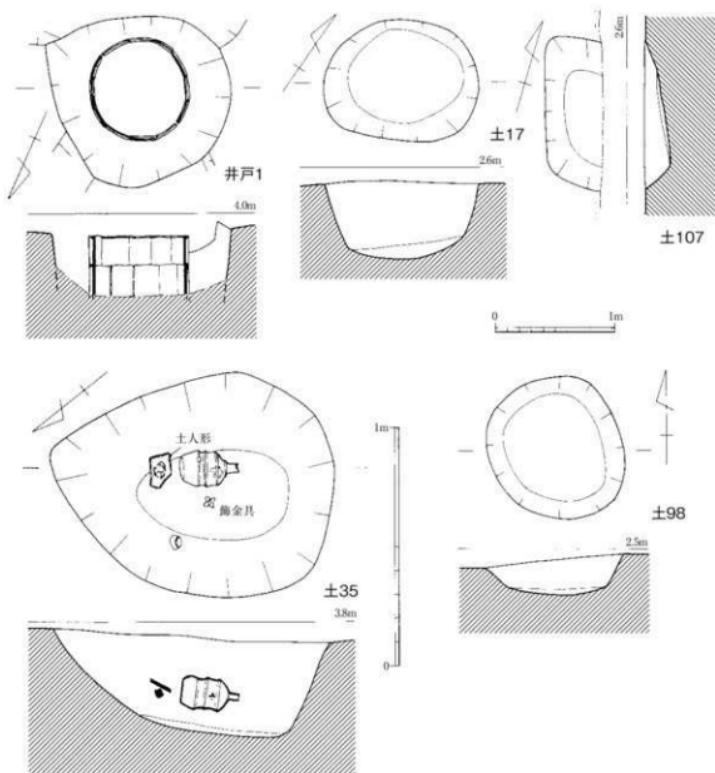
発掘区の中央部北壁際に位置する。平面プランは梢円形を呈する。規模は長軸長1.30m、短軸長1.00m、深さ0.64mを測る。埋土は淡茶褐色砂。

型作りの土製人形が3個体出土した。

##### 35号土坑(図版19、第116図)

発掘区の中央部、やや北寄りに位置する。平面プランは卵形を呈する。規模は長軸長1.20m、短軸長0.94m、深さ0.42mを測る。底面は北東から南西に向けて緩く傾斜している。底面より10cmほど浮いた状態で長軸方向に沿って横たわった状態で壺が出土した。口縁部は消失していた。壺の底側(北東側)には10cm四方の平瓦が据えられ、その下部には、頭部を南に向けた型作りの土製人形が埋置されていた。また、これと同レベルの壺の北西側の土坑の中央にあたる部分から四弁の銅製飾り金具が出土した。埋土は上層が炭混じりの黒色土で、下層は黒茶色砂である。遺構の切り込み面は古墳時代の遺構面の上面を覆う黄茶色土。

##### 98号土坑(第116図)



第116図 近世以降の井戸・土坑実測図 (1/40・1/20)

発掘区の北東部、東壁際に位置する。平面プランは円形を呈する。規模は径1.19m、深さ0.35mを測る。埋土は茶褐色で17号土坑と同一であり、やはり型作りの土製人形が出土している。

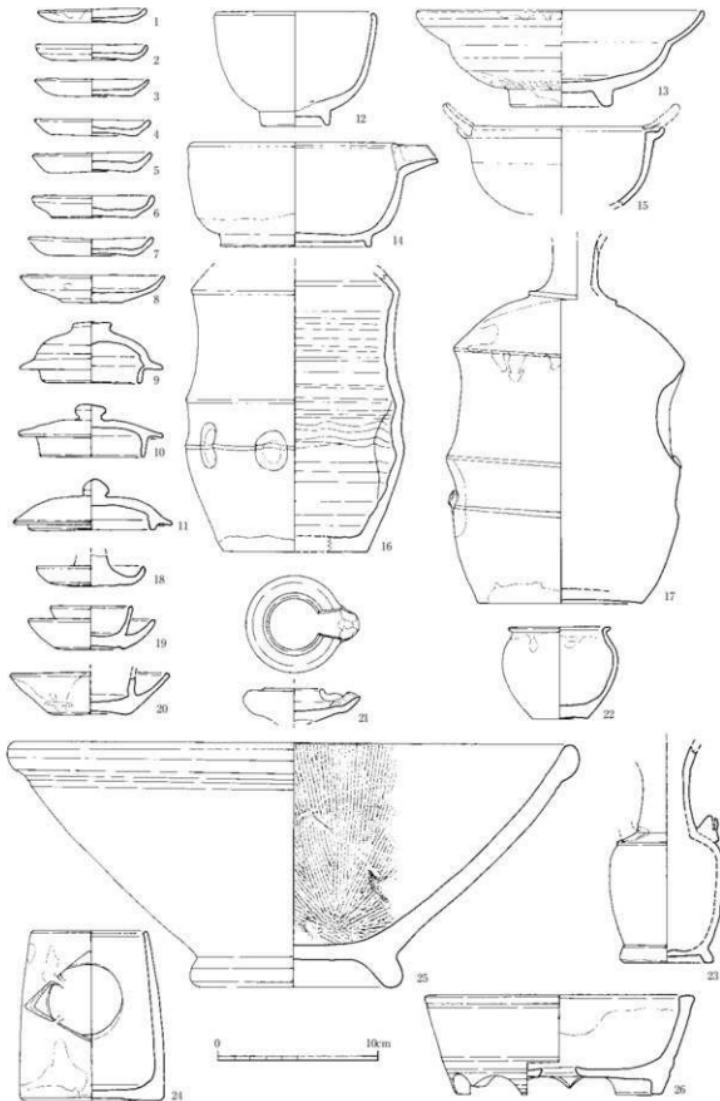
#### 107号土坑 (第116図)

発掘区の北東部、東壁際に位置し、東側は発掘区外となる。平面プランは長方形になるものと思われる。規模は南北長1.26m、深さ0.22mを測る。

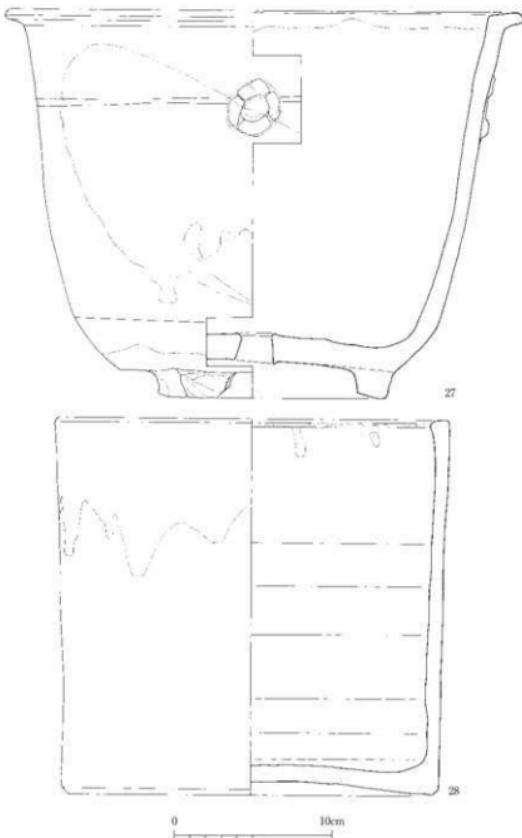
修猷館高校の前身時代の硯やインク瓶がまとめて出土した。

#### (3) 土師器・陶器・磁器 (図版31・32、第117~120図)

1~7は土師器小皿。2・3は底部内面がナデ。すべて糸切り。

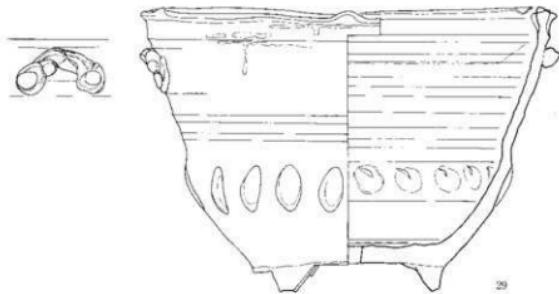


第117図 近世以降の土器・陶器・陶磁器実測図 1 (1/3)

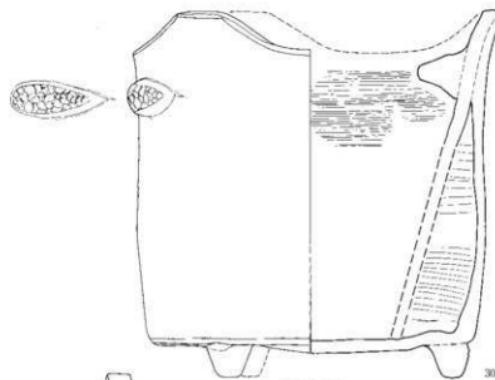


第118図 近世以降の土器器・陶器・陶磁器実測図2 (1/3)

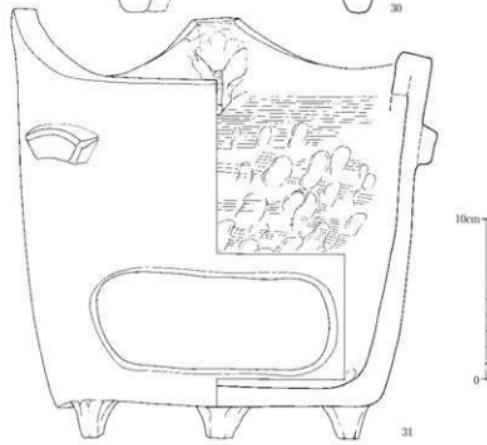
8～31は陶器。8は黒釉の皿。底部糸切り。9～11は蓋。9は摘み部分が低平になる。10・11は宝珠摘み。内面はいずれも露胎となる。12は椀。外面に波状の文様を施す。13は体部に段を有する皿。見込みは輪状に搔き取る。14は片口。体部下半から底部にかけて露胎となる。15は受けをもつ小形の鍋。二方に把手がつくもの。16・17は高取焼の酒瓶。18は土瓶蓋で摘みを欠失する。19～20は灯明受皿。21は片口の水滴。22は小壺。底部は露胎。糸切り。23は瓶。高台置付は露胎となる。24は香炉。対面する二方に円形と四菱の透かしを設ける。25は摺鉢。口縁端部が玉縁状になる。内面の全面に筋目が入る。底部には露胎が残る。26は植木鉢。底部に穿孔を行う。27～29は鉢。29は粘土紐を握って成形した把手を2方につける。30・31は火鉢。



29

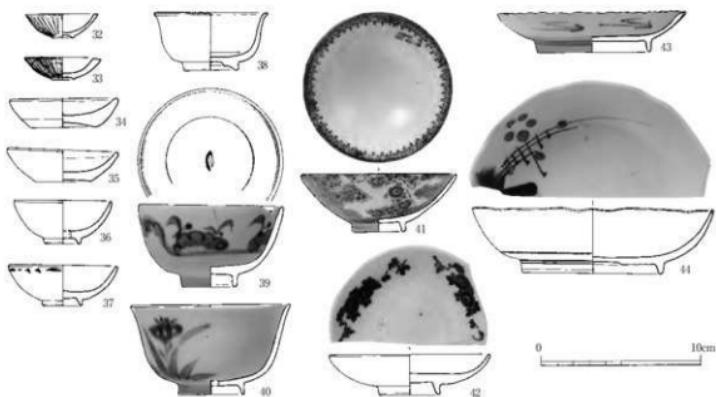


30



31

第119図 近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図3 (1/3)



第120図 近世以降の土師器・陶器・陶磁器実測図 4 (1/3)

博物 番号	国際 番号	出土 場所等	説明	法量 (mm)	色調	器形や施し、既法の特徴	備考	目録 番号
117-1	31	上22層土	土師器小皿	口径68、器高8	黄灰褐色	赤切り。	油煙付着	729
2	31	上22層土	土師器小皿	口径70、器高10	黄灰褐色	赤切り。内底ナデ。		728
3	31	上22層土	土師器小皿	口径71、器高11	黄灰褐色	赤切り。内底ナデ。		726
4	31	黄褐色土層	土師器小皿	口径73、器高10	黄灰褐色	赤切り。		877
5	31	黄褐色土層	土師器小皿	口径76、器高12	黄灰褐色	赤切り。		1032
6	31	上37層土	土師器小皿	口径76、器高14	黄灰褐色	赤切り。		762
7	31	上106層土	土師器小皿	口径78、器高12	黄灰褐色	赤切り。		912
8	31	C416様出石	陶器盤	口径90、器高18	系褐色	既板。赤み。		1062
9	31	上60層土	陶器盤	口径90、器高30	明黄色	緑色板。皿み部分灰手。		842
10	31	上40層土	陶器盤	口径90、器高33	系褐色	濃緑色板。		774
11	31	上16層土	陶器盤	口径100、器高32	系褐色	深系褐色。		717
12	31	上18層土	陶器碗	口径101、器高71	赤系色	黄系色板。黄白色が交叉の模様。		718
13	31	上82層土	陶器皿	口径100、器高60	褐色	黄灰色板。見元み模様焼き取り。		873
14	31	上36層土	陶器片口	口径132、器高45	赤褐色・灰色	丹褐色板。内明黄灰色。		709
15	31	上21層土	陶器瓶	口径129	灰色	褐褐色。横状持ち手二対。		721
16	31	上37層土	陶器瓶	口径136	赤褐色	既灰色板。発色悪い。下に笠付2ナ所の復み。		761
17	31	上35層土	陶器瓶	口径136	赤褐色	底部に目跡。竹も根した円形浮文貼付。		799

第36表 黄褐色土層・灰色砂層近世以降の遺構出土土器類觀察表 1

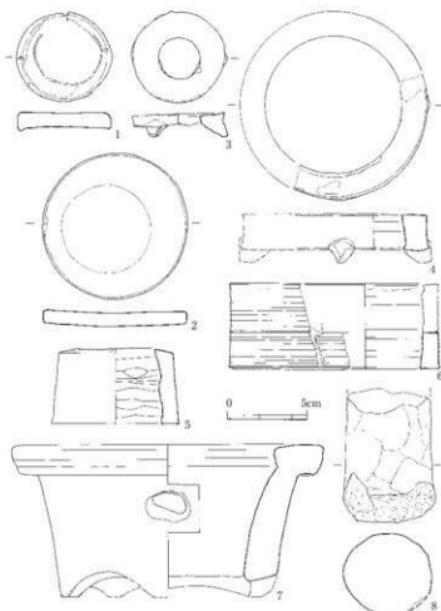
排列番号	国際番号	出土遺物等	器種	法量 (mm)	色調	形態や船、技法の特徴	備考	登録番号
18	31	上19厘米	陶器蓋	口径66	褐茶褐色	上部茶褐色。縫みを帯びた茶褐色。赤切り。		719
19	31	D664 梅山田	陶器焼台灯明瓦	口径80、高さ27	黄褐色	受皿。周縁部を帯びた茶褐色。赤切り。		3094
20	31	A805 黒褐色土層	陶器焼台灯明瓦	口径100	洪茶褐色	受皿。周縁部を帯びた茶褐色。赤切り。		903
21	31	上20厘米	水滴	口径63、高さ20	黄褐色	綠色釉。口凹。		740
22	31	上2.2厘米	陶器小鉢	口径60、高さ36	褐茶褐色	茶褐色～黒茶褐色。赤切り。		681
23	32	上6厘米	陶器板	口径58	黄褐色	灰褐色を帯びた茶褐色。		706
24	32	上22厘米	陶器香炉	口径73、高さ106	明茶褐色	茶～黑色系。菱形と円形の対する活かし。		723
25	32	上14厘米	陶器鉢	口径58、高さ52	小豆色	團体。底部に目皿。		715
26	32	上33厘米	陶器鉢	口径109、高さ62	洪茶褐色	茶味を帯びた綠色釉。底部に穿孔。		741
118.27	32	上48厘米	陶器鉢	口径230、高さ242	茶褐色	褐色釉。縁3ヶ所。		800
28	32	上73厘米	陶器鉢	口径47、高さ28	淡青褐色	灰味を帯びた青褐色。底部に目跡。		861
119.29	32	上108厘米	陶器鉢	口径260、高さ178	黄褐色	黒灰～茶褐色。把手2つ。縁3ヶ所。口縁端部に質栓により剥離された支柱5ヶ所。		915
30	32	上94厘米	陶器大鉢	口径229、高さ238	黄褐色	内面ハケ。		890
31	32	上60厘米	陶器大鉢	口径263、高さ262	黄褐色	内面ハケ。上手部に隙。		834
120.32	32	8月23周年	陶器盤	口径65、高さ15	白色	想押しの虹皿。透明釉。		1113
33	32	上92厘米	陶器盤	口径48、高さ14	白色	想押しの虹皿。透明釉。		888
34	32	上79厘米	陶器盤	口径68、高さ18	黄褐色	黄褐色。		864
35	32	上2厘米	陶器盤	口径70、高さ35	褐茶褐色	茶褐色釉。保付番。		682
36	32	上1厘米	陶器盤(1)	口径62、高さ27	灰白色	透明釉。		673
37	32	上92厘米	陶器盤(2)	口径66、高さ26	白色	透明釉。		867
38	32	上1厘米	陶器盤(3)	口径72、高さ36	白色	透明釉。		672
39		上34厘米	陶器輪	口径91、高さ53	白色	透明釉。口縁部内側と足込みに朱み付。		737
40		上68厘米	陶器輪	口径100、高さ55	白色	透明釉。		858
41		上3厘米	陶器輪	口径98、高さ36	白色	透明釉。口縁部内側に想紙押り文。		700
42		上2厘米	陶器輪	口径101、高さ55	白色	透明釉。体内部に想紙押りの花文。		665
43	32	上37厘米	陶器輪	口径118、高さ50	白色	透明釉。		767
45		上33厘米	陶器輪	口径151、高さ30	白色	青みがかった透明釉。輪花。		749

第37表 黄褐色土層・灰色砂層近世以降の遺構出土土器類觀察表2

32~44は白磁。32・33は紅皿。34・35は皿で内面のみ施釉で他は露胎となる。36~38は猪口。9~41は椀。42~44は高台皿。41・42は型紙摺り。44は呉須で草花文を描く。

#### (4) 窯道具 (図版33、第121図)

1~4はハマ。1・2は円盤状。1は径5.9cm、厚さ1.05cmを測る。上面に径4.2cmの高台の痕跡が残る。調整は全面ナデ。色調は上面が茶褐色、底面は黒茶色を呈する。周縁部には自然釉薬が付着する。2号土坑出土。2は径9.1cm、厚さ0.9cmを測る。上面に径5.5cmの高台の痕跡



第121図 窯道具実測図（1/3）

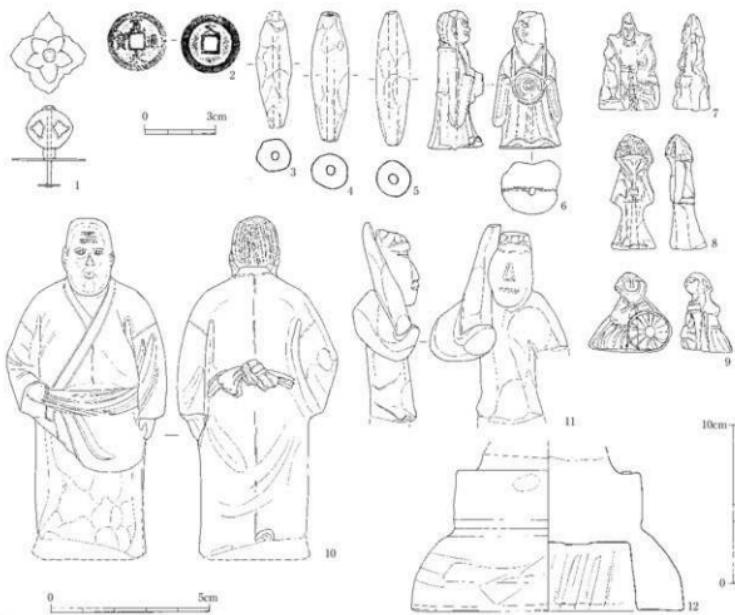
6は径13.2cm、高さ5.3cmを測る。全体の1/4弱ほど遺存している。上半部には透かし状の切り込みが施されるが全形は窺い知れない。中位よりやや下方にはヘラ状工具の先端による沈線が回る。上面には砂目が部分的に残る。調整はヨコナデで、外面には痕跡が細かく残る。色調は明黄褐色を呈する。9号土坑出土。7はやや外反しながら開いた円筒の上端部にT字形の口縁をつけ、下端部を波形に削って脚としたもの。口縁の上端部には重ね焼きの痕跡が残り、淡緑色の自然釉が付着している。2号土坑出土。8はトチン。上部を欠失する。暗茶色の自然釉が全面にかかる。接地部分は削って平坦に仕上げられる。周辺部は溶解してガラス状になっている。2号土坑出土。

#### (5) 青銅製品・土製品・瓦製品(図版33、第122図)

1は青銅製の飾金具。摘み部分は5弁の花形を呈し、側面の弁間には内湾する曲線で構成される菱形の透かしを配する。その下方にある4弁の花飾りは薄い板状。基部の留め金具は円形である。長さ2.6cm。重量は4g。35号土坑出土。2は「寛永通寶」。背面に「文」の文字が鋳られる。

3～5は土錘。3は6号溝出土。4は長さ5.5cm、径1.6cm、孔径0.3cmを測る。重量は11g。

が残る。調整は表裏とも回転糸切り。周縁部はヨコナデ。色調は茶褐色を呈し、部分的に自然釉が付着する。90号土坑出土。3は中空の円盤に三足を付したもの。径5.9cmを測る。脚の接地部分には釉薬が付着する。色調は黄褐色。40号土坑出土。4は径11.6cmの低い円筒の下端4ヶ所に黄褐色のきわめて精良な粘土による脚を付したもの。調整はヨコナデ。色調は明黄褐色を呈する。発掘区南西部の黄茶色土層から出土。5～7は円筒形の窯道具。5は径8.0cm、高さ4.7cmを測る。上面は外側に向かって傾斜し、部分的に砂目が残っている。調整はヨコナデで、内面には明瞭にその痕跡が残る。色調は茶褐色を呈する。112号土坑出土。



第122図 青銅製品・銅錢・土製品・瓦製品実測図 (1/2・2/3・1/3)

19号土坑出土。5は長さ5.7cm、径1.6cm、孔径0.35cmを測る。重量は10g。22号土坑出土。色調はすべて黄褐色。6～9は型作りの土製人形である。側面にはみ出した粘土を削った痕跡が、また、底面に軸棒の孔を残す。6は鬼の寒念仏。高さ4.3cm、幅2.1cm、厚さ1.7cmを測る。重量11g。35号土坑出土。7は鳥帽子を被った武者か。高さ2.6cm、幅1.9cm、厚さ1.1cmを測る。重量は5g。8は虚無僧。高さ3.6cm、幅1.4cm、厚さ1.2cmを測る。重量は4g。9は笠を持った地蔵。高さ2.4cm、幅2.6cm、厚さ1.3cmを測る。重量は6g。7～9は17号土坑出土。10は西郷隆盛の博多人形。型作り。中空。前面の裾を欠く。高さ10.7cm、幅5.0cm、厚さ3.1cmを測る。色調は淡黄褐色。2号土坑出土。11は銃を持った兵士。手捏ね。発掘区中央部の黒色土層出土。重量は28g。

12は外面が焼された瓦製品。伏鉢か。胎土は精良で砂粒を少量含む。調整は上面がヨコナデ、体部下半がケズリのちナデ、内面は工具ナデ。径17.0cm、残存高10.3cmを測る。

# 第4章 西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果

国立歴史民俗博物館・研究部 斎藤 努

## 1はじめに

福岡県教育委員会所蔵の西新町遺跡出土鉛製品について、鉛同位体比測定を行った結果を報告する。

## 2資料

分析を行ったのは、西新町遺跡第17次調査5号竪穴住居跡出土の鉛製品1点（重藤輝行他『西新町遺跡』Ⅶ 2006 福岡県文化財調査報告書第208集 第147図、図版53-5）である。

## 3分析方法

全体の形状に影響を与えない箇所からキサゲを用いて微量の粉末を採取し、分析試料とした。試料から、高周波加熱分離法で鉛を単離して硝酸溶液とし、鉛200ng相当量の試料溶液を分取して、リン酸・シリカゲルとともにレニウム・シングル・フィラメント上に塗布した。表面電離型質量分析装置（Finnigan MAT 262）を用いて、フィラメント温度1200°Cで鉛同位体比を測定した。

## 4結果

第38表に鉛同位体比測定結果を示した。

資料名	分析番号	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$
鉛製品	B9203	0.8540	2.1125	18.260	15.593	38.574

第38表 西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果

馬淵・平尾は弥生時代から平安時代までの多くの青銅器についてデータを蓄積した結果、その鉛同位体比の変遷は下記のようにグループ分けできると報告している（馬淵・平尾、1982、1983、1987）。

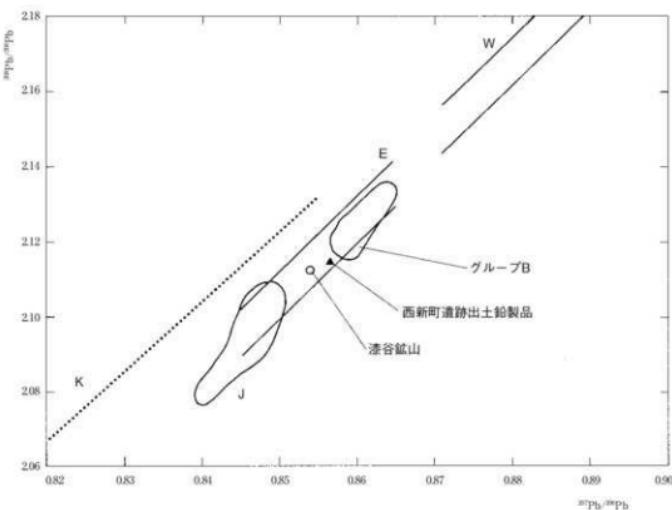
W：弥生時代に将来された前漢鏡が示す数値の領域で、華北の鉛。弥生時代の国産青銅器の多くがここに入る。

E：後漢・三国時代の船載鏡が示す数値の領域で、華中～華南の鉛。古墳出土の青銅鏡の大部分はここに入る。

J：日本産の鉛鉱石の領域。日本産鉛は現在までのところ、飛鳥時代以降の資料にしか見出されていない。

K：多鈕細文鏡や細形銅剣など、弥生時代に将来された朝鮮半島系遺物が位置するライン。

ただし、斎藤（2006）および斎藤・亀田（2006）による朝鮮半島嶺南地域出土の青銅製品の分析結果によると、数値の集中する2つの領域が報告されており、そのうちの「グループB」と称されるものについては、上記先行研究では「E」の範囲内にあるものの、慶尚北道大邱近郊にある漆谷鉱山のデータと比較的近いことや、そのグループに含まれる資料の大部分が4世紀以降であり、313年の楽浪郡の滅亡による銅関係技術者たちの朝鮮半島南部地域への流入の可能性や新羅の大邱地方への勢力版図の拡大と整合することから、同地域でこの時期から朝



第123図 西新町遺跡出土鉛製品の鉛同位体比測定結果（A式図）

鮮半島産の原料使用が行われた可能性についても考慮しておく必要が指摘されている。

ここで得られた数値は上述のグループBとして設定した範囲からはわずかに外れているものの、グループBよりもさらに漆谷鉱山のデータに近い数値を示しており、また同研究で分析された資料の中にはこれと近接する数値を示すものも含まれている。また年代的にも整合している。第123図は、西新町遺跡出土鉛製品の測定値を、グループBの範囲や漆谷鉱山の数値とともに示したものである。なお測定結果は、必要に応じて $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比と $^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比との関係（B式図）を併用することもあるが、ここでは $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比と $^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比の関係（A式図）のみで表した。

以上の点から本資料の分析結果については、先行研究によれば中国華中～華南産原料と判定されるところであるが、近年の研究状況に鑑み、また遺跡の年代や他の出土資料などの点を考慮して考察を行うならば、朝鮮半島（南部地域）産原料である可能性も考えられる。

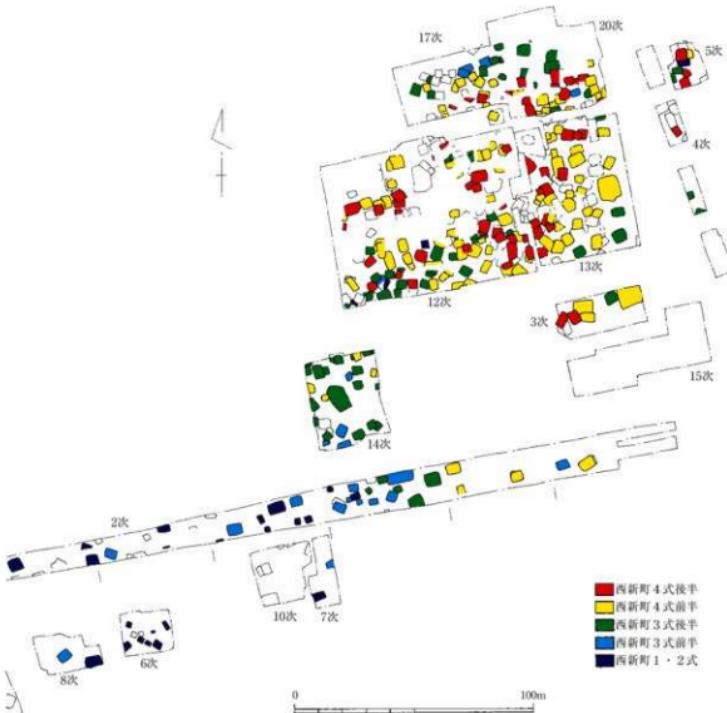
#### 参考文献

- 齋藤努（2006）、『韓国出土資料、東大所蔵秦漢出土資料、宮内庁所蔵資料などの鉛同位体比測定結果』、『科学研究費補助金基盤研究（B）（2）「東アジア地域における青銅器文化の移入と変容および流通に関する多角的比較研究」報告書』、pp.81-117。  
 齋藤努、亀田修一（2006）、「総括 まとめと本研究の意義」、同上、pp.313-320。  
 馬淵久夫、平尾良光（1982）、「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」、『考古学雑誌』68（1）、pp.42-62。  
 馬淵久夫、平尾良光（1983）、「鉛同位体比による漢式鏡の研究（二）」、『MUSEUM』382、pp.16-26。  
 馬淵久夫、平尾良光（1987）、「東アジア鉛鉱石の鉛同位体比-青銅器との関連を中心に」、『考古学雑誌』73（2）、pp.199-245。

## 第5章　まとめ

### (1) 第20次調査の竪穴住居跡群について

第20次調査では古墳時代初頭～前期の竪穴住居跡を45棟確認した。これで修猷館高校の敷地内において検出された弥生時代終末～古墳時代前期の竪穴住居跡は総数364棟を数える（第3次7棟、第12次158棟、第13次86棟、第14次29棟、第17次39棟、第20次45棟）。ことに遺跡の北東部における古墳時代初頭～前期の竪穴住居跡の密集度は著しい。西新町遺跡のように都市圏に所在する大規模遺跡の集落構造がこれだけ明らかになっている例は稀有であろう。加えて、朝鮮半島系土器をはじめとした畿内・吉備・山陰・東海地域との交流を示す土器や、外來系遺物、我が国における初期段階のカマドを付設した竪穴住居跡の資料が着実に増加していることなど、学史上の重要性はますます高まっている。



第124図 西新町遺跡における竪穴住居跡変遷図 (1/2,000)

番号	紀	カマド			半島系土器	備考	時期	番号	紀	カマド			半島系土器	備考	時期
		I期	II期	III期						I期	II期	III期			
1	○				玉鏡石。鉄鋤	4式後半	25						○		3式後半
2						4式前半	26								3式後半
3							27						○	鉄斧	4式後半
4	○				鐵道	4式後半	28			○		○	鐵道	4式後半	
5		○	○		4式後半	29								3式後半	
6	○				4式前半	30		○?		○			○	4式後半	
7			○		4式前半	31								3式後半	
8							32			○		○		4式前半	
9		○?					33			○	○			4式後半	
10							34							4式後半	
11		○			鉄斧	4式後半	35		○?					4式後半	
12	○				3式後半	36								4式後半	
13	○		○	刀子	3式後半	37	○						○		
14		○?			4式前半	38			○				鐵道	4式前半	
15		○	○	写本米穀品	4式前半	41			○		○	○	鉄道	4式前半	
16	○		○			42		○?		○				4式後半	
17	○				4式前半	43								4式後半	
18						44		○		○					
19		○	○		4式前半	45			○		○		鐵道	4式前半	
21	○				4式前半	46								4式後半	
22					4式前半	47							○	3式後半	
23		○		○	鐵道	4式前半	48		○?						
24	○				3式後半										

第39表 第20次調査竪穴住居跡一覧表

さて、西新町遺跡の集落については、これまでの調査によってその範囲と展開の傾向が把握されつつある。まず範囲に関しては、第17次調査区北西隅と第12次調査区北西隅を結ぶラインが集落の北限と想定されていた（重藤2006）。第17次調査区に東接する今回の調査区では、竪穴住居跡が発掘区南半部に集中することに対し、北半部では極端に竪穴住居跡の分布が疎らになり、発掘区の北辺部分は空闊地となっている。こうしたことから、集落域の北縁部をこのあたりに想定してもよいのではないかと思われる。西新町遺跡の集落展開の傾向に関しては、その中心が、時期が新しくなるにしたがって南西方向から北東方向に移動しているという大まかな様相が把握されている。第124図は「西新町遺跡」Ⅶにおいて報告された竪穴住居跡変遷図に、今次調査区を取り込んだものである。第20次調査で検出した竪穴住居跡の時期は西新町遺跡3式前半～4式後半に及ぶが、総じて西新町遺跡4式期が主体を占める。特に発掘区の南半部では3式前半期に遡る可能性がある47号竪穴住居跡が存在するものの、第20次調査区の南側に位置する第13次調査の状況と同じように4式期を中心とする分布傾向を示している。また、西側に接する第17次調査の北半部では3式期の竪穴住居跡が複数検出されていたが、第20次調査では、それらの住居跡群と連続するよう12・13・24・25号竪穴住居跡などが存在し、3式後半期に属すると考えられる住居跡がひとつのブロックを形成している。なお、第20次調査区の東側に位置する第4・5次調査区では1・2式期段階からすでに集落が営まれ4式後半まで存続していることや、第13次調査区東側の空闊地の存在から、修猷館高校に東接する南北道路の東西では様相が異なることがすでに指摘されている（吉田2003）。少なくとも今回の調査の結果を概観すると、第20次調査区部分に関しては隣接する第12・13・17次調査に連続する状況を示すといえよう。

以上のように、これまでの調査成果による集落展開の傾向を追認するような状況把握にとどまった側面もあるものの、一方で、今次調査区内において集落域の北縁部と見て取れるよう

状況が認められたことはひとつの成果といえる。

#### (2) カマド付設竪穴住居跡の展開とカマドの構造について

第20次調査で検出した竪穴住居跡45棟のうち、炉を有する事例が8棟にとどまったことに対し、カマドを付設する竪穴住居跡は20棟を数える。前者では16・17・37号竪穴住居跡などほぼ中央部に位置するものと、12・24号竪穴住居跡のようにいすれかの壁寄りに偏在するものの両者がみられる。また、27・47号竪穴住居跡など、明確に炉跡と認識できる土坑が確認できなかった遺構もある。一方、後者では、吉田東明によるカマド分類（吉田2003）のI～III類（I類：カマド本体が住居のコーナー部に直接付設され、煙道はない、もしくは非常に短いもの、II類：カマド燃焼部が住居跡の壁から離れた内側にあり、煙道が住居跡の隅に向かって長く伸びるもの、III類：壁のほぼ中央部に付設されるもの。煙道はない、もしくは非常に短いもの。類型化はカマドの位置と長さによる。）にあたる形態が確認された。西新町遺跡におけるカマドの普及は3式後半期とされ、今回の調査では遅くとも4式前半期以降の竪穴住居跡にカマドが設置されるようになる。ちなみに当該遺跡でのカマドの最古例は1～2式期に属する第5次調査S C09で吉田分類のIII類に当たる。この事例は煙道を屋外に出すもので、壁部分を斜めにカットして煙道としている（長家1994）。

まずカマドの類別分布に関して概観する。第20次調査区のすぐ南側の第12・13次調査では、これまで西新町遺跡で確認されたカマド総数の8割ほどに当たる52棟の竪穴住居がカマドを付設している。第12・13次調査と第20次調査のカマド数を類型別に比較すると前者はII類→I類→III類の順となり、後者ではII類→III類→I類の順となる。また、第20次調査では第12・13次調査と比べてII類の占める割合が高いことに対し、逆にI類の割合が極めて低いという傾向がみられる。これまでに西新町遺跡で確認されたカマドのうち、II類の占める割合は全体の5割に満たないが、第20次調査では7割を占めている。これは、南西方向から北東方向に向けて西新町集落の中心が移動している中で、第20次調査区の遺構群は時期的に下る4式期が大半を占めることに対応しているものとも考えられる。

さて、ここで、いわゆる「オンドル状遺構」と称されるII類のカマドの一部にみられる平面形態上の特徴に触れておく。II類に属する事例の中には煙道基礎部の整地地業が煙出し部分と推定される住居壁コーナーでは収束せず、L字形に短く南折してから収束するという特徴を持つものがある（4・30・41・44号竪穴住居跡）。これらの竪穴住居跡の煙道部については他のII類の例に漏れず竪穴住居跡の北面壁に沿いながら煙出しに向かって直線的に伸び、北側の住居コーナー部分に煙出しが設えられていると考えられる。ここにあげた4例は、整地地業の範囲からみて、煙道を2辺以上の住居壁に沿ってL字型ないしはコ字型に造わせていた可能性も考えられる。しかしながら30号竪穴住居跡は別として、少なくとも検出時の所見においては、煙道が折れて壁沿いに長く伸びるのではなく、もともと屈曲後すぐに収束していた形態であった可能性があることを記しておく。

次に第20次調査で検出したカマドの構築方法について気づいた事を若干述べる。西新町遺跡は砂丘上に立地するため、竪穴住居跡の壁や床面もいわゆる海砂の状態で検出されるが、概してカマド部分は遺跡の近傍から搬入された粘性を有する土を主体的に用いている。一方で、隣接する第17次調査区1・12・37号竪穴住居跡のカマドのように構築土が砂主体となる事例も少

数存在するものの、今回の調査区においてもカマド本体部分の構築にあたって砂を構築材の主体とする例は1例のみであり、やはりいずれも粘性土が主体となる。また、袖を構築する際、粘性の違う一定の厚みを持った粘質土を数層に積み上げる例（砂質土が多く使用される層もある）や、4号竪穴住居跡の様に補強材として土器の破片を混入させるもの、カマドの崩壊土と考えられる焼土を混入させるもの、あるいは30号竪穴住居跡のようにカマド内壁の仕上げに精良な粘土を貼るものなどが見受けられる。本体部分に関してはこのようなバリエーションがあるが、その一方で本体の下部構造についてもいくつかのパターンがみられる（第125図）。

I類：床面直上からカマド本体を構築するもの。

II類：カマド本体の構築に先立って、床面の掘込地業を伴うもの。

a. 基礎地業の整地とカマド本体の構築に明確な工程差が認められるもの。

1 基礎地業の整地が単一層かそれに準じる一連の充填作業として捉えられるもの。

2 基礎地業の整地が版築状の層序を示し、分化した作業工程として捉えられるもの。

b. 基礎地業の整地とカマド本体の構築が一連の工程として行われるもの。

I類は西新町遺跡での検出事例を含め、普及期のカマドにも最も多くみられる通有のタイプである。構築材は粘質土を主体とするものと、厚さ数cmの黄白色砂と厚さ0.5cm前後の薄い茶褐色粘質土を互層に重ねるもののがそれぞれ1例認められた。I類には11・28号竪穴住居跡がある。II-a-1類の基礎地業は、床面の掘込みを地山ないしは旧表土かと思われる黄白色～明黄灰砂、あるいはそれに若干の茶褐色が混入した砂を主体とする土で一気に埋め戻す。それほど縮まりはない。II-a-1類には4・19・30・39・42号竪穴住居跡などがある。基礎地業を行う範囲は第125図の袖部横断面土層図に示されるように、横断面左右それぞれのカマド袖の中軸線よりもやや内側で収まる（カマド本体よりひとまわり狭い範囲）例が多いが、5・9号竪穴住居跡のようにカマド袖の外側とほぼ合致するものも見受けられる。カマド本体の構築土は粘質土を主体とする。II-a-2類の基礎地業は、床面の掘込みを埋め戻す際に厚さ3～7cmの黄白色砂と厚さ0.2～1.0cmの薄い茶褐色粘質土を互層に充填しており、II-a-1類に比べて縮まりがある。基礎地業を行う範囲はII-a-1類と同様の状況であるが、45号竪穴住居跡はカマド本体よりもやや大きな掘込みをもつ。また、23・28号竪穴住居跡では煙道部分にも同様の掘込みを行い、互層の整地がなされている。II-a-2類には15・21・32・33号竪穴住居跡などがある。II-b類は第20次調査では検出されていないが、カマド本体を設置する部分の掘込みを行った後、基礎と本体を一連の作業工程としてカマドを組み上げるもので、両者の土質に差異が認められない。II-b類の例として第17次調査1号竪穴住居跡などがある。以上のようなパターンがみられるものの、I類とII類の違い—掘込みの有無—がどのような意味を持つのか現段階では

I類 (20次・11号住居跡)



II-a-1類 (20次・39号住居跡)



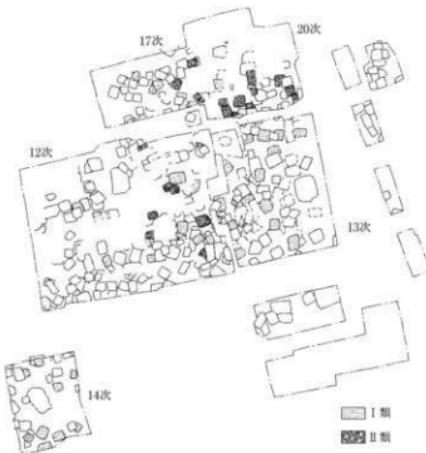
II-a-2類 (20次・32号住居跡)



II-b類 (17次・1号住居跡)



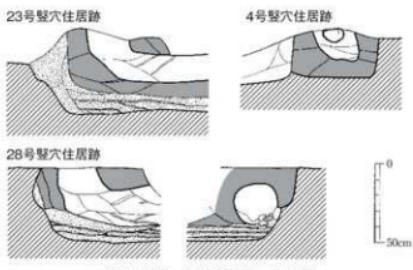
第125図 カマドの構築過程 (1/30)



第126図 カマド地業の類別分布図 (1/2,000)

面の標高も低くなる (=湿気が多くなる) というように二つの状況を連動して捉えることもあながち否定できない。さらにはⅡ-a-1類の基礎地業のように縮まりのない整地が存在することや、Ⅱ-a-2類の極めて薄い粘土層に如何ほどのいわゆる「掘込地業」的な効果が期待できるのかといった点を考慮するならば、あるいはⅠ類・Ⅱ類間の工法の違いに湿気を遮断する等の機能差を認めることが出来るのかもしれない。Ⅱ類の占める割合が低い第12・13・14次調査区の中でも特にⅡ-a-2類のように丁寧な作業を行う例は極めて限られた存在のようである。第126図はⅠ・Ⅱ類二つの構造タイプについて調査区別の分布を示したものである。17次調査区では、カマドの構造が確認できる7例中2例がⅡ類で、調査区の東半部に存在する。一方、多数を占めるⅠ類は中央部から西半部にかけて確認されている。その南側に位置する12次調査区では19例中8例がⅡ類で、東半部でも中央部から北東部にかけて検出されている。また、13次調査の

にわかに判断しがたい。第20次調査区内に限っていと、Ⅱ-a-2類にみられる互層工法によって埋土が硬化した状態となる例があるし、また、28号竪穴住居跡のように明らかにカマド本体の強度を増すためにも互層工法が採られる例があることから推して、構築面を安定させるための基礎地業であると考えることが自然である。しかしながら、砂地という同じ地質条件であるにもかかわらず両者が併存し、またその分布傾向に偏りがみられる。第12・13・14次調査ではⅡ類の占める割合が低く、逆に第20次調査ではその割合が高いという分布傾向の違いに対し、後者の立地がやや海に近づき検出



第127図 墓道断面図 (1/30)

カマド19例、14次調査の9例のうちすべてがⅠ類となる。時期別の検討を経てはいないため、ここでは両者の平面分布に偏在傾向が見られ、それが機能差を反映している可能性も残されていることを述べておくにとどめる。

西新町遺跡のこれまでの調査では、カマドに付設する煙道が遺存している例が幾つか確認されていたが、今回の調査でもその事例を追加することになった (4・23・28・39・45号竪穴

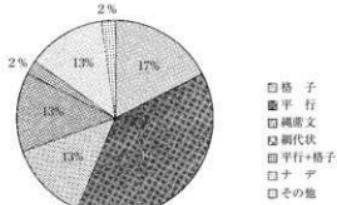
住居跡。煙道径は18~26cm)。20次調査で確認したカマド煙道は壁伝いに直線的に伸び、断面で観察できたものについてはいずれも住居跡のコーナー近くで直に立ち上がり煙出しに至る通常のタイプであるが、12次調査81号竪穴住居跡のように煙出しが緩やかに斜め上方に立ち上がる事例も稀にある。煙道の構築にあたっては、粘土ブロックを含む粘質土を主体的に用いて床直上から構築するもの(4号竪穴住居跡)と、カマド本体部分でみられたⅡa-2類と同様の地業をおこない、その後、煙道部分を巻くように粘性の強い土を貼る工程を探るものがある(23・28号竪穴住居跡)。煙道構築にみられる上記二つの構築方法のうち、19号竪穴住居跡は前者、14・32・39・41・44・45・48号竪穴住居跡は後者と考えられる。なお、4・28号竪穴住居跡のカマド煙道部分では径5~10cm前後の焼土塊を混入した粘質土を貼り込んでいる状況がみられた(図版5-1、第127図横断面煙道部右下)。

最後に支脚についてバリエーションを挙げておく。カマドはすべて一つ掛けとみられる。支脚には1脚と2脚の二種がある。支脚設置方法については、カマド床面を掘込んで埋置するもの(19号竪穴住居跡など)、カマド本体構築時に一連の作業として埋置し掘形を持たないものの(41号竪穴住居跡)、床面に据え置いただけのもの(39号竪穴住居跡・41号竪穴住居跡右側)等がある。支脚として使用された材には、棒状の礎・角礎・タコ壺、それに高環脚柱部の転用品がある。

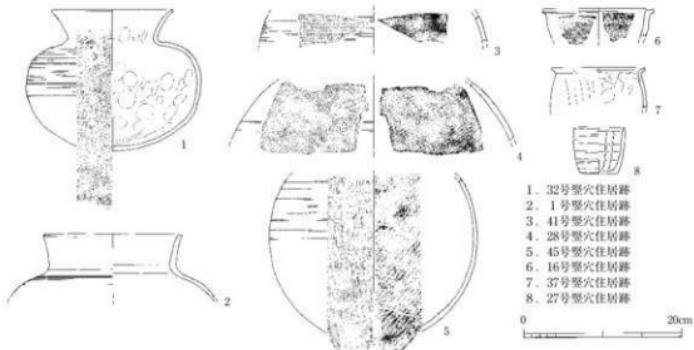
### (3) 半島系土器について

第20次調査では半島系土器が計50片以上出土している(1・5・7・13・15・16・19・23・25・27・28・30・32・33・37・41・42・44・45・47号竪穴住居跡)。これまで西新町遺跡の調査で出土した半島系土器には、短頸壺・直口壺・両耳付壺・二重口縁壺・蓋・鉢・高杯・瓶の各器種が認められる。また、時期的には2次調査D区1号竪穴住居跡出土両耳付壺が西新町遺跡3式前半の土器群に伴う可能性があり、そうすると最も遅る事例となる。第20次調査では47号竪穴住居跡から、外面に網代状平行タタキを施す陶質土器の小片(第102図19)が出土している。この竪穴住居跡は共伴した土師器の時期から3式前半に遅る可能性がある。また、調査区北部に位置する13号竪穴住居跡(第36図19)、25号竪穴住居跡(第55図25)出土品は伴出した土師器から3式後半に考えられ、前者は外面に格子タタキを持つ壺、後者は外面に網代状平行タタキを持つ。その他の半島系土器出土遺構はいずれも4式期に属する。なお、第128図は出土土器の外面調整のバリエーション別の比率について参考程度にグラフ化したものである。これを見ると平行タタキが40%、繩文文を含めると約半数を平行タタキが占めている。他に類例の少ない網代状平行タタキを施すものが6点出土している。また、壺胴部上半に平行タタキを施し、下半に格子タタキを行ってひとつの個体を叩き分ける例が32号竪穴住居跡から出土している(第129図1)。

これまでに西新町遺跡から出土した半島系土器の出自については、慶尚道、ないしは全



第128図 外面調整の比率

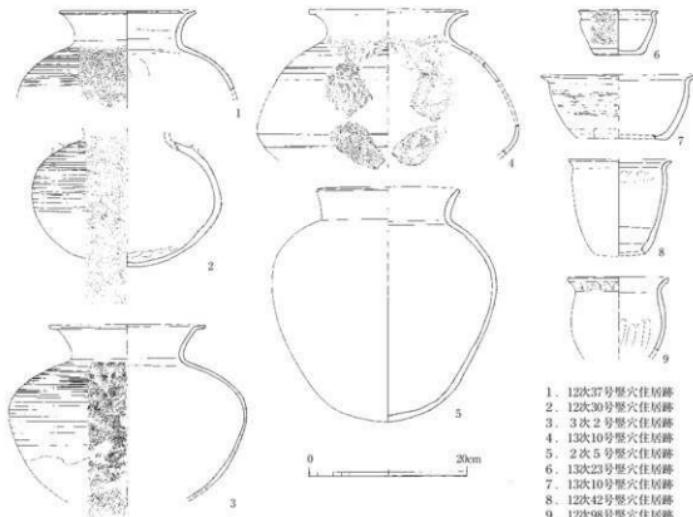


第129図 第20次調査出土半島系土器 (1/6)

羅道・忠清道に彼の地を求めるものが存在することが指摘されている。ここで、今回出土した半島系土器の出自について、先学の所見に従いつつ触れておくことにする。

第129図1は32号竪穴住居跡のカマド右袖上から出土した短頸壺で、口縁部を1/2ほど欠損しているものの他はほぼ完存している。胴部外面は上半部を平行タタキした後、沈線を密に巡らせ、胴部下半部には格子のタタキを行っている。調整は底部内面はヘラナデ、胴部内面はナデで、成形時の凹凸が著しい。この個体とは口縁部の反り方に差異があるが、器形的には第12次調査37号竪穴住居跡出土例（第130図1）が類似する。ただし焼成・胎土は第129図1が瓦質であるのに対し、陶質・堅緻である。また、口縁部は欠失しているものの、外面調整の手法のみをみると第12次調査30号竪穴住居跡例（第130図2）にも共通点がみられ、焼成・胎土はむしろこちらに近い。この他に外面調整の手法で共通する例としては3次調査2号竪穴住居跡（第130図3）・13次10号竪穴住居跡（第130図4）出土短頸壺があるが、胴部や口縁部の形状に差異がみられる。32号竪穴住居跡出土例の類似品としてあげられる各器種に共通する、外反する口縁（慶尚道・全羅道に多い）、胴部のタタキに見られる原体工具の使い分け（全羅道・忠清道に多く慶尚道に少ない）という特徴（寺井2001）をみると、当該資料については全羅地域を含む百濟系の可能性が高い。第129図2（1号竪穴住居跡出土）は口縁部が僅かに外反しながら短く直口する壺で、口縁の形状に限れば2次調査5号竪穴住居跡の長胴瓦質無文壺（第130図5）にも似る。この土器は武末純一氏によって全羅道地域を含めた百濟系であるという指摘がなされている（武末2000）。図示はしていないが、全羅北道竹幕洞遺跡出土品に類例を求めることができ、器形的にも第130図2のような扁球形を呈するものであろう。口縁部が直立気味の形状をもつ事例は忠清道に多いことを含め、1号竪穴住居跡出土例は忠清道～全羅道に由来するものと考えておきたい。

第129図6は16号竪穴住居跡から出土した。小形の浅い平底鉢と考えられる。口縁は強く外反し、端部は強めの丁寧なヨコナデによりシャープな面をなす。軟質で土師器に近く、器壁は厚い。調整は外面が細かい格子タタキ、内面はナデ。器形的には13次調査10号竪穴住居跡出土



第130図 西新町遺跡出土半島系土器（1/6）

例（第130図7）のような形にならうか。この例も口縁端部にシャープな面をなすが体部の調整はヨコナデである。第129図7も小形平底鉢で、37号竪穴住居跡から出土した。軟質。調整は外面が板ナデ後ナデ、内面はナデで成形時の指頭圧痕が顕著に残る。12次調査42・98号竪穴住居跡出土品（第130図8・9）に類例があり、やはり全羅道に由来するものか。第129図8は27号竪穴住居跡から出土したコップ形の小形平底鉢である。陶質。胎土は精良で砂粒をほとんど含んでいない。西新町遺跡では、軟質で外反する口縁を持つ平底鉢は出土しているものの、この例のように陶質で直口するタイプの類例が見あたらぬ。

なお、今回の調査で出土した半島系土器の外面調整には格子・平行・縄席・網代状平行タタキの4種のタタキ痕跡が認められたが、このうち網代状平行タタキはこれまでにあまり類例がなく、第13次調査で出土している程度である。半島における類例調査を行ってはいないが、全羅南道金坪遺跡出土例を含め、それほど多くは出土していないようである。今回の調査区からは小片ではあるが6点が出土している。

#### （4）出土土器について

今回の調査でも古墳時代初頭から前期に至る多量の土器が出土している。これらの出土土器群には前代以来の伝統的な在地土器も当然含まれるが、その主流となるのは畿内及び山陰に系譜を辿ることができる土器群である。また、吉備系や東海系と考えられるものも散見される。なお、竪穴住居跡出土資料に関しては、調査時にその切り合い関係の判断を一部誤ったものもあり、こうした資料については他住居の遺物が混在してしまう結果となっている。

山陰系土器としては大形二重口縁壺・二重口縁壺・脚付二重口縁壺・中形二重口縁壺・小形丸底二重口縁壺・高坏・脚付鉢・大形二重口縁鉢・二重口縁鉢・鼓形器台がある。このうち、二重口縁壺・大形二重口縁鉢・鼓形器台は畿内系を遙かに凌駕し、器種構成上の主要な部分を担っている。次に出土量が多い畿内系土器には直口壺・二重口縁壺・中形直口壺・小形丸底壺・甕・高坏・外反口縁鉢・直口鉢・二重口縁鉢・脚付鉢・小形器台がある。甕は大半が布留系であり、第五様式系・庄内系も僅かに出土している。また、近江系と考えられる個体もある。畿内系では甕・直口壺・小形丸底壺・外反口縁鉢・小形器台の各器種が構成上の主流となっている。これらのいわゆる外来系土器に対し、在地土器は直口壺や甕・器台・瓶等の限られた器種しかなく、またその占める割合も極めて低い。以上の器種の他には集落の生業に直接関わるタコ壺が大半の堅穴住居跡から出土しており、殊に47号堅穴住居跡のピット及び屋内土坑からは多くの完形品が出土した。また、36・40号堅穴住居跡からは製塩土器も出土している。

#### (5) その他の遺物について

上記に述べた各項目は、いずれも西新町遺跡の性格を特徴づける対国内外各地域との交易活動を含めた「交流」を顕著に示しているが、今回の調査では西新町集落の生業に関連する遺物も出土している。

まず、漁労に関する遺物としてタコ壺を挙げることができる。タコ壺は1～3・7・13・16・21・23・24・27・33・35・37・39・41・42・45・47号の各堅穴住居跡から出土し、なかでも47号堅穴住居跡には屋内土坑を中心として完形品が纏まって残されていた。1・15号堅穴住居跡からは石錘が出土しており、石錘の存在や他調査区の状況からみても漁労が集落における中心的な生業の一つであった事がわかる。また、製塩土器も存在し(16・36・48号堅穴住居跡)、漁労とともに地理的環境を生かした塩作りを行っているものの、その出土量の少なさからは自給的な位置づけにとどまるものであろうと考えられる。この他、第12調査ではガラス小玉・勾玉鑄型・石製玉未製品・原石、第13次調査出土ガラス小玉鑄型が出土しており、西新町集落に玉類の生産工房が存在したことが知れる。今回の調査区においても勾玉未製品(15号堅穴住居跡)と玉砥石(1号堅穴住居跡)が出土しており、生産範囲が比較的広範に及んでいたことも想定できる。さらに、鉄器の所有がこの集落においては決して特異な事例ではないという状況や、板状鉄斧の存在(第5次調査)、櫛羽口の出土(第12次調査)等を考え合わせると、やはり鉄器生産も行われていたことが想定される。

以上のように、西新町集落では漁労や、外来系土器の流入状況から垣間見ることのできる交易を中心として、装飾品や鉄器の生産など様々な生業が存在していたことは明らかであり、ここで生活が行われていた往事の都市的な営みを容易に思い浮かべることができる。

#### 【参考文献】

- 重藤輝行2007「西新町遺跡17次調査の遺構と遺物」「西新町遺跡」Ⅶ 福岡県教育委員会  
武末純一2000「北部九州の百濟系土器-4・5世紀を中心に-」「福岡大学総合研究所報」第240号  
寺井誠2002「古墳出現前後の韓半島系土器」「3・4世紀日韓土器の諸問題」釜山考古学研究会・庄内式土器研究会・古代学研究会  
長家伸1994「西新町遺跡3」福岡市埋蔵文化財調査報告書第375集 福岡市教育委員会  
吉田東明2003「カマドについて」「西新町遺跡」V 福岡県教育委員会

## 第6章 おわりに

福岡県教育委員会は1984年に高校改築に伴う第3次調査に着手して以来、事業に先立った発掘調査を都合7回実施してきた。このような中、今年度の調査を実施した第22次調査をもって一連の発掘調査は完了することとなる。その結果、民間開発に伴う福岡市教育委員会が実施する発掘調査成果と併せ、集落の様相が明らかになってきた。西新町遺跡の重要性については今更言及する必要はないものの、検出された遺構・出土遺物とも我が国の歴史の解明のためには欠かせない第一級の遺跡と位置づけることができる。あたかも、歴史的な、あるいは現在の福岡県における活発な地域間交流・対外交流の象徴的存在であるように感じられる。

今回行った西新町遺跡第20次調査は高校の敷地内という普及活動の格好の場所であったにもかかわらず、十分な対応ができなかったこと、さらには担当者の力量のなさから遺跡に見合うだけの十分な調査・報告・考察ができなかったこと等、反省すべき点は多い。

消失した遺跡を代弁する本報告書が活用されることのもとより、今回の調査によって出土した遺物や調査成果が少しでも多くの人々の目に触れることによって、地域住民が主体的に文化財を守り伝えていくことの一端を担うことを期待します。

# 図 版





1. 西区下層遺構全景  
(南東から・空中撮影)



2. 西区上層遺構南半  
(北東から)



3. 西区上層遺構北半  
(東から)



1. 西区上層遺構全景  
(南から)



2. 東区上層遺構全景  
(南西から)



3. 東区下層遺構全景  
(南西から)



1. 1~3号竪穴住居跡  
(西から)



2. 1号竪穴住居跡  
(南西から)



3. 4・5・7号竪穴住居跡  
(南西から)



1. 4号堅穴住居跡カマド全景  
(南から)



2. 4号堅穴住居跡カマド  
(南から)



3. 4号堅穴住居跡カマド煙道  
(南西から)

1. 4号堅穴住居跡カマド煙道  
(東から)



2. 5号堅穴住居跡カマド  
(東から)



3. 11・12号堅穴住居跡  
(南西から)





1. 13号竪穴住居跡  
(南から)



2. 13号竪穴住居跡集石  
(南東から)



3. 14号竪穴住居跡カマド下層  
(南西から)



1. 15~18号竪穴住居跡  
(南西から)



2. 19号竪穴住居跡カマド  
(南西から)



3. 19号竪穴住居跡カマド  
(南西から・断ち割り後)

48



1. 21・28・46・48号  
堅穴住居跡 (北西から)



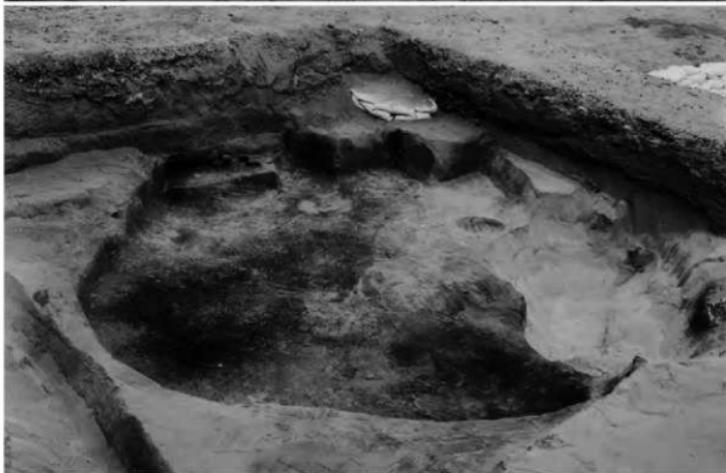
2. 23号堅穴住居跡カマド  
(南から)



3. 23号堅穴住居跡カマド  
煙道断ち割り状況  
(北東から)



1. 23~25号竪穴住居跡  
(南東から)



2. 27号竪穴住居跡  
(南東から)



3. 27号竪穴住居跡遺物  
出土状況 (北から)



1. 28号竪穴住居跡カマド  
(南から)



2. 28号竪穴住居跡カマド  
(南から・完掘後)



3. 28号竪穴住居跡カマド煙道  
(南から)



1. 16・29・30号竪穴住居跡  
(南から)



2. 29号竪穴住居跡  
遺物出土状況  
(北西から)



3. 30号竪穴住居跡カマド  
(南西から)



1. 32・33号竪穴住居跡  
(南から)



2. 32号竪穴住居跡カマド  
(南から)



3. 32号竪穴住居跡カマド  
(南から)

1. 33号竪穴住居跡カマド  
(東から)



2. 34号竪穴住居跡  
(東から)



3. 35号竪穴住居跡カマド  
(北東から)





1. 東区の住居跡群  
(東から)



2. 36・37号竪穴住居跡  
(南東から)



3. 39号竪穴住居跡  
(南から)



1. 41・42号竪穴住居跡  
(南東から)



2. 41号竪穴住居跡カマド  
(南から)



3. 42号竪穴住居跡  
(南から)



1. 東区の住居跡群2  
(南西から)



2. 44・46・48号竪穴住居跡  
(西から)



3. 44号竪穴住居跡集石  
(北から)



1. 45号竪穴住居跡  
(南から)



2. 45号竪穴住居跡カマド  
(南から)



3. 45号竪穴住居跡カマド  
煙道断面 (東から)



1. 47号竪穴住居跡  
(南から)



2. 47号竪穴住居跡内  
土坑1遺物出土状況  
(南から)



3. 53号土坑  
(東から)



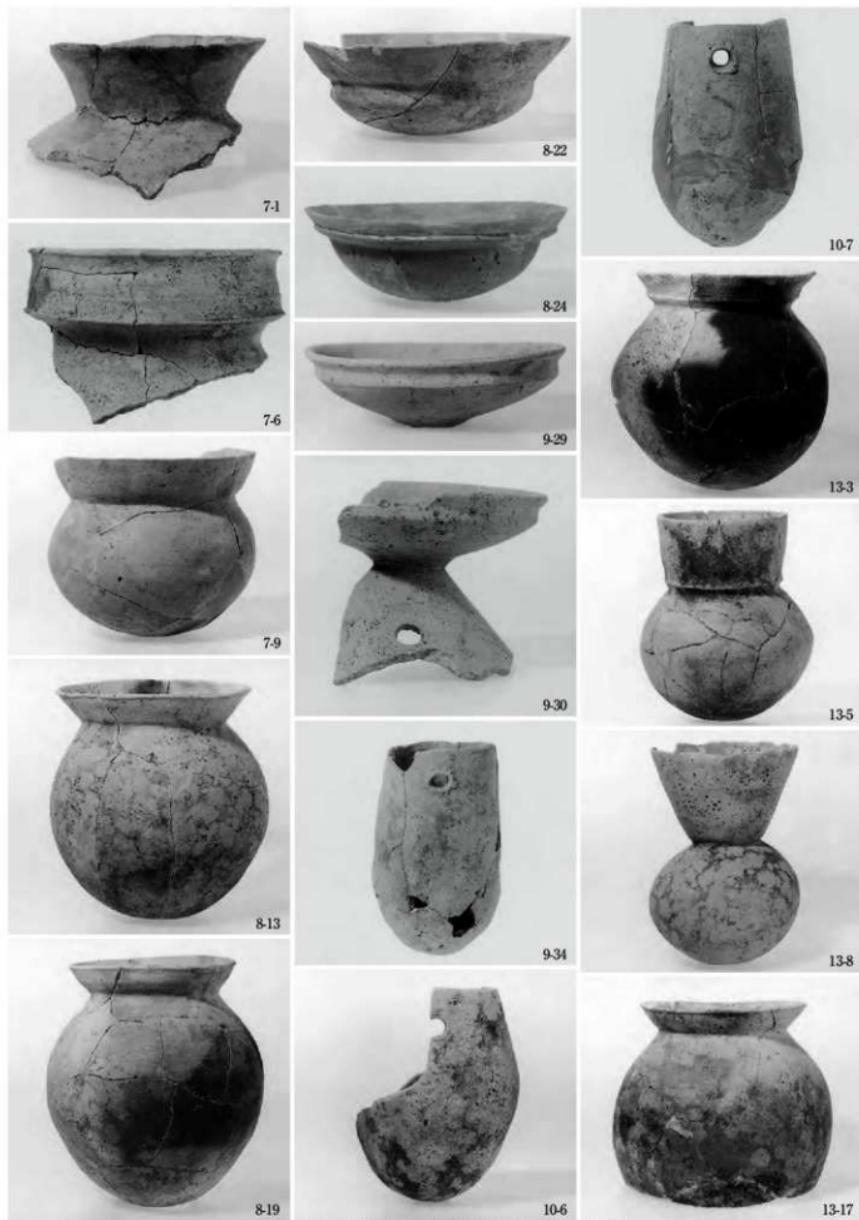
1. 4号井戸（東から）



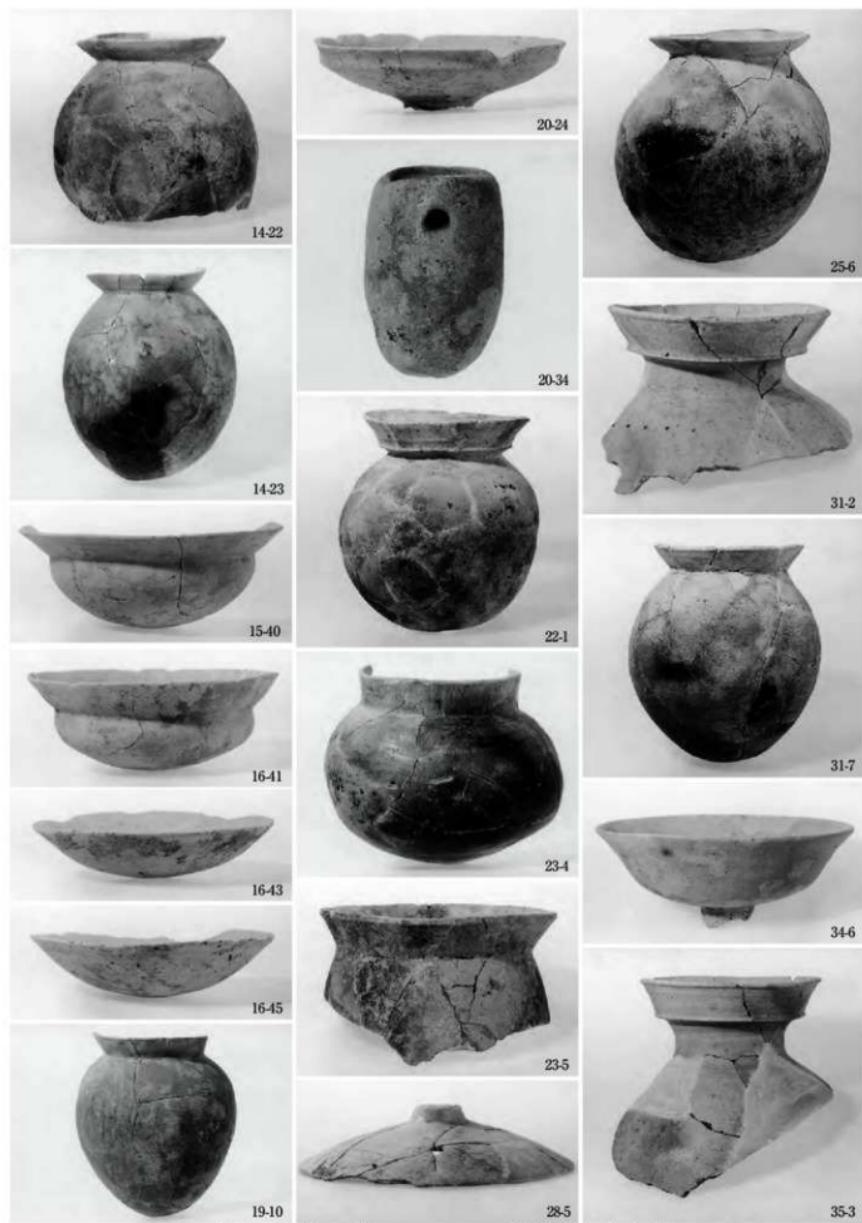
2. 35号土坑（北西から）



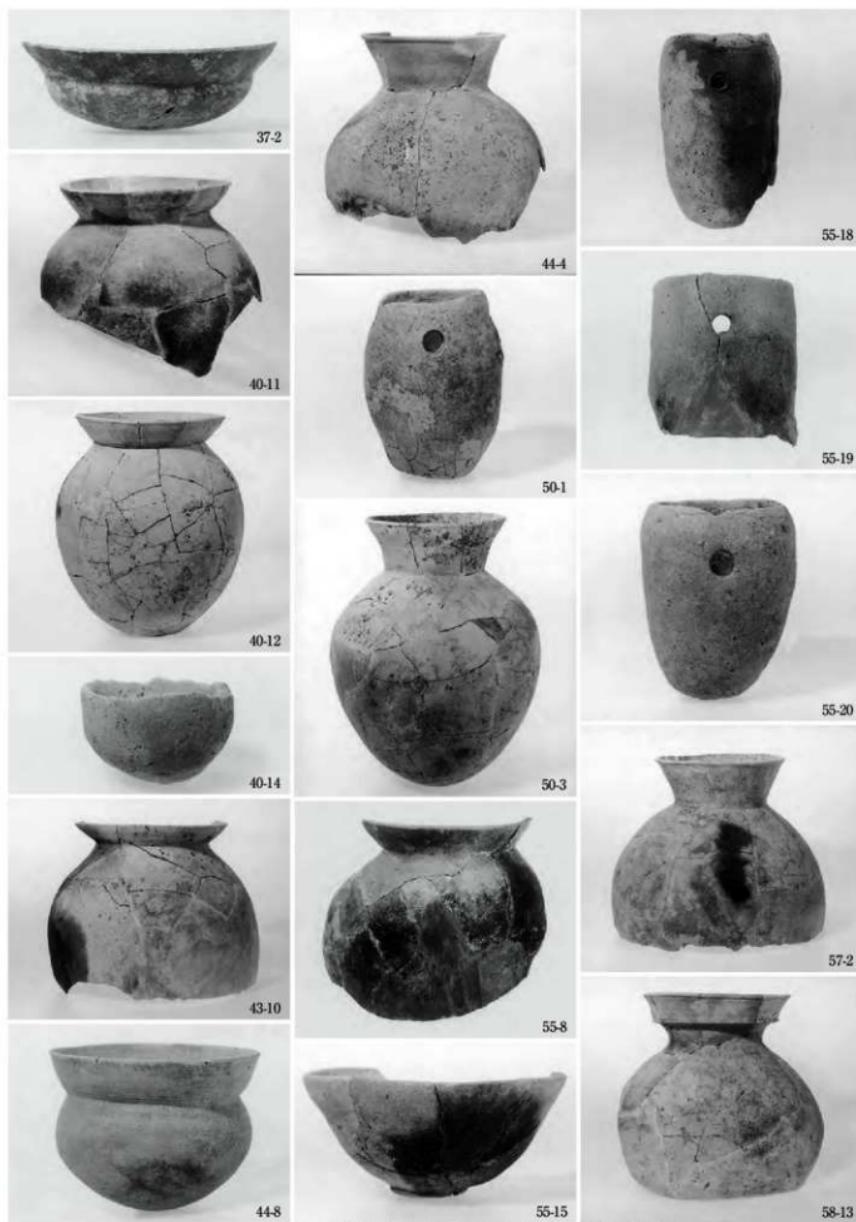
3. 35号土坑遺物出土状況  
(西から)



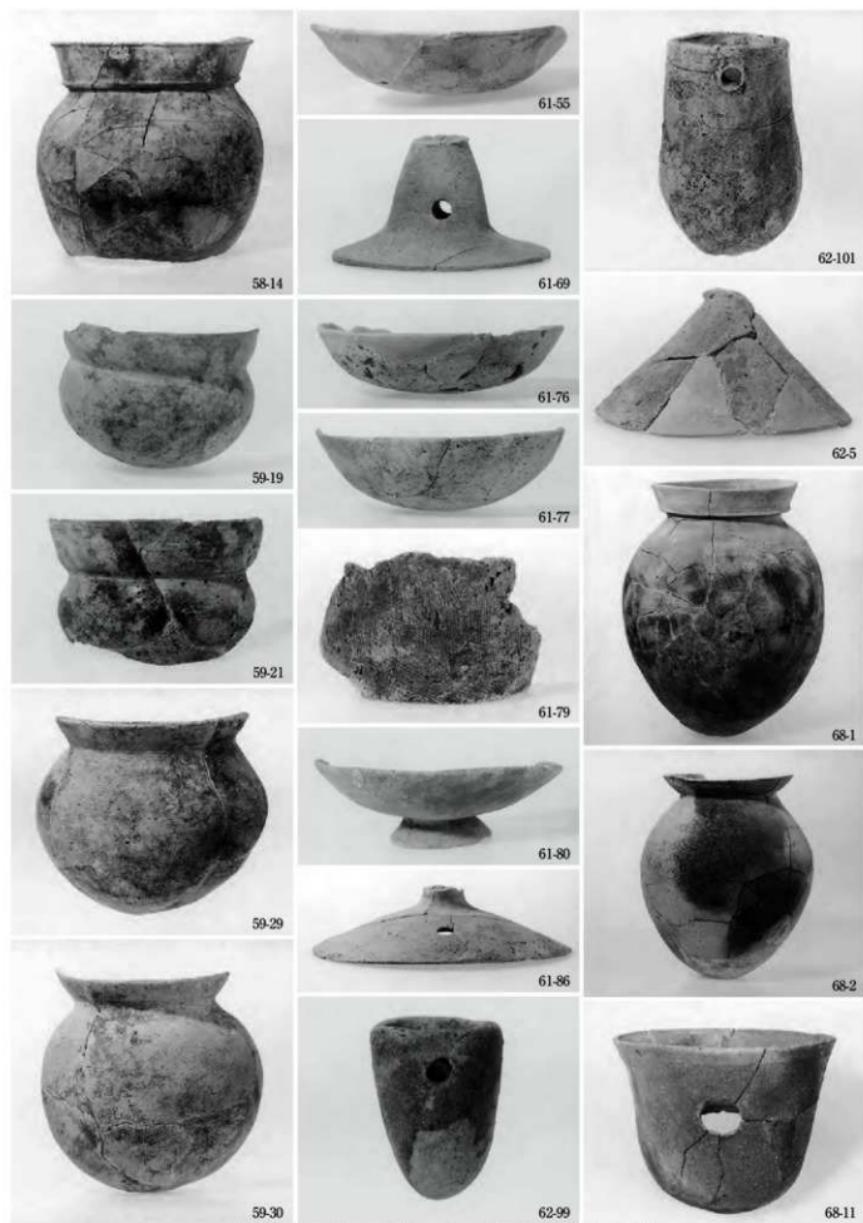
1~3号竖穴住居跡出土土器、4号竖穴住居跡出土土器 1



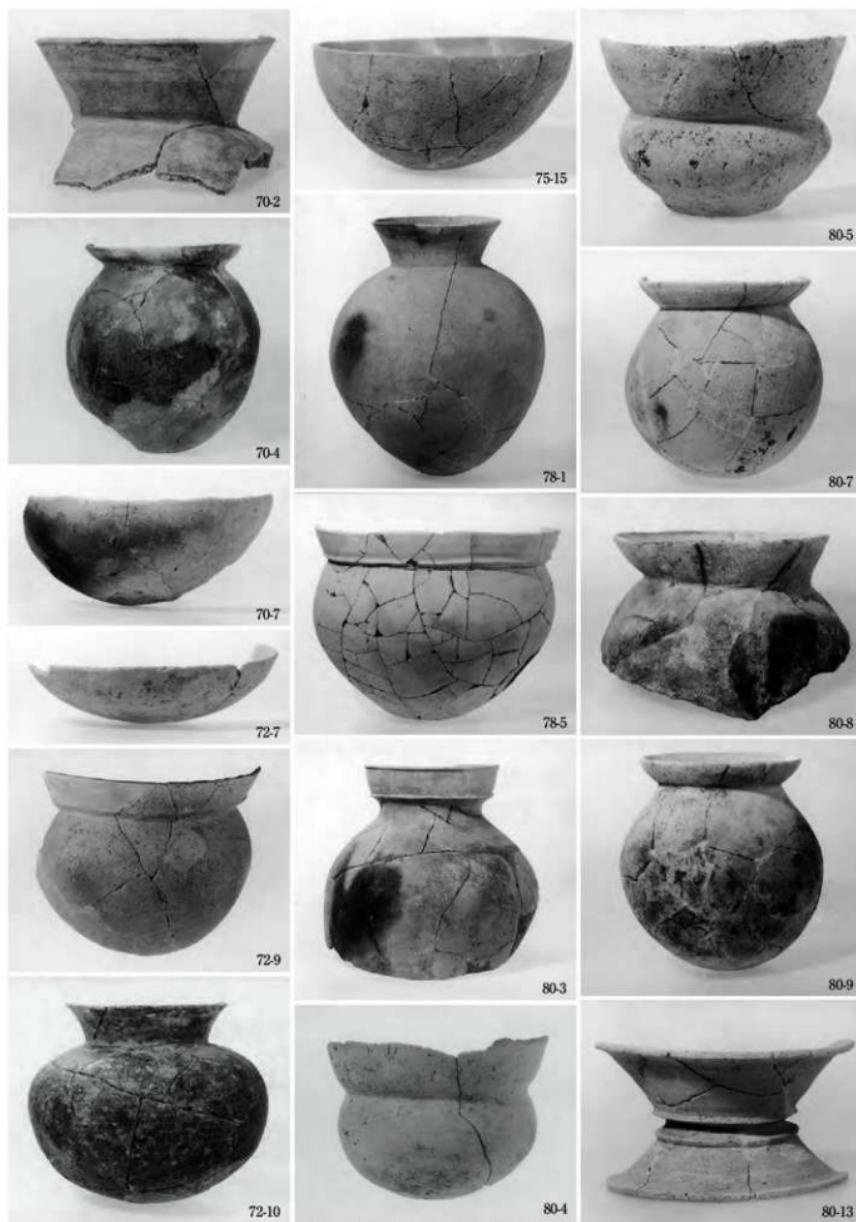
4号竪穴住居跡出土土器 2、5~8・11~13号竪穴住居跡出土土器



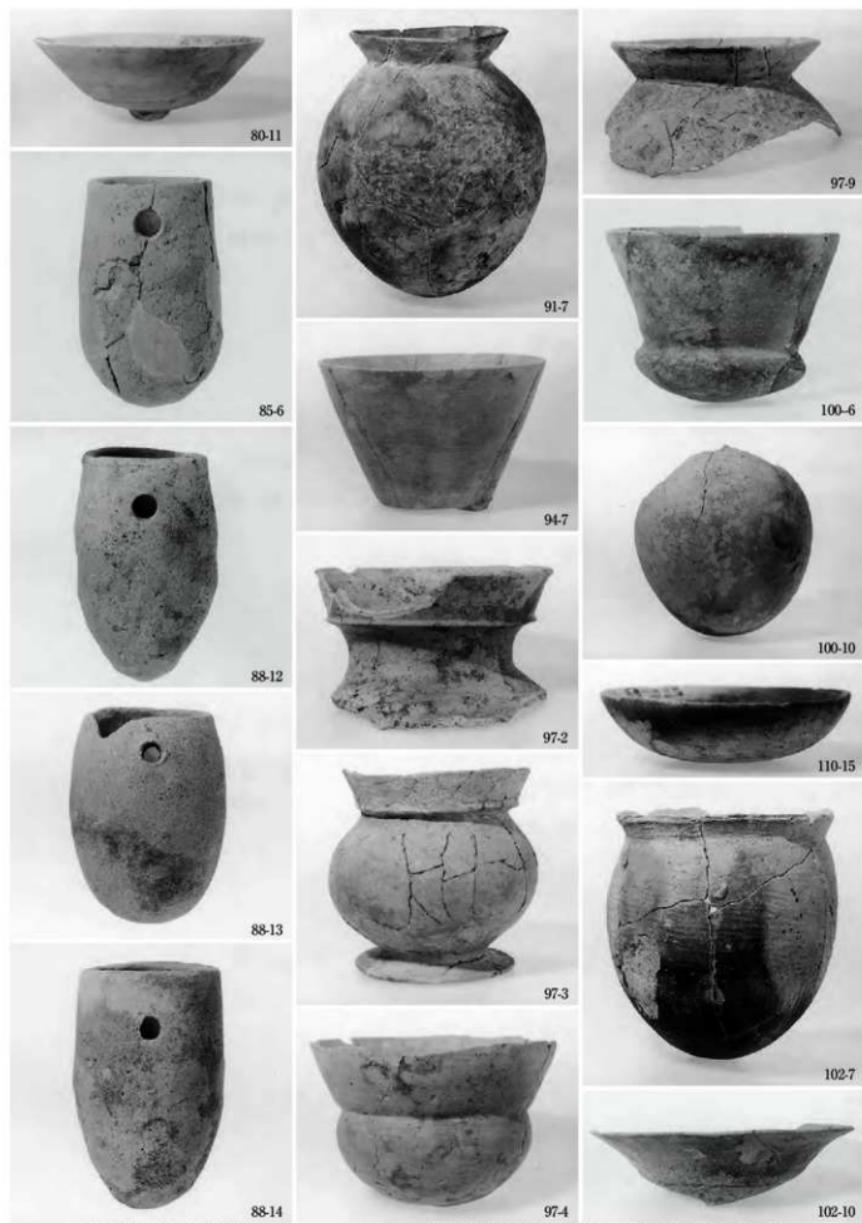
14~17·21·22·24号竖穴住居跡出土土器、27号竖穴住居跡出土土器1



27号竪穴住居跡出土土器 2、28~30号竪穴住居跡出土土器



31~34号竖穴住居跡出土土器、35号竖穴住居跡出土土器1



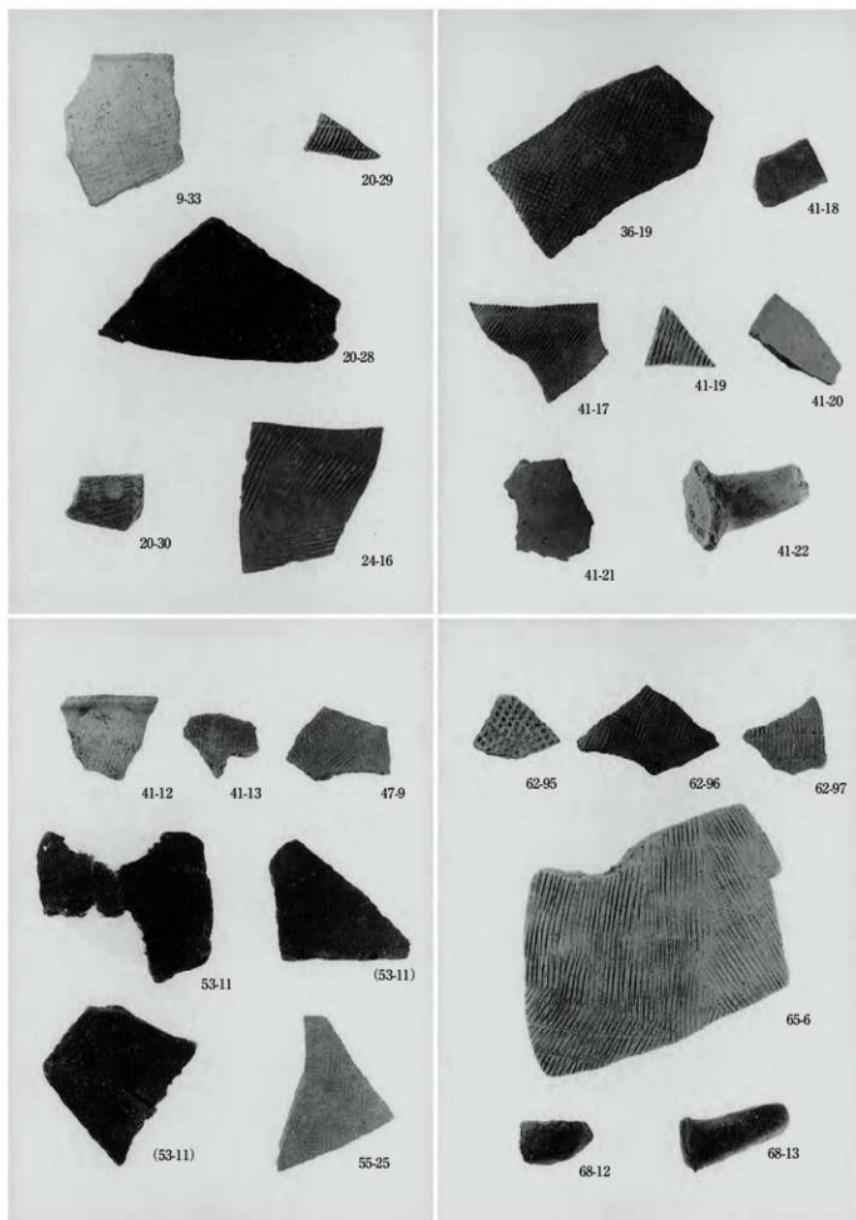
35号竪穴住居跡出土土器2、39・41・42・44~46号竪穴住居跡出土土器、47号竪穴住居跡出土土器1



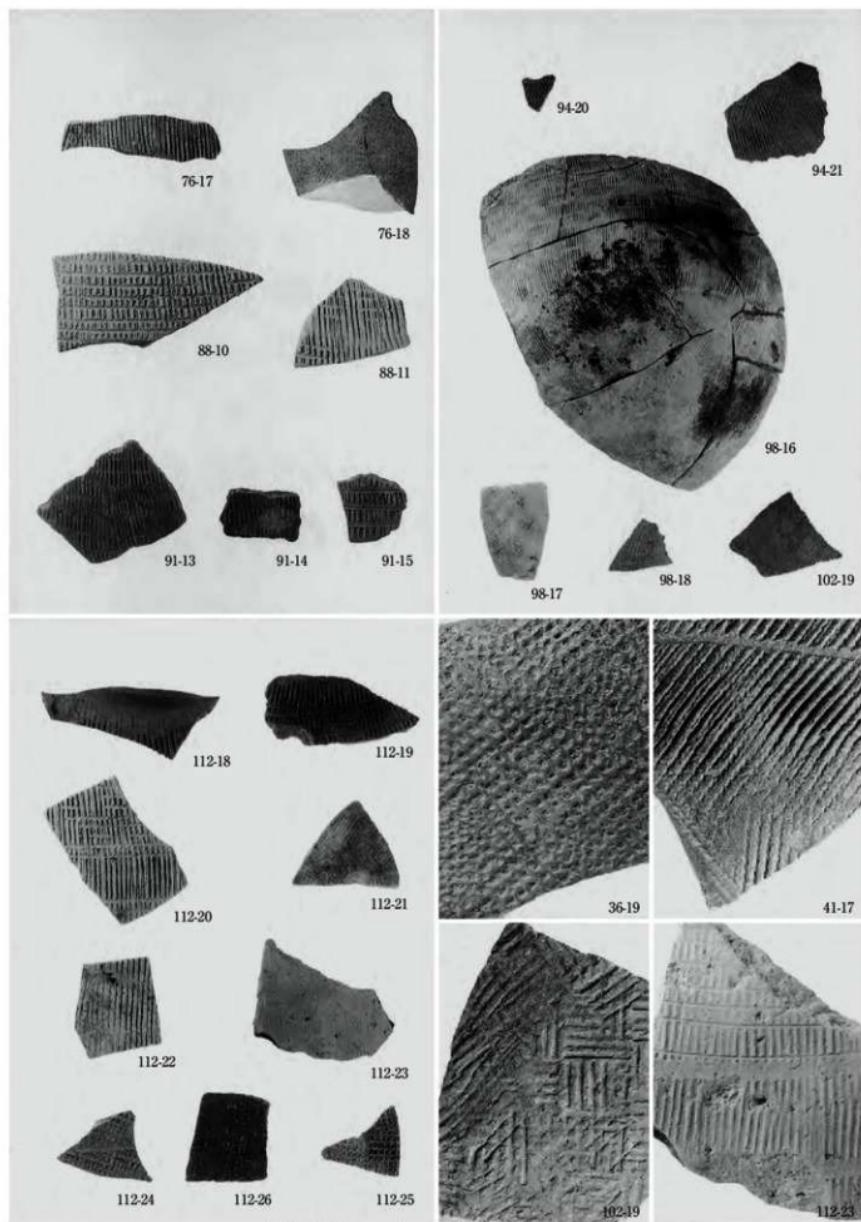
47号竖穴住居跡出土土器 2、53~56号土坑出土土器



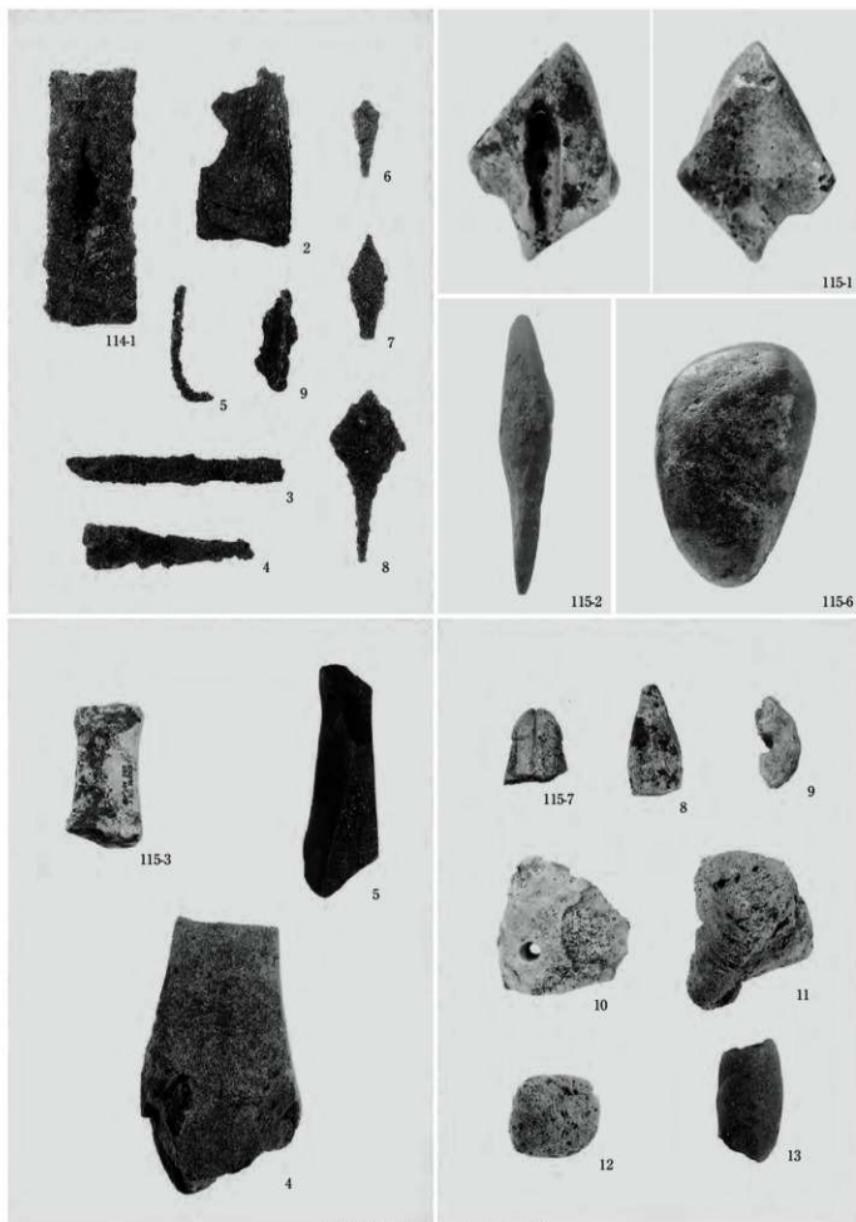
57・113号土坑出土土器、その他遺構・層位等出土土器



竖穴住居跡出土朝鮮半島系土器



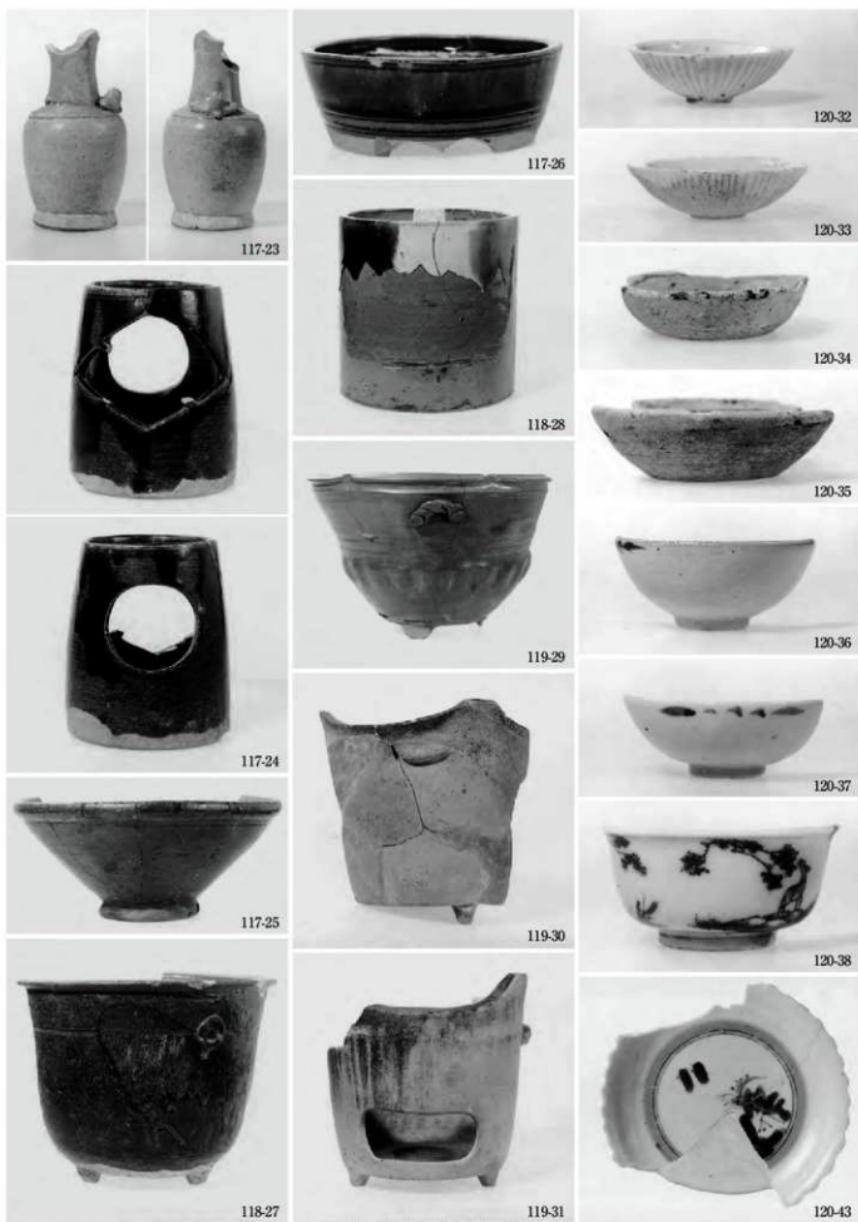
豎穴住居跡・その他の遺構出土朝鮮半島系土器



古墳時代の鉄器・石器・土製品



近世以降の土師器・陶器



近世以降の陶器・陶磁器



近世以降の窯道具・青銅製品・土製品・瓦製品等



## 報告書抄録

ふりがな	にしじんまちいせき								
書名	西新町遺跡Ⅷ								
副書名	県立修猷館高等学校改築事業関係埋文化財調査報告書 7								
巻次									
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書								
シリーズ番号	第218集								
編著者名	吉村靖徳 斎藤努								
編集機関	福岡県教育委員会								
所在地	〒812-8575 福岡市博多区東公園7番7号								
発行年月日	2008年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	
	市町村	遺跡番号	.. ..						
にしじんまちいせき 西新町遺跡第20次	ふくおか市 早良区西新 6-1-10		401307	20240	33° 34° 50°	130° 21° 30°	20060802 20061213	1850	学校 (県立修猷館 高等学校 改築)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
西新町遺跡第20次	集落跡	古墳時代 前期	竪穴住居跡45棟		土師器・鉄器・石器				
		近世	土坑		陶磁器・瓦・窓道具・土人形				

### 福岡県行政資料

分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年号 19	登録番号 10

### 西新町遺跡Ⅷ

福岡県文化財調査報告書 第218集

平成20年3月31日

発行 福岡県教育委員会  
福岡市博多区東公園7番7号  
印刷 有限会社 北九州カーボン印刷  
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀3丁目6-9









付図1 西新町道路第20次調査遺構配置図（近世～現代）(1/200)



付図2 西新町道路第20次調査遺構配置図（古墳時代）(1/200)